オール・アバウト

村上克司

スーパーヒーロー工業デザインアート集





ISBN978-4-7562-4865-7
C0070 ¥4200E
9784756248657
1920070042009
発売元：パイ インターナショナル
定価（本体4,200円+税）

オール・アバウト 村上克司
スーパーヒーロー工業デザイン アート集
PIE

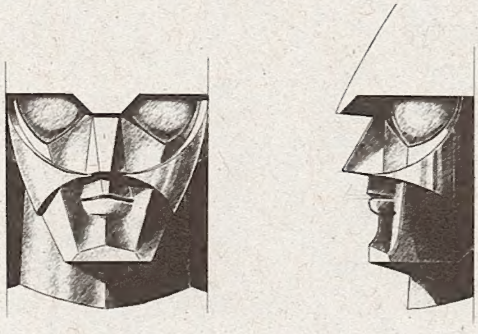
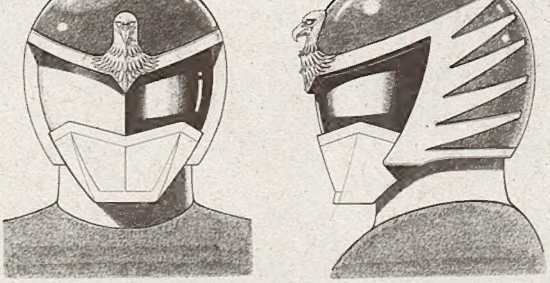
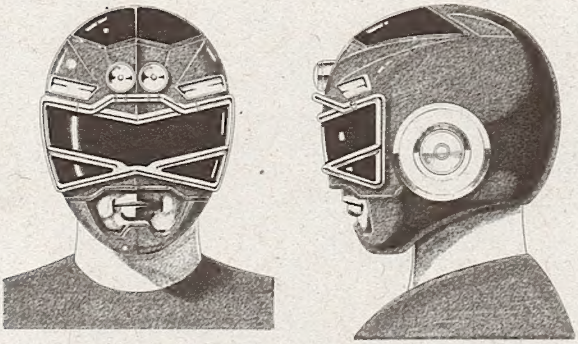
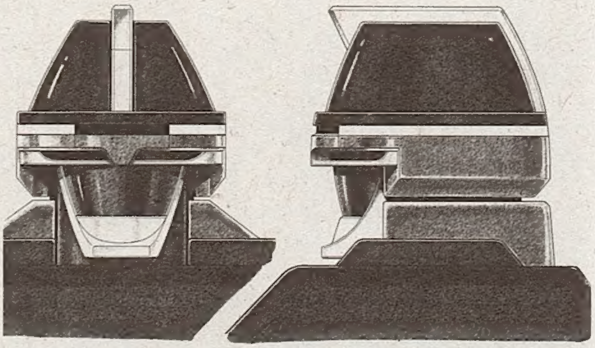
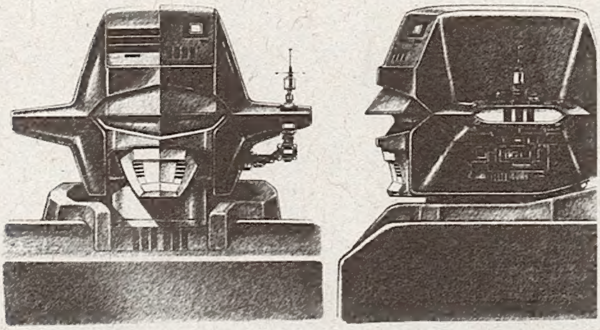
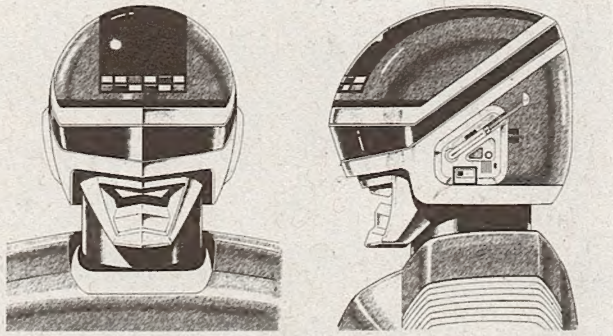
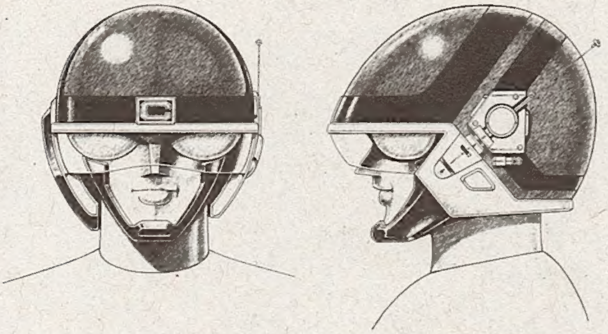
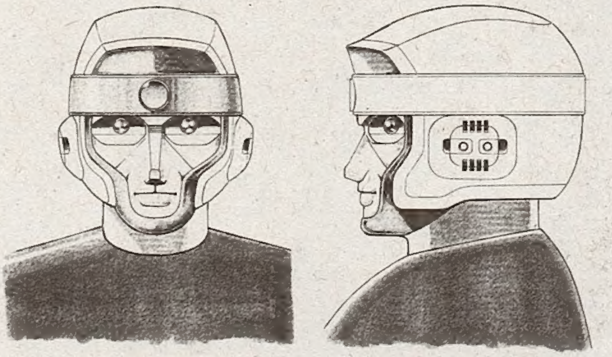
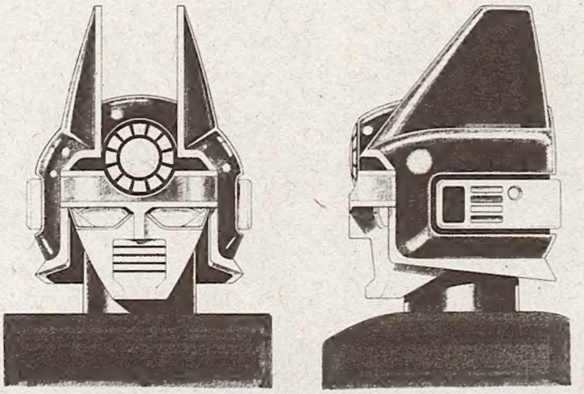
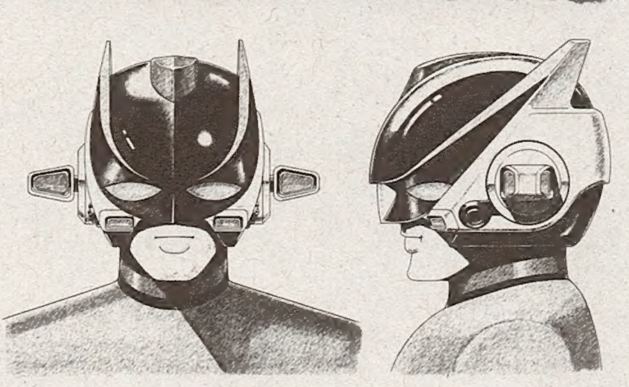


オール・アバウト

村上克司

スーパーヒーロー工業デザインアート集



村上克司

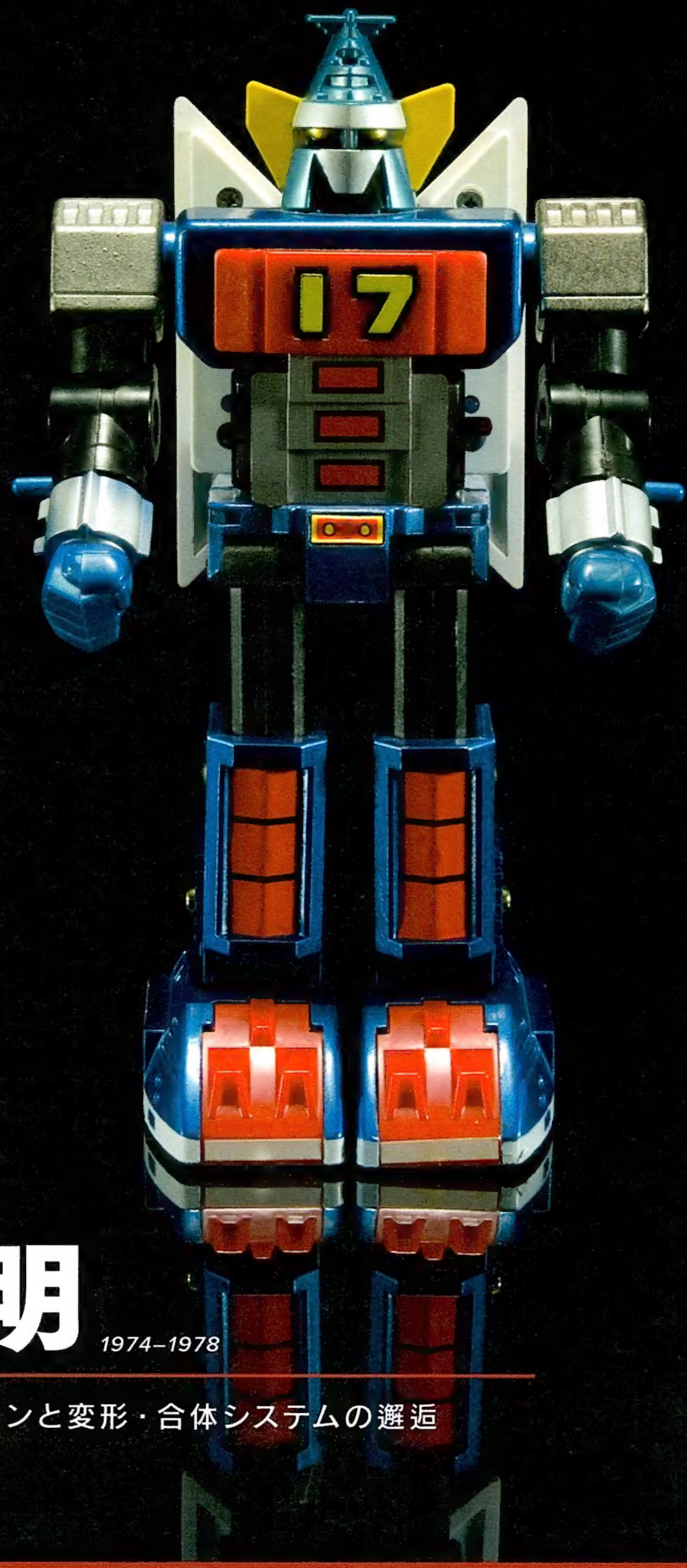
スーパーヒーロー工業デザインアート集



CONTENTS

第1章

CHAPTER 1



黎明

1974–1978

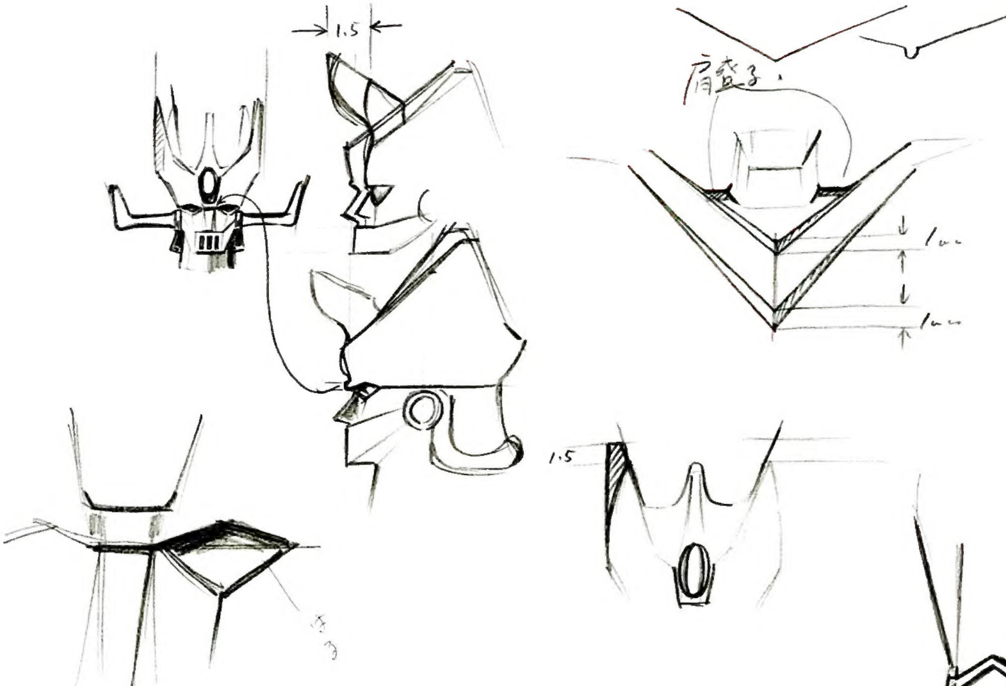
工業デザインと変形・合体システムの邂逅

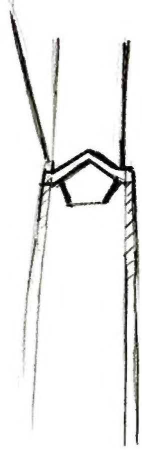
グレートマジンガー

1974–1975

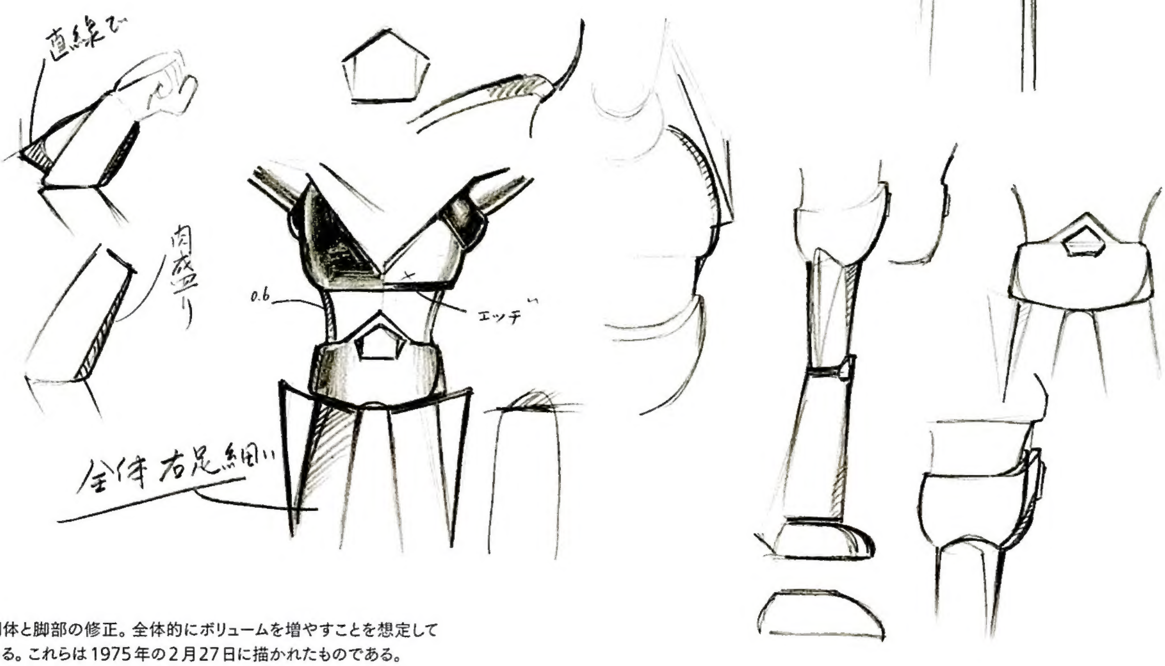
O.A. 1974.9.8–1975.9.28／フジテレビ系放送
WORKS 商品企画

永井豪とダイナミックプロ原作の"マジンガーシリーズ"第2作。村上はポピーの企画スタッフとして携わった。このページに掲載したのは、「平和の戦士ピースメーカー」と呼ばれる商品に対する修正指示書である。ピースメーカーは約7センチほどのミニフィギュアだが、真摯な形状へのこだわりが1ミリ単位で記されている。





頭部と胸部。頭部の正面と側面は「超合金グレートマジンガー」とほとんど同じ形状で、村上がどのようにグレートを解釈していたのかわかる。



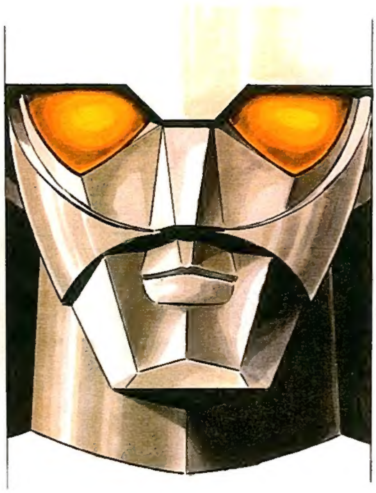
胴体と脚部の修正。全体的にボリュームを増やすことを想定している。これらは1975年の2月27日に描かれたものである。

勇者ライディーン

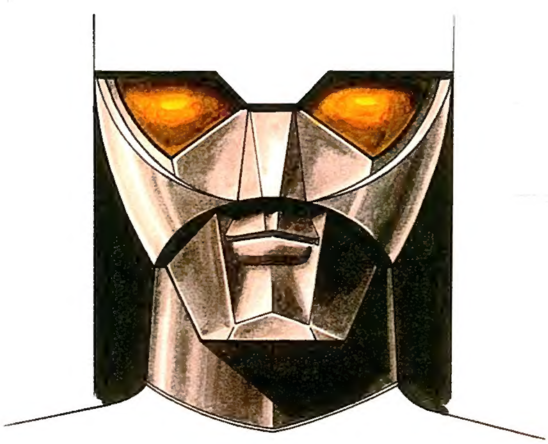
1975–1976

東北新社制作のロボットアニメーション。製作現場にはのちの日本サンライズ作品の中核となるスタッフが集っている。村上が番組の立ち上げから加わった最初のアニメーションであり、メインメカニックのデザインだけでなく、作品の世界観の形成に関しても多くの提案を行っている。

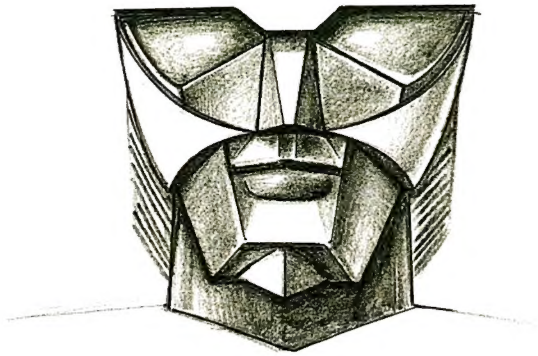
1975.4.4–1976.3.26／NET系放送 O.A.
ライディーン、ブルーガー、ムトロポリス基地 WORKS











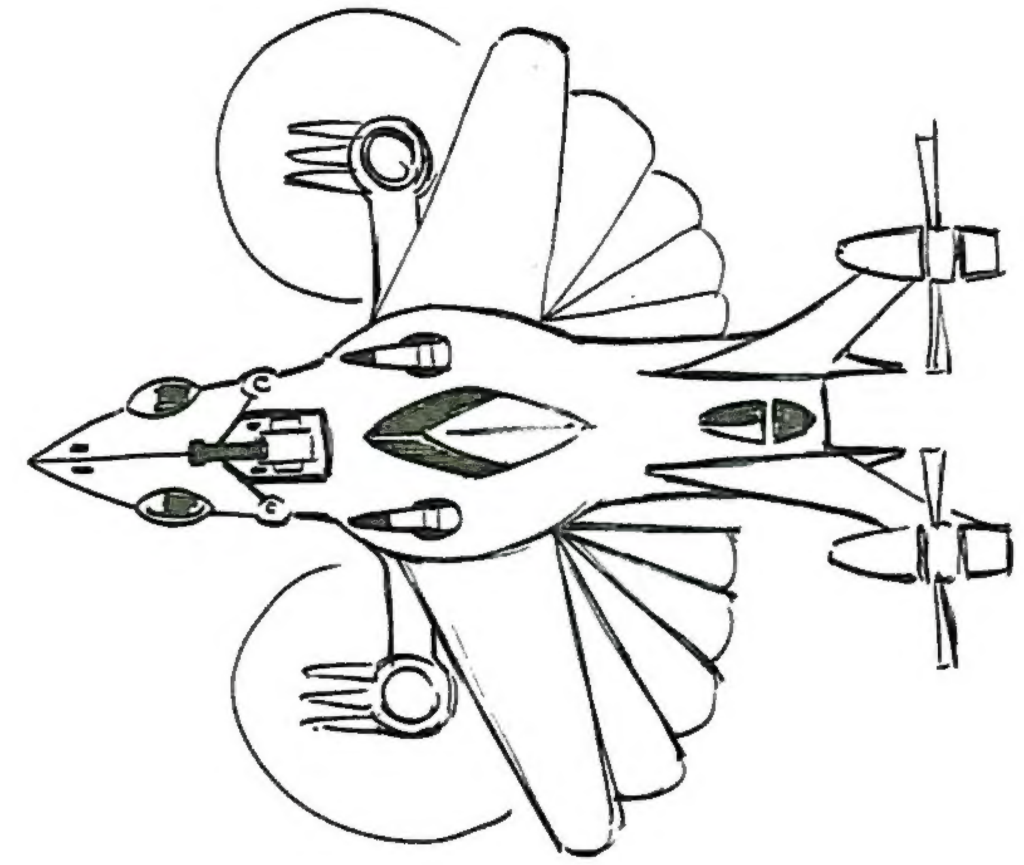
ライディーンのフェイス部分。村上は「スフィンクス」を想定して描いたという。左はアイディアラフで、この時点では顎の下に顎ひげを模したパーツが存在していた。

秘密戦隊ゴレンジャー

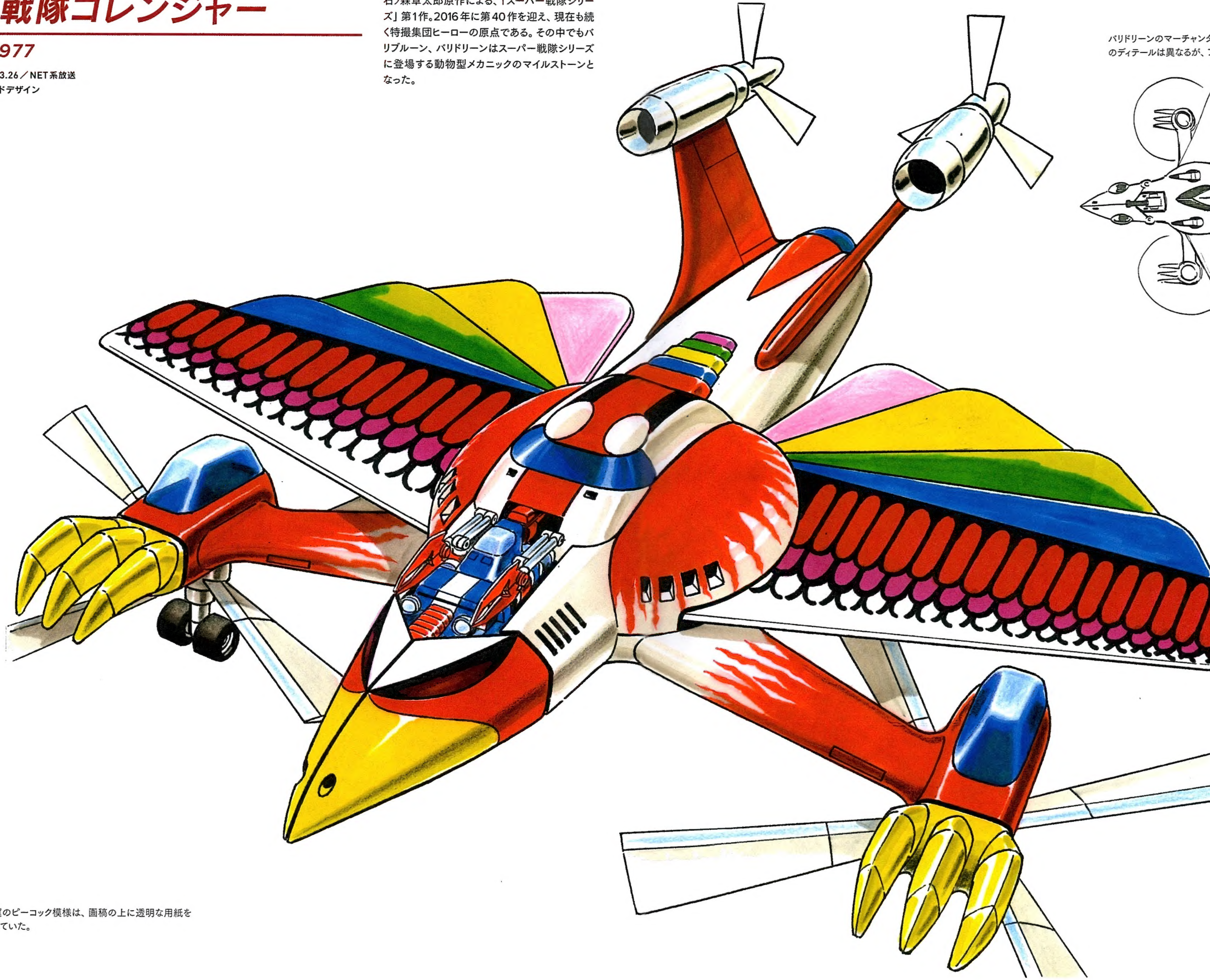
1975–1977

O.A. 1975.4.5–1977.3.26／NET系放送
WORKS マーチャンダイズドデザイン

石ノ森章太郎原作による、「スーパー戦隊シリーズ」第1作。2016年に第40作を迎え、現在も続く特撮集団ヒーローの原点である。その中でもバリブルーン、バリドリーンはスーパー戦隊シリーズに登場する動物型メカニックのマイルストーンとなった。



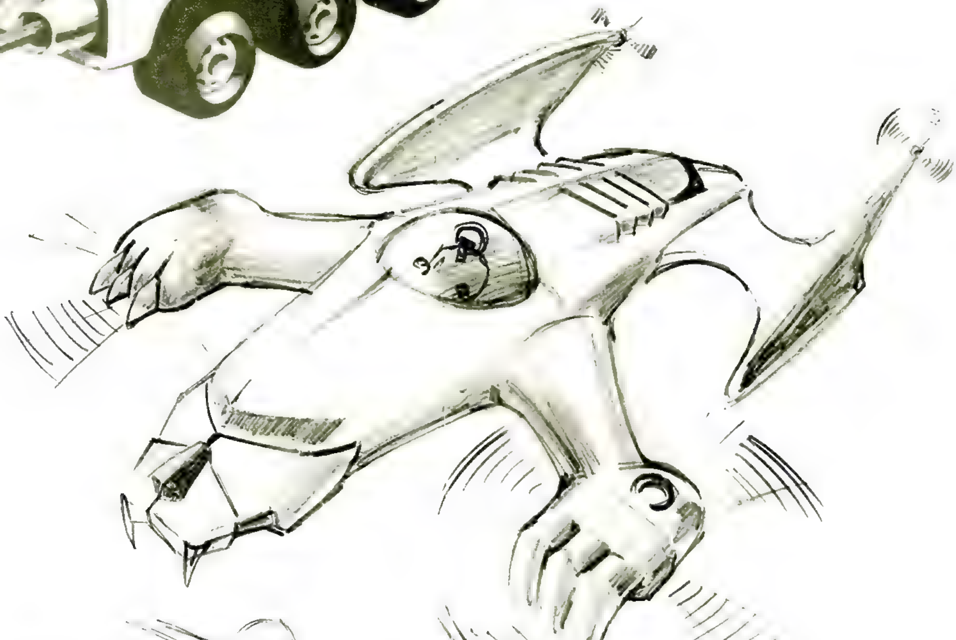
バリドリーンのマーチャンダイズドデザインラフ。バリタンクや細部のディテールは異なるが、フォルムはほぼ決まっている。

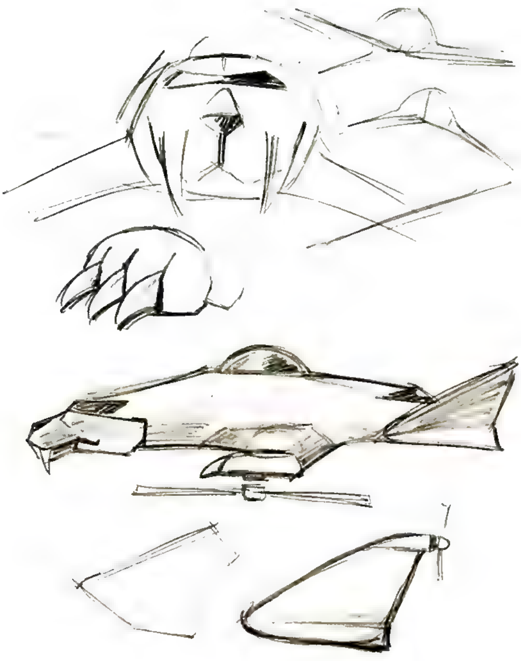


バリドリーン。翼のピーコック模様は、画稿の上に透明な用紙を用いて重ねられていた。



バリタンク。バリドリーンの搭載メカニックとして、デザイン作業が行われた。







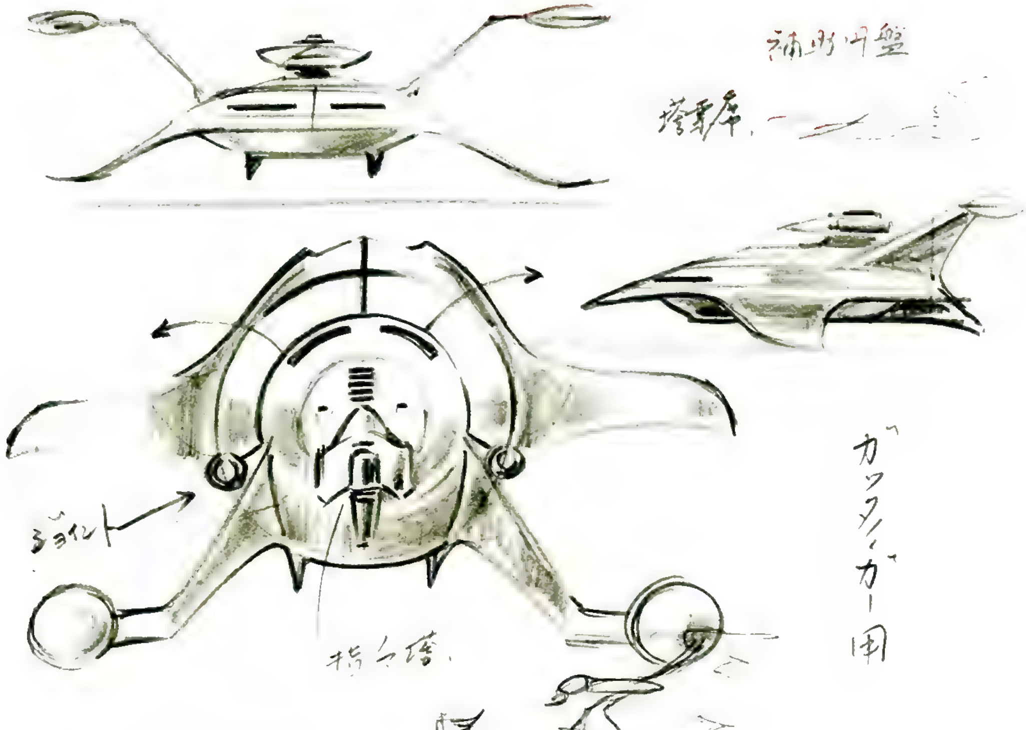
バリブルーンのマーチャンダイズドデザインラフ。

UFOロボ グレンダイザー

1975–1977

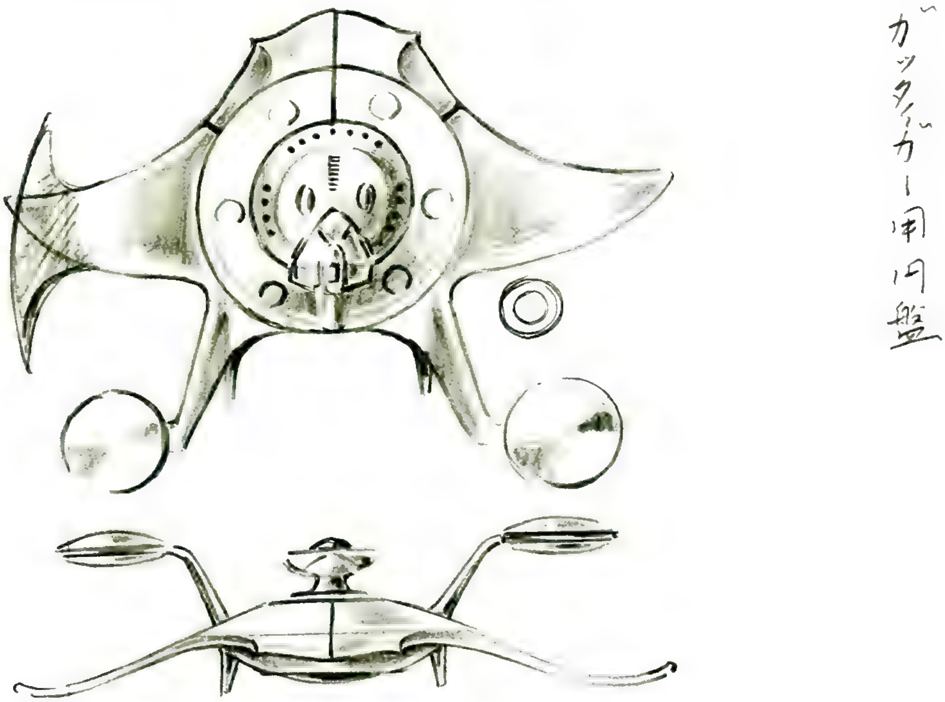
1975.10.5–1977.2.27／フジテレビ系放送
スペイザー、TFO

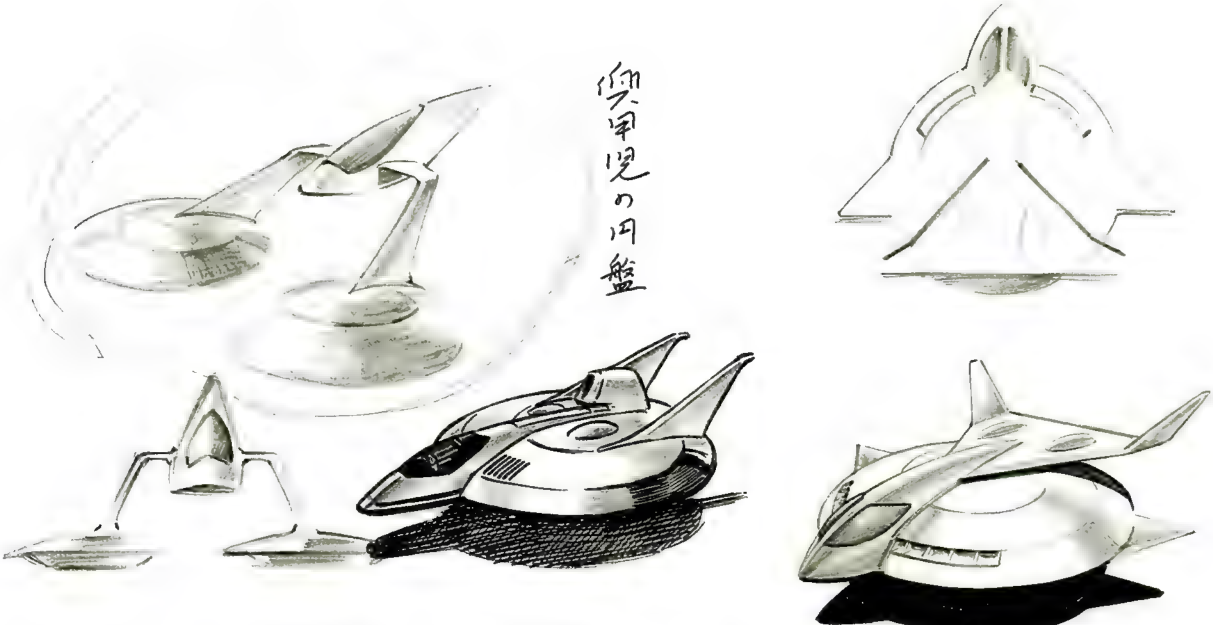
『グレートマジンガー』に続く、永井豪とダイナミックプロ原作のロボットアニメーション。日本のみならず、フランスなどヨーロッパ圏で大きな人気を博した。主人公メカのグレンダイザーは、スペイザーと呼ばれるUFOとドッキングするシステムを備えている。村上はスペイザーと、もう一人の主人公・兜甲児の乗り込む円盤TFOのデザインを提案している。どちらも採用を見送られた。



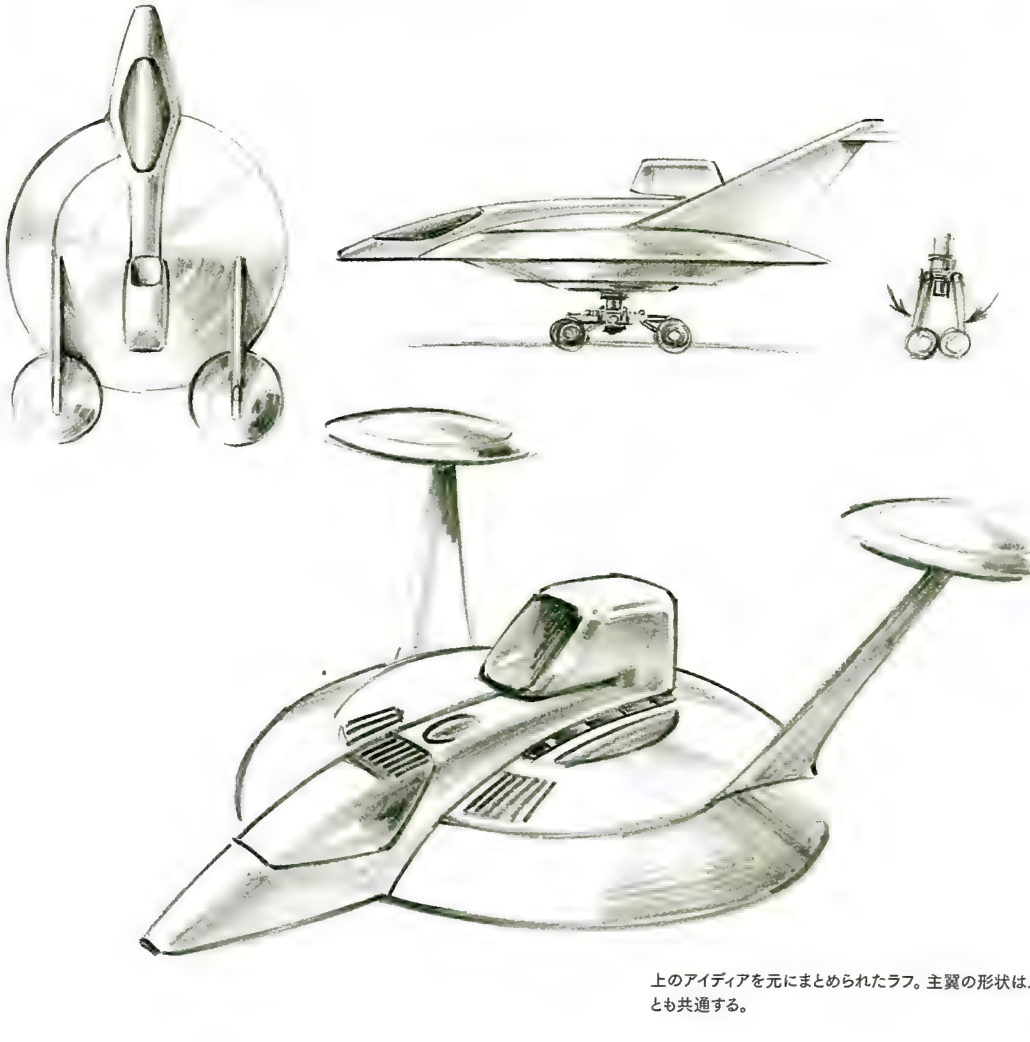


スペイザーのアイディアラフ。ガッタイガーとは番組の初期題名『円盤ロボ ガッタイガー』に由来する。





兜甲児の円盤アイディアラフ。操縦席の下に2基の円盤があるという案を温めていたようだ。



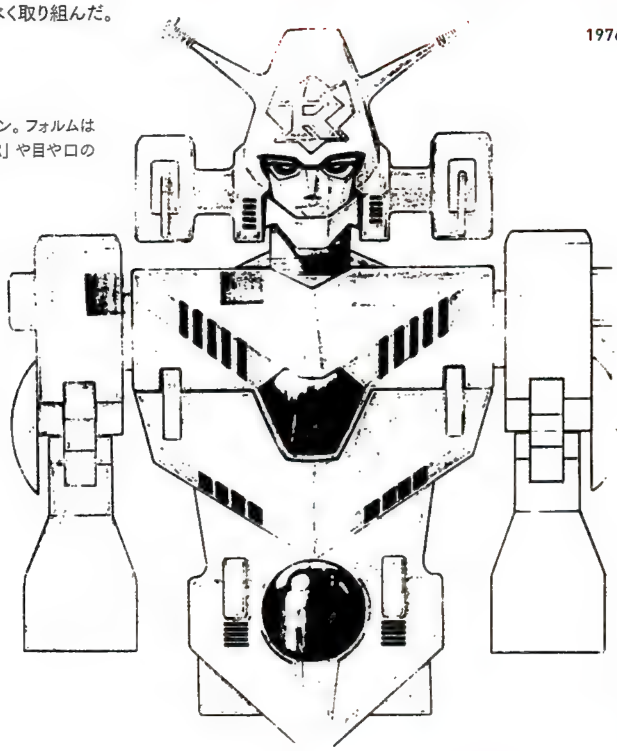
上のアイディアを元にまとめられたラフ。主翼の形状はスペイザーとも共通する。

東映制作のロボットアニメーション第1作。『勇者ライディーン』に関わったメインスタッフがほぼそのまま移行する形で携わっている。村上はコン・バトラーVを、映像と玩具が同一のシステムで合体できる最初のロボットにするべく取り組んだ。

超電磁ロボ コン・バトラーV

1976–1977

1976.4.17–1977.5.28／NET・テレビ朝日系放送 O.A
コン・バトラーV、南原コネクション WORKS



コン・バトラーVのラフデザイン。フォルムはほぼ完成している。頭部の「R」や目や口のある頭部が印象的。



コン・バトラーVのフェイス部分。当時発売されたポピニカ・バトルジェットに収納されたフェイスはこれを基に造形されている。

石ノ森章太郎原作の特撮ロボットアクション。兄弟ロボットのスカイゼル、グランゼルが活躍する。村上はポピーの企画スタッフとして多くのアイテムに携わっており、大型マシンなどのメインアイテムから小物まで多くの提案を行った。この通信機もその一つである。

宇宙鉄人キョーダイン

1976–1977

1976.4.2–1977.3.11／毎日放送系放送 O.A
商品企画 WORKS



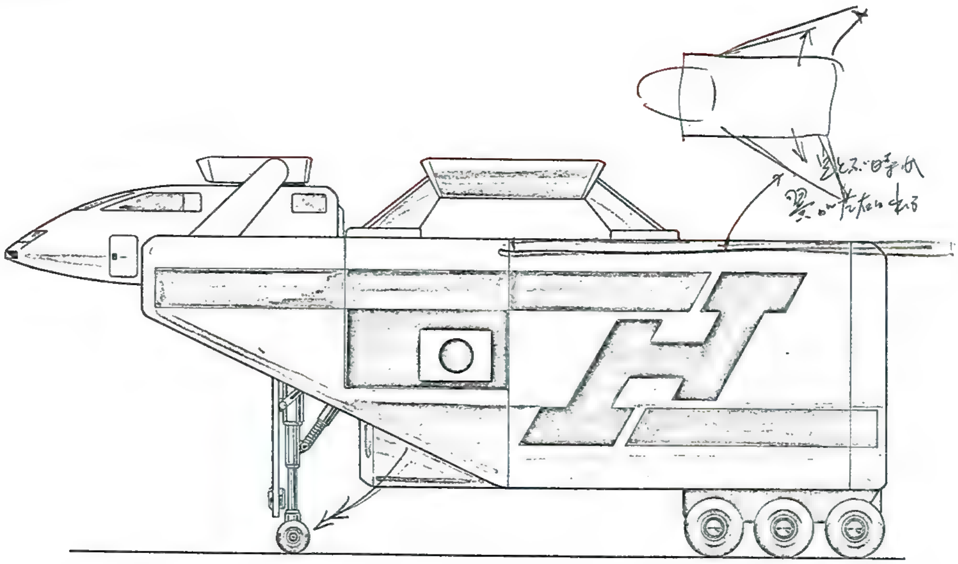
通信機のアイディアラフ。モニターにはグランゼルが映っている。

マシンハヤブサ

1976

望月三起也とダイナミック企画原作のレースアニメーション。村上は、主人公たちが使用する大型トランスポーター・ビッグギャリーの原案を手がけている。

O.A.　1976.4.2–9.17／NET系放送
WORKS　ビッグギャリー



ビッグギャリーの原案。側面に描かれた「H」は「ハヤブサ」の頭文字である。この他にヘルメットの提案も行っている。

忍者キャプター

1976–1977

忍者モチーフの東映ヒーロー。火忍、花忍、風忍、水忍、金忍、土忍、雷忍の7人の忍者が活躍する。村上はキャプターが使用する飛行メカ・ヘリキャプターと、走行メカ・キャプターカーを提案した。いずれも7人に共通するカラーリングである白を基調にしている。

O.A.　1976.4.7–1977.1.26／東京12チャンネル系放送
WORKS　ヒーローのメインメカニック



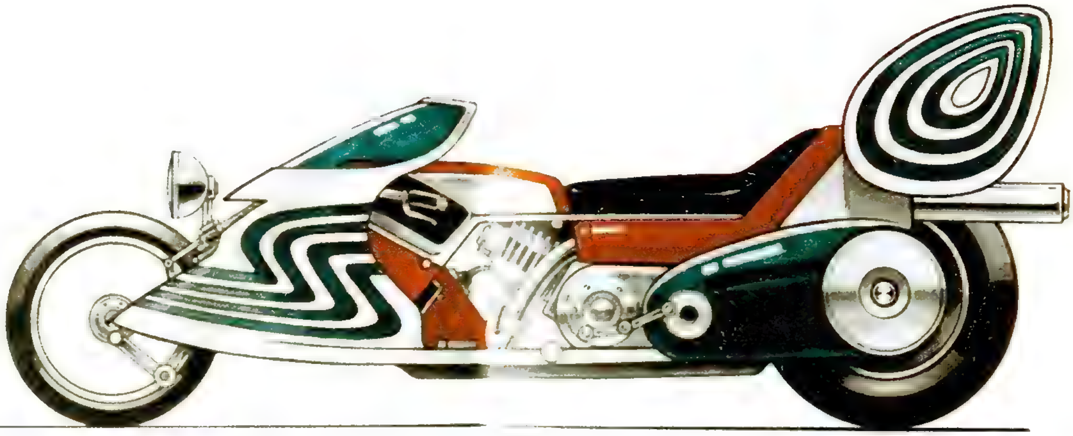
ヘリキャプター。巧みにキャプター7人のモチーフを各部に取り込んだデザインとなった。

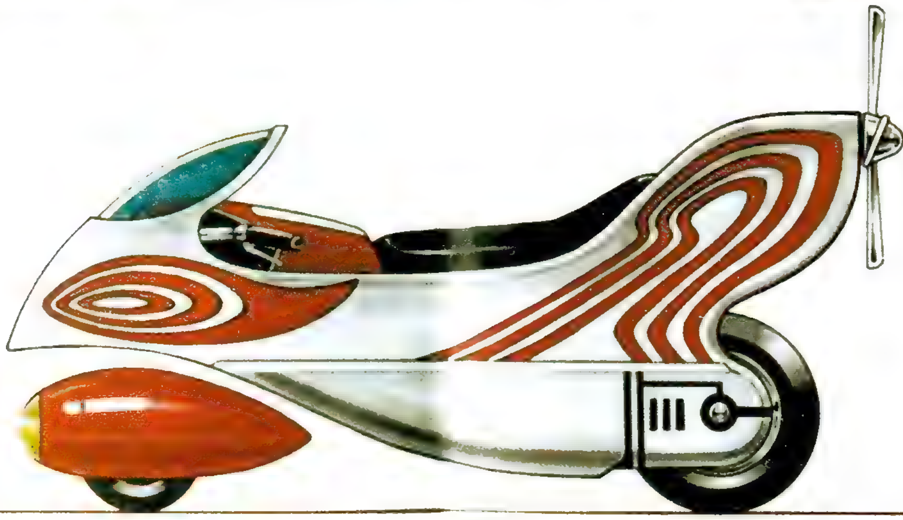
ザ・カゲスター

1976

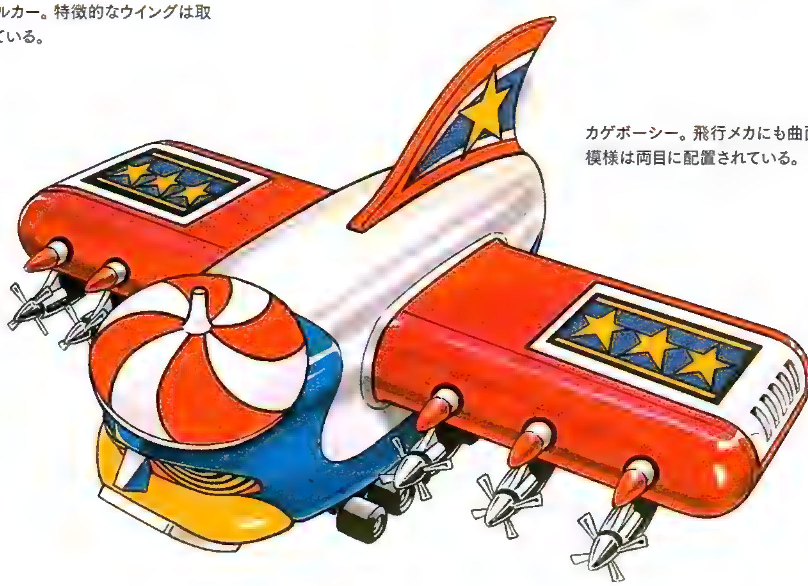
1976.4.5-11.29／NET系放送 O.A
ヒーローのメインメカニック WORKS

東映制作の特撮変身ヒーロー作品で、影をモチーフにしたユニークなヒーローが活躍する。村上はヒーローが使用するマシンのデザインを提案した。あえて曲面を多用し、カゲスターの意匠である、渦巻き模様やスターマークを効果的に取り入れている。





カゲローカー（上）とベルカー。特徴的なウイングは取り外した状態で描かれている。



カゲボーシー。飛行メカにも曲面を多用した。渦巻き模様は両目に配置されている。

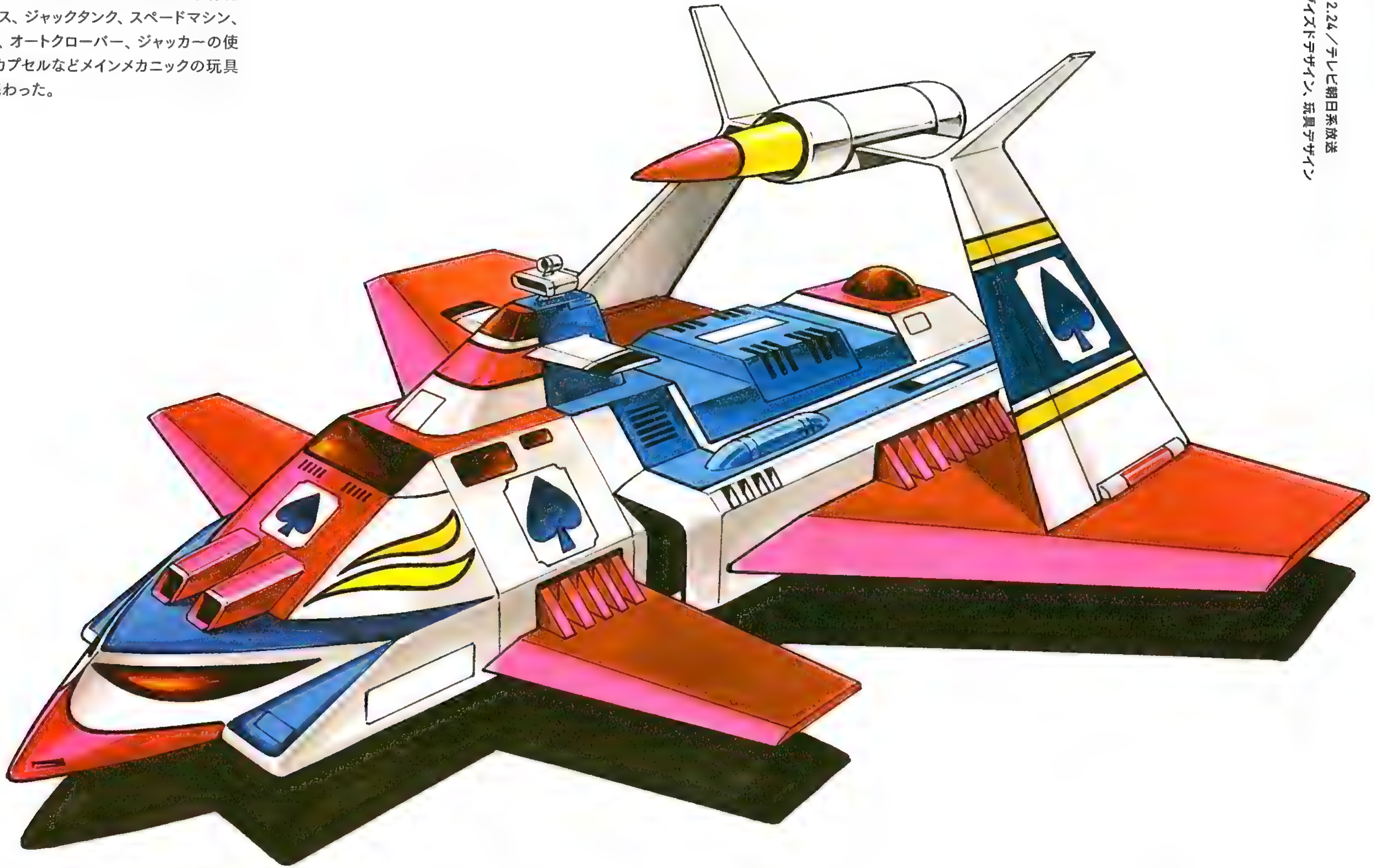
ジャッカー電撃隊

1977

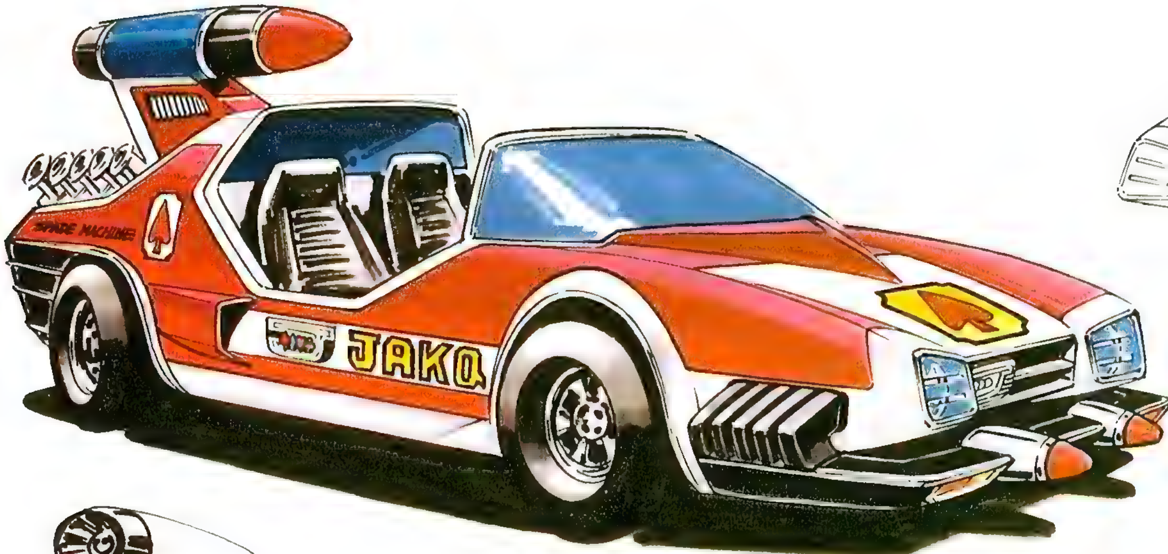
O.A 1977.4.9-12.24／テレビ朝日系放送

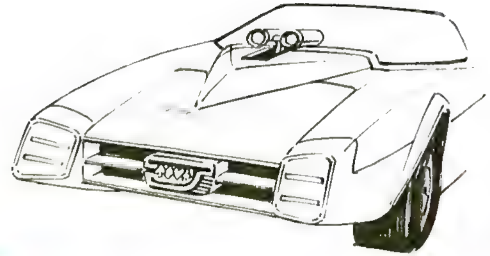
WORKS マーチャンダイズドデザイン、玩具デザイン

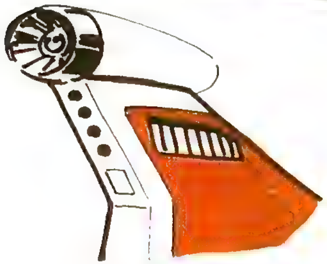
『秘密戦隊ゴレンジャー』に続く、石ノ森章太郎原作によるスーパー戦隊シリーズ第2作。ヒーローはトランプをモチーフにしたものとなる。村上はスカイエース、ジャックタンク、スペードマシン、マッハダイヤ、オートクローバー、ジャッカーの使用する強化カプセルなどメインメカニックの玩具デザインに携わった。



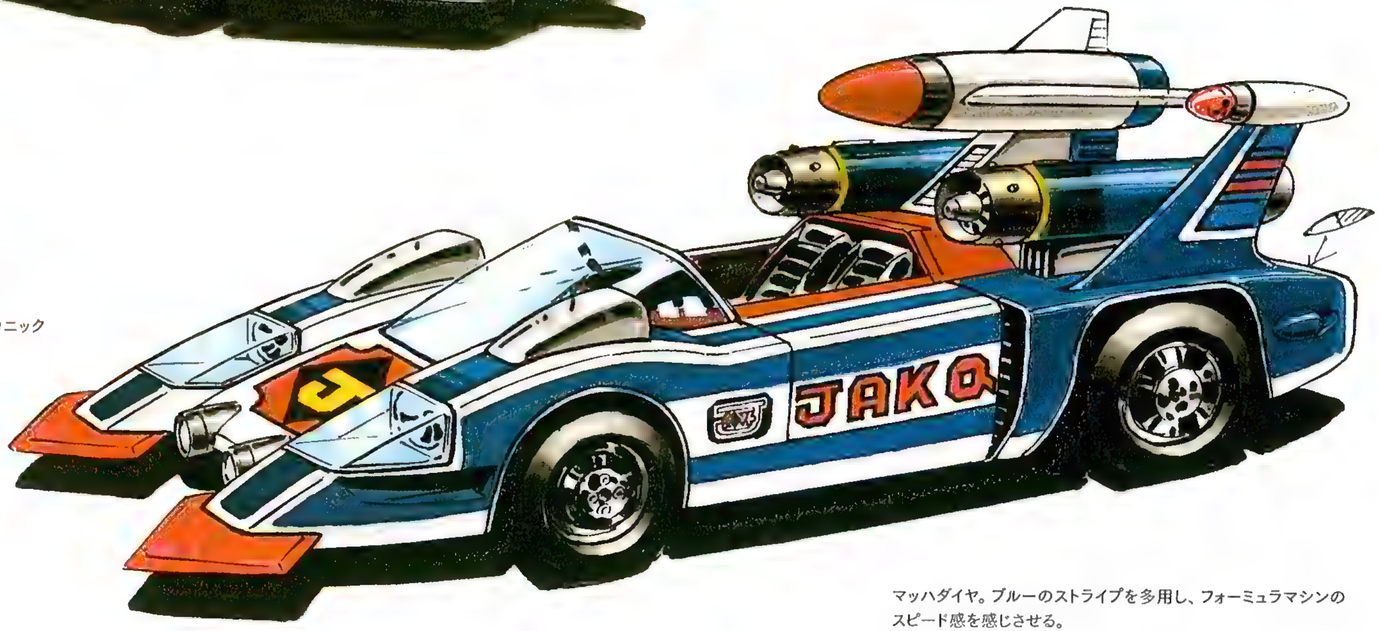
スカイエース。最終的にまとめられたのがこの画稿となる。







スペードマシーン。ベース車が決まった上で、ヒーローメカニックにふさわしいディテールを追加している。



マッハダイヤ。ブルーのストライプを多用し、フォーミュラマシンのスピード感を感じさせる。

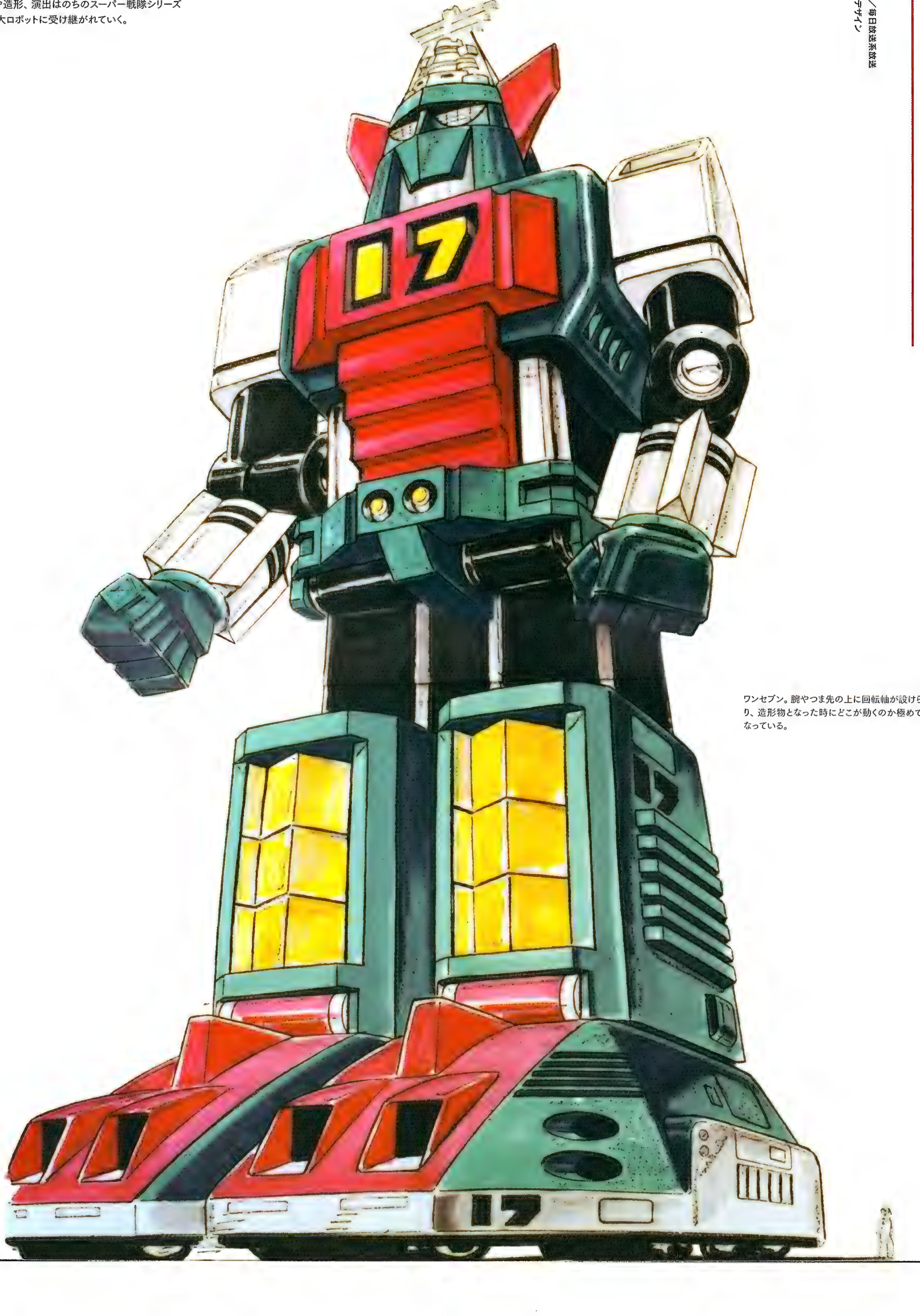
大鉄人17（ワンセブン）

1977

0A 1977.3.18–11.11／毎日放送系放送

WORKS マーチャンダイズドデザイン

石ノ森章太郎原作の特撮ロボットアクション。村上は石ノ森のデザインをもとに、戦闘形態、飛行形態、要塞形態と3つの姿に変形可能なワンセブンの商品を世に送りだした。ワンセブンのデザインや造形、演出はのちのスーパー戦隊シリーズの巨大ロボットに受け継がれていく。



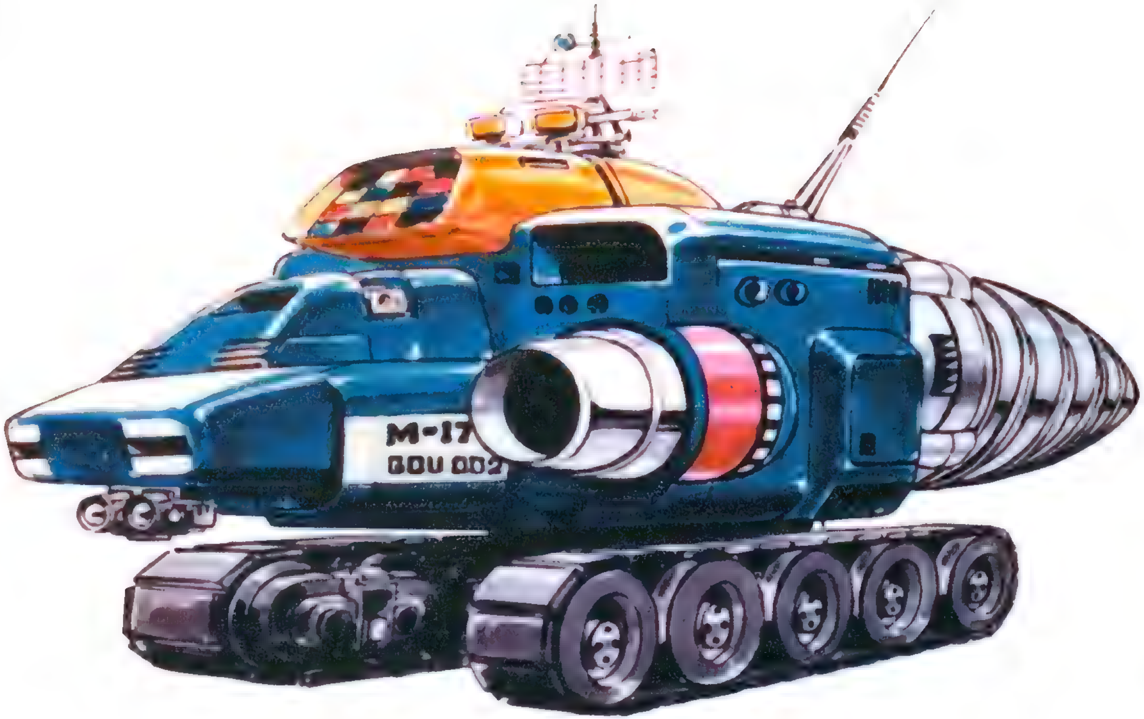
ワンセブン。腕やつま先の上に回転軸が設けられており、造形物となった時にどこが動くのか極めて明瞭となっている。

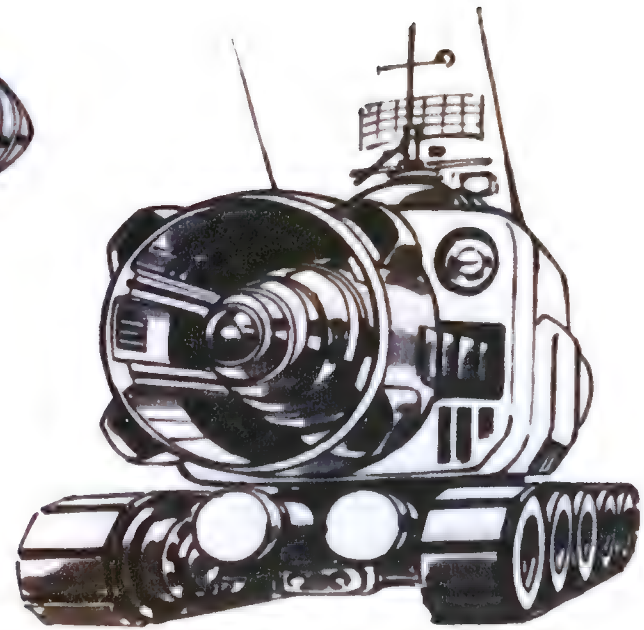


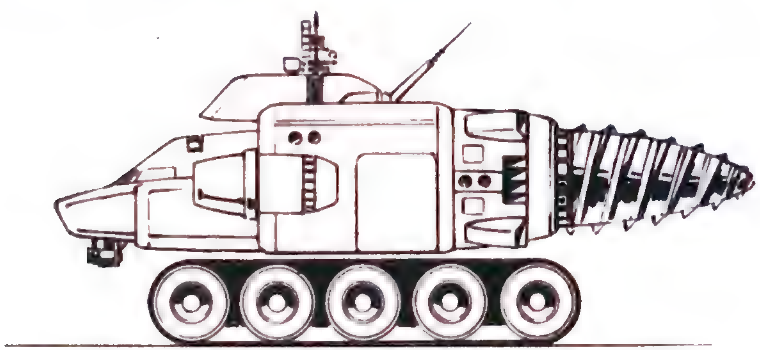
シグコンジェット。主翼が90度回転することで、大きくシルエットが変わる。



サブマシン。左上が走行形態で、プロペラの折りたたみのシステム説明も兼ねている。







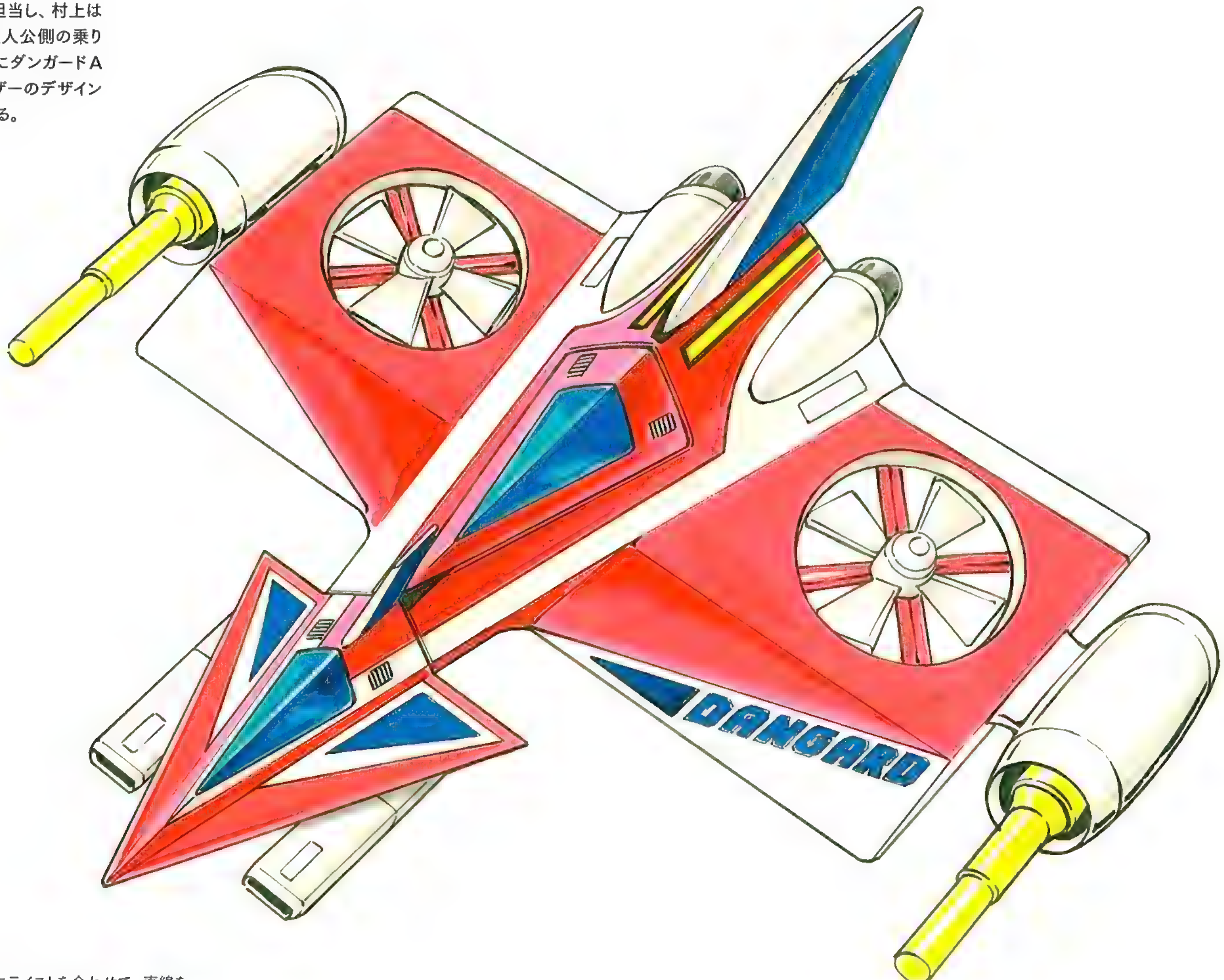
シグコンタンク。ドリルが操縦席の逆側についているというアイディアに驚く。

惑星ロボ ダンガードA（エース）

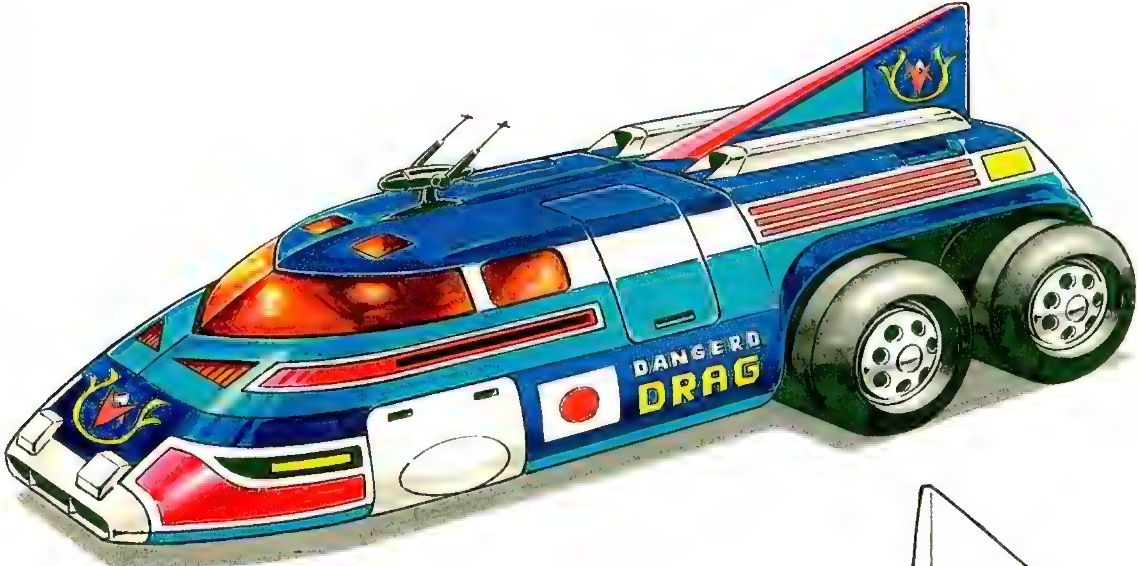
1977–1978

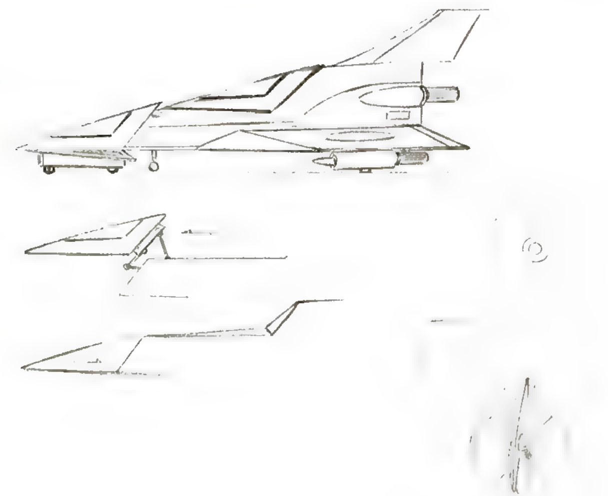
1977.3.6–1978.3.26／フジテレビ系放送
スカイアロー、ガードマシン

松本零士原作のロボットアニメーション。主役ロボットのダンガードAは小林檀が担当し、村上はスカイアロー、ガードマシンなど主人公側の乗り物を担当している。また、この他にダンガードAが変形した、飛行メカ・サテライザーのデザインには村上の提案も盛り込まれている。



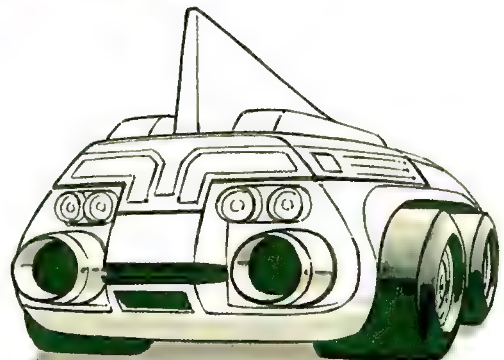
スカイアローの原案。ダンガードAにテイストを合わせて、直線を主体にしたデザインとなった。

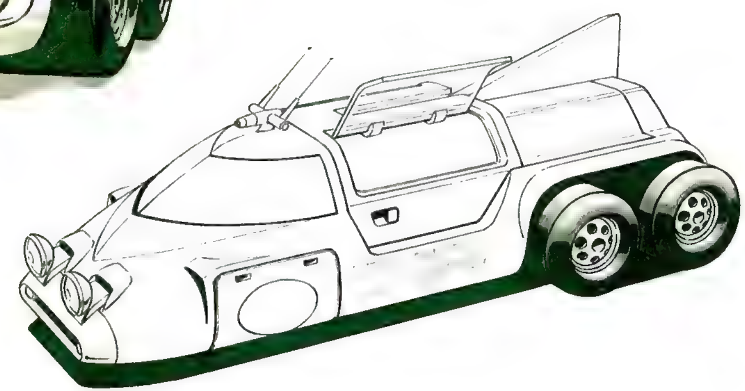




スカイアローのギミック案。機首を発射し、機体中央にある操縦席が移動して第二の機首になる。







ガードマシン。彩色画はデザイン案で、側面にダンガード・ドラッグの名前が書かれている。右端の線画が決定稿で、ヘッドライトと窓の開き方が変更になった。

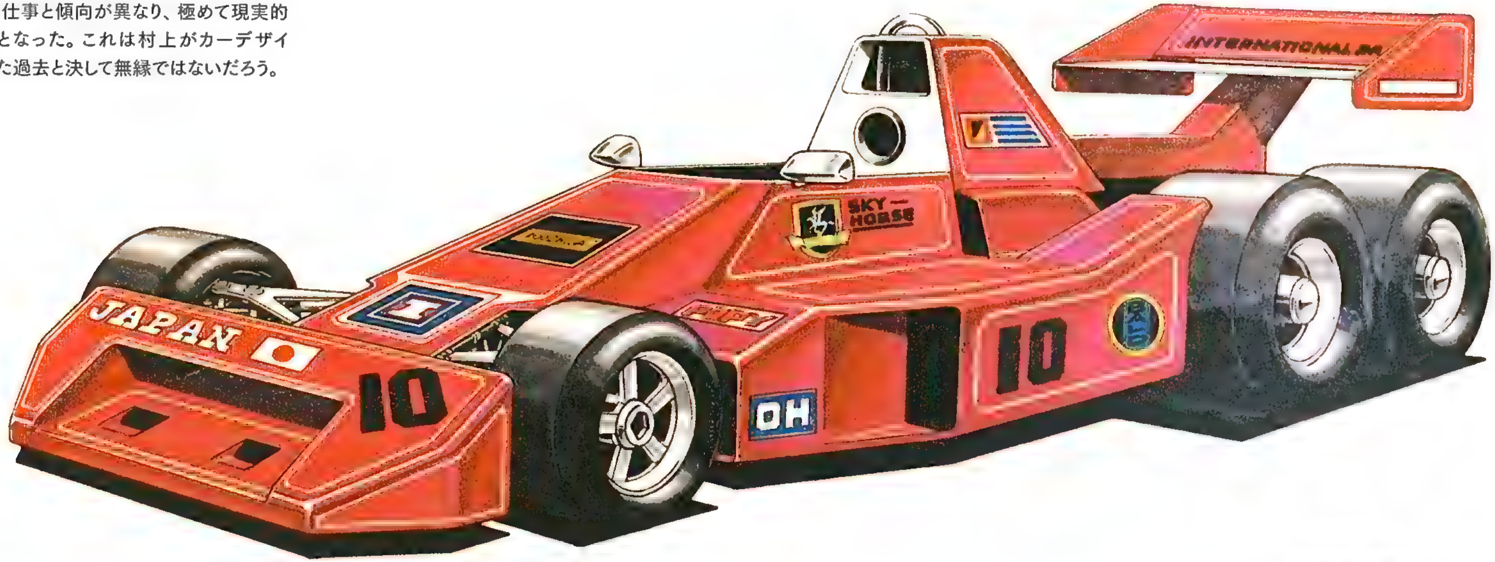
激走！ルーベンカイザー

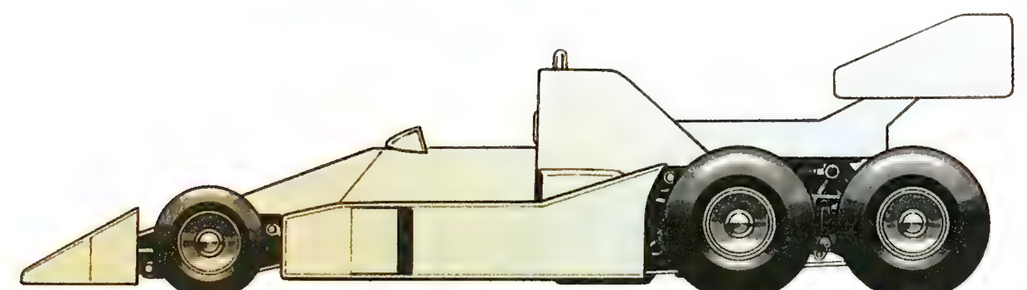
1977–1978

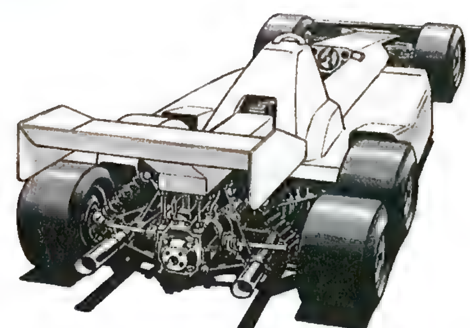
OA 1977.10.10–1978.2.6／テレビ朝日系放送

WORKS メインメカニック

東映制作のカーレースアニメーションで、1970年代後半のスーパーカーブームから生まれた番組である。村上は映像に登場する多くの車両をデザインした。村上が提案したマシンデザインは、これ以前の仕事と傾向が異なり、極めて現実的なスタイルとなった。これは村上がカーデザイナーを志した過去と決して無縁ではないだろう。







ルーベンカイザー・フォーミュラー1。1977年当時絶大な人気のあったティレルP34をイメージさせる、6輪のF1マシンである。リアリティあふれるエンジン部分の描き込みにも注目。





バンパ。ルーベンカイザーチームが使用する大型トレーラー。キャラクター性を極力抑えたデザインが特徴である。左はルーベンカイザーのエンブレム。ブランド名として映像に登場するマシンに用いられた。

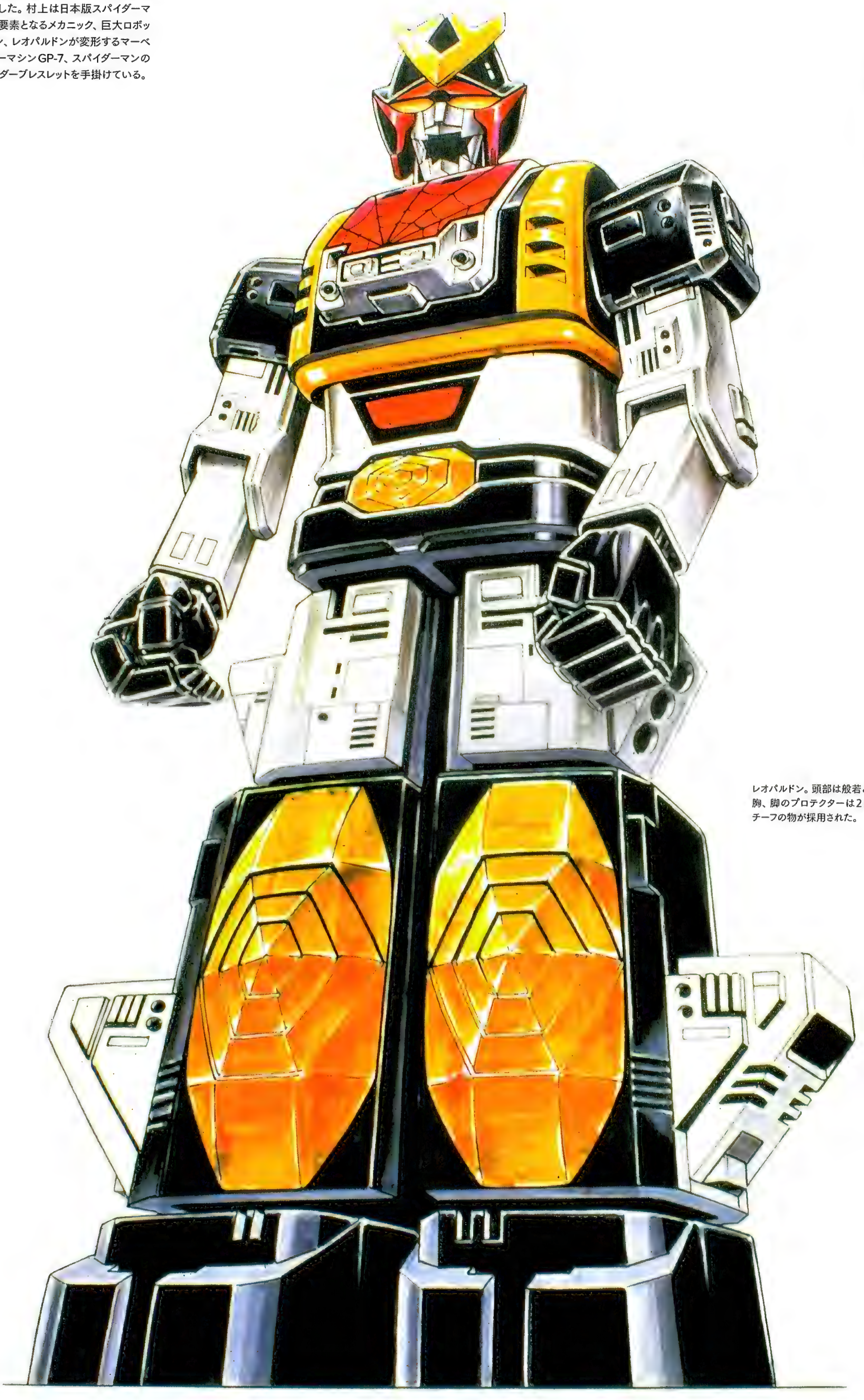
スパイダーマン

1978–1979

O.A 1978.5.17–1979.3.14／東京12チャンネル系放送

WORKS ヒーローのメインメカニック

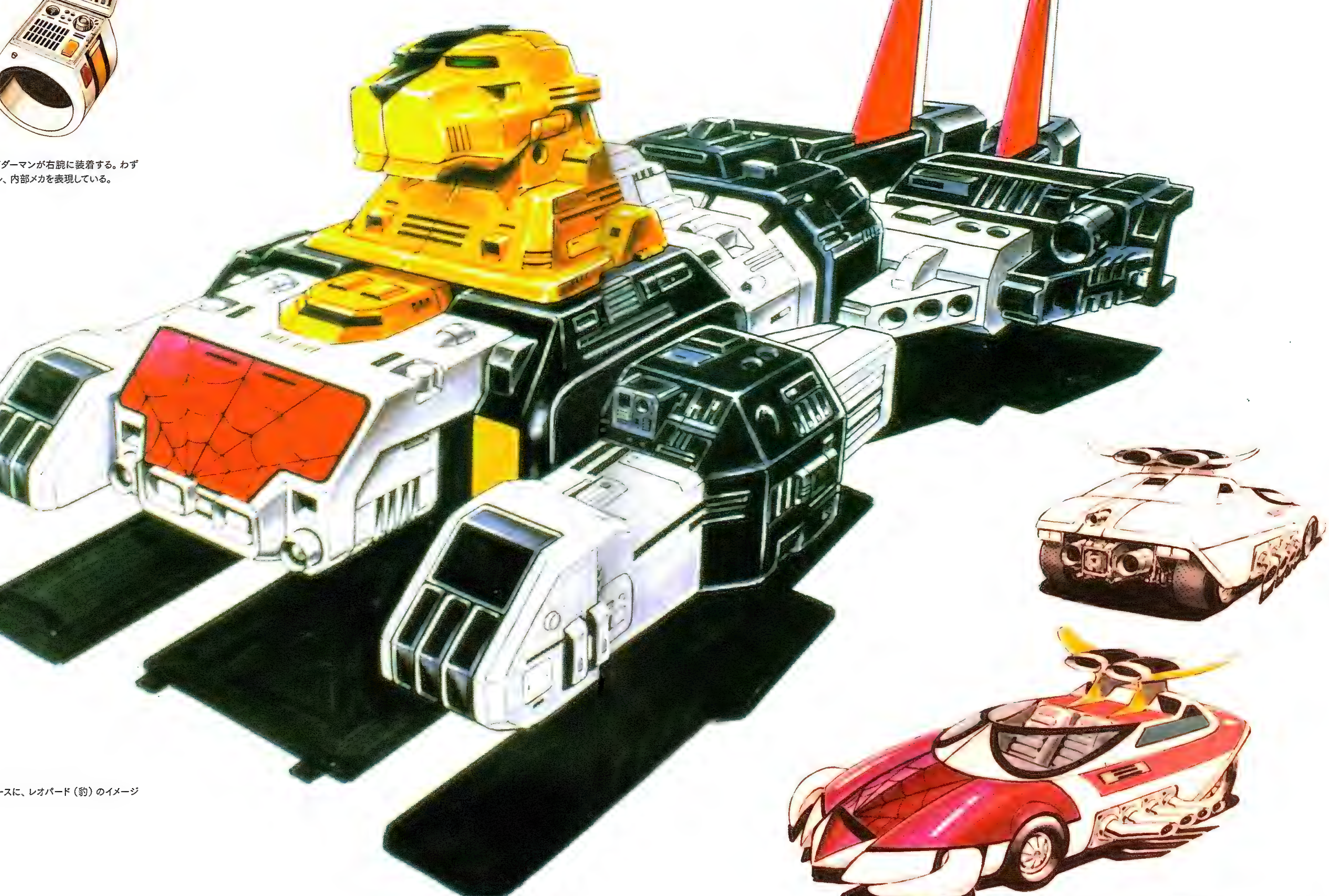
マーベル・コミックスのキャラクターを、日本独自の解釈で再構築した実写ヒーロードラマ。制作は東映が担当した。村上は日本版スパイダーマンのオリジナル要素となるメカニック、巨大ロボット・レオパルドン、レオパルドンが変形するマーベラー、スパイダーマシンGP-7、スパイダーマンの使用するスパイダーブレスレットを手掛けている。



レオパルドン。頭部は般若と蜘蛛をイメージしている。胸、脚のプロテクターは2案用意され、蜘蛛の巣モチーフの物が採用された。



スパイダーブレスレット。スパイダーマンが右腕に装着する。わずか2つの絵で前後のディテール、内部メカを表現している。



マーベラー。スフィンクスをベースに、レオパード（豹）のイメージを盛り込んでいる。

スパイダーマシンGP-7。蜘蛛の牙や8本の脚をイメージしたエグゾーストパイプ、スパイダーマンの目を模した風防が特徴となる。

銀河鉄道999（スリーナイン）

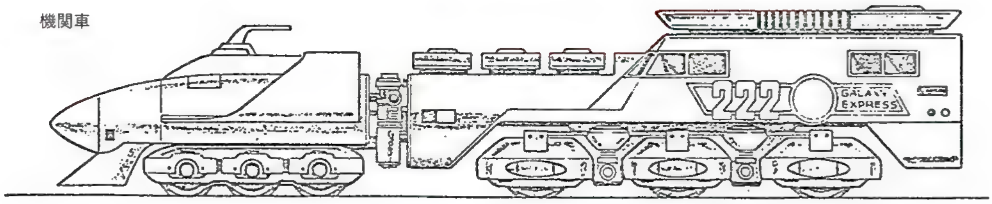
1978–1981

O.A.　1978.9.14–1981.3.26／フジテレビ系放送

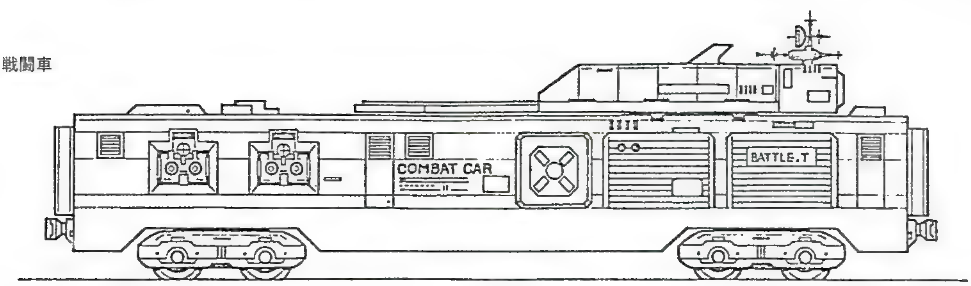
WORKS　111号、222号、333号、444号、555号、666号、777号、888号

松本零士原作のSFアニメーション。ポピーより映像オリジナルの車両が多数提案されている。これらは「スタートレイン」という名称で、玩具などで実際に商品化された。村上が電車モチーフのメカニックをデザインすることは意外に少ないが、本作に真摯な姿勢で取り組んでいたことは、多岐に渡るバリエーションからうかがい知れる。

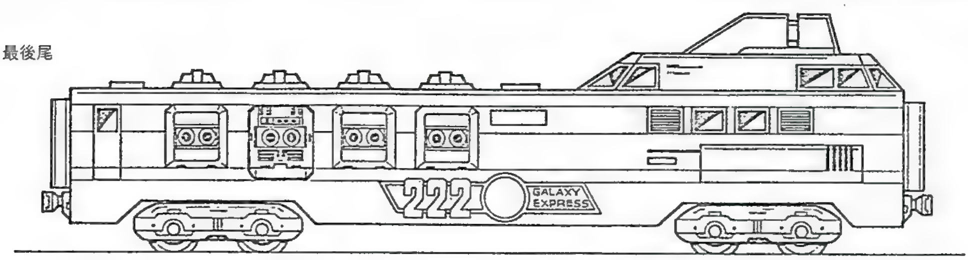
機関車



戦闘車



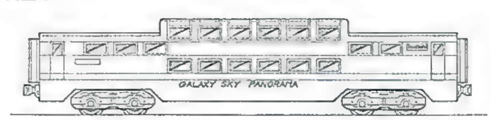
最後尾



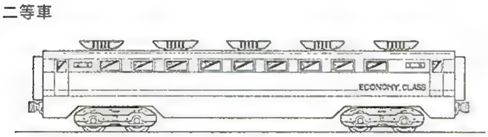
一等車



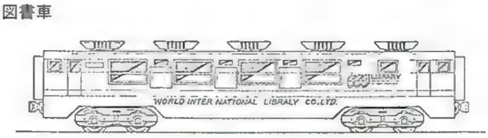
展望車



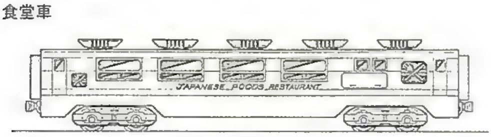
二等車



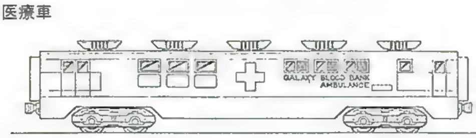
図書車



食堂車



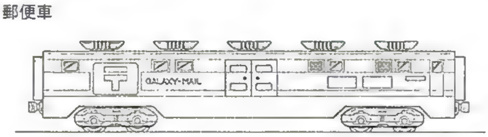
医療車



寝台車

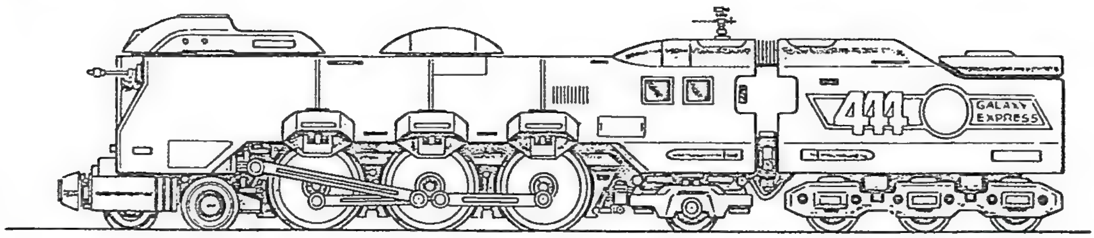


郵便車

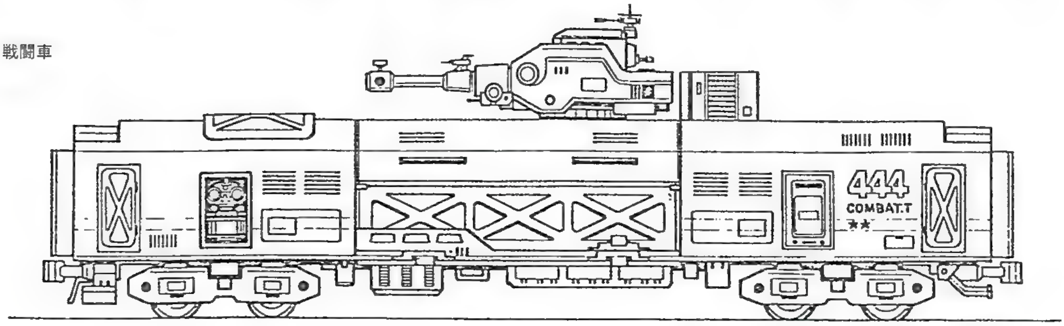


ピオナス2号（222号）の各車両。

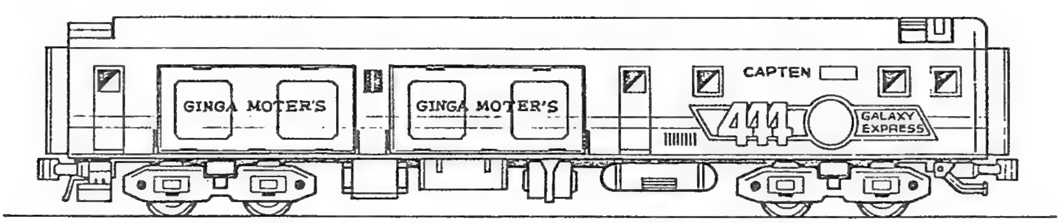
機関車



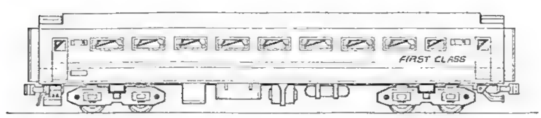
戦闘車



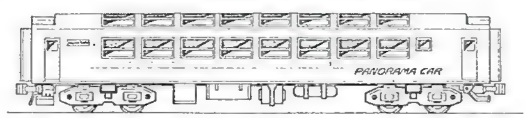
車輌運搬車



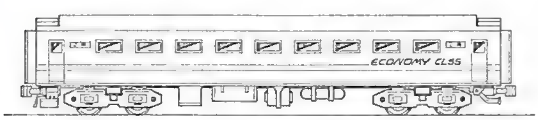
一等車



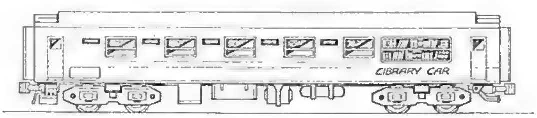
展望車



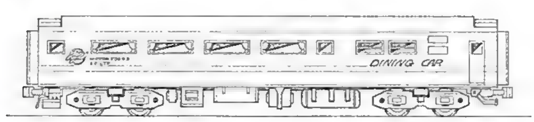
二等車



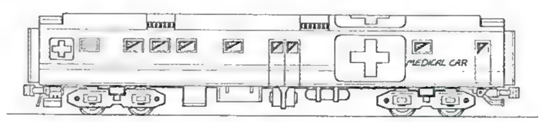
図書・販売車



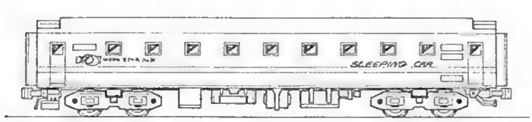
食堂車



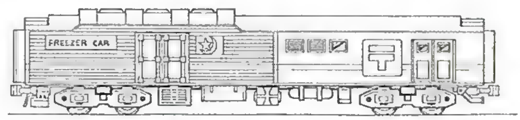
医療車



寝台車

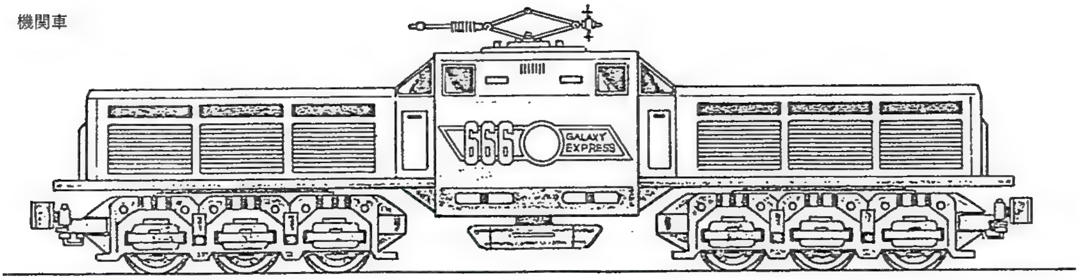


冷凍・郵便車

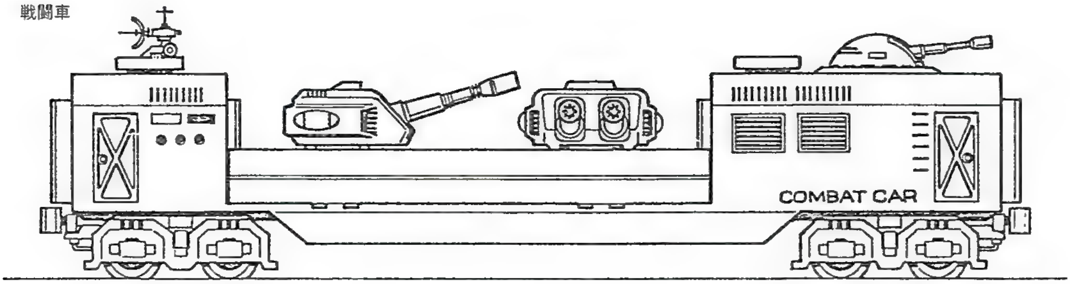


カペラ4号（444号）の各車両。

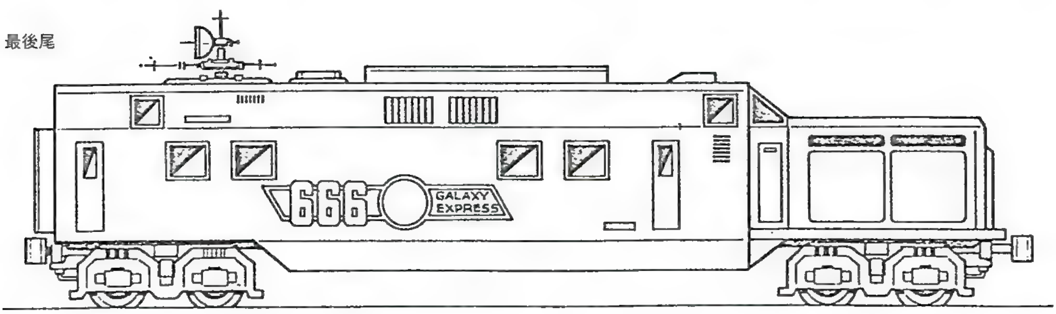
機関車



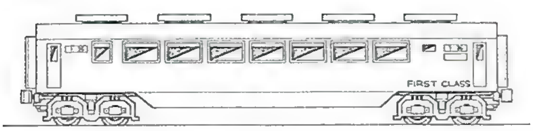
戦闘車



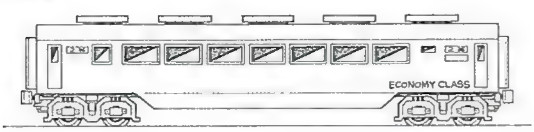
最後尾



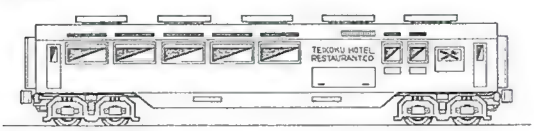
一等車



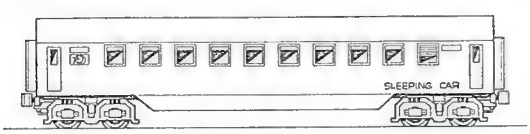
二等車



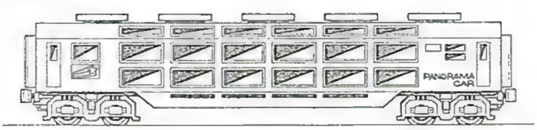
食堂車



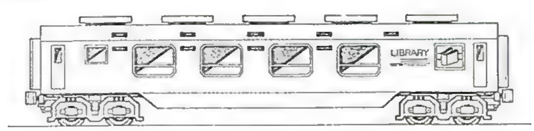
寝台車



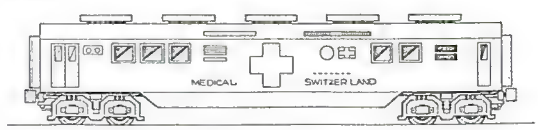
展望車



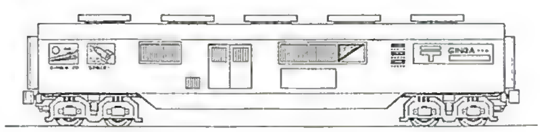
図書車



医療車

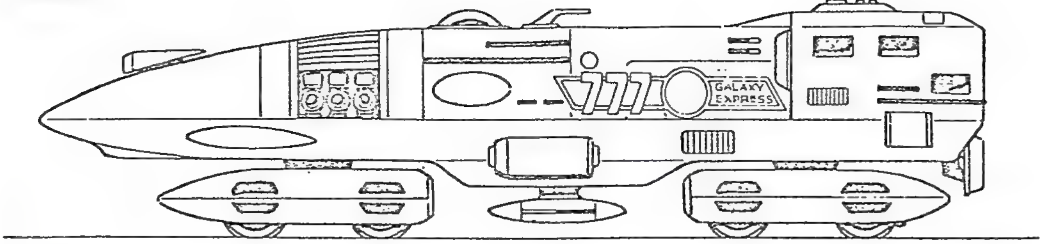


郵便車

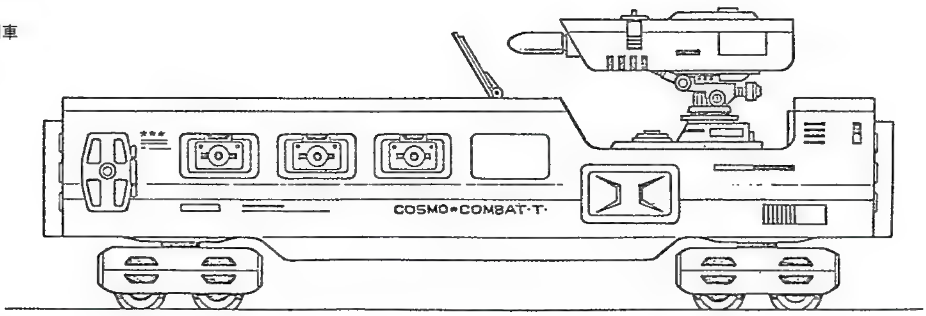


マゼラニアン6号（666号）の各車両。

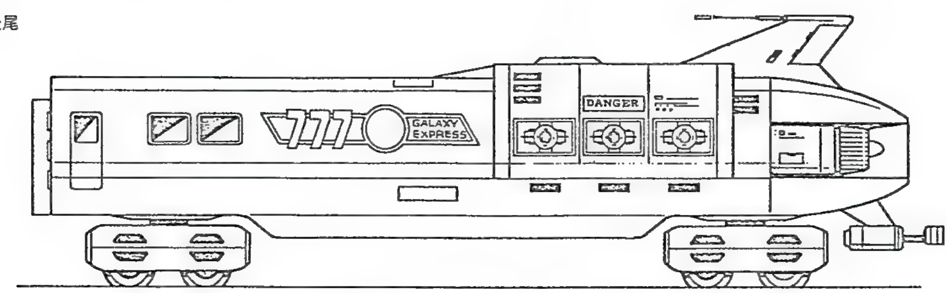
機関車



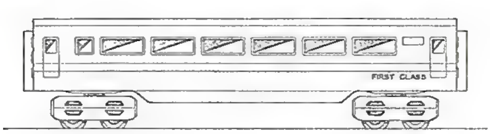
戦闘車



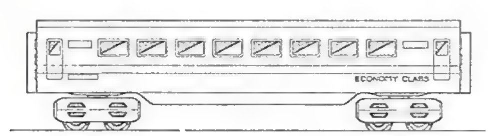
最後尾



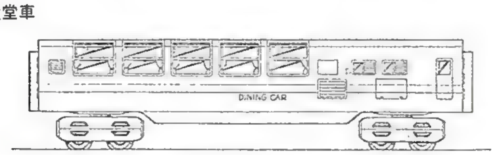
一等車



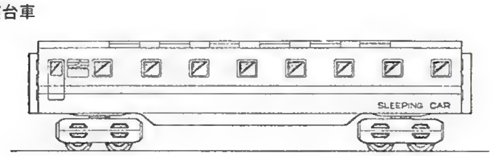
二等車



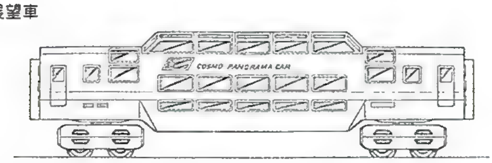
食堂車



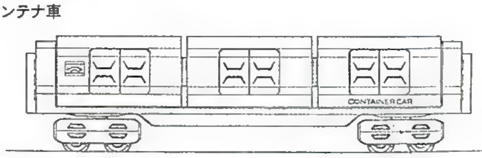
寝台車



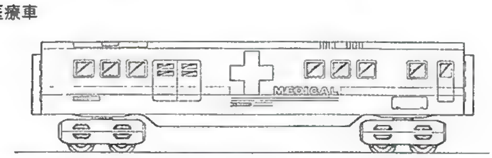
展望車



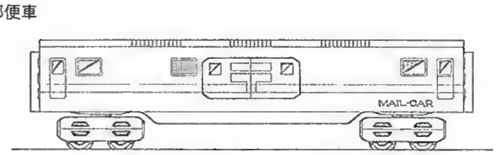
コンテナ車



医療車

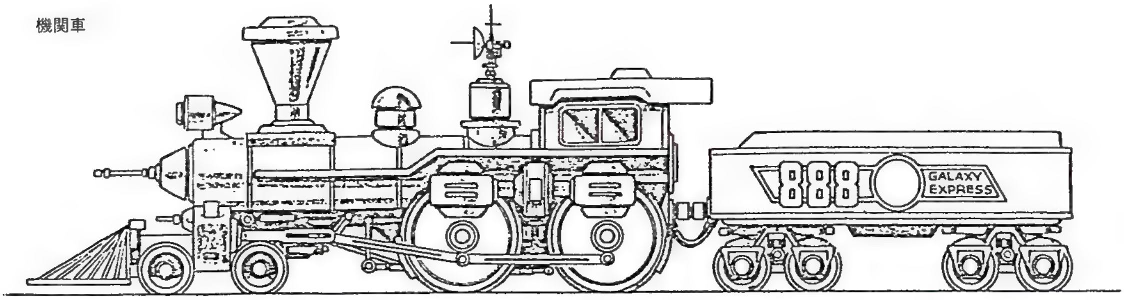


郵便車

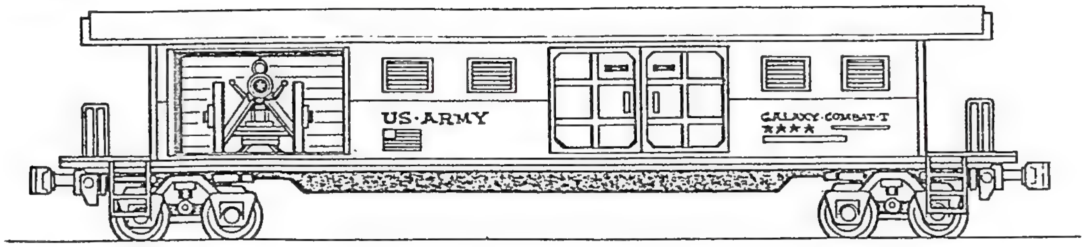


プレアディス7号（777号）の各車両。

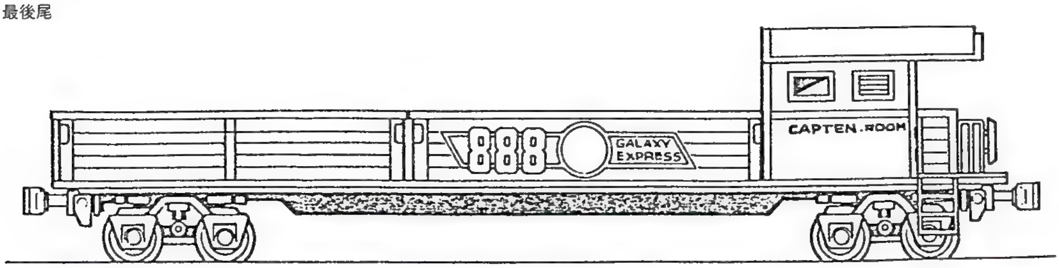
機関車



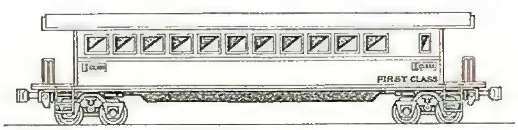
戦闘車



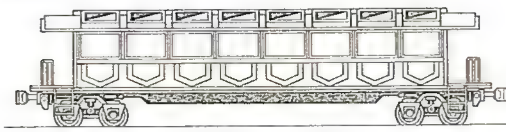
最後尾



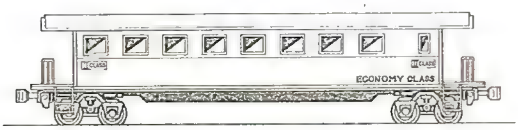
一等車



展望車



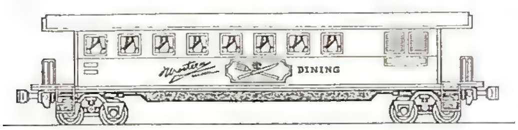
二等車



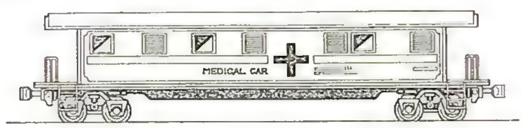
家畜車



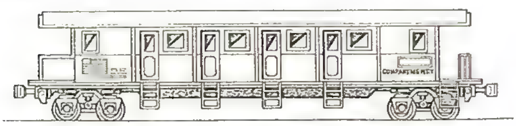
食堂車



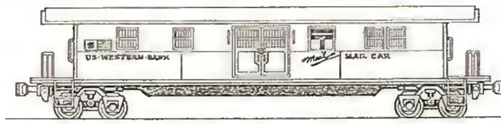
医療車



個室車



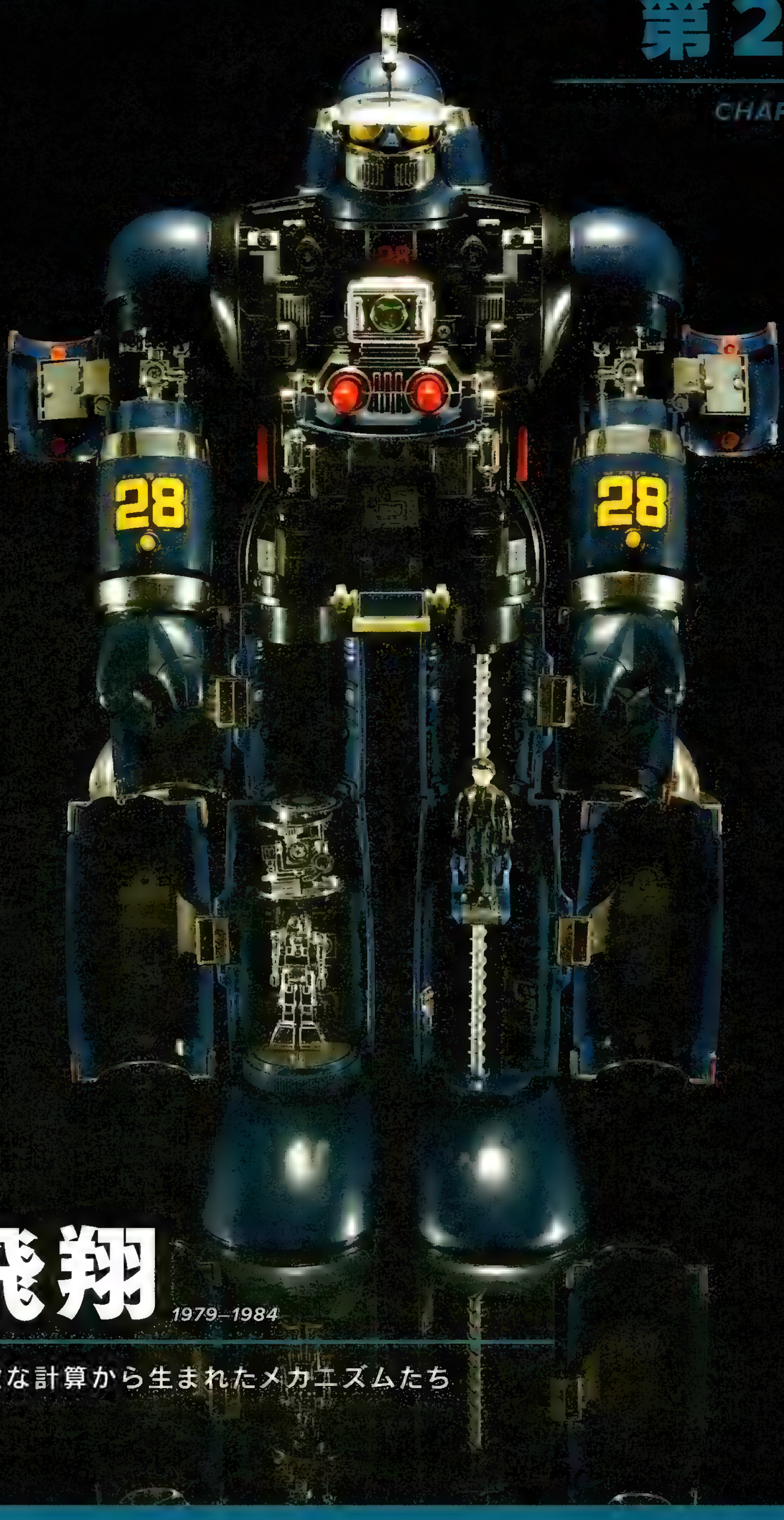
郵便車



アルデバラード８号（888号）の各車両。

第2章

CHAPTER 2



飛翔

1979–1984

冷徹な計算から生まれたメカニズムたち

バトルフィーバーJ

1979–1980

O.A. 1979.2.3–1980.1.26／テレビ朝日系放送

WORKS バトルフィーバーロボ、バトルシャーク、ビッグベイザー

スーパー戦隊シリーズ第３作。本作から飛行メカに加えて、巨大ロボットが登場する。世界各国を代表するヒーローが集うという設定から、村上はロボットに日本の象徴として鎧武者のイメージをストレートに盛り込んだ。また、飛行メカにはロボットを格納するというアイディアが加えられ、のちのシリーズの基礎が生まれている。



バトルフィーバーロボ。変形・合体をしないロボットゆえにアクションへ特化したデザインとなった。そのため、スーツアクターの動きを想定して、各部にスペースやカバーが設けられている。



海底移動基地ビッグベイザーから発進する万能戦闘艦バトルシャーク。この時は前部ガムサシ、後部がネルソンと呼ばれてた。村上はデザインとともに活躍イメージの提案も行っている。

未来ロボ ダルタニアス

1979–1980

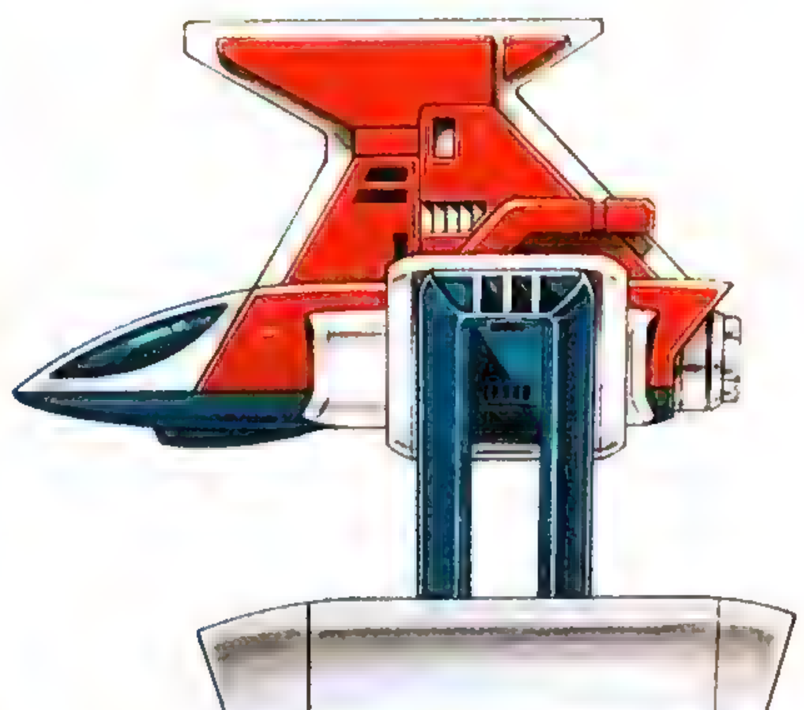
O.A. 1979.3.21–1980.3.5／東京12チャンネル系放送

WORKS ダルタニアス

東映制作のロボットアニメーション。村上にとって『ボルテスV』以来、1年ぶりの合体ロボットとなる。村上は人型ロボット、ライオン型ロボット、飛行メカというモチーフの異なるマシン同士の合体という新しいアイディアを提案した。しかし、実際に立体物として実現可能な合体システムを構築するのは、大変苦難な作業だったという。



ダルタニアス。ロボットのネーミングはデュマの『三銃士』から採られたもので、肩や腰、膝には三銃士をイメージしたエンブレムが配置された。



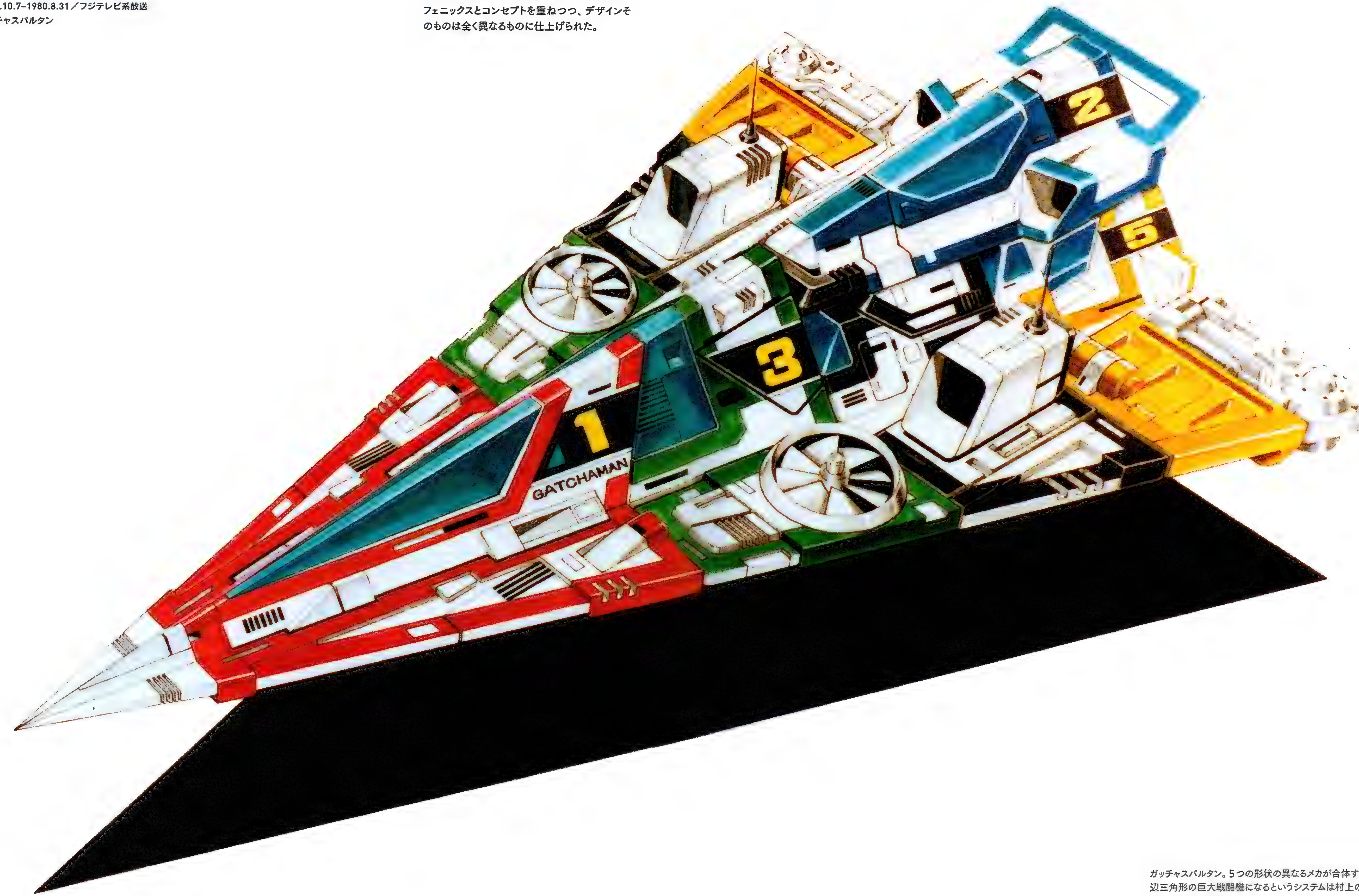
デルファイター。ダルタニアスの頭部に合体する小型戦闘機。これは側面から見たデザインで、形状確認のために主翼を省略している。

科学忍者隊ガッチャマンF(ファイター)

1979–1980

O.A. 1979.10.7–1980.8.31／フジテレビ系放送
WORKS ガッチャスパルタン

ガッチャマンシリーズ第3作。村上は前作『科学忍者隊ガッチャマンII』で、ニューゴッドフェニックス、コンドルアタッカー、ホーンドタンク、パイマーを担当。本作ではガッチャスパルタンを手掛けている。5つのマシンの合体という、初代ゴッドフェニックスとコンセプトを重ねつつ、デザインそのものは全く異なるものに仕上げられた。



ガッチャスパルタン。5つの形状の異なるメカが合体すると、二等辺三角形の巨大戦闘機になるというシステムは村上の独自性あふれるアイディアである。

闘士ゴーディアン

1979–1981

O.A. 1979.10.7–1981.2.22／東京12チャンネル系放送
WORKS ゴーディアン

タツノコプロ制作のロボットアニメーション。村上はサイズの異なるロボット、プロテッサー、デリンガー、ガービンが次々にボディへ格納されるという、入れ子細工のごときアイディアを生み出した。デザインそのものはスムーズに進行したものの、合体後の強度に問題があり、試作段階で何度も試行錯誤が行われたという。



左からガービン、デリンガー、プロテッサー。合体の際の、各ロボットのサイズ違いを示した概念図である。



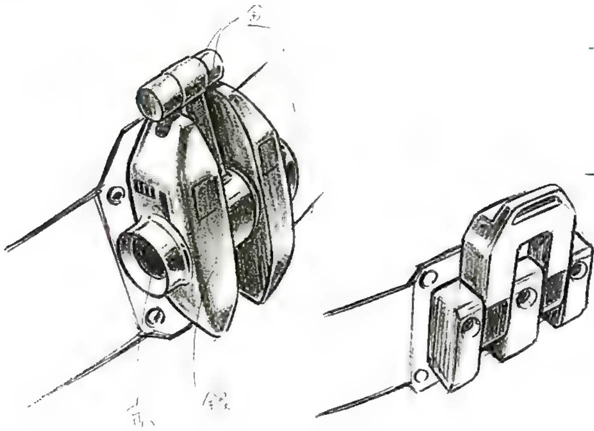
仮面ライダー（スカイライダー）

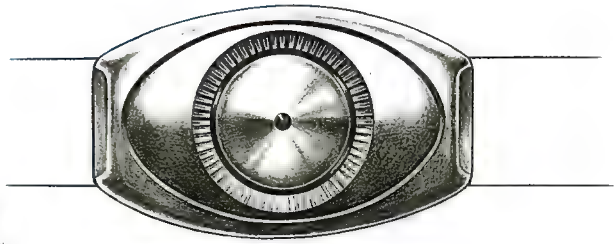
1979–1980

D.A. 1979.10.5–1980.10.10／毎日放送系放送

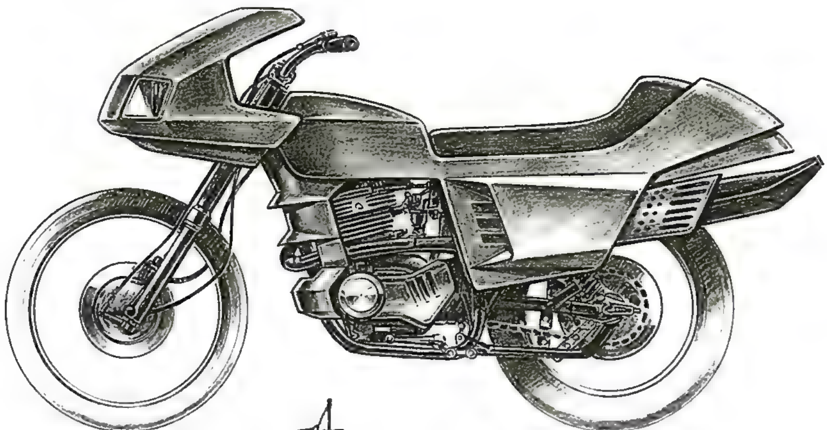
WORKS マーチャンダイズドデザイン

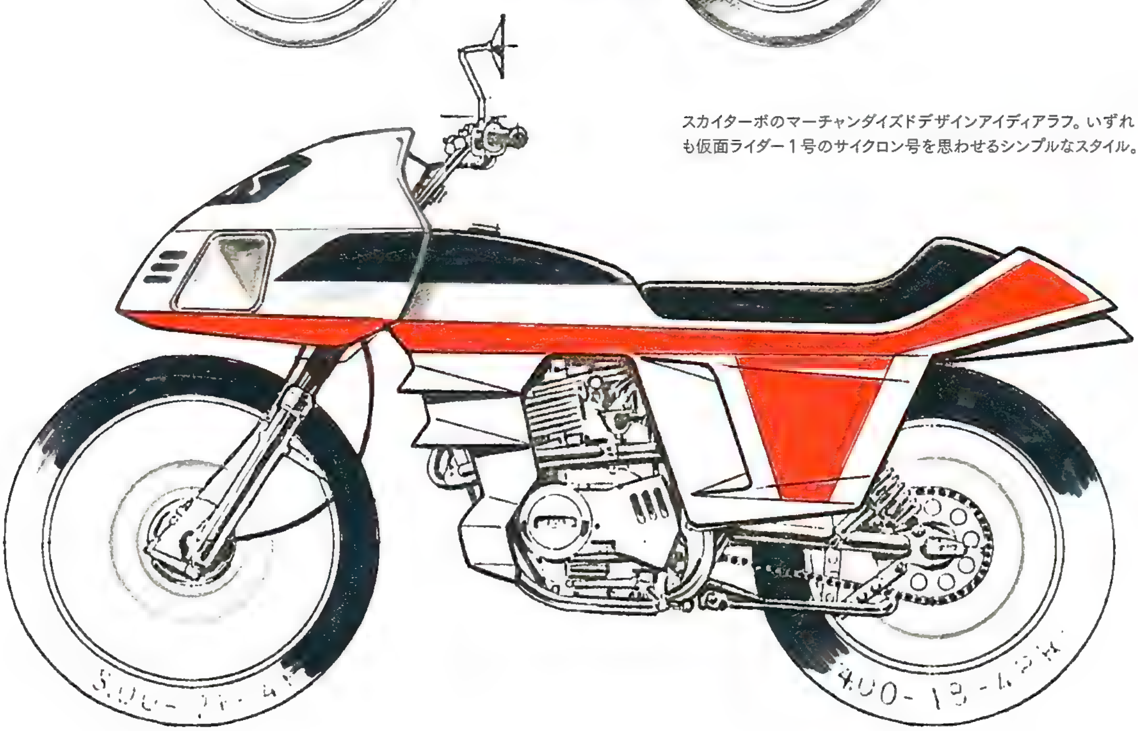
石ノ森章太郎原作の仮面ライダーシリーズ第6作。本作品は初代の『仮面ライダー』に立ち返るというテーマの下に作られており、村上のマーチャンダイズドデザインも努めてシンプルな方向性を追求したものとなった。





変身ベルト・トルネードのマーチャンダイズドデザインアイディアラフ。





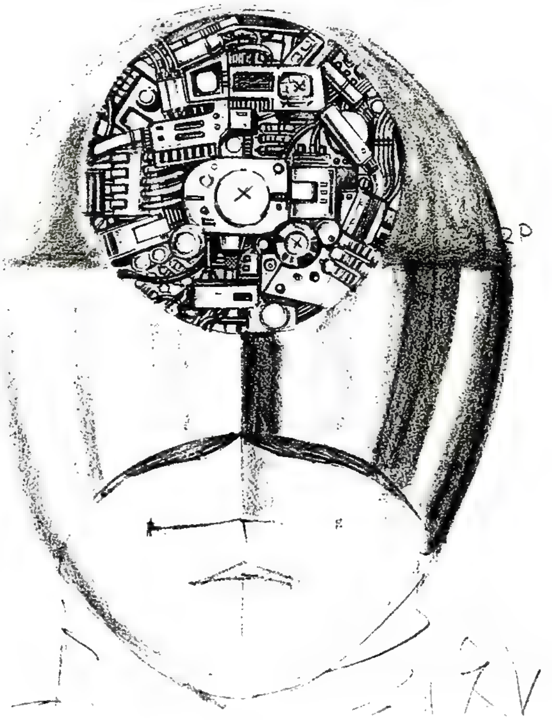
スカイターボのマーチャンダイズドデザインアイディアラフ。いずれも仮面ライダー１号のサイクロン号を思わせるシンプルなスタイル。

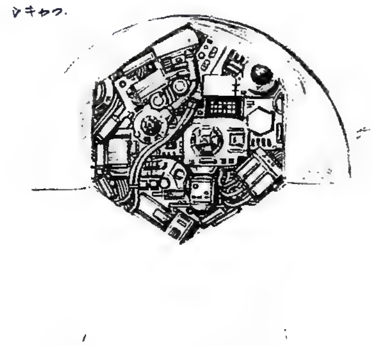
電子戦隊デンジマン

1980–1981

1980.2.2–1981.1.31／テレビ朝日系放送 O.A.
ヒーロー、ヒーローのメインメカニック WORKS

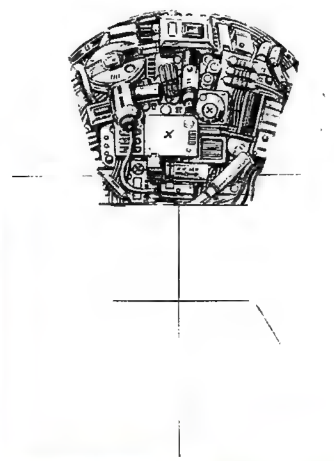
スーパー戦隊シリーズ第4作。村上は本作よりヒーローのデザイン提案も行うことになる。ゴーグルを無機質なまでにシンプルな形状に抑え、一方で額に精密なメカニックを配置することで、新たなヒーロー像を構築した。また、巨大ロボット・ダイデンジンは変形システムを導入し、メカニックの魅力にもプラスアルファが行われている。



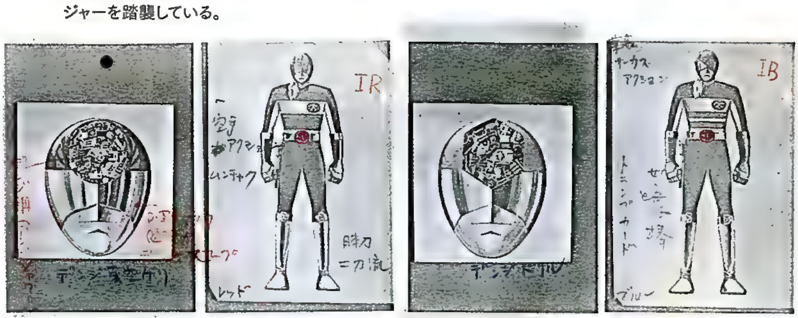


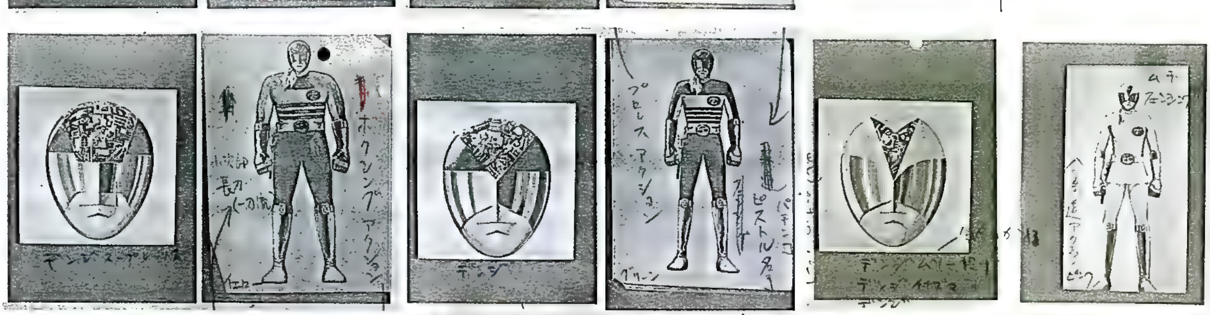


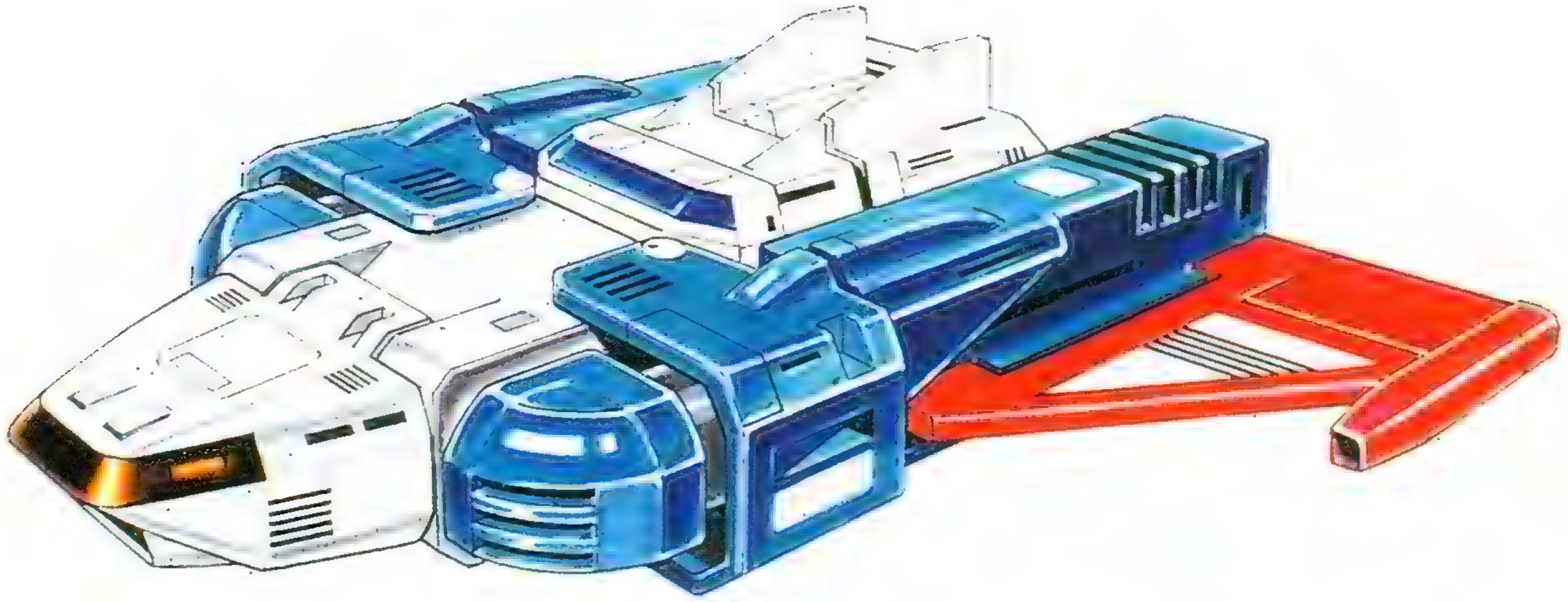
デンジレッド（上）、デンジブルー（右上）、デンジイエロー（右中段）、デンジグリーン（右下段）の頭部メカニック。



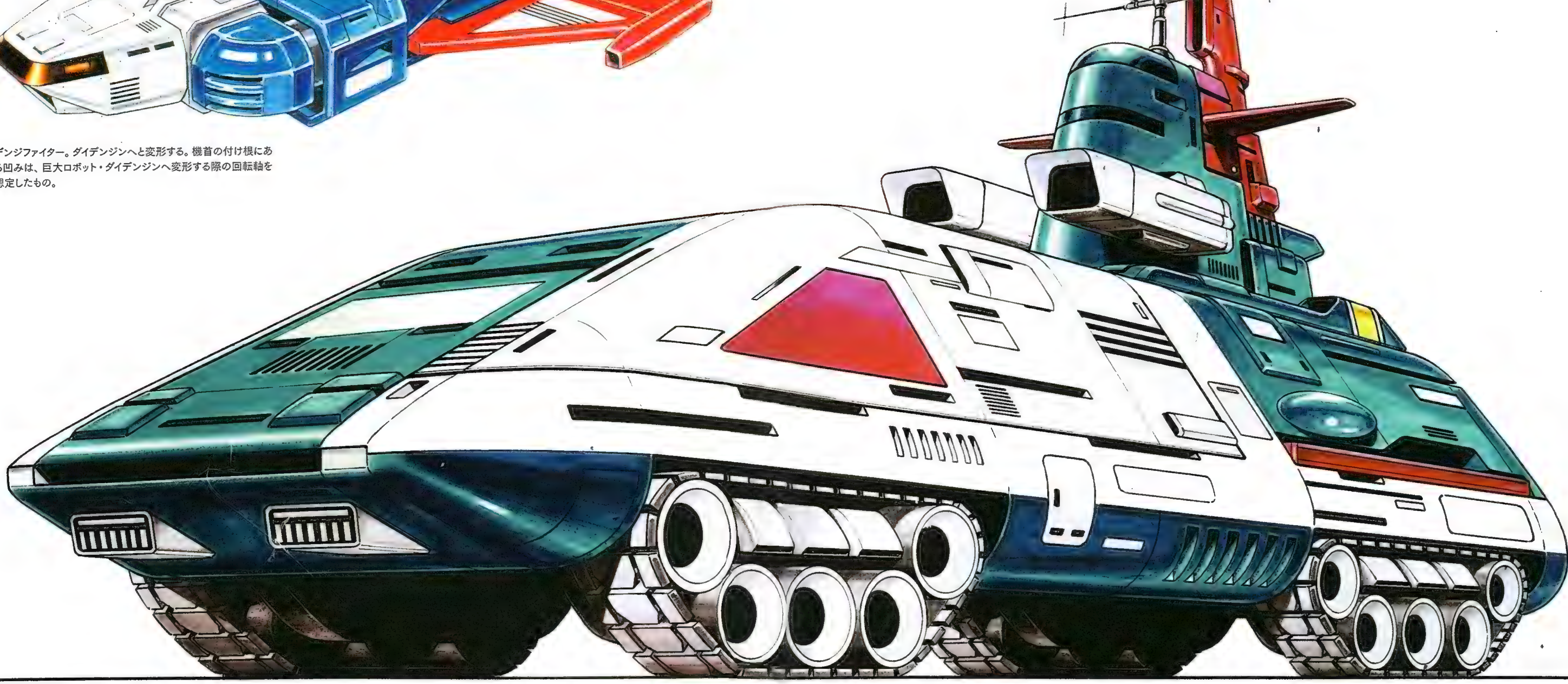
左からデンジレッド、デンジブルー、デンジイエロー、デンジグリーン、デンジピンクのマスクデザインおよびスーツデザイン（複写資料）。胴体のラインの数で区別を行うアイディアは、ゴレンジャーを踏襲している。



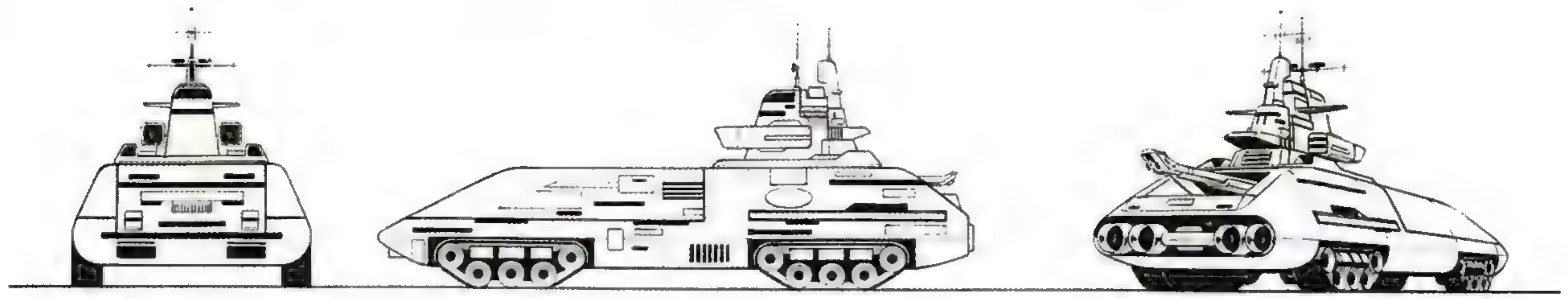




デンジファイター。ダイデンジンへと変形する。機首の付け根にある凹みは、巨大ロボット・ダイデンジンへ変形する際の回転軸を想定したもの。



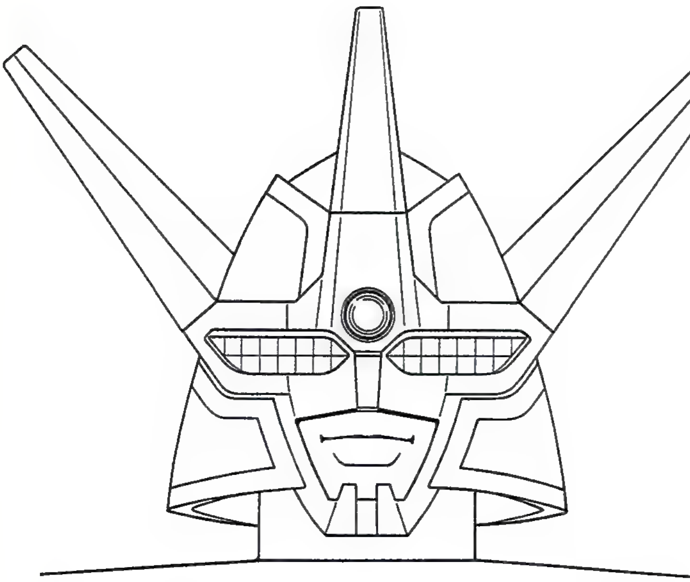
デンジタイガー。デンジマンの飛行要塞。前部の約半分がデンジファイターの格納スペースで、発進時にはカタパルトとして展開する。

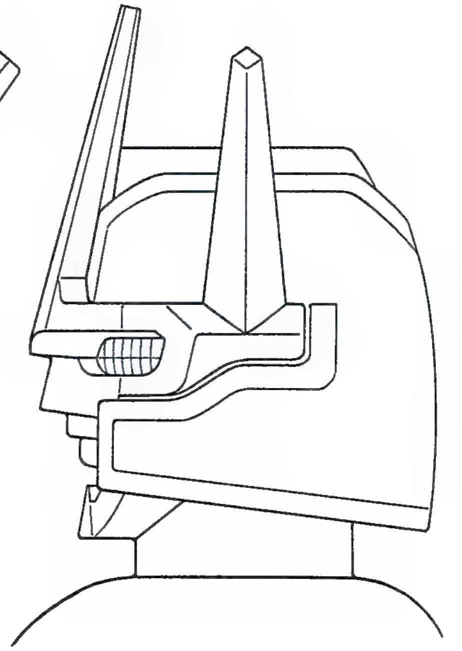


デンジタイガーの三面図。後部にはオプション装備のクレーンも描かれている。

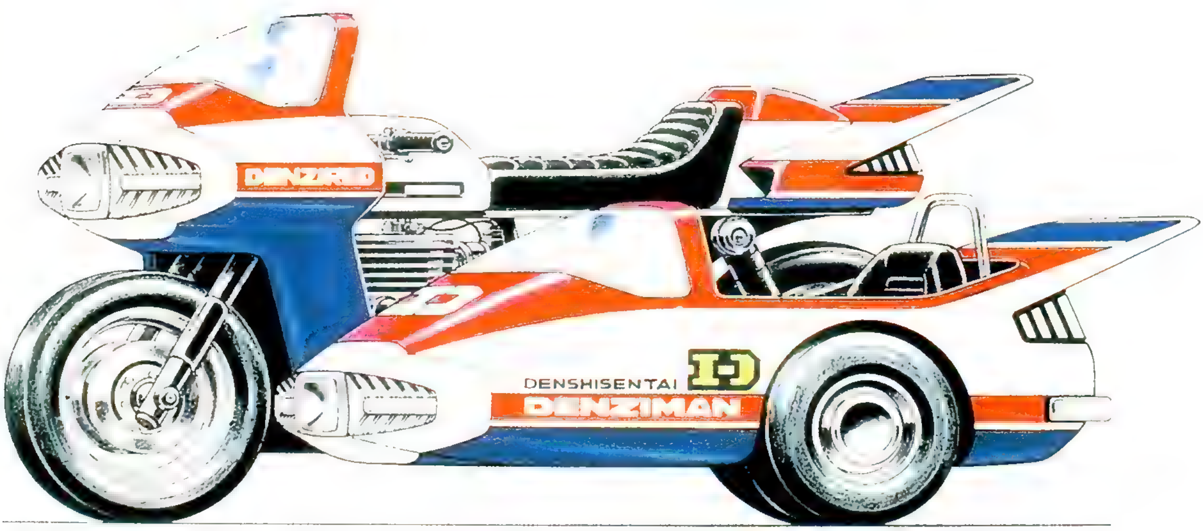


ダイデンジン。50ページに掲載したデンジファイターが変形した姿。胸のマークはELECTRON（電子）の頭文字を採った物。映像ではデンジマンの「D」となった。





ダイデンジン頭部。側面図を見ると、立体的な起伏を計算したデザインであることがわかる。



デンジマシーン決定デザイン。

宇宙大帝ゴッドシグマ

1980–1981

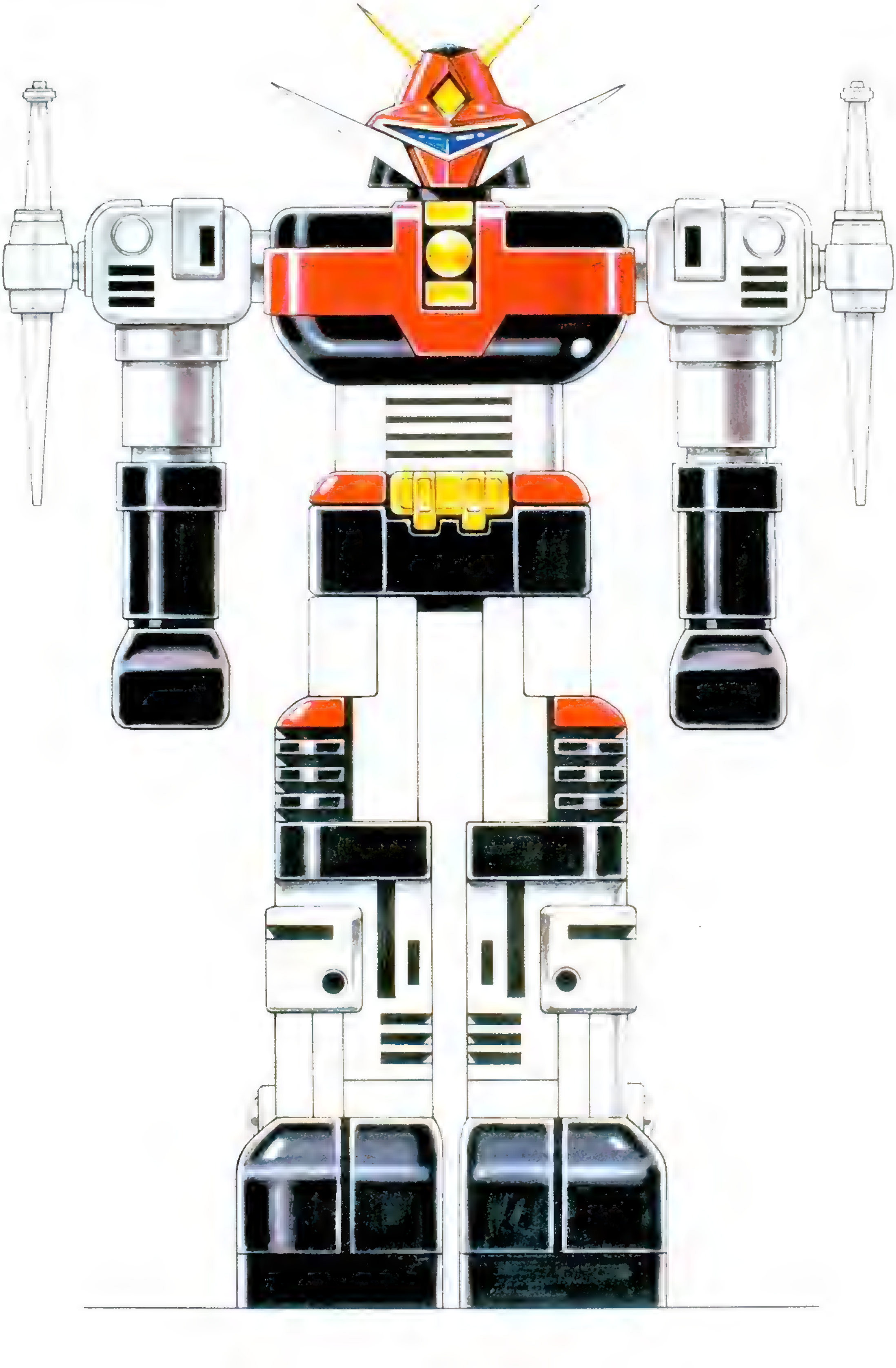
O.A. 1980.3.19–1981.2.25／東京12チャンネル系放送
WORKS ゴッドシグマ

東映制作のロボットアニメーション。村上は3体の同じサイズの人型ロボットによる合体システムを提案する。このアイディアは過去の作品で試みられたものの、立体化の際に多くの余剰パーツが発生するという不完全なものであった。ゴッドシグマはそれを克服し、3体のメカニックによる合体に新たな方向性を打ち立てている。



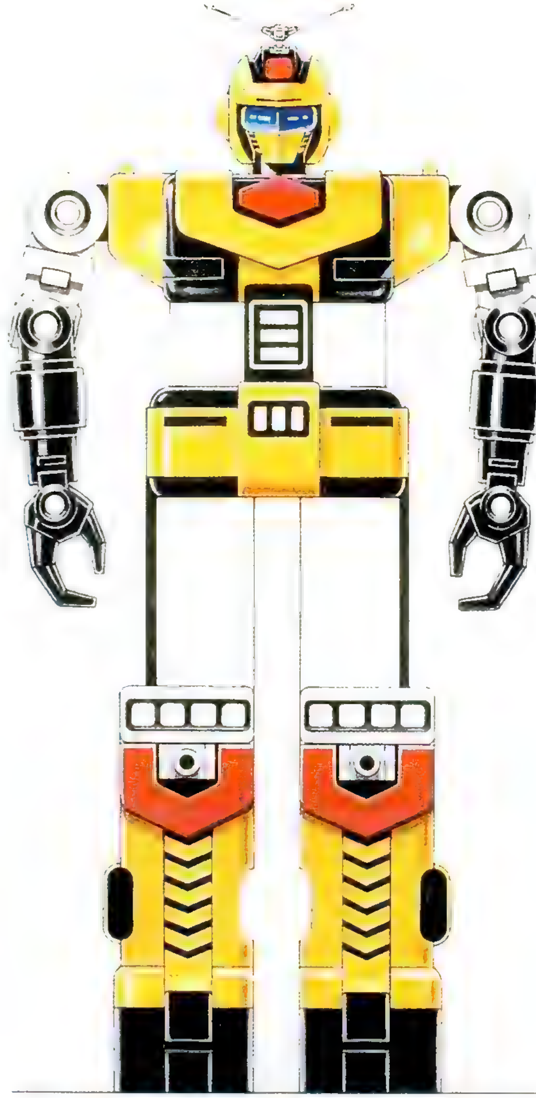
ゴッドシグマ。上半身と膝上までを空雷王、右脚を海鳴王、左脚は陸震王が構成している。

空雷王。ゴッドシグマの画稿と見比べると、合体時にボディ全体が横に広がっていることがわかる。このギミックで合体時にプロポーションのバランスを取るのだ。





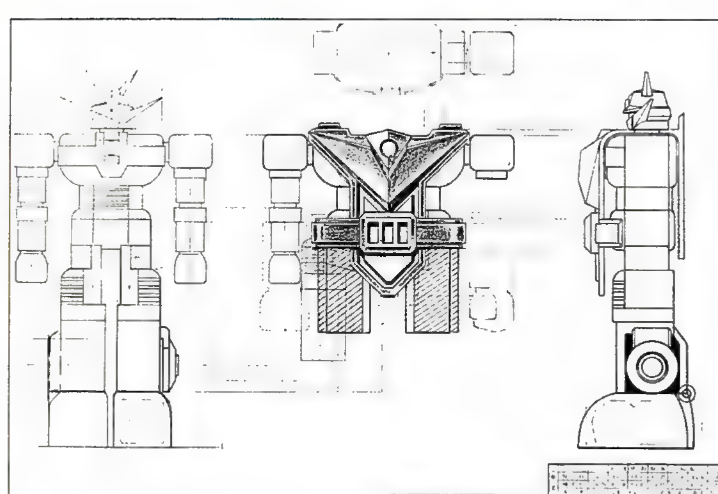
海鳴王。膝から下に描き込まれた基盤を意識したディテールは、実際の商品でメッキ処理することを事前に考慮したもの。



陸震王。建設機械を思わせるイエロー＆ブラックのツートンカラーにより、プロポーションが同一の陸震王との差別化を図っている。



ゴッドシグマ（空雷王）と海鳴王の頭部。明確な目と鼻、口に該当するパーツを一切描かずに「顔」を表現している。



デザインが決定した後に、プロポーションをよりブラッシュアップするためのパーツとしてビッグウイングが追加された。これは商品図面で、村上が直接ビッグウイングを描き込んでいる。

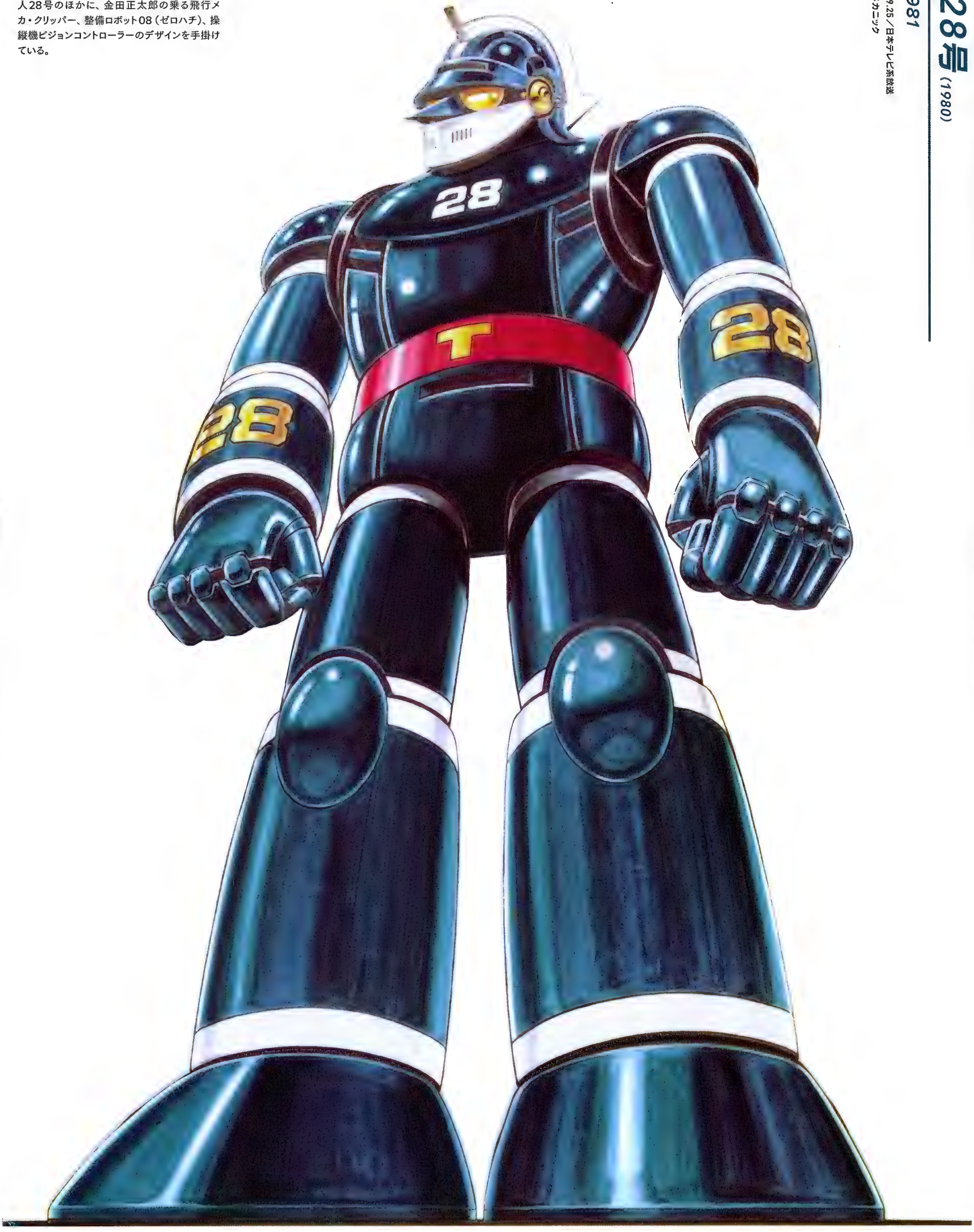
鉄人28号 (1980)

1980–1981

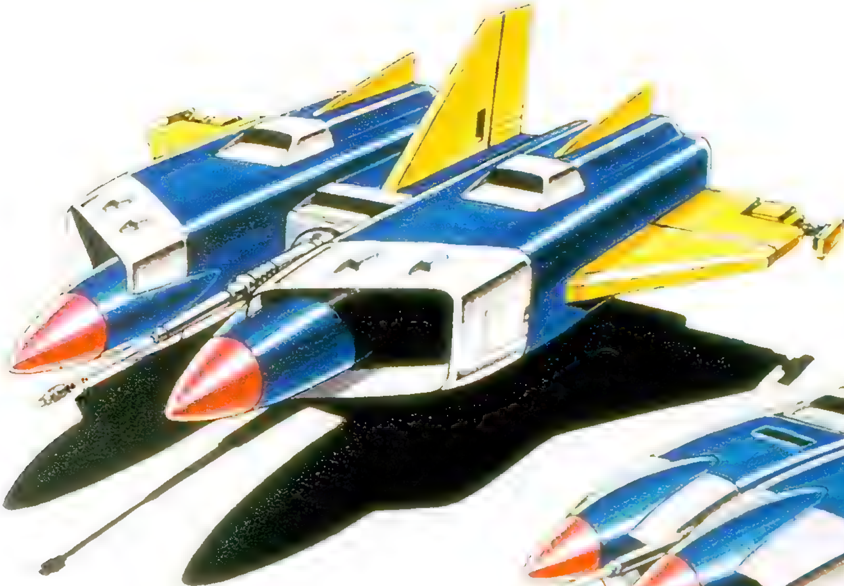
O.A. 1980.10.3–1981.9.25／日本テレビ系放送

WORKS ヒーローのメインメカニック

横山光輝原作の漫画を現代を舞台にリメイクしたアニメーション。横山はリメイクに前向きではなかったが、村上が描いた鉄人のデザインを見て、企画にゴーサインを出したという。村上は鉄人28号のほかに、金田正太郎の乗る飛行メカ・クリッパー、整備ロボット08（ゼロハチ）、操縦機ビジョンコントローラーのデザインを手掛けている。

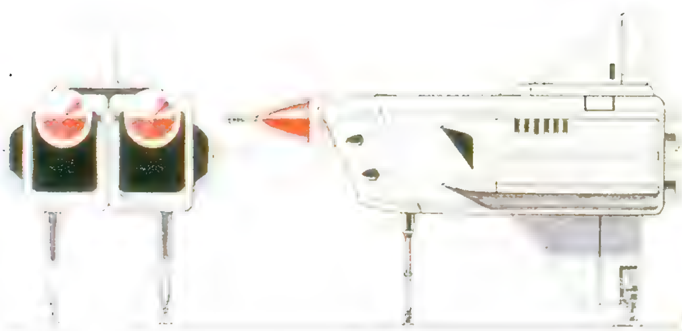


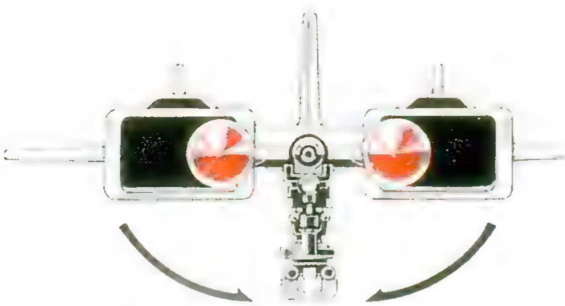
鉄人28号。作品の企画を決定づけたデザインである。胸の「28」マークとベルト中央のエンブレムを除き、そのまま映像に使用された。

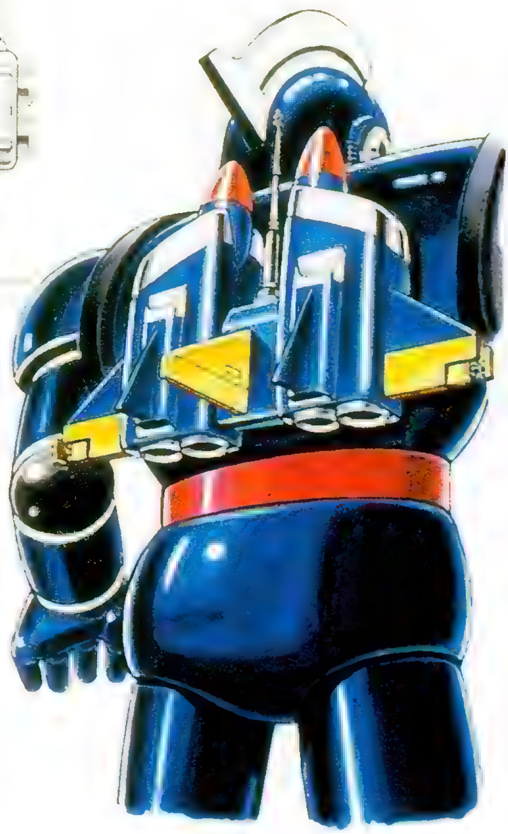


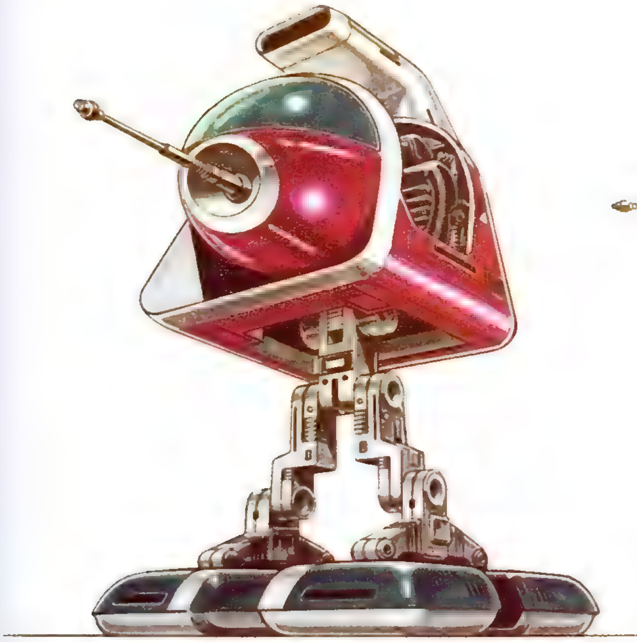


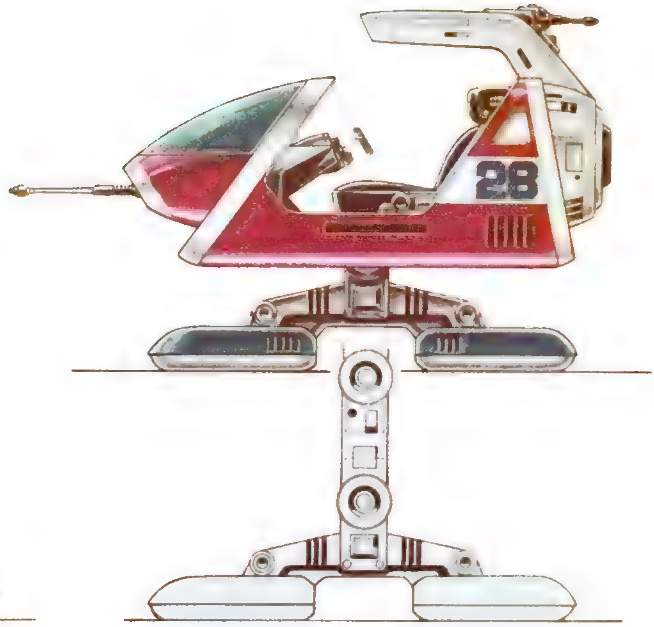
鉄人28号の飛行用ブースターは取り外し可能な設定ということで、村上は別バリエーションの提案を行った。格納時から使用時の展開システム、合体用ジョイントに至るまで詳細に描かれている。



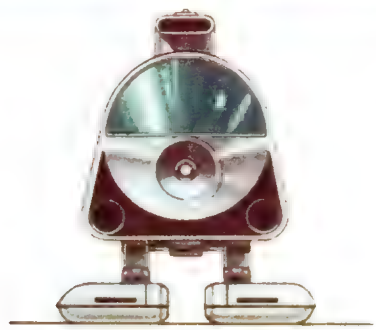


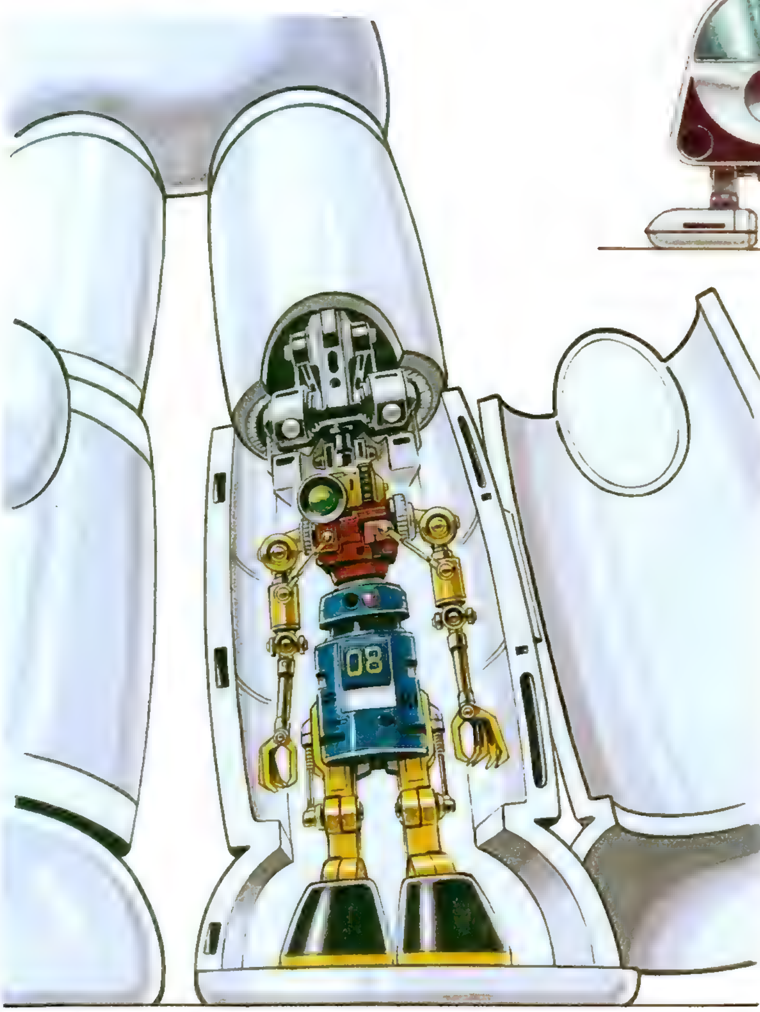






クリッパー。着陸脚が伸縮するシステムを備える。パーツと関節の位置関係を正確に描き、構造説明も兼ねている。





08ロボット。村上の提案では、鉄人28号の左脚の関節がそのままロボットになっているというものであった。

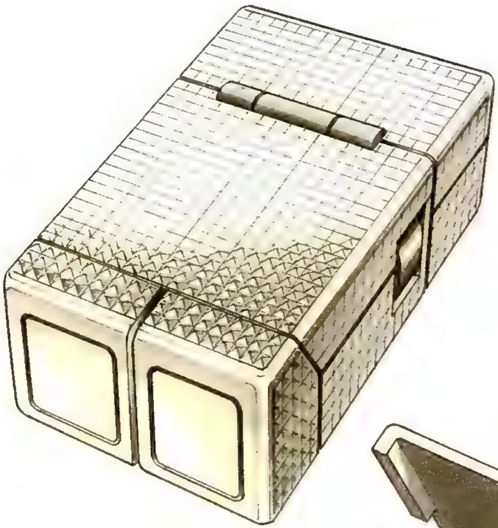
黄金戦士ゴールドライタン

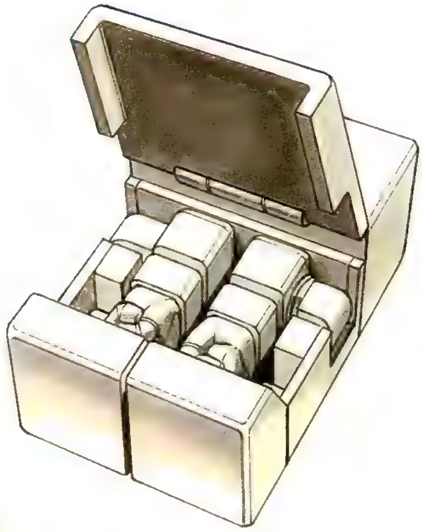
1981–1982

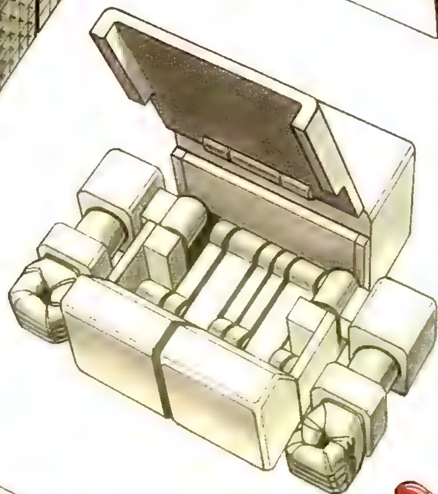
O.A　1981.3.1–1982.2.18／東京12チャンネル・テレビ東京系放送

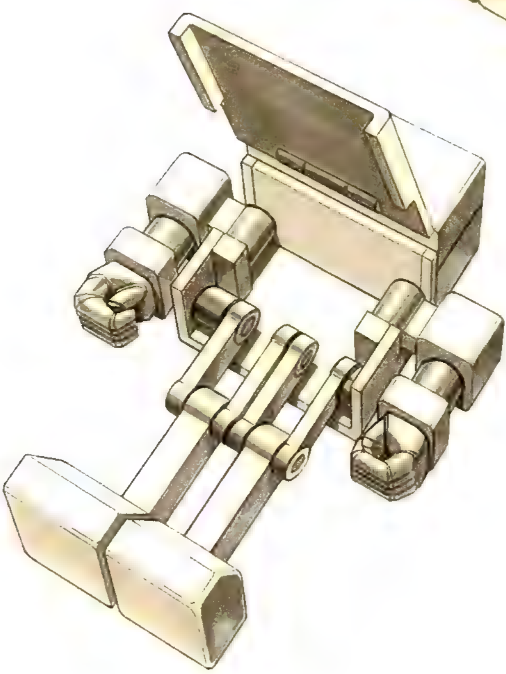
WORKS　ゴールドライタン、スコープライタン、アイシーライタン、タイムライタン、デンジライタン、メカニックライタン

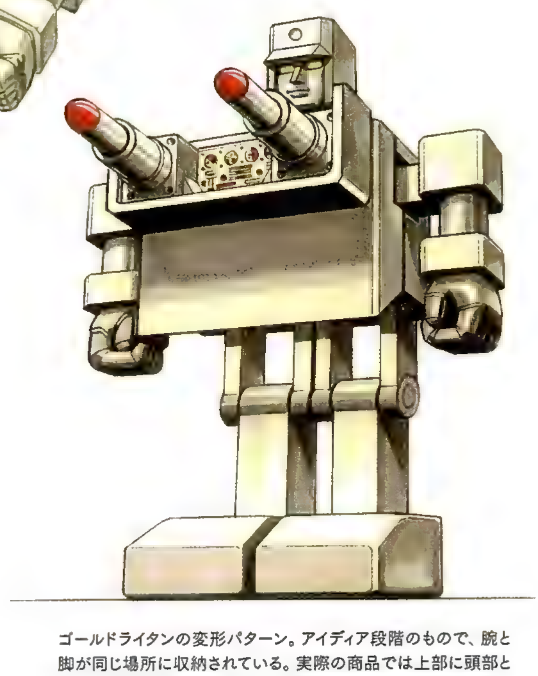
タツノコプロ制作のロボットアニメーション。ロボットがライターに変形するという着想は、それまでにはないアイディアとして大いに注目された。これは村上がかねてから温めていた案がようやく日の目を見たものだったという。本作品のヒットののち、1／1ギアをモチーフとするロボットは、男児玩具界になくてはならないものとなった。











ゴールドライタンの変形パターン。アイディア段階のもので、腕と脚が同じ場所に収納されている。実際の商品では上部に頭部と腕、下半分に脚が収められた。ちなみにこの画稿は当時の作品をもとに、村上自身がリメイクしたものである。

太陽戦隊サンバルカン

1981–1982

スーパー戦隊シリーズ第５作。この作品ではヒーローを３人に絞っている。そのぶん、アニマルモチーフを取り込むなど、キャラクター性はより強化された。また、巨大ロボットがシリーズ最初の合体メカニックとなるなど、作品のスケールそのものは大きくなっている。村上はヒーローとメインメカニックのデザイン提案を行った。

1981.2.7–1982.1.30／テレビ朝日系放送 O.A
ヒーロー、ヒーローのメインメカニック WORKS

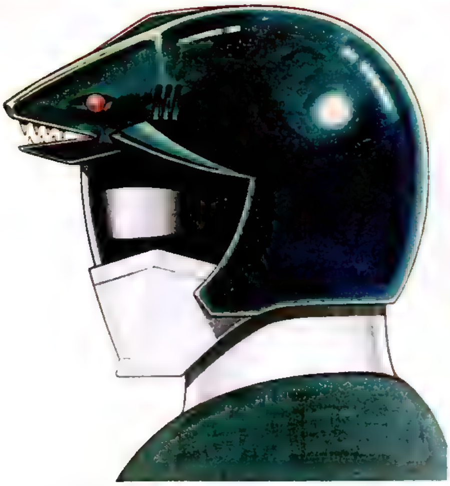


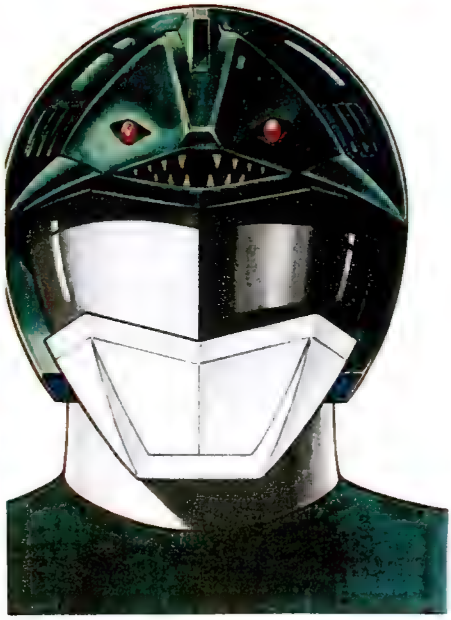
バルイーグル。3、そして太陽（サン）をイメージした三角のラインが胸と手足に配置されている。また額とバックルにはアニマルのレリーフがある。

バルイーグルのマスク。イーグルのシンボルが額に存在し、シンプルなデザインの中に、良い意味での異質感を醸し出している。また、イーグルの翼をイメージしたストライプが側面に描かれている。









バルシャークのマスク（上）、バルパンサーのマスク（下）。





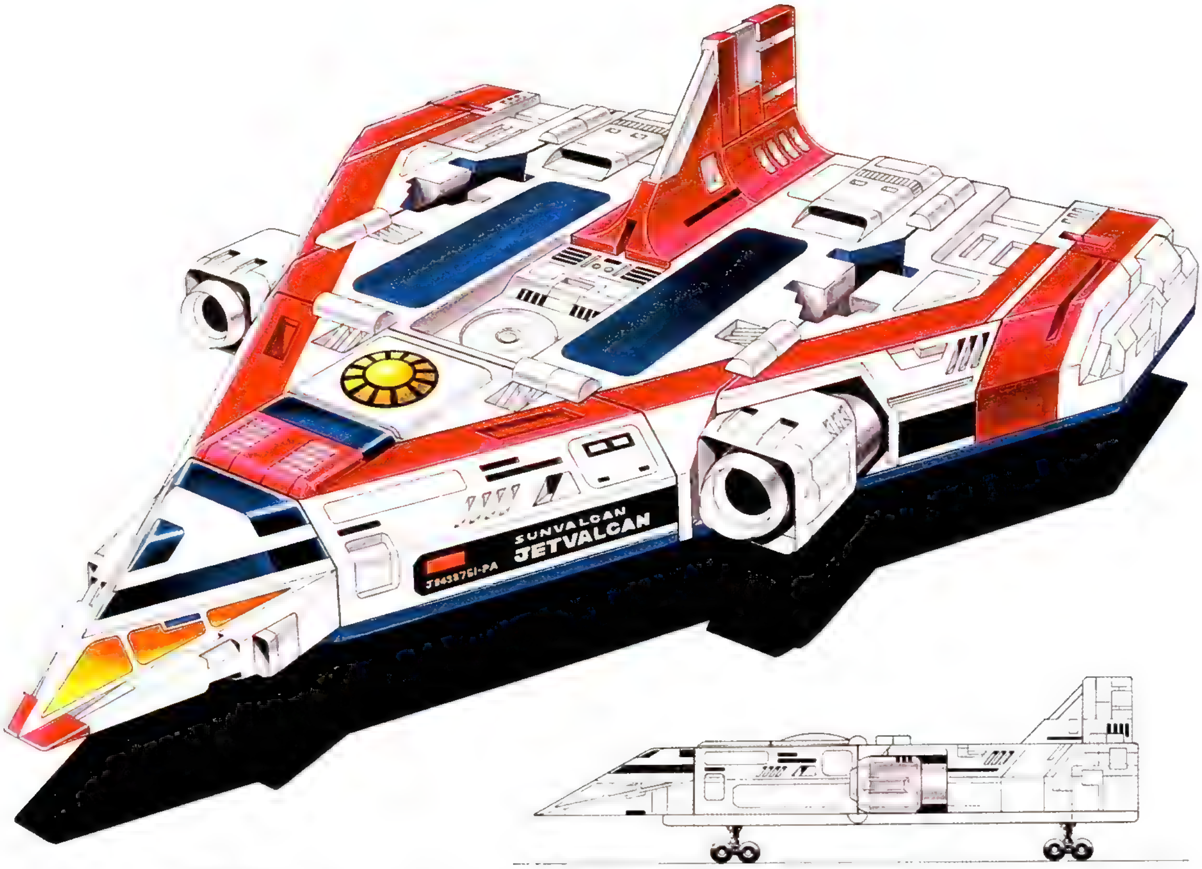


ジャガーバルカン。スーパー戦隊の飛行メカとしては、バリドリーン以来のアニマルモチーフとなる。後部にはイーグルを象ったタワーがあり、ブルバルカンが2分割して収納される。右下の絵は目を閉じた状態用に描かれた。

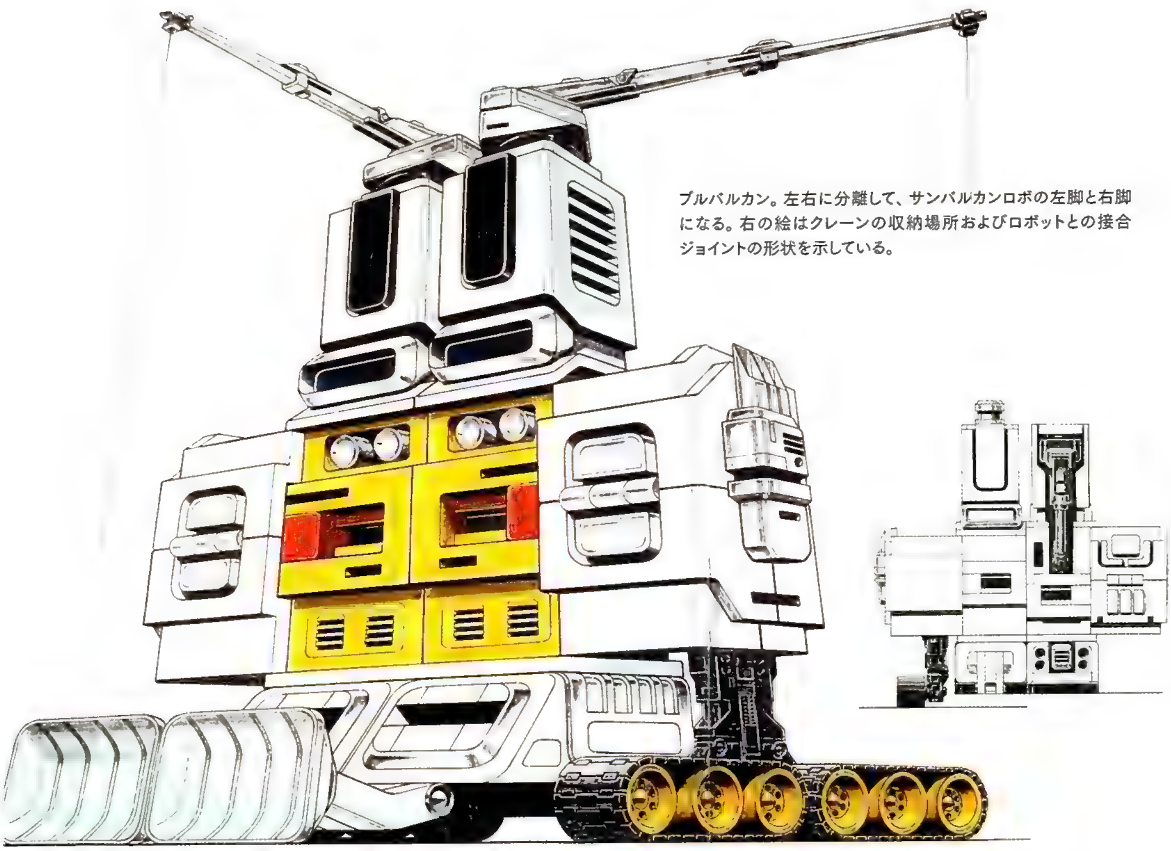


サンバルカンロボ。68ページのコズモバルカンが裏返しになり、
機首と側面のパーツを折りたたむことで上半身が完成する。胸の
Vマークはサンバルカンと共通のモチーフ。





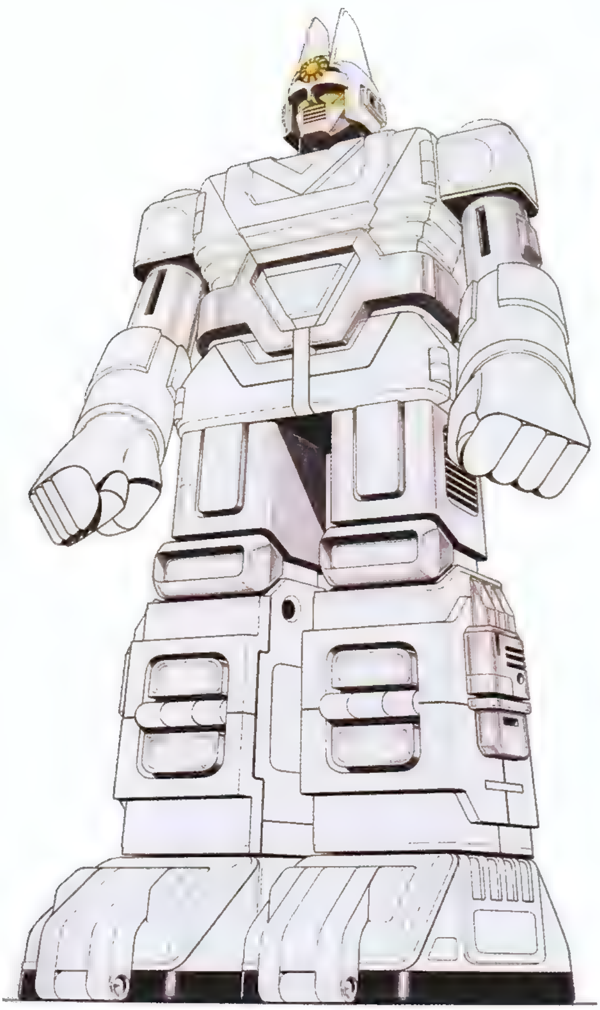
コズモバルカン。デザイン時の名称はジェットバルカン。白いデルタ型戦闘機が青いボディのロボットの上半身に変化する。形だけでなく、色の変化も視野に入れたデザインである。



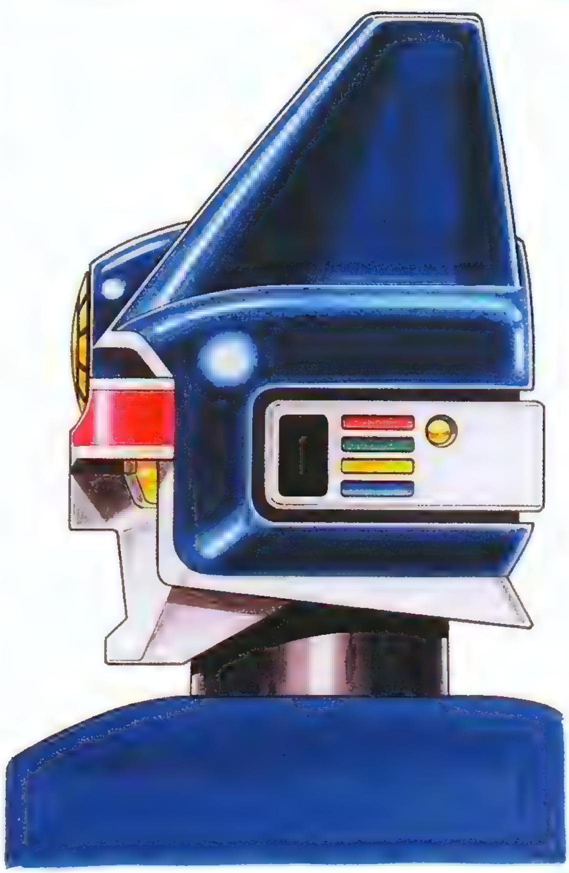
ブルバルカン。左右に分離して、サンバルカンロボの左脚と右脚になる。右の絵はクレーンの収納場所およびロボットとの接合ジョイントの形状を示している。



サンバルカンロボ頭部。額にはサンバルカンと同じ太陽のエンブレムが入っている。瞳の両端には微妙な角度がつけられており、カメラの位置によって目の表情が変わって見える。



サンバルカンロボ（色彩前）。



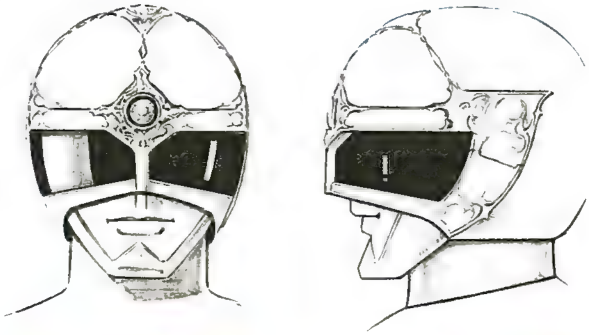
大戦隊ゴーグルファイブ

1982–1983

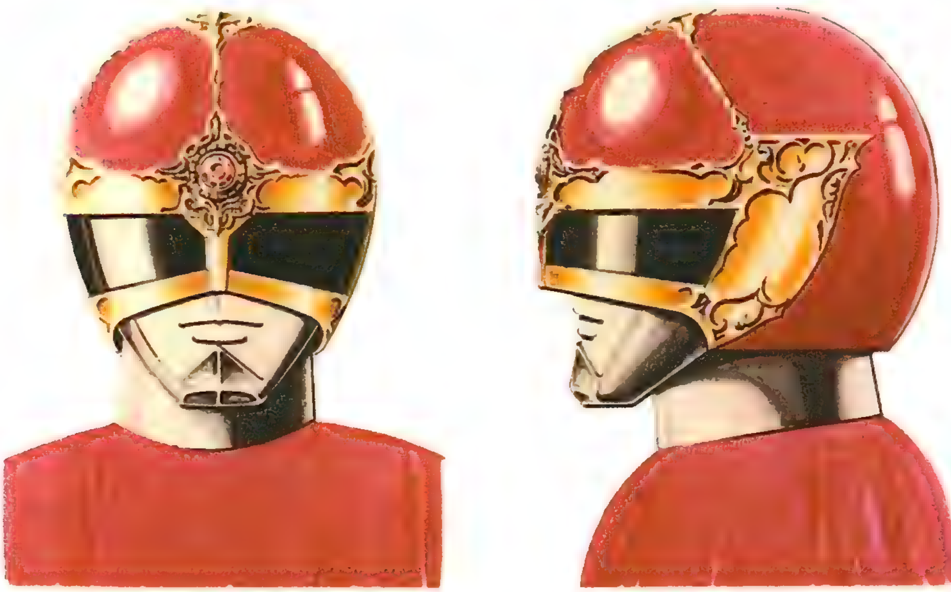
D.A. 1982.2.6–1983.1.29／テレビ朝日系放送

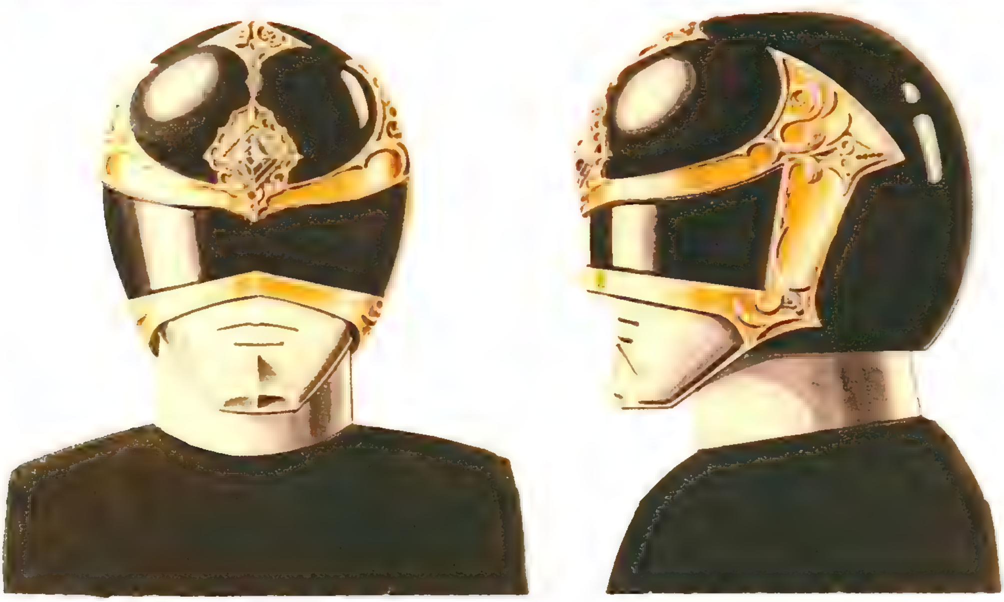
WORKS ヒーロー、メインメカニック

本作は『デンジマン』以来、1年ぶりに5人に戻ったスーパー戦隊となる。ヒーローのモチーフは宝石であり、マスクの装飾はかなり凝ったものとなっている。これら装飾のデザインは、ポピー企画室のデザイナー都倉清美がベースを描き、村上が最終的にまとめたものであった。



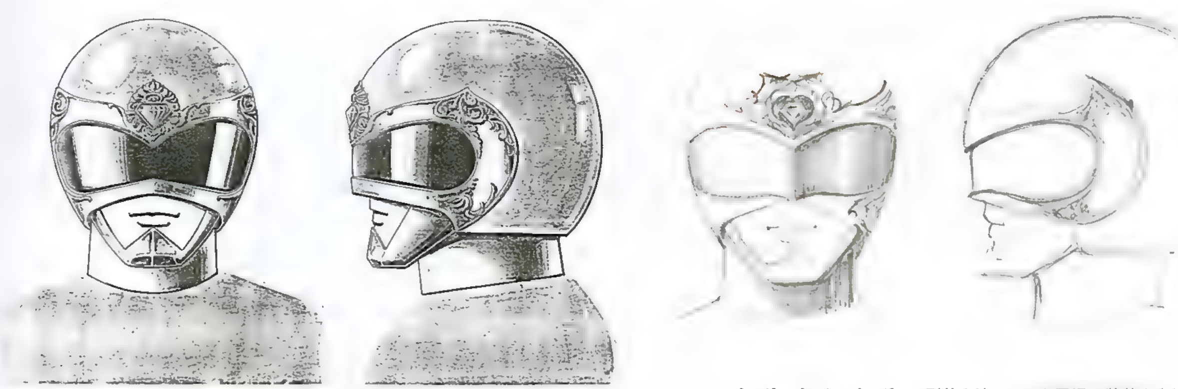
ゴーグルレッドのラフデザイン。





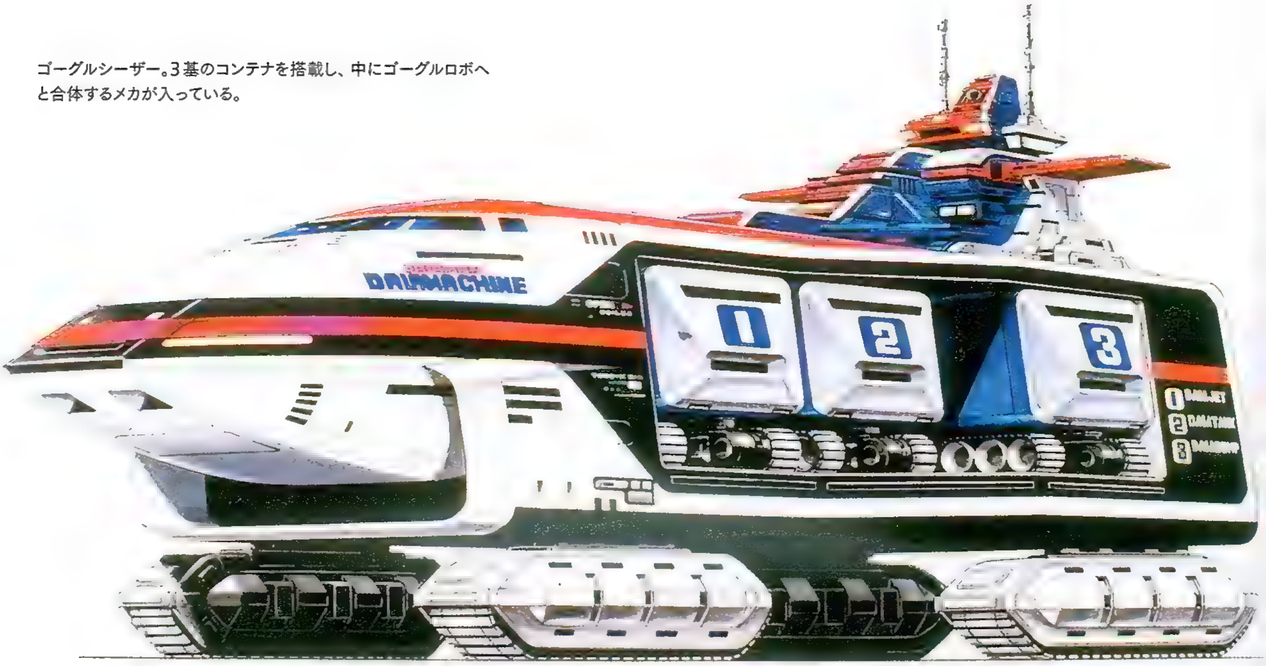


ゴーグルファイブのマスクデザイン。側面から見ると装飾へのこだわりがより強く感じられる。

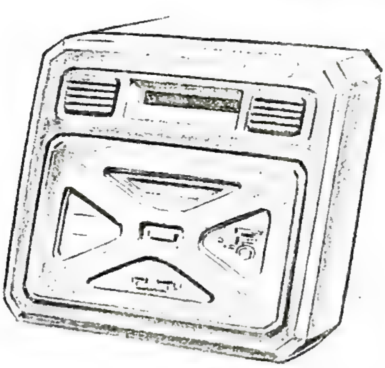


ゴーグルピンク。ゴーグルの形状を決めてから周辺の装飾をまとめる順番のようだ。

ゴーグルシーザー。3基のコンテナを搭載し、中にゴーグルロボへと合体するメカが入っている。





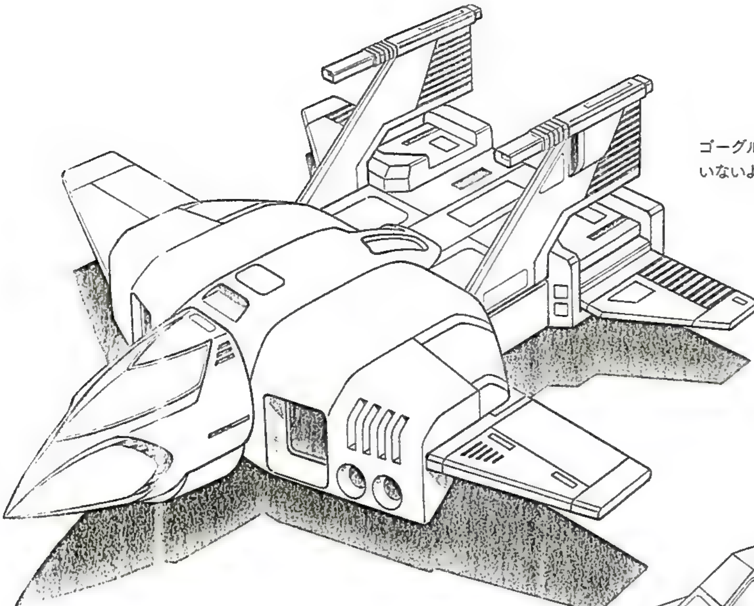




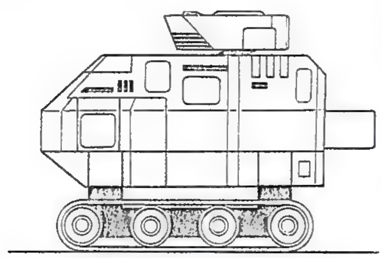
ゴーグルジェット、タンク、ダンプを格納するためのコンテナ。



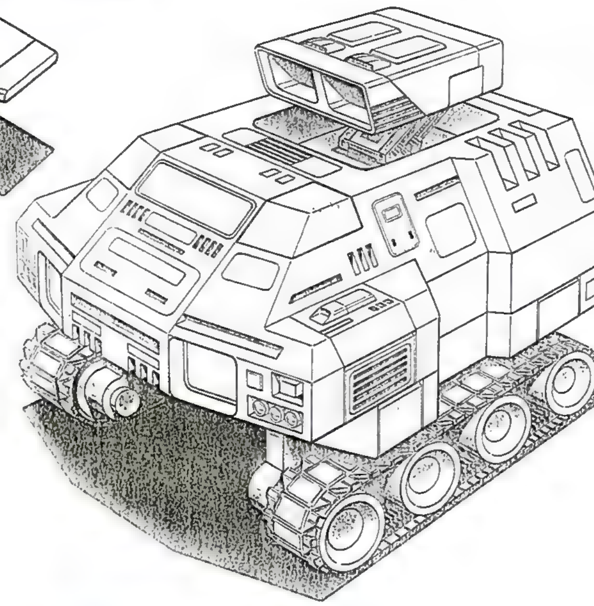
ゴーグルロボ。ゴーグルジェット、ゴーグルタンクが前後に合体して上半身になり、下半身はまるごとゴーグルダンプが構成する。

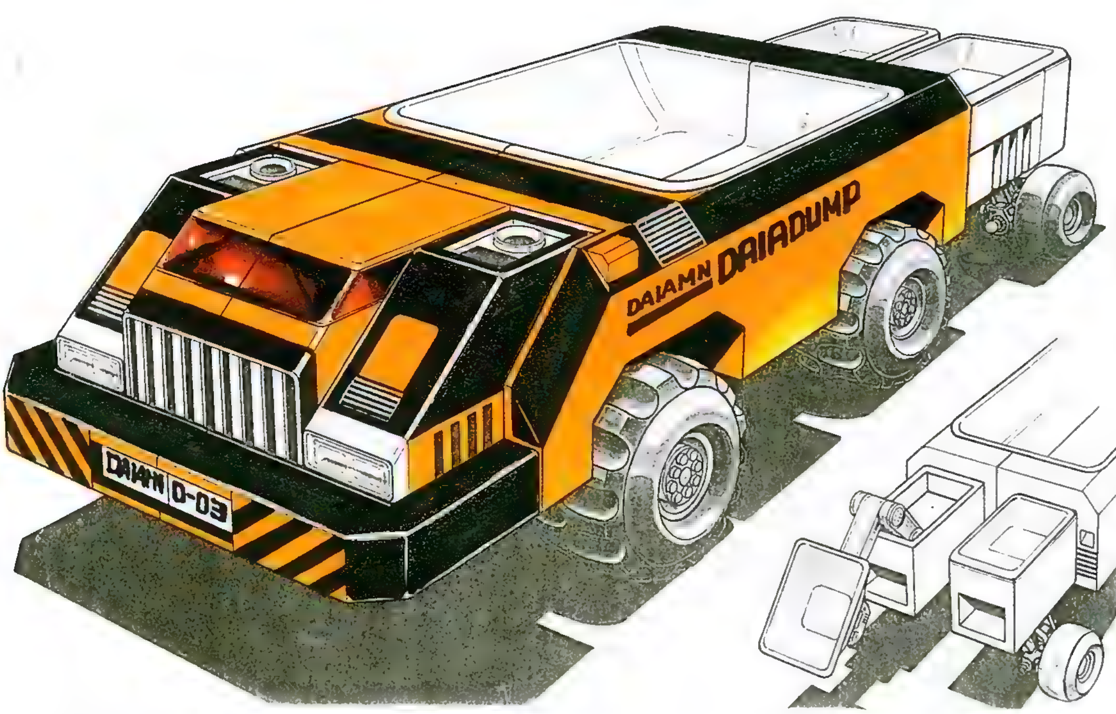


ゴーグルジェット。機首の翼はこの段階では存在していないようだ。



ゴーグルタンク。ゴーグルロボの両腕を格納しており、合体時は腕とキャタピラが入れ替わる。





ゴーグルダンプ。デザイン画の時点ではダイヤダンプと呼ばれた。ジェット、タンク、ダンプは搭乗するヒーローとカラーリングを合わせている。

とんでも戦士ムテキング

1980–1981

1980.9.7-1981.9.27／フジテレビ系放送　O.A

ヒーロー、メインメカニック　WORKS

タツノコプロ制作のコメディ風味のバトルアニメーション。1980年代に村上が携わったタツノコプロ作品の中では、唯一のギャグテイストの作品となった。村上は主人公ヒーローのムテキングのほか、ホットケソーサー、サイザンス、コンチューター、メデタイン、トカゲッテルとメインメカニックを担当している。



ムテキング。企画タイトル『ジャルドマン』の頃に描かれたもので、胸のマークやバックルのデザインが異なっている。

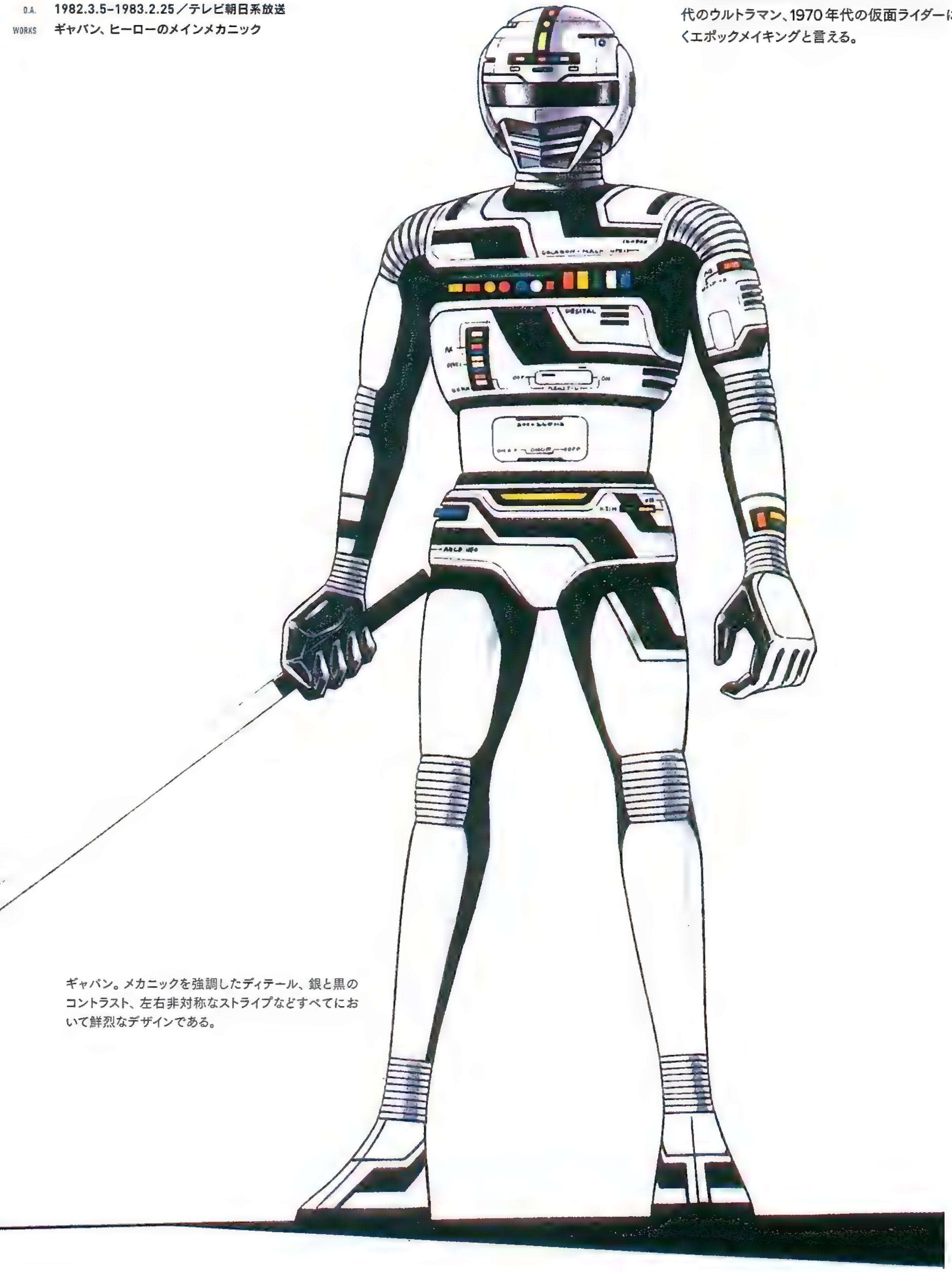
宇宙刑事ギャバン

1982–1983

O.A.　1982.3.5–1983.2.25／テレビ朝日系放送

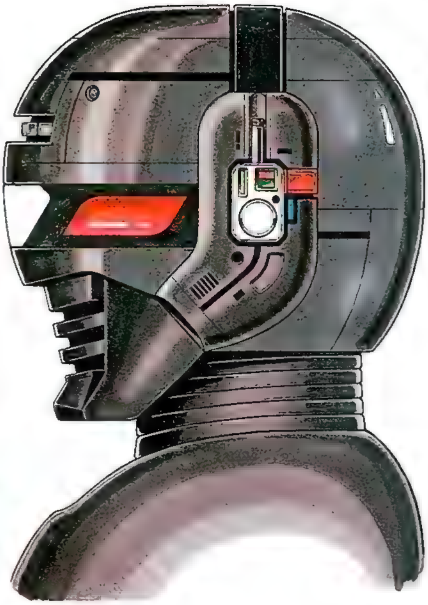
WORKS　ギャバン、ヒーローのメインメカニック

宇宙刑事ギャバンは1980年代の新たなヒーロー像を打ち立てた作品である。その主人公・ギャバンのデザインは、村上がかねてから温めていたものが採用されたという。既存のヒーローとは異なる概念から生まれたギャバンは、1960年代のウルトラマン、1970年代の仮面ライダーに続くエポックメイキングと言える。

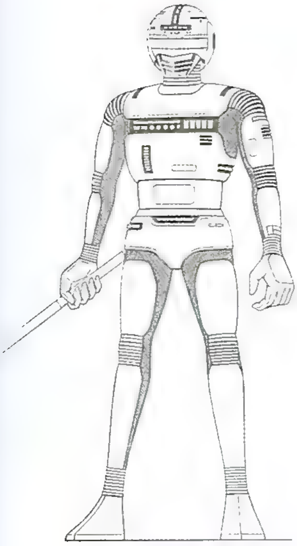


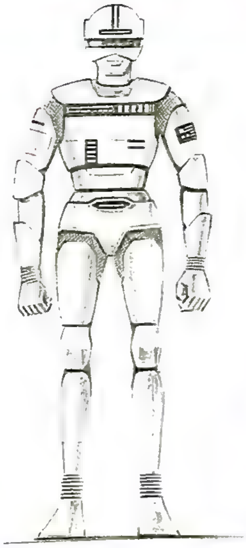
ギャバン。メカニックを強調したディテール、銀と黒のコントラスト、左右非対称なストライプなどすべてにおいて鮮烈なデザインである。

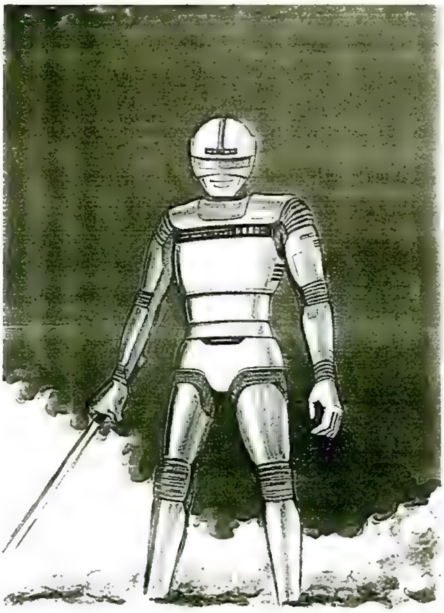


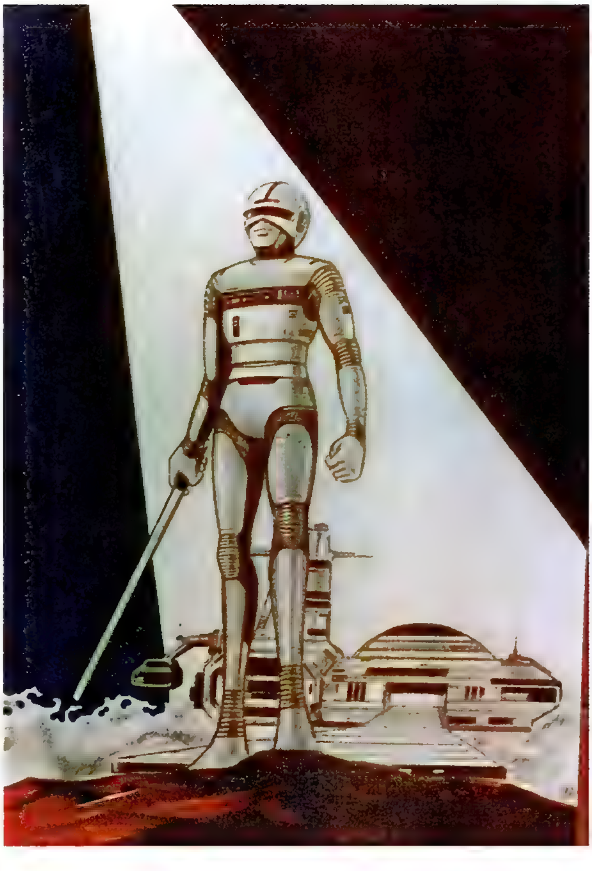


ギャバン頭部。アンテナ、レーザースコープとエレクトロソナーのアンテナの指示も兼ねている。





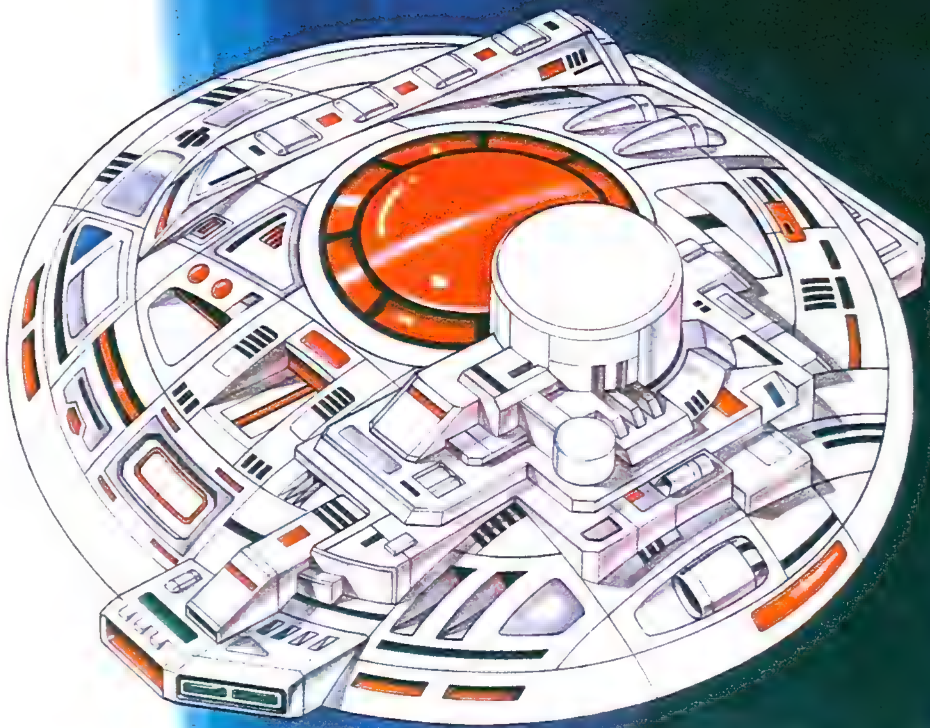




村上によるギャバンのアイディアラフ。銀と黒のプロテクター・ヒーローという発想が原点にあることがわかる。

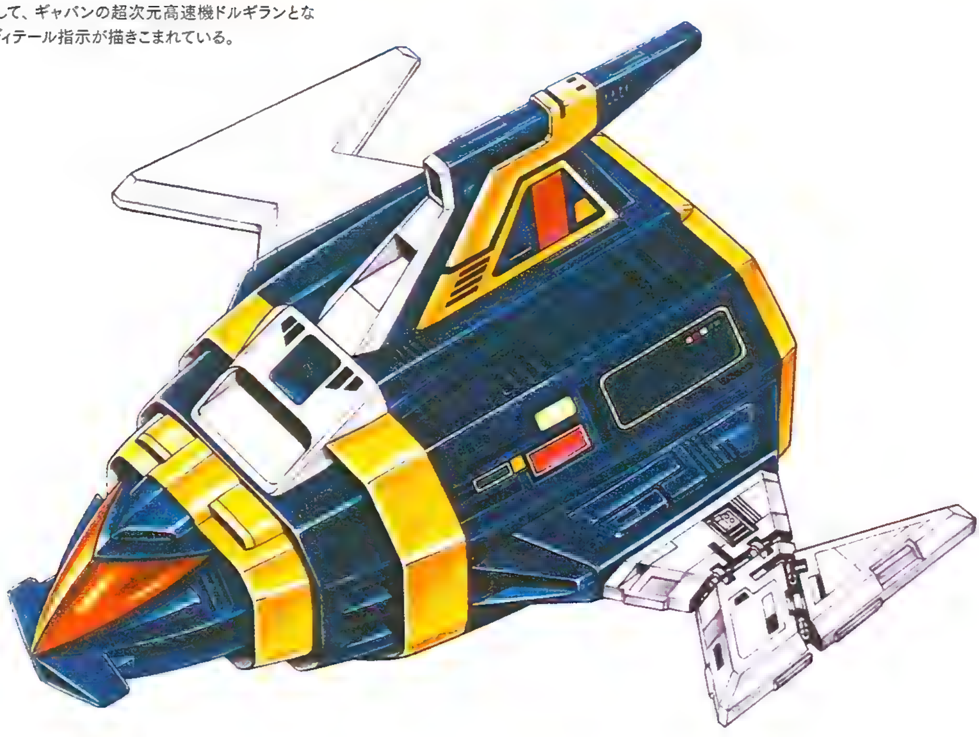


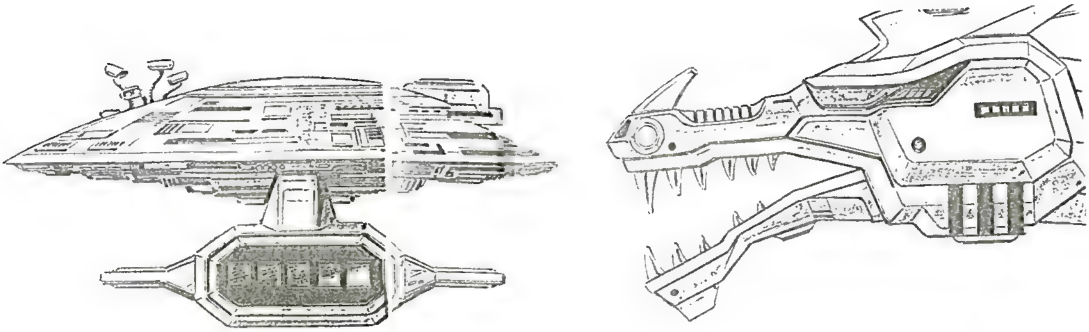
イメージイラスト。『宇宙刑事ギャバン』の作品イメージにも大きな影響を与えている。

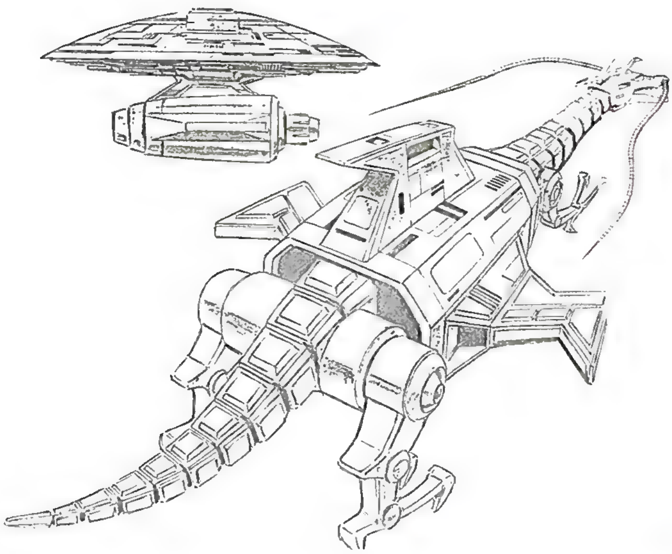


ギラン。円盤型宇宙船。その緻密なディテールを堪能していただきたい。

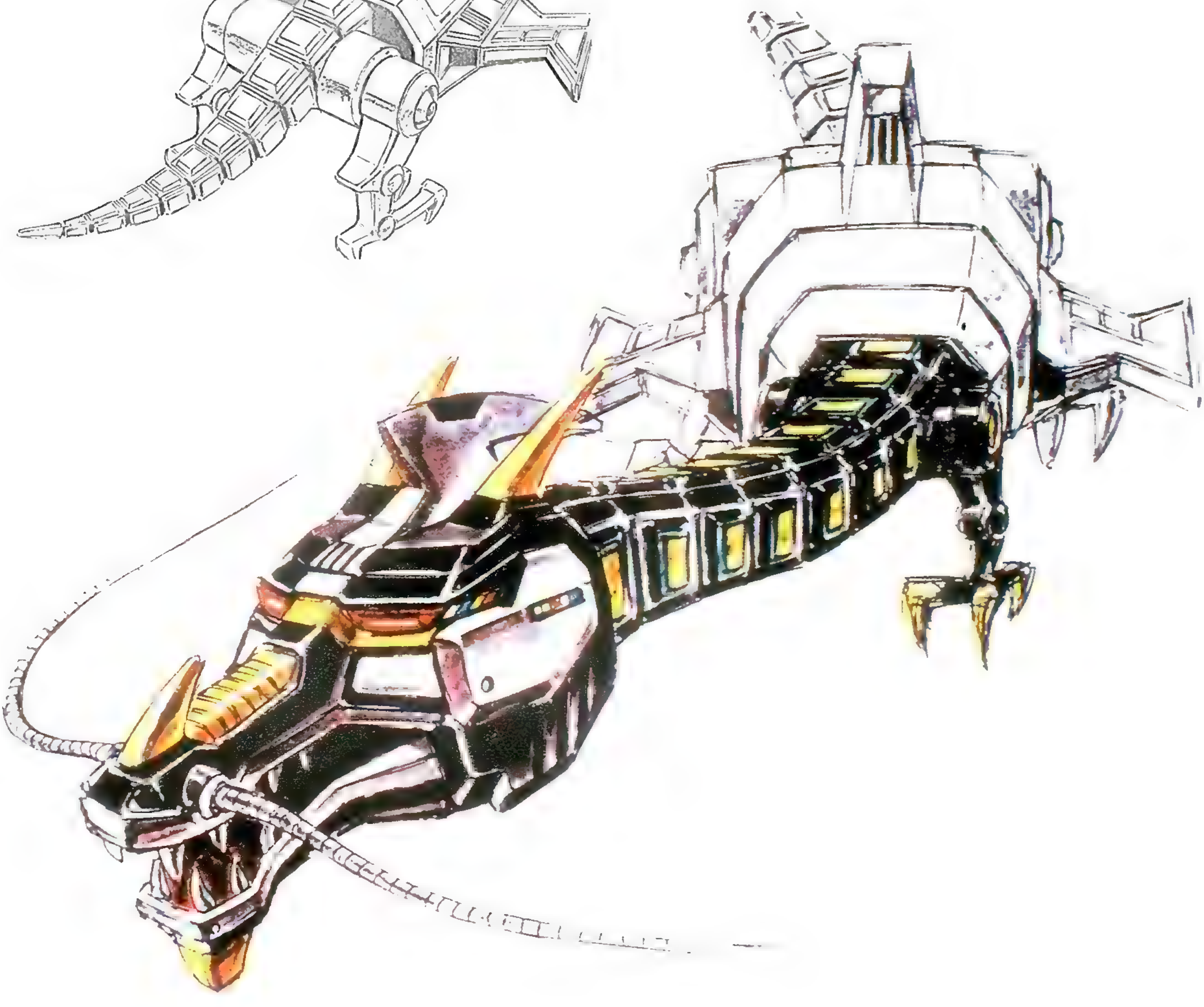
ドル。ギランと合体して、ギャバンの超次元高速機ドルギランとなる。左の翼にのみディテール指示が描きこまれている。

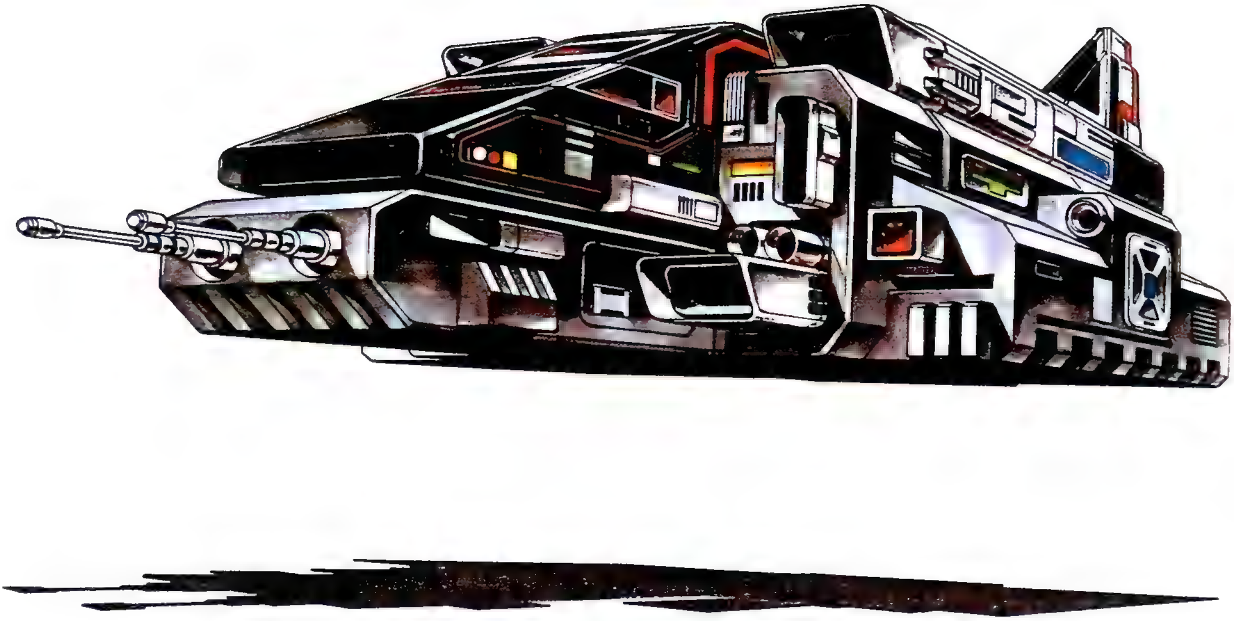




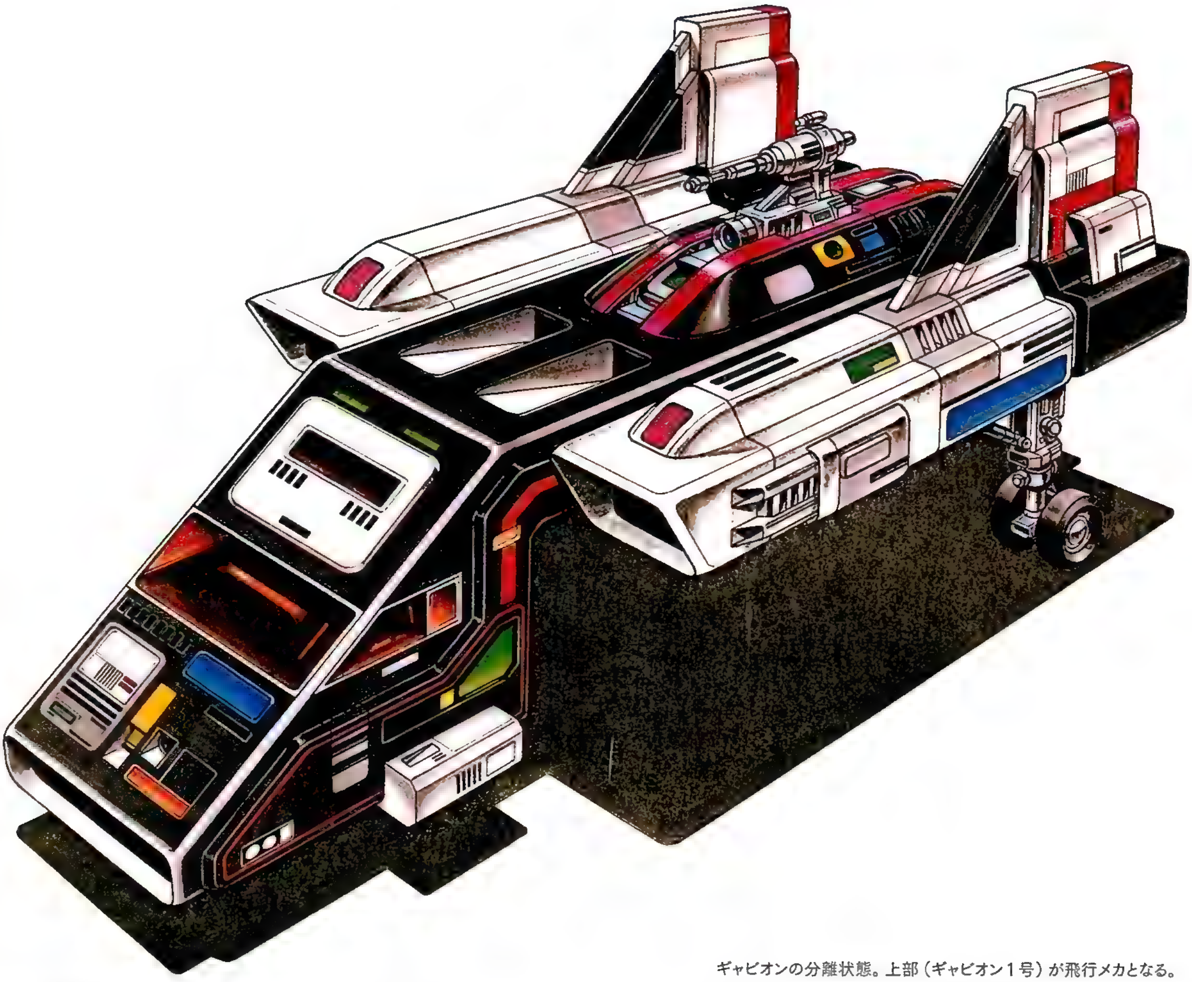


ドルギランと電子星獣ドル。左上に描かれているのはドルギランの合体状態。この5点は1枚の絵に描かれており、下のドル（全身）のみ彩色されている。





ギャビオン。ギャバンの操る戦車。未来の戦車という感覚を前面に押し出している。



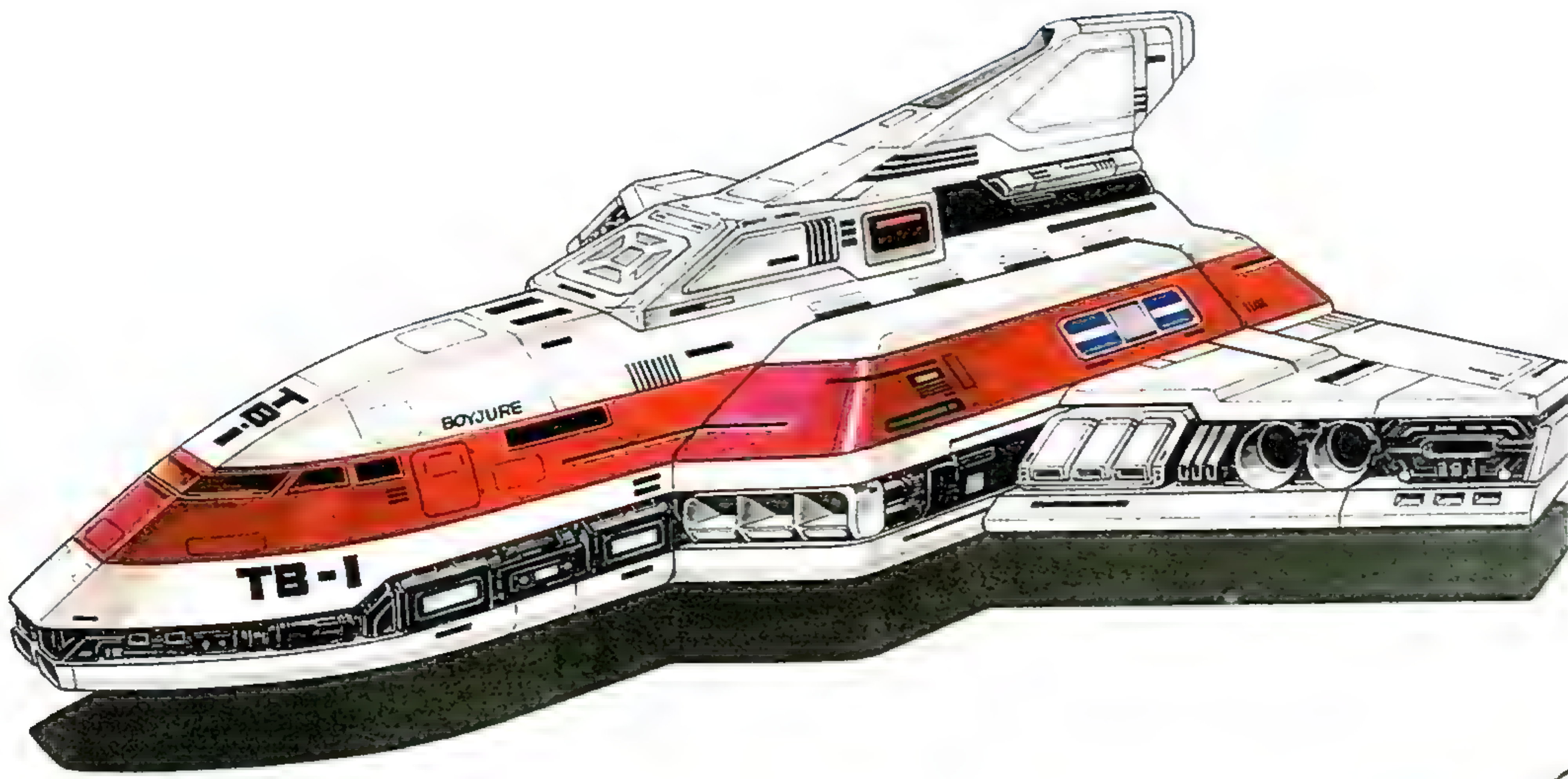
ギャビオンの分離状態。上部（ギャビオン1号）が飛行メカとなる。

科学救助隊テクノボイジャー


1982

O.A. 1982.4.17-9.11／フジテレビ系放送
WORKS TB-1号、2号、3号、5号、11号、12号、15号、16号

未来のレスキュー組織の活躍を描いたSFアニメーション。当初は人形劇として企画されていたという。科学救助隊テクノボイジャーは1号から17号までの超メカを駆使して、大災害から人類を守る。村上は合体メカ・テクノボイジャー1号から3号のほか、メインメカニックのデザインを担当した。



TB-1号。3機合体メカの時には機首の下前半分を開き、2号、3号とジョイントする。



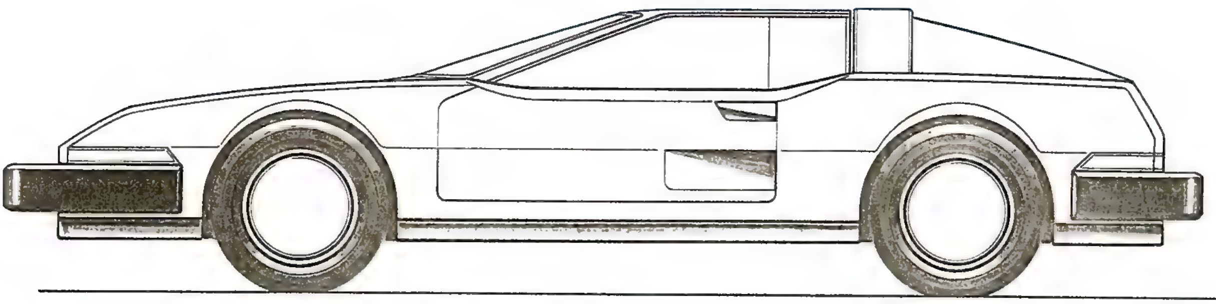
テクノボイジャー（3機合体メカ）。TB-1号、2号、3号が合体した状態。

タイガーマスク二世

1981–1982

O.A. 1981.4.20-1982.1.18／テレビ朝日系放送
WORKS タイガーハリケーン、タイガーピラミッダー

梶原一騎原作『タイガーマスク』の続編で、二世を襲名した新たなタイガーマスクが宇宙プロレス連盟と戦う。村上はタイガーハリケーンと特訓基地のタイガーピラミッダーをデザインしている。タイガーハリケーンの変形システムは好評で、後に「チェンジマシン」と呼ばれるオリジナル玩具にも継承された。



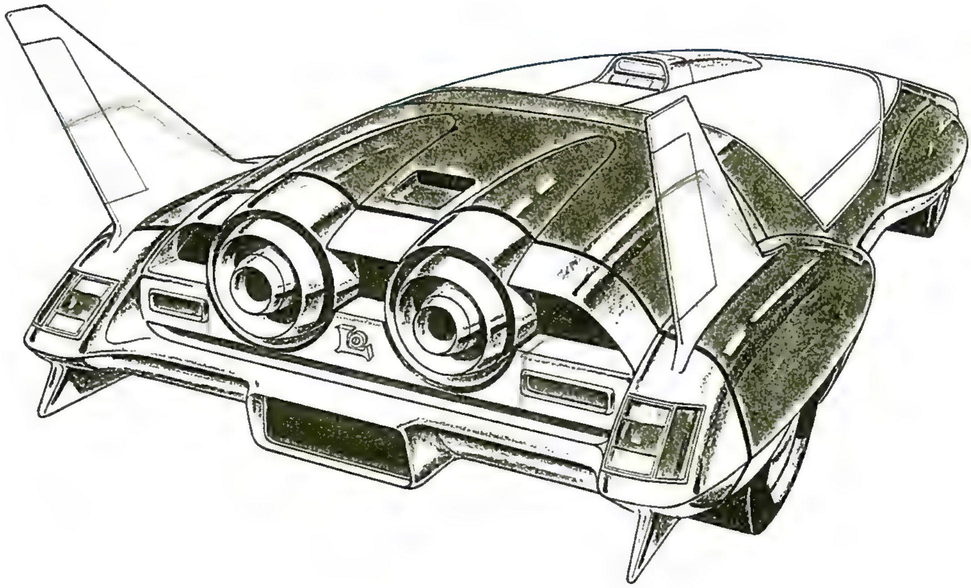
プラズマGT。一般車両としてカモフラージュされており、有事の際は変形してタイガーハリケーンとなる。

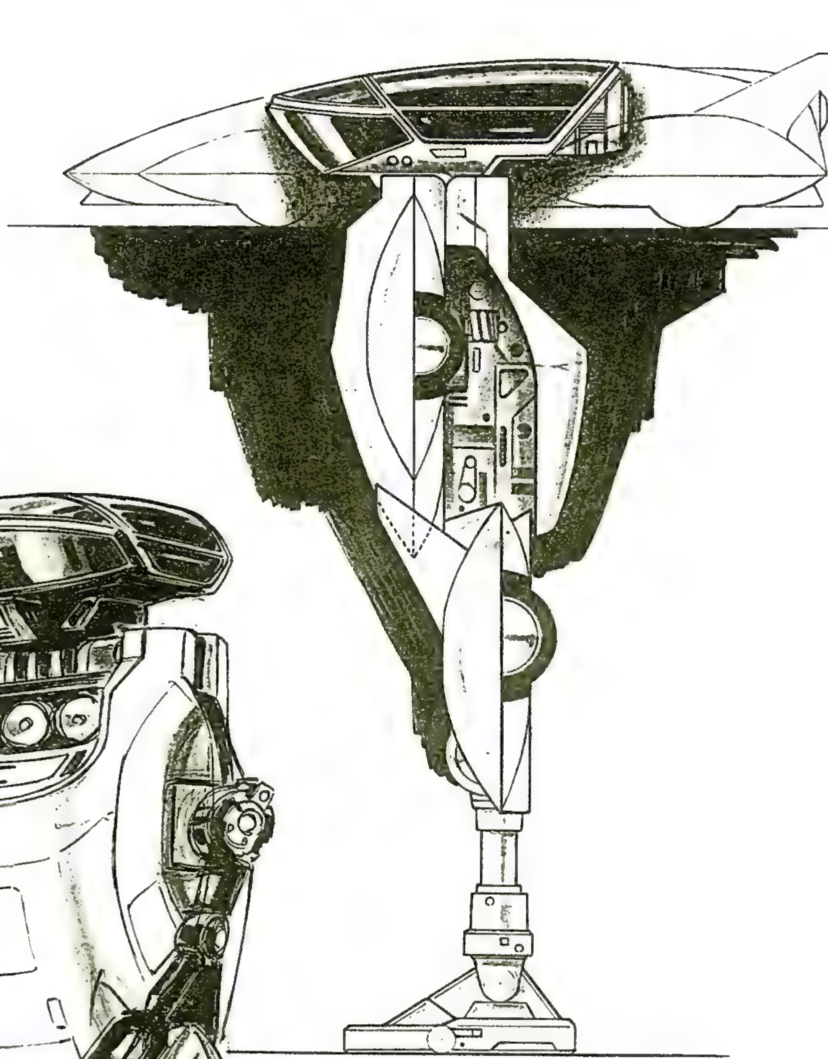
スペースコブラ

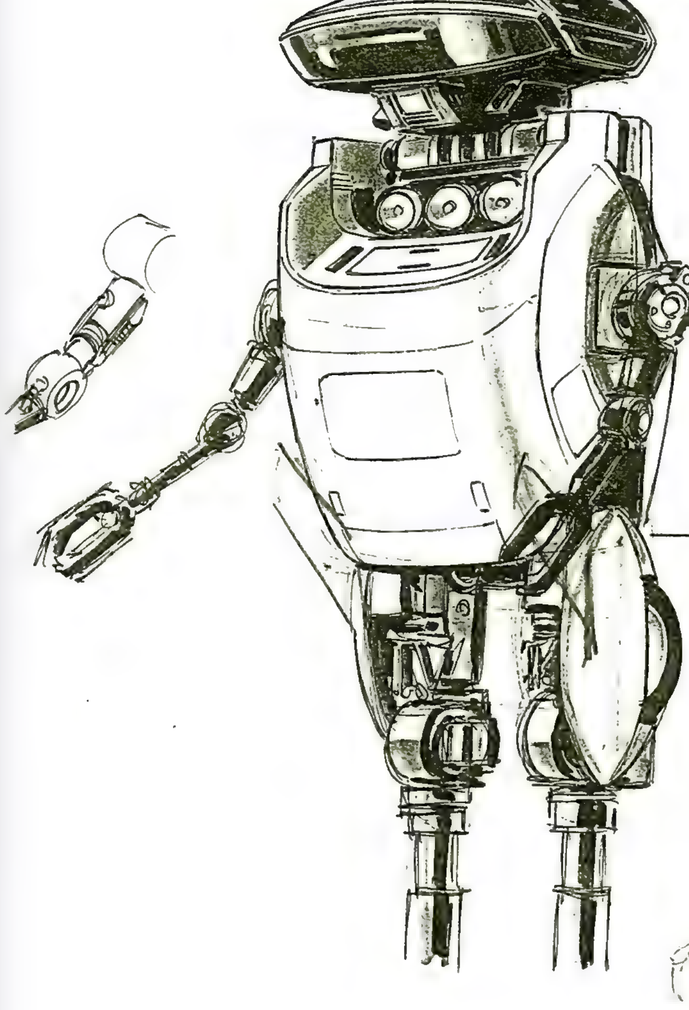
1982–1983

O.A. 1982.10.7-1983.5.19／フジテレビ系放送
WORKS サイコロイド

寺沢武一原作のSFアニメーション。TVシリーズ化にあたって、村上はタートル号がヘビ型に変形するコブラタートルとサイコロイド、エアバイクの商品化を提案した。このうち、コブラタートルについては村上のコンセプトをポピー企画室の大石一雄がまとめている。







サイコロイドのロボット形態。84ページの車が変形したものだ。
上は変形の概念図。



コブラのエンブレムのアイディアラフ。

マシンロボ

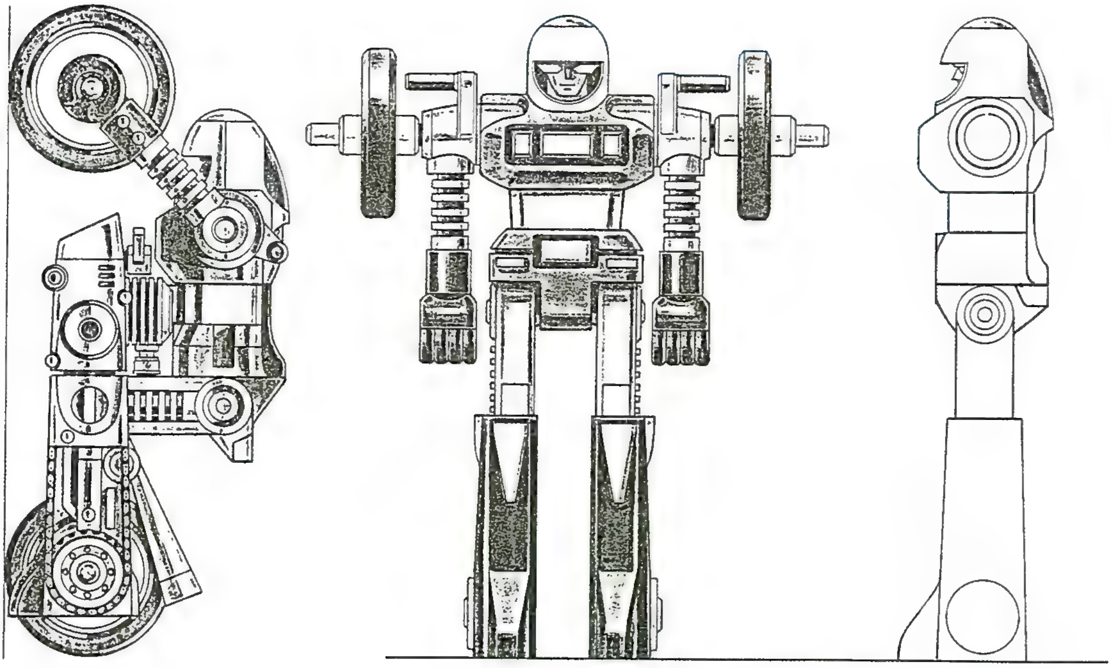
1982–1988

O.A. 1982–1988／玩具オリジナル企画

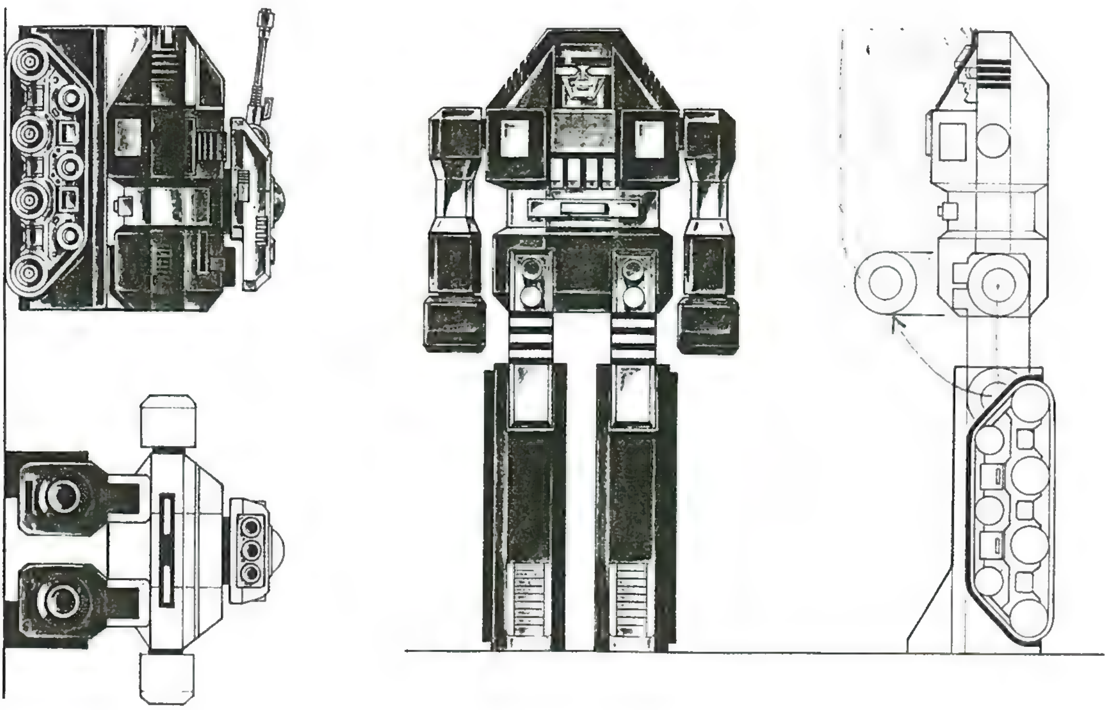
WORKS バイクロボ、バトルロボ、ジェットロボ、ジャイロロボ

超合金が大型化していった1980年代、村上はあえて小型かつ廉価の変形ロボットシリーズを提案した。全高約8センチ、600円という統一価格で展開したマシンロボは、ヒットシリーズに成長し、54種類がラインナップされている。村上は、少ない手順で大胆に形が変わる変形システムを、シリーズの原点として提供している。

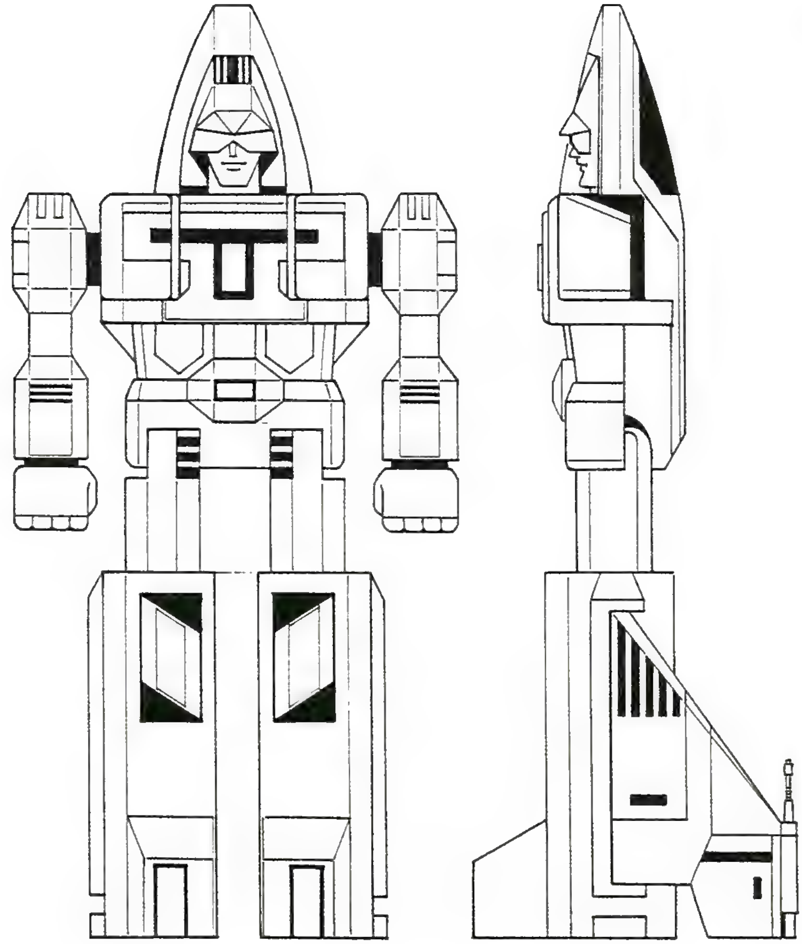
MR-01 バイクロボ。



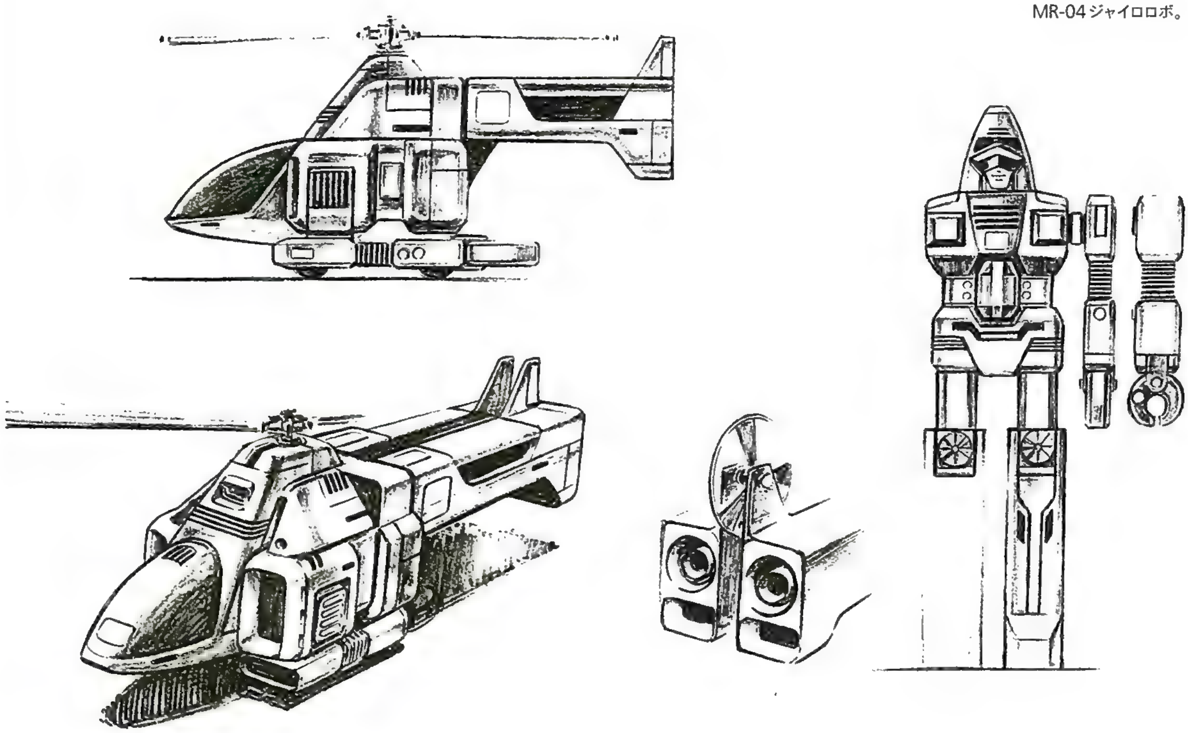
MR-02 バトルロボ。



MR-03ジェットロボ。



MR-04ジャイロロボ。



六神合体ゴッドマーズ

1981–1982

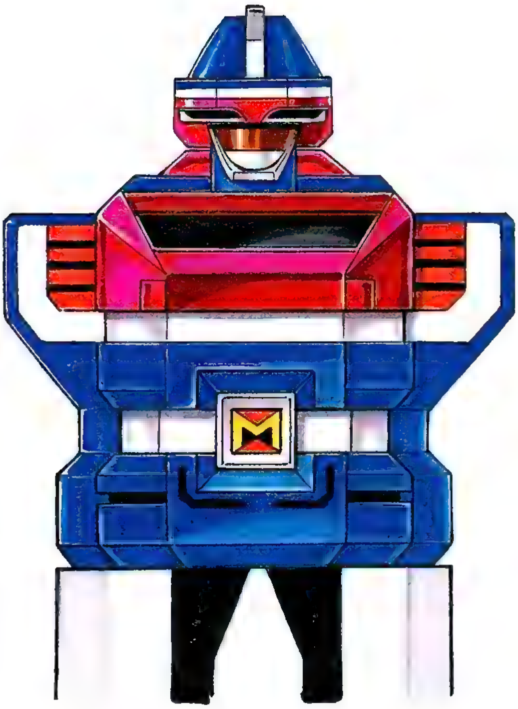
O.A. 1981.10.2–1982.12.24／日本テレビ系放送

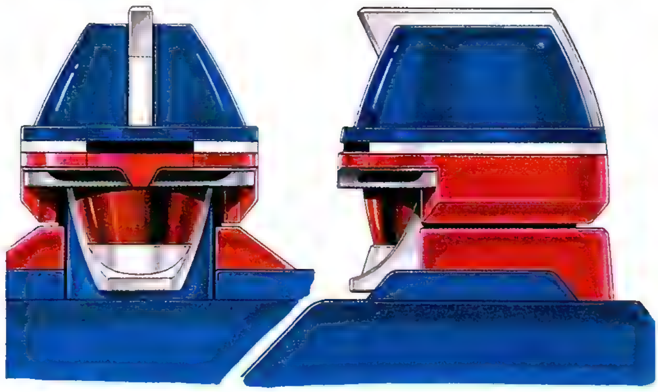
WORKS ゴッドマーズ

横山光輝原作のSF漫画『マーズ』をもとに、ロボットアニメーションとして再構築した作品。村上はゴッドマーズに合体する六神ロボのデザインと、六神ロボが隠されている世界遺跡のコンセプトを提案した。村上は六神合体のシステムを、かつて考案したゴーディアンとゴッドシグマのギミックを組み合わせることで完成させている。

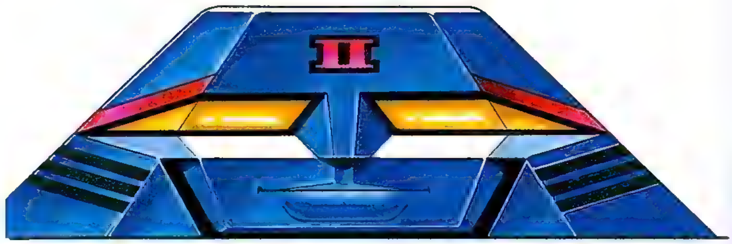


ゴッドマーズ。1980年代において、村上デザインの集大成ともいえる合体ロボットである。

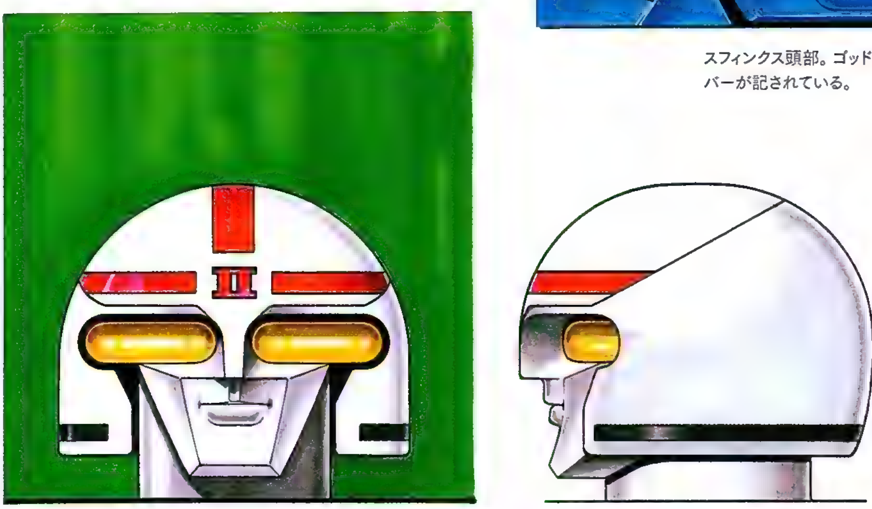




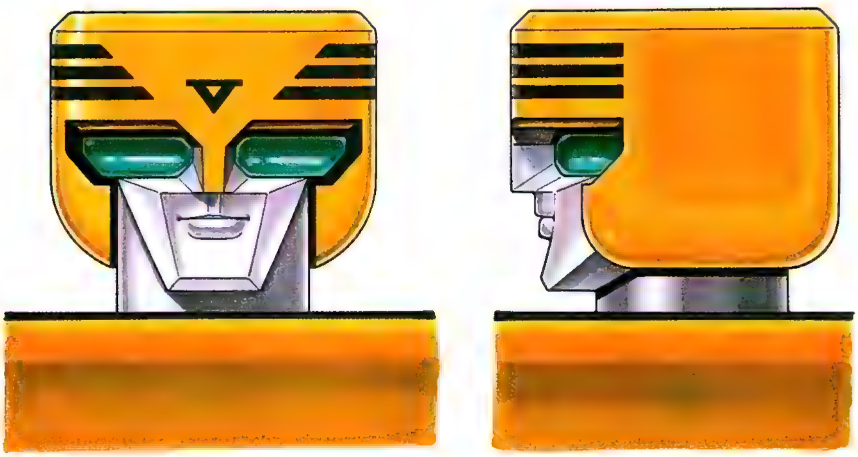
ゴッドマーズ胴体と頭部。六神ロボと対照的に、人間の記号がない顔のデザインに仕上げられた。



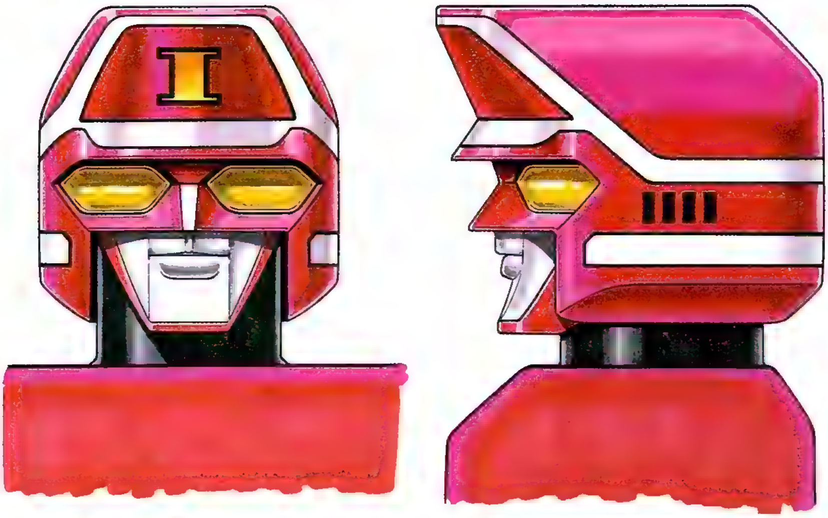
スフィンクス頭部。ゴッドマーズの頭部と胴体になる。額にはナンバーが記されている。



ウラヌス頭部。ゴッドマーズの右腕になる。



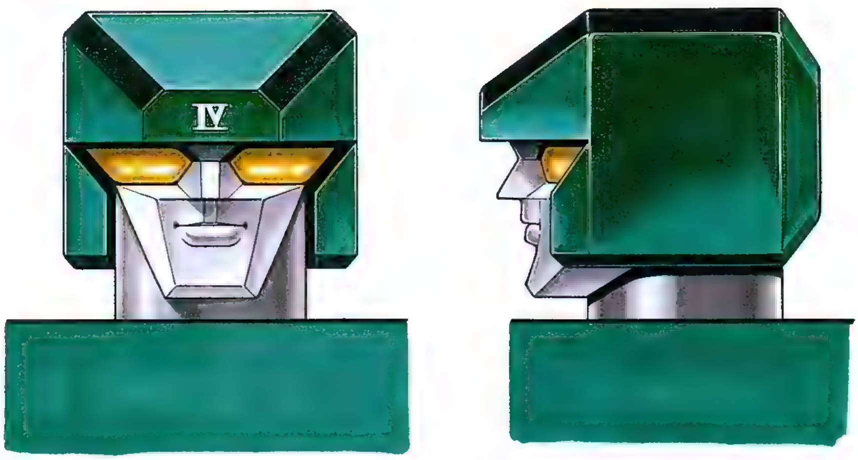
ラー頭部。ゴッドマーズの左脚になる。



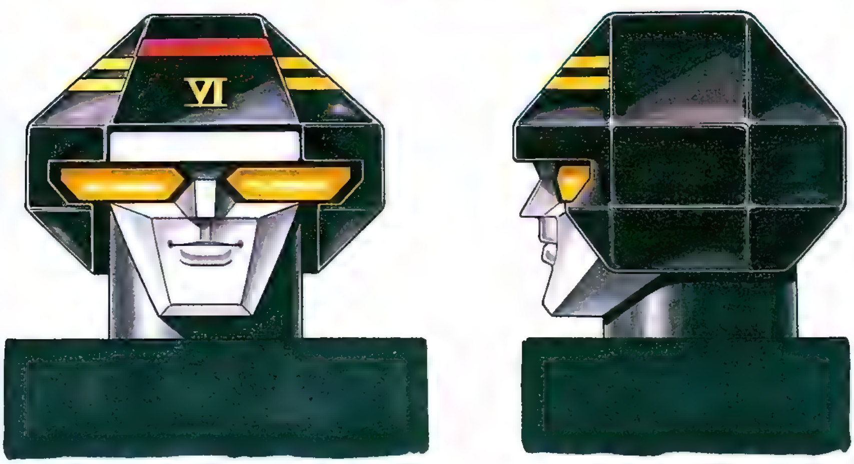
ガイヤー頭部。ガイヤーはスフィンクスの中に格納される。



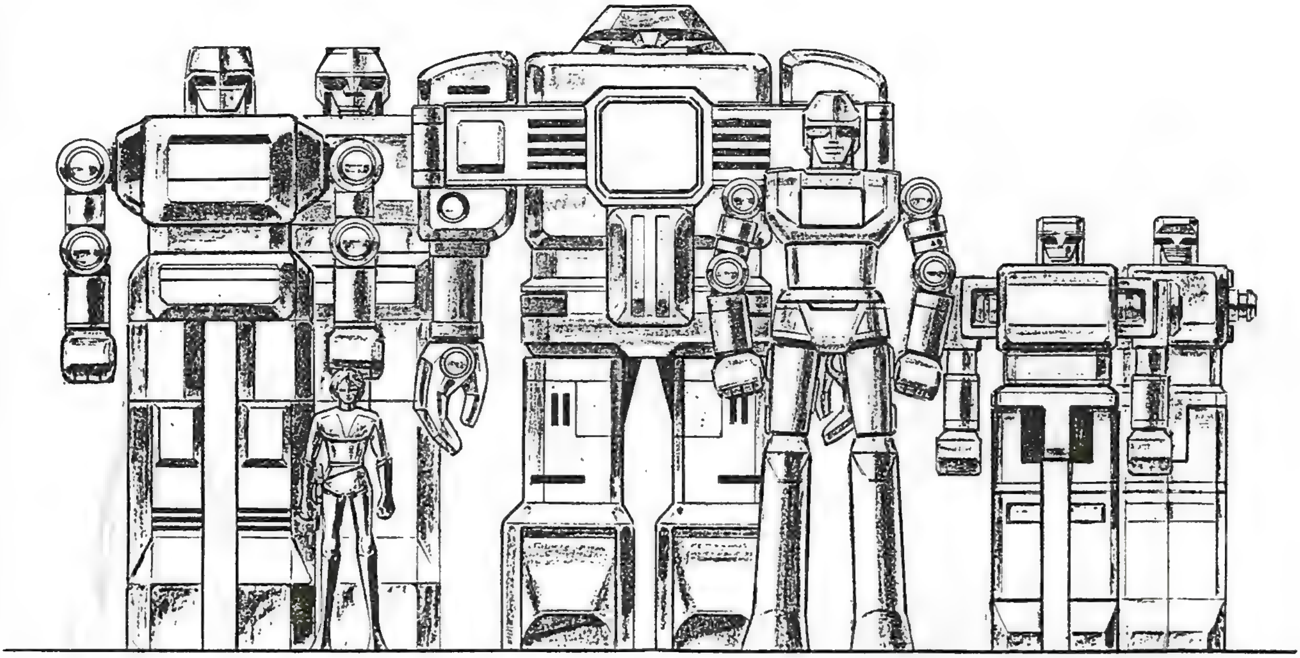
スフィンクス頭部の側面にはマンモスのレリーフが存在していた。



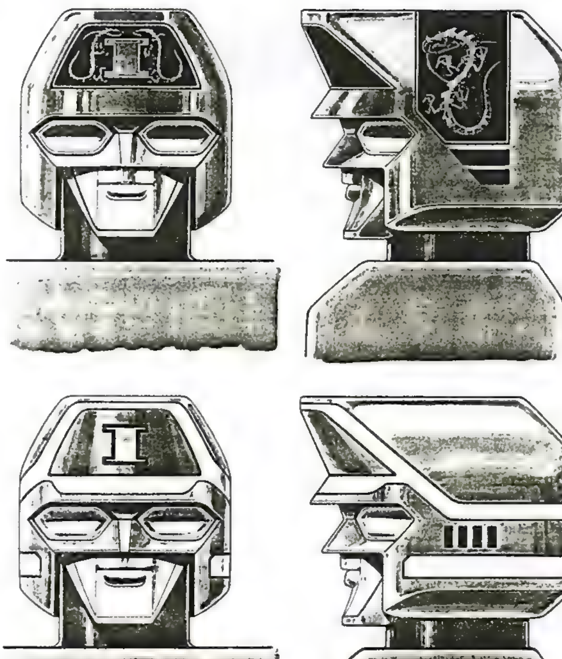
タイタン頭部。ゴッドマーズの左腕になる。



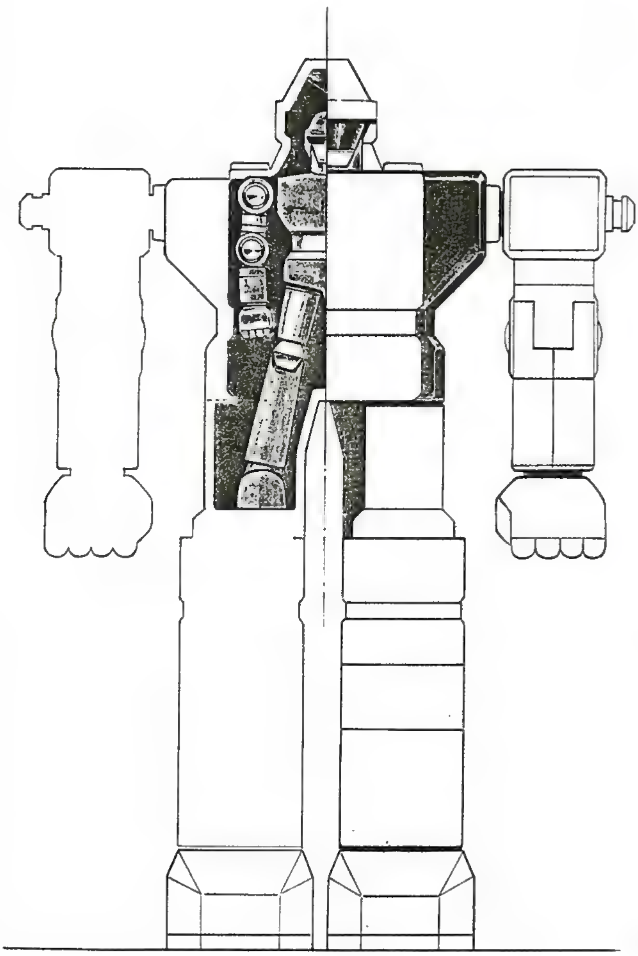
シン頭部。ゴッドマーズの右脚になる。



六神ロボのアイディアラフ。シンとラーの脚元にパイロットの姿も描かれている。



ガイヤー頭部のアイディアラフ。側面には龍のレリーフがある。また、額の数字にも龍を模した意匠が見られる。下のラフが決定となった。



六神合体の概念図。玩具にはほぼこのままいかされている。



ゴッドマーズの初期デザイン。ディテール、カラーリングはもとより
スフィンクスと脚ロボの合体が違っている。それに従って、シンと
ラーの腕の格納位置も異なっていた。



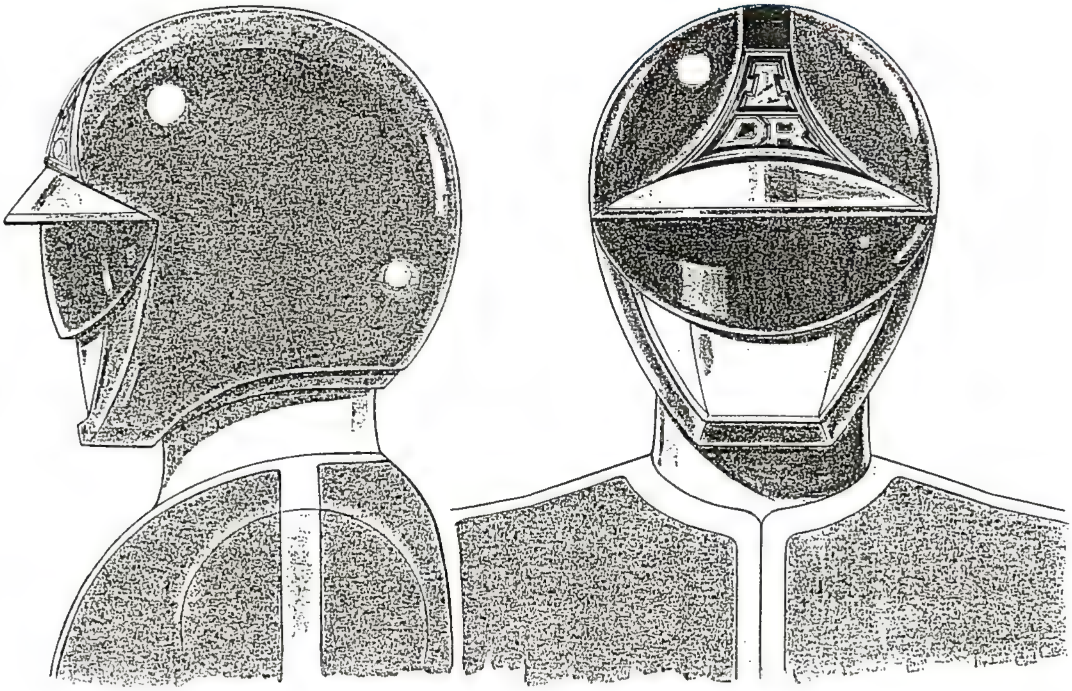
ゴッドマーズのカラーリング決定直前バージョン。1981年秋の玩具見本市ではこのカラーリングで告知が行われた。

前作まで引き継がれていた首元のマフラーが廃止されている。また、ダイナロボはスーパー戦隊シリーズで初めて、ヒーローと同じくゴーグルフェイスとなったロボットであった。

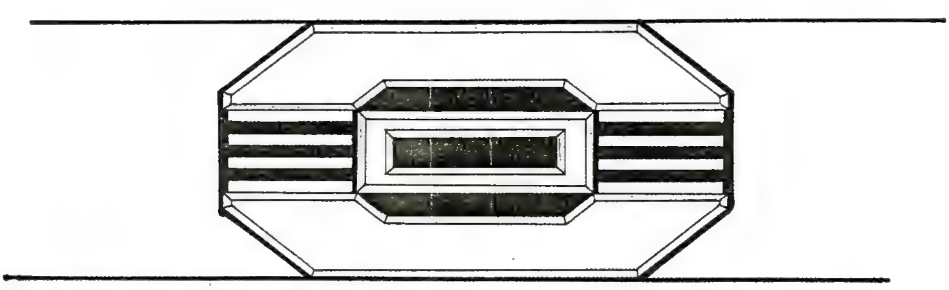
科学戦隊ダイナマン

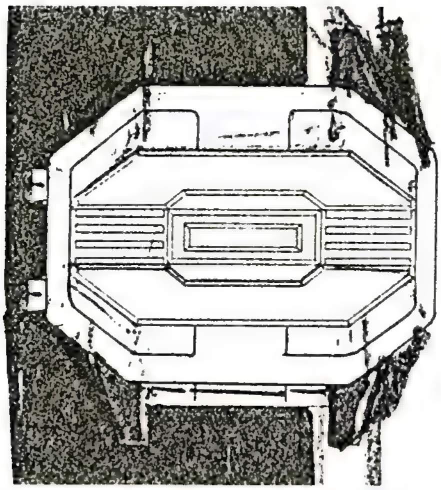
1983–1984

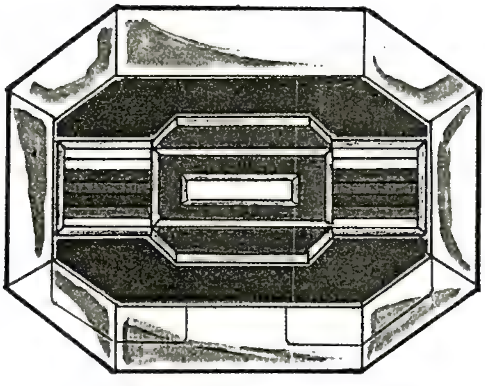
1983.2.5–1984.1.28／テレビ朝日系放送
ヒーロー、ヒーローのメインメカニック



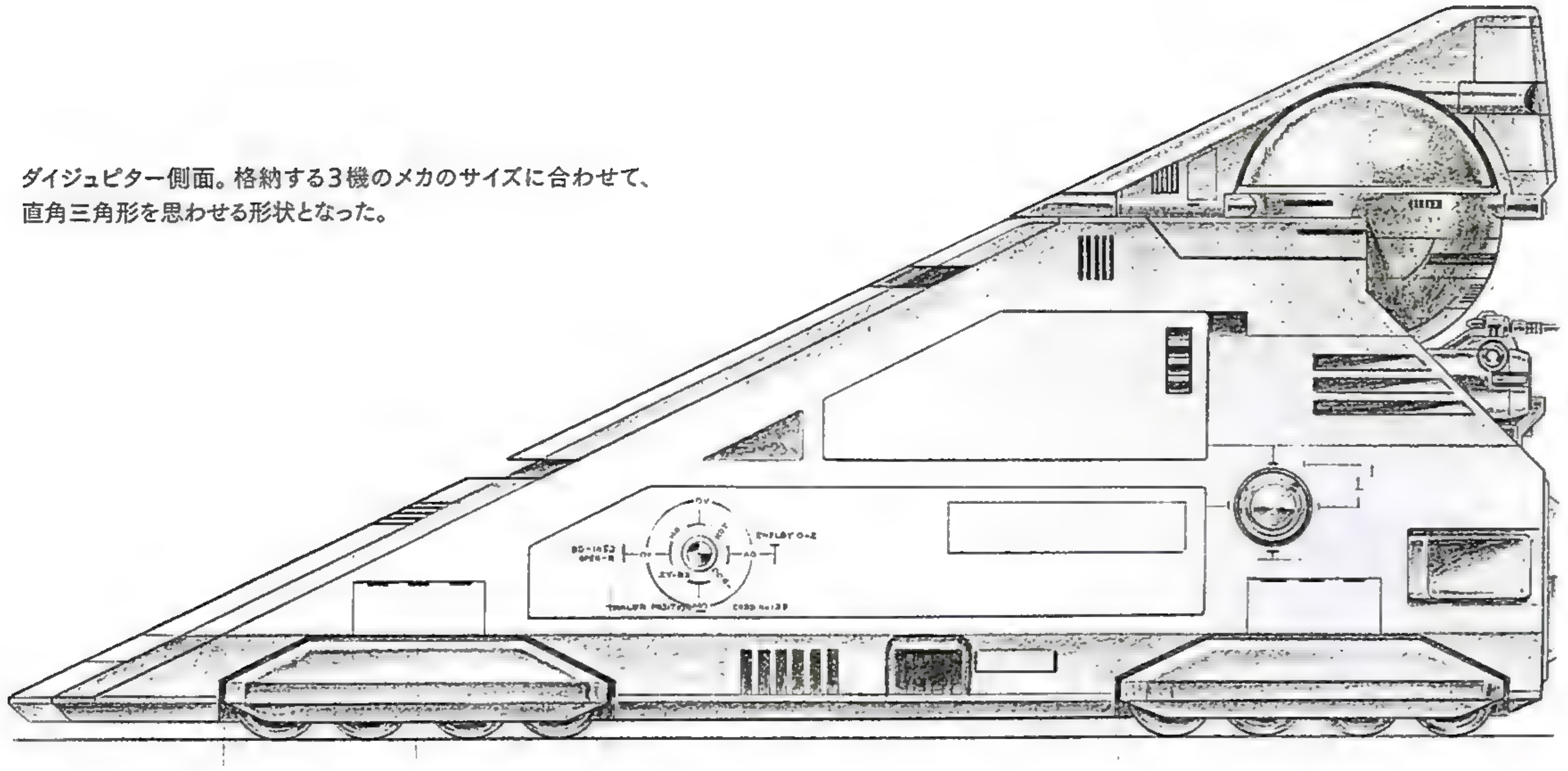
ダイナレッドのマスクデザイン。額のDRはDYNA REDのイニシャル。



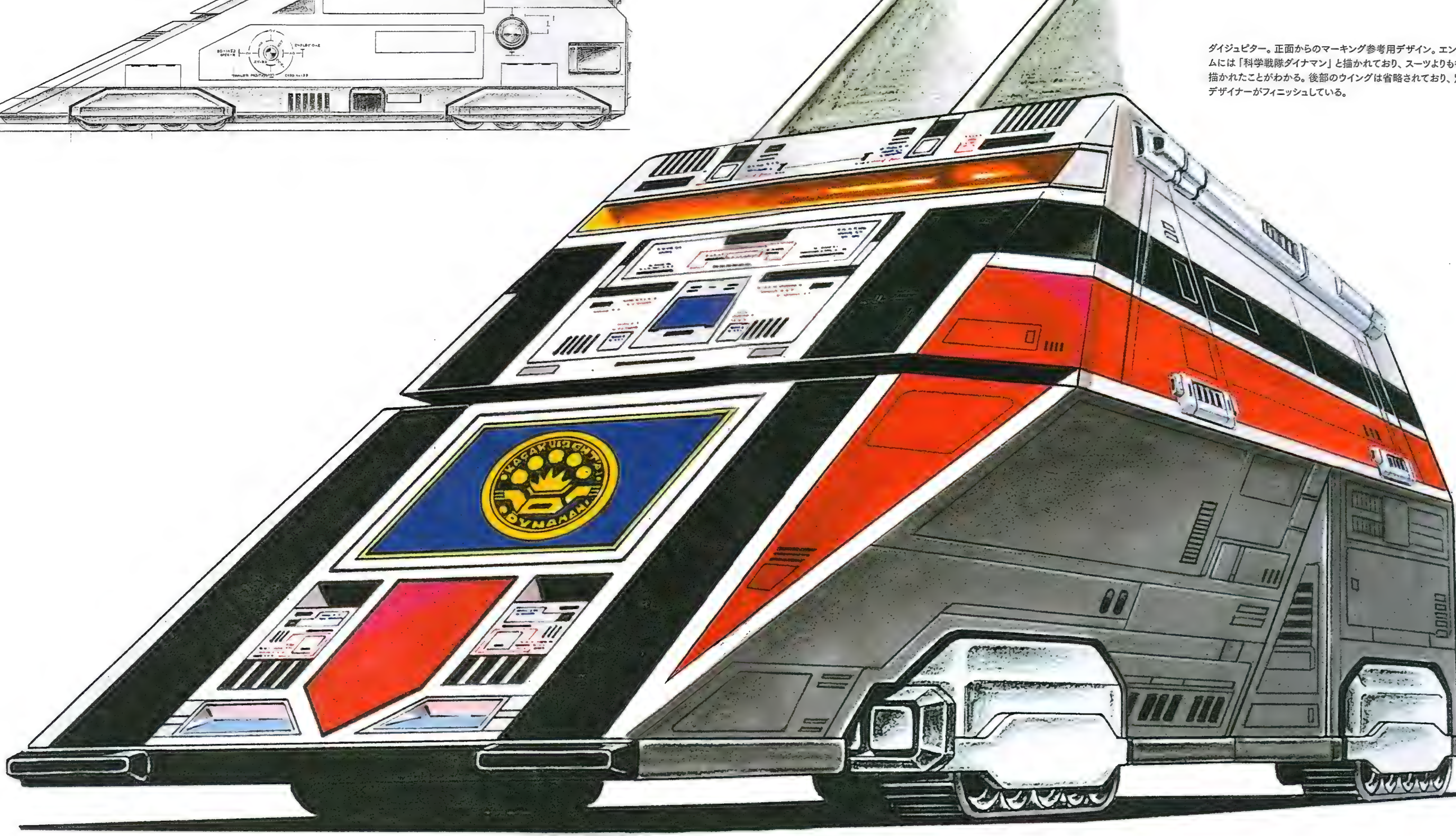




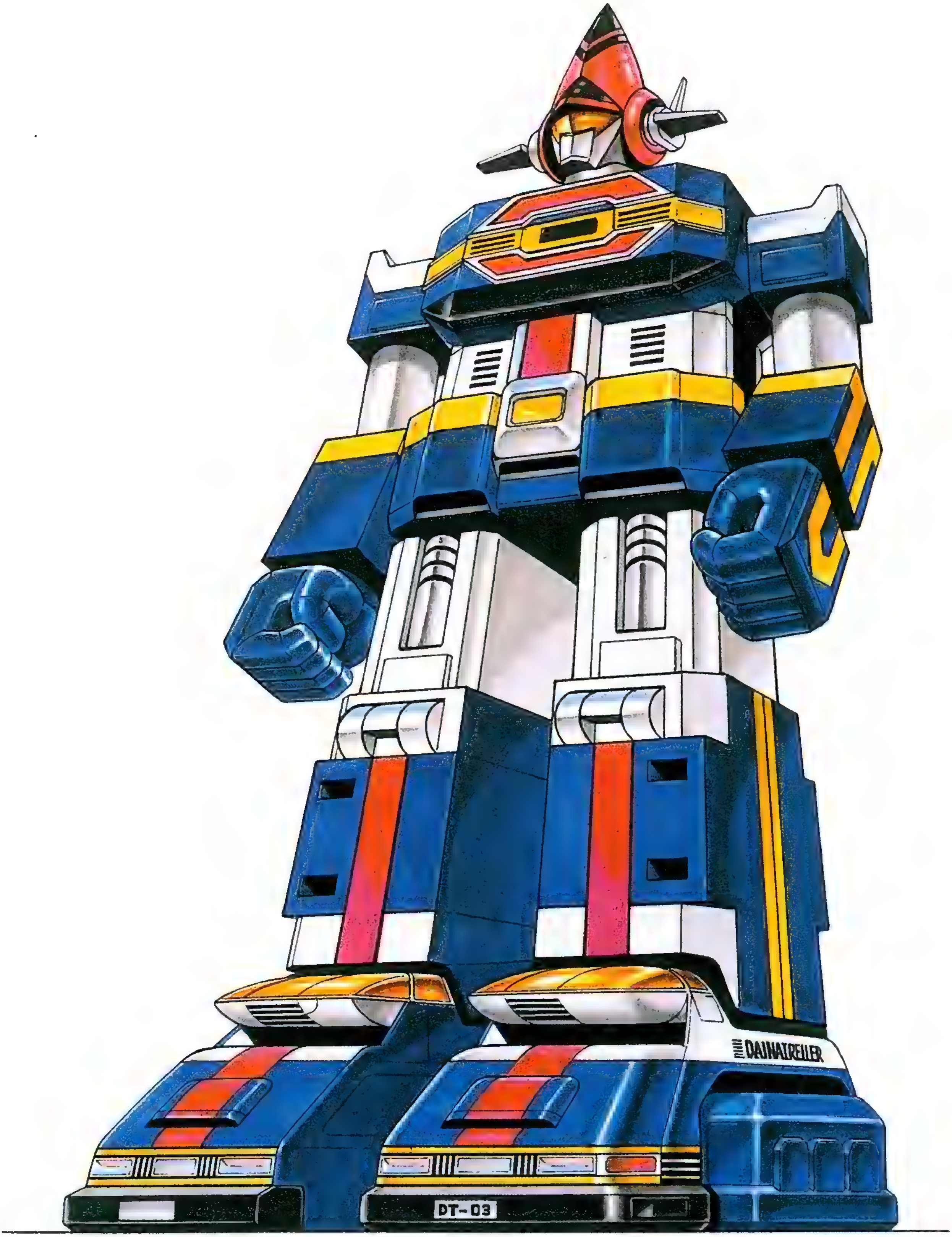
ダイナマンのエンブレム。上はベルト、下はダイナブレスに使用されている。



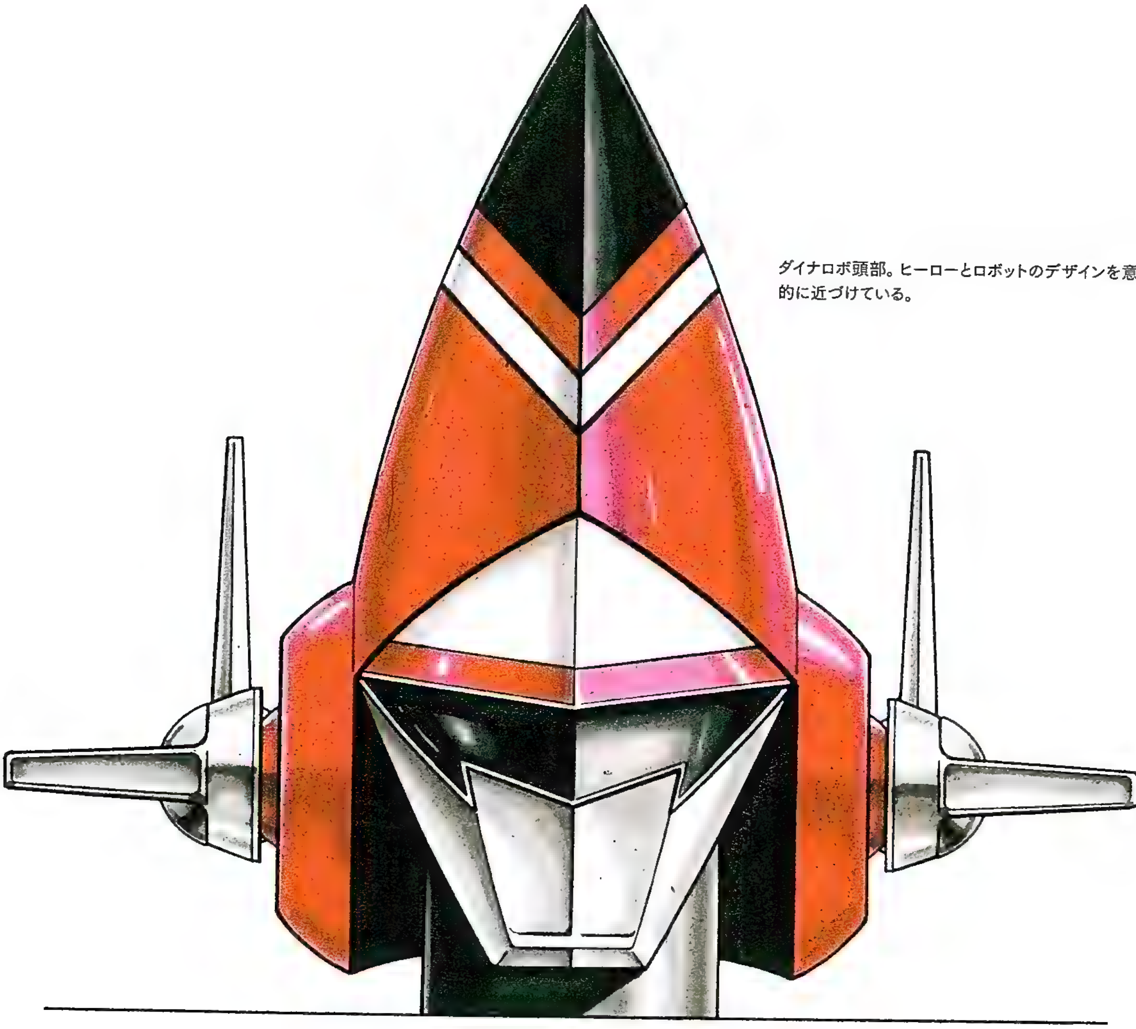
ダイジュピター側面。格納する3機のメカのサイズに合わせて、直角三角形を思わせる形状となった。



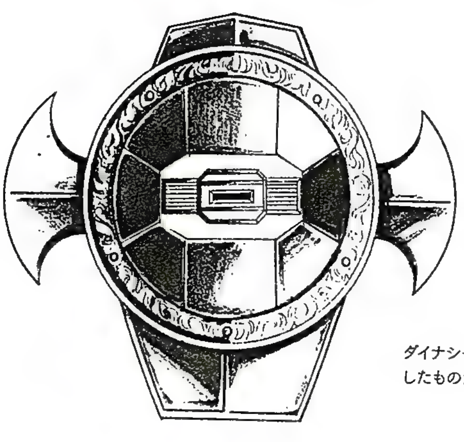
ダイジュピター。正面からのマーキング参考用デザイン。エンブレムには「科学戦隊ダイナマン」と描かれており、スーツよりも後に描かれたことがわかる。後部のウイングは省略されており、別のデザイナーがフィニッシュしている。



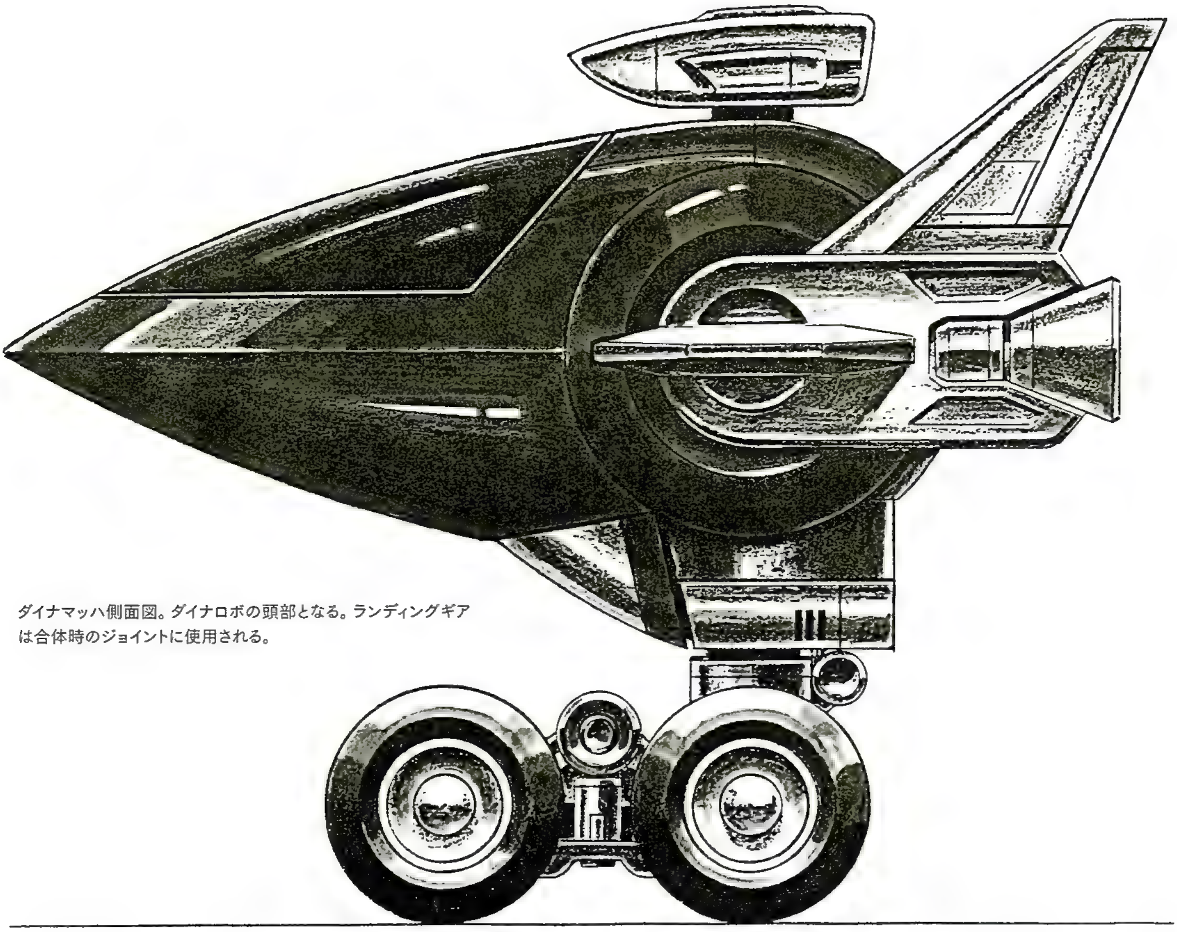
ダイナロボ。爪先の側面にはダイナトレーラーのマーキングが見られる。



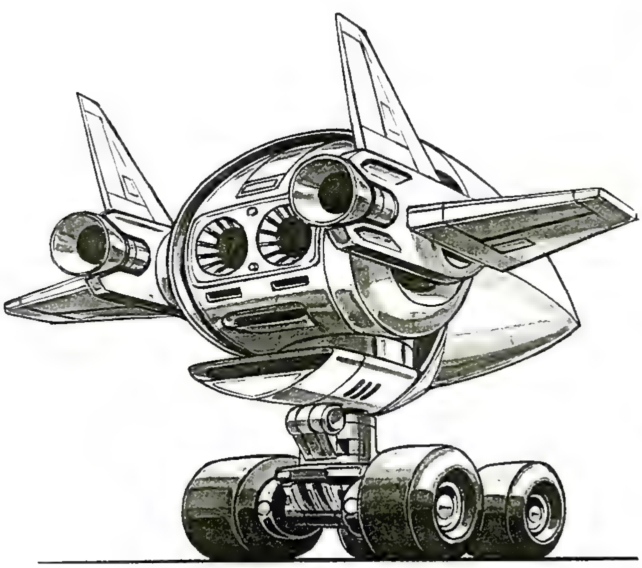
ダイナロボ頭部。ヒーローとロボットのデザインを意図的に近づけている。

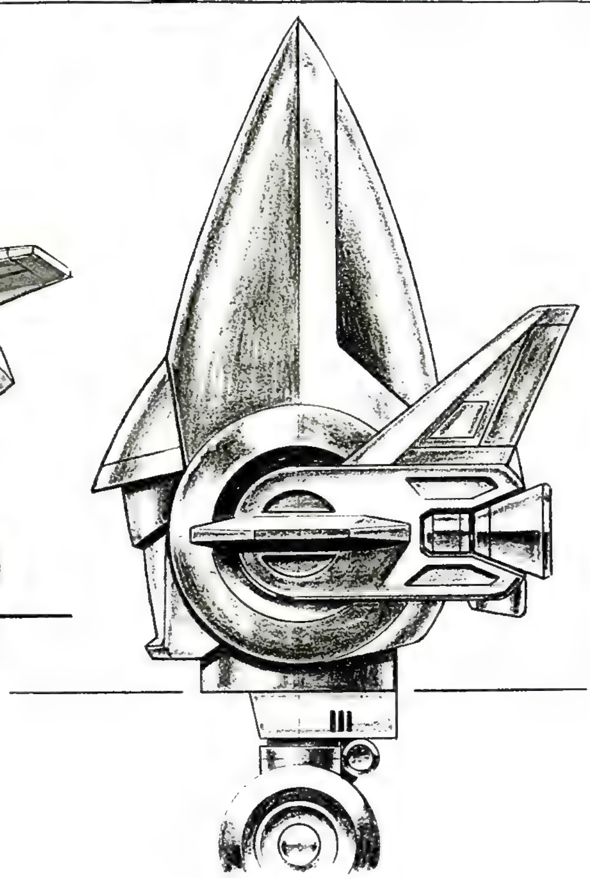


ダイナシールド。武装のデザインには一部村上が担当したものが存在する。

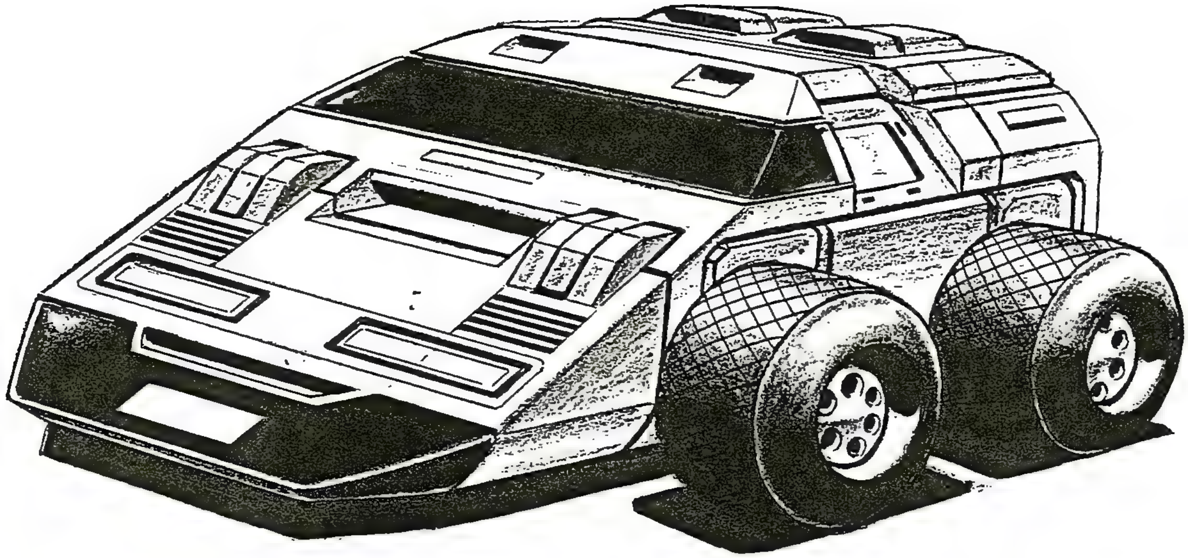


ダイナマッハ側面図。ダイナロボの頭部となる。ランディングギアは合体時のジョイントに使用される。

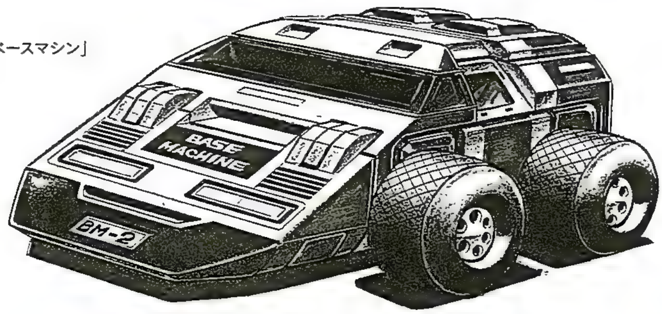


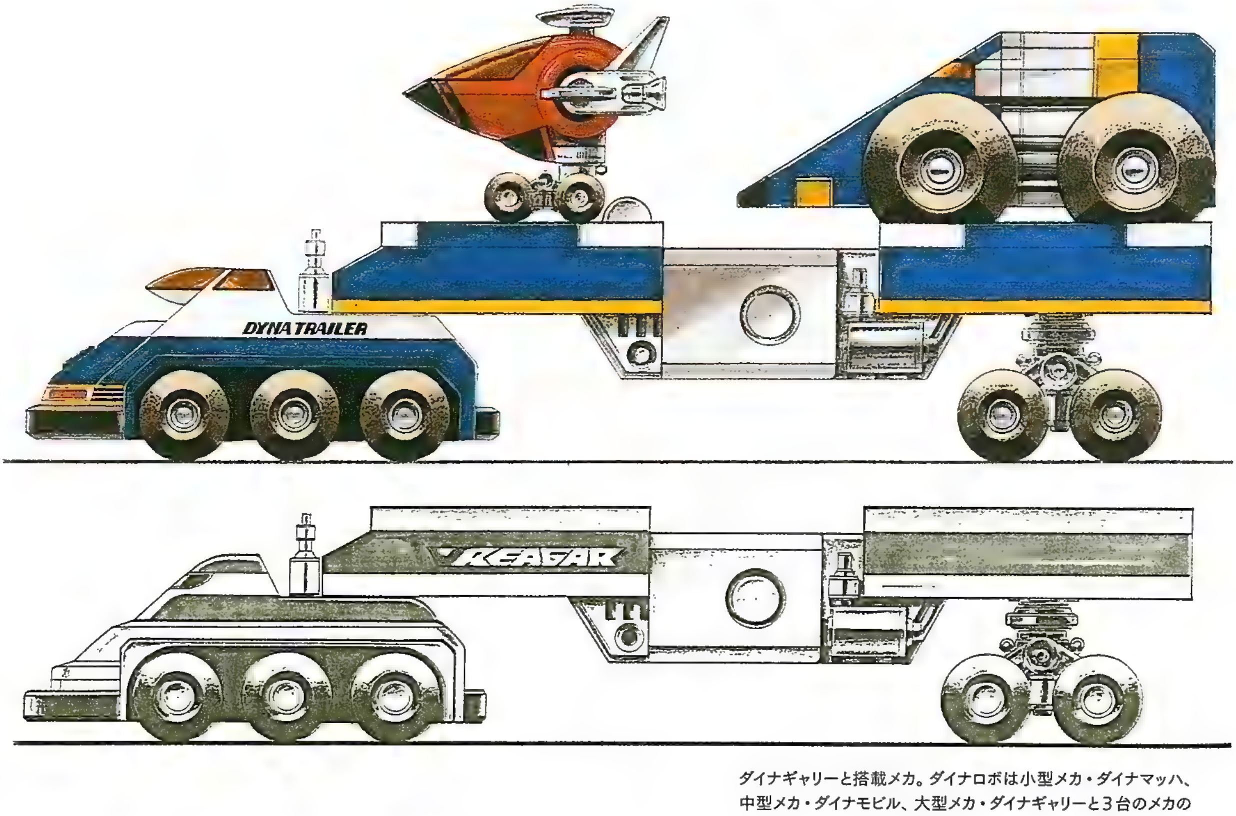


ダイナマッハのリアスタイルとロボット変形時の側面。頭部とランディングギアがそれぞれ90度回転した形態である。



ダイナモビル。ダイナロボの胴体と腕となる。下は「ベースマシン」とマーキングが描き込まれたもの。





ダイナギャリーと搭載メカ。ダイナロボは小型メカ・ダイナマッハ、中型メカ・ダイナモビル、大型メカ・ダイナギャリーと3台のメカのサイズをあえて差別化している。

宇宙刑事シャリバン

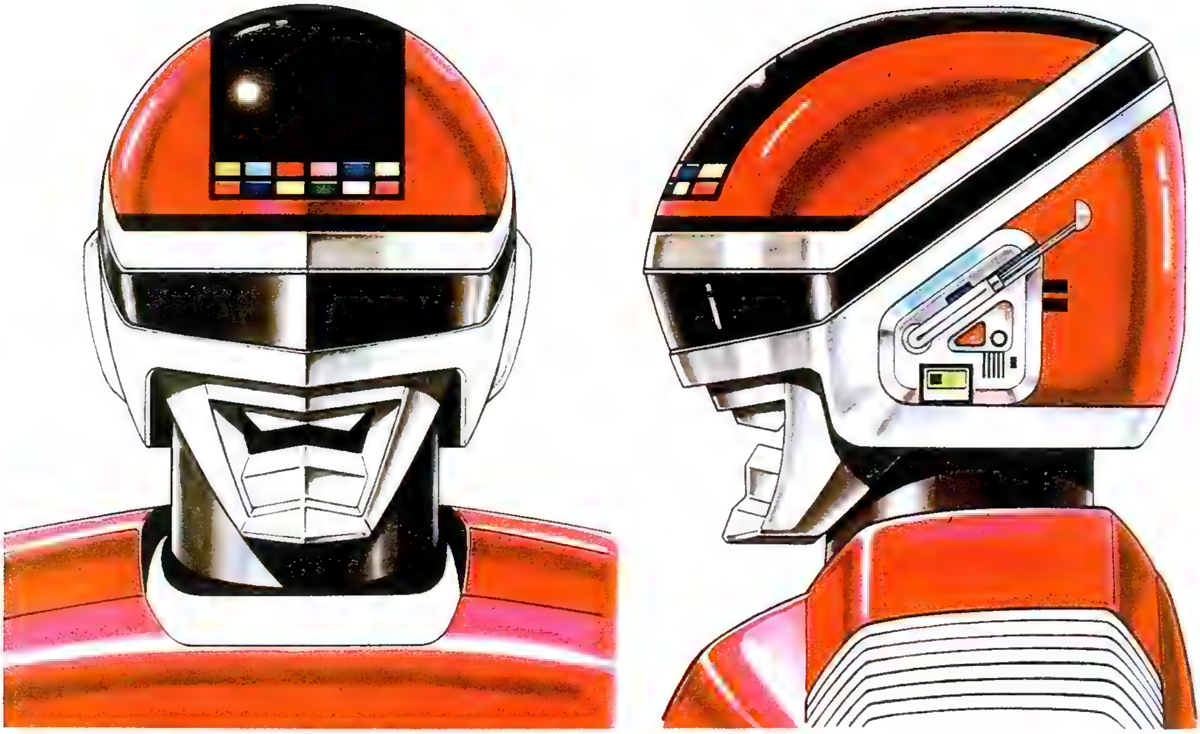
1983–1984

D.A.　1983.3.4–1984.2.24／テレビ朝日系放送
WORKS　シャリバン、ヒーローのメインメカニック

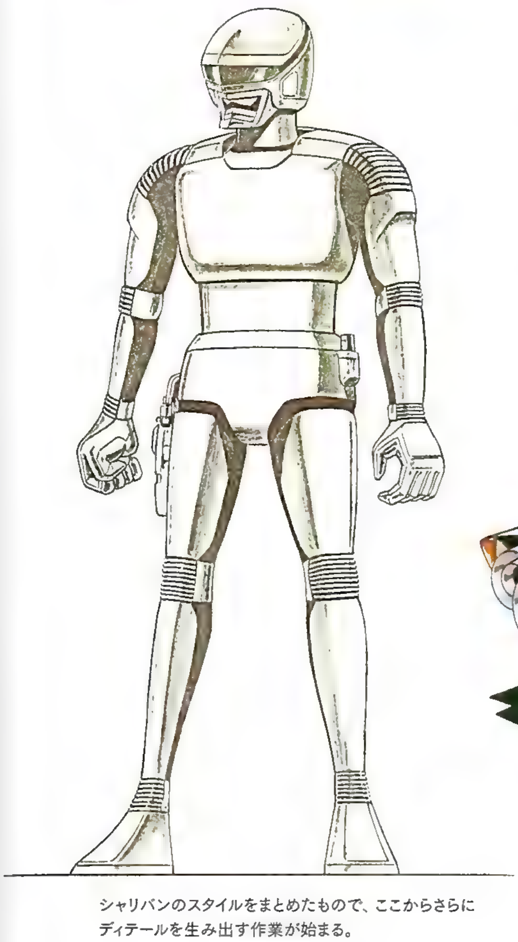
宇宙刑事シリーズ第２作。ギャバンで確立したデザインをフォーマットとして使用する一方で、般若をシャリバンのマスクのモチーフにするといった独自の趣向も見られる。また、ヒーローのアイテムに光線銃がプラスされるなど、本作から生まれた要素も今後のシリーズに踏襲された。



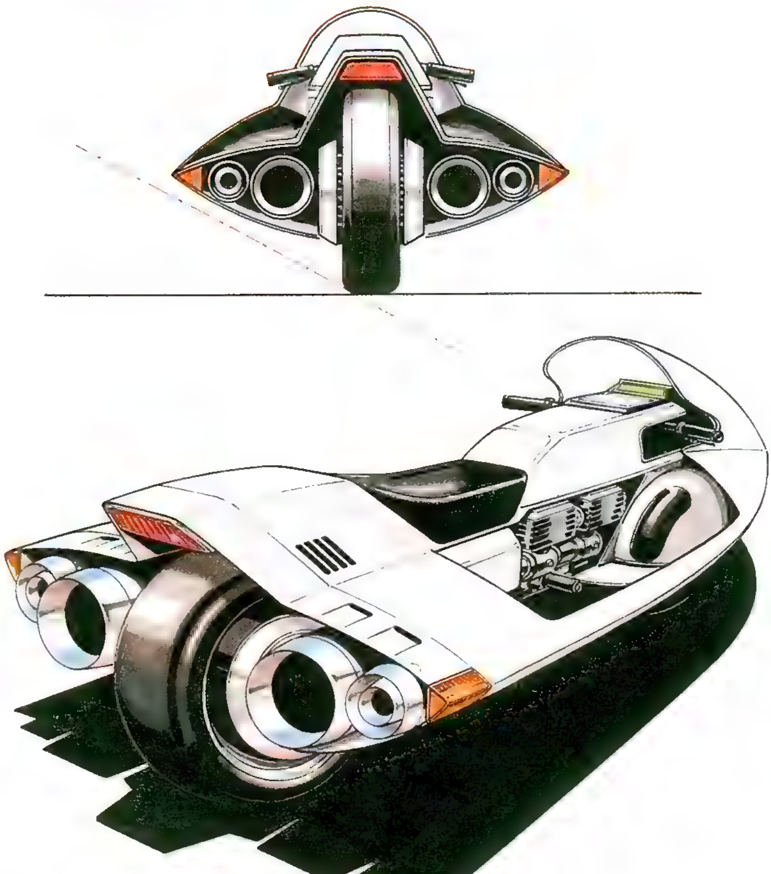
シャリバン。スタイルは決定しており、頭部カラーリングのみがもう一稿重ねられた。



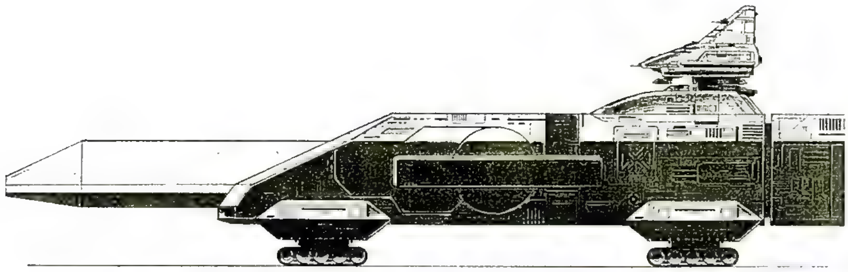
シャリバンのマスクデザイン。頭部カラーリングはこれが決定となる。

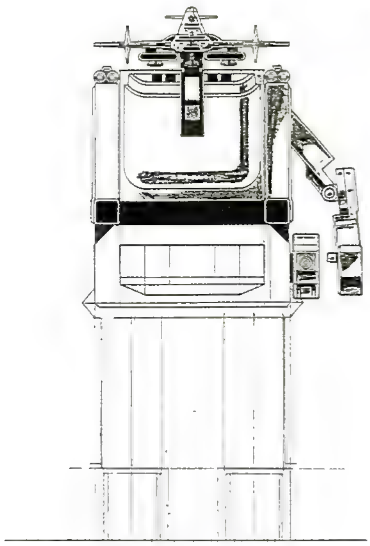


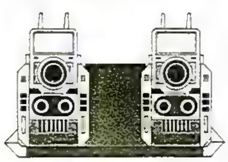
シャリバンのスタイルをまとめたもので、ここからさらにディテールを生み出す作業が始まる。

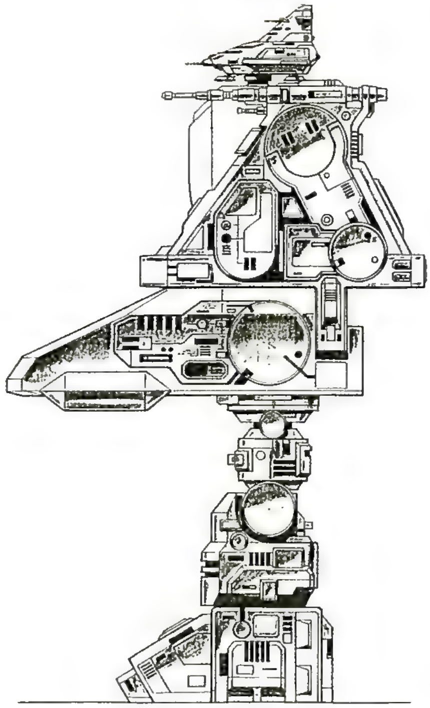


モトシャリアン。リアスタイルのディテール指示用デザイン。

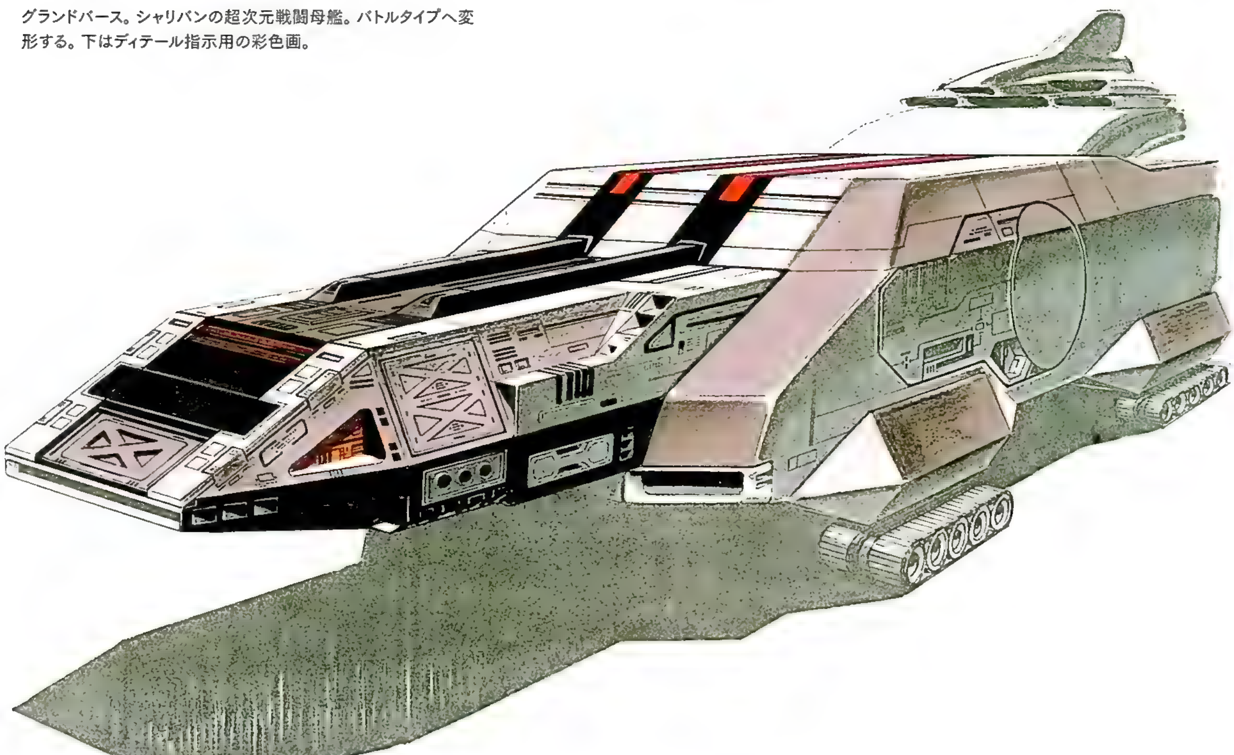


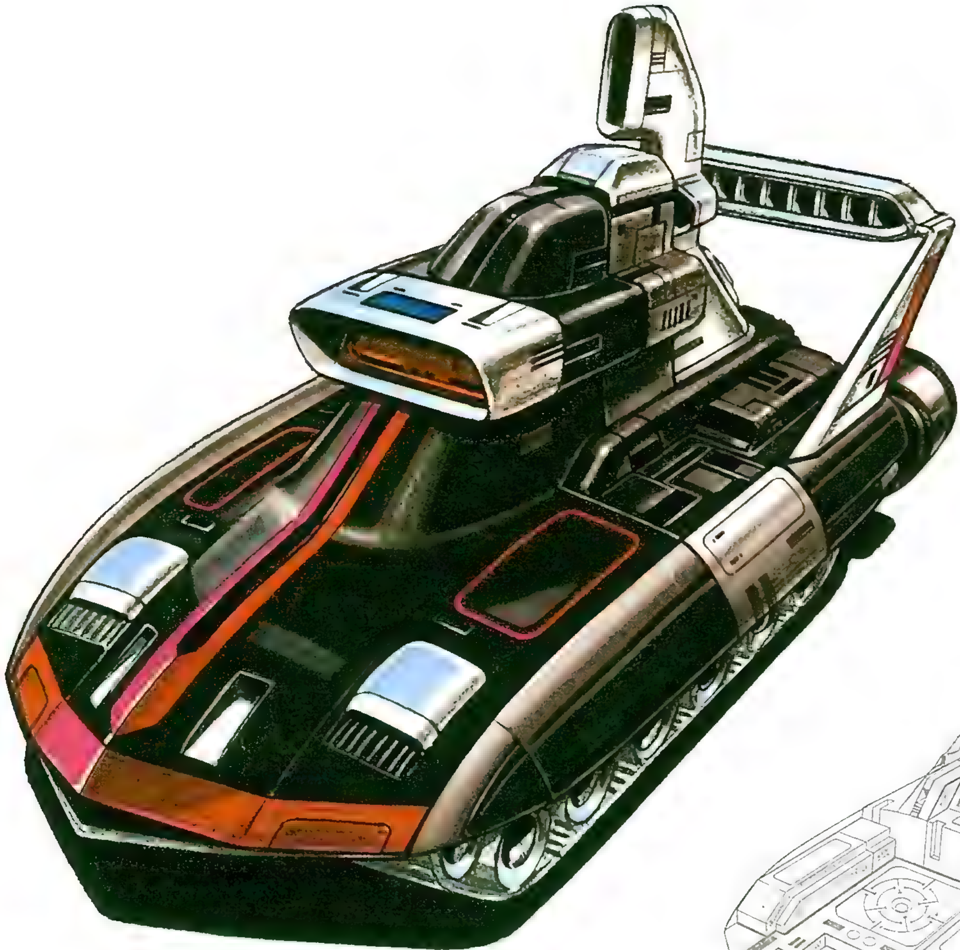


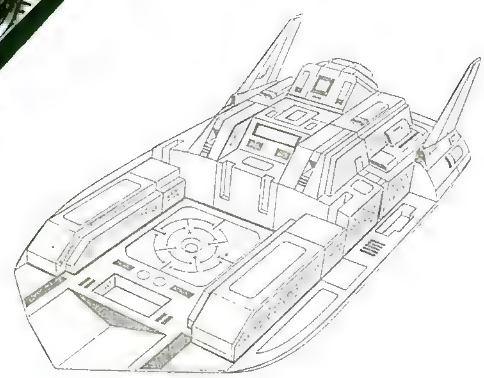




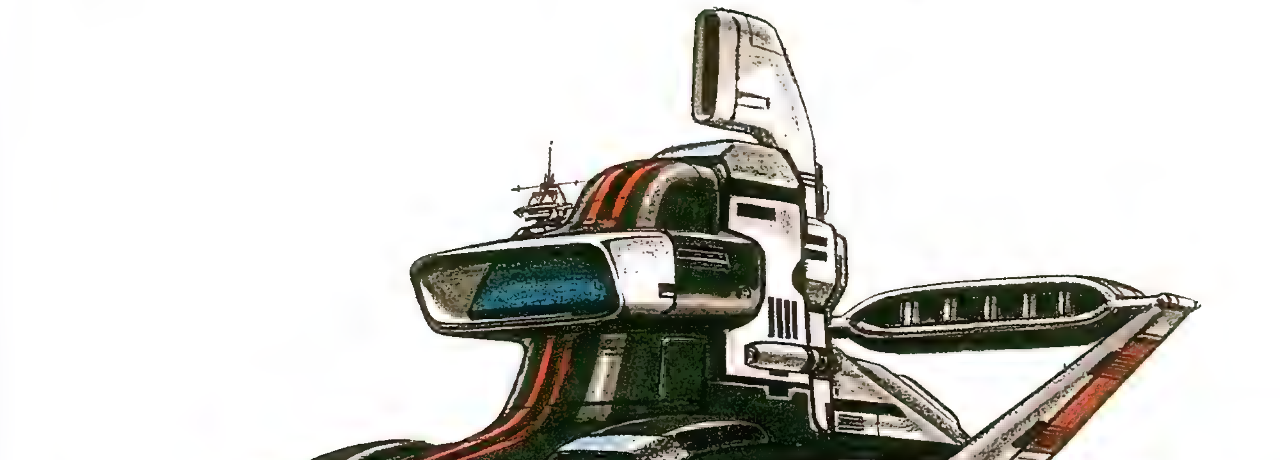
グランドバース。シャリバンの超次元戦闘母艦。バトルタイプへ変形する。下はディテール指示用の彩色画。







シャリンガータンク。曲面を多用し、ギャビオンと差別化が図られている。



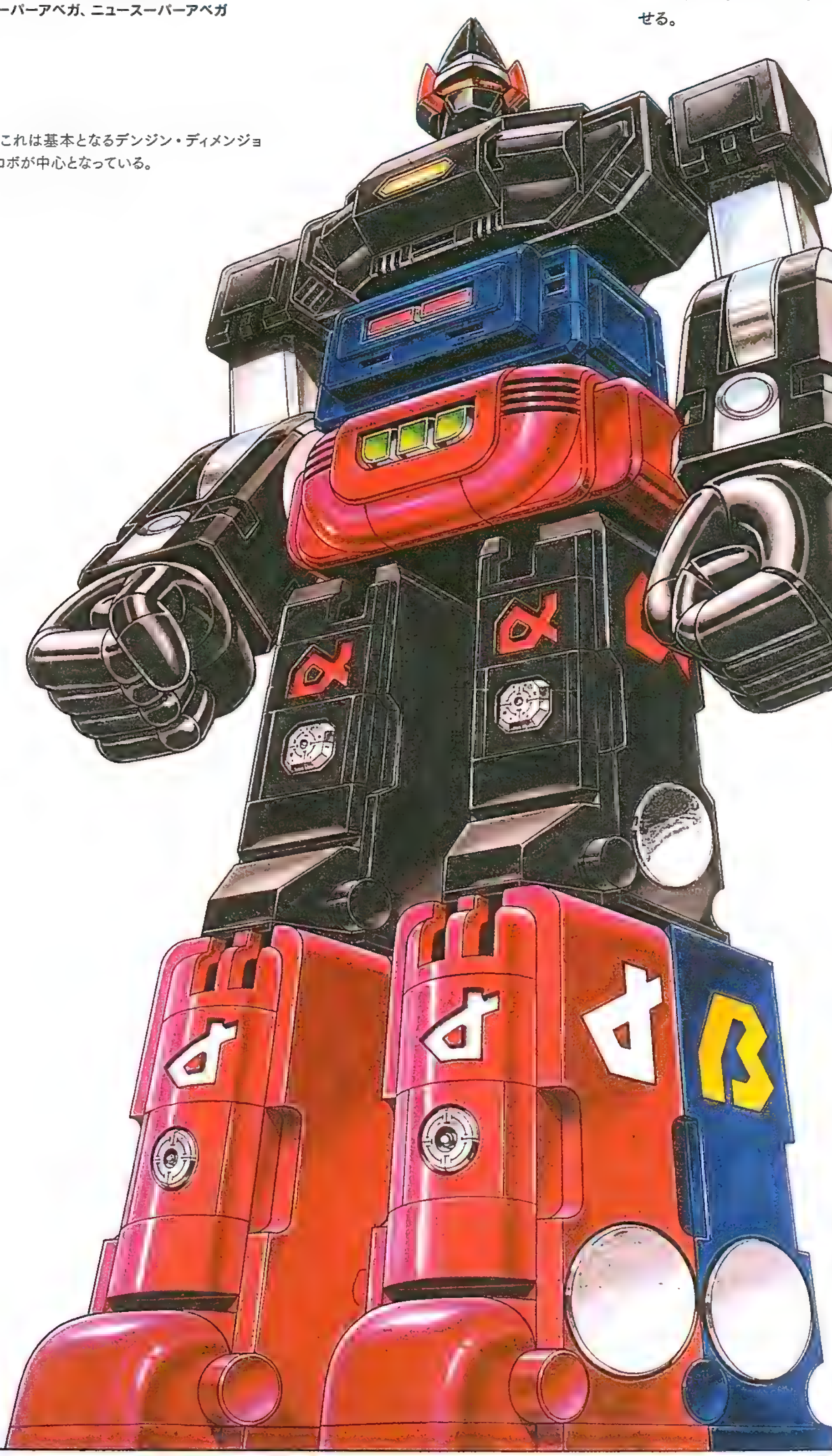
光速電神アルベガス

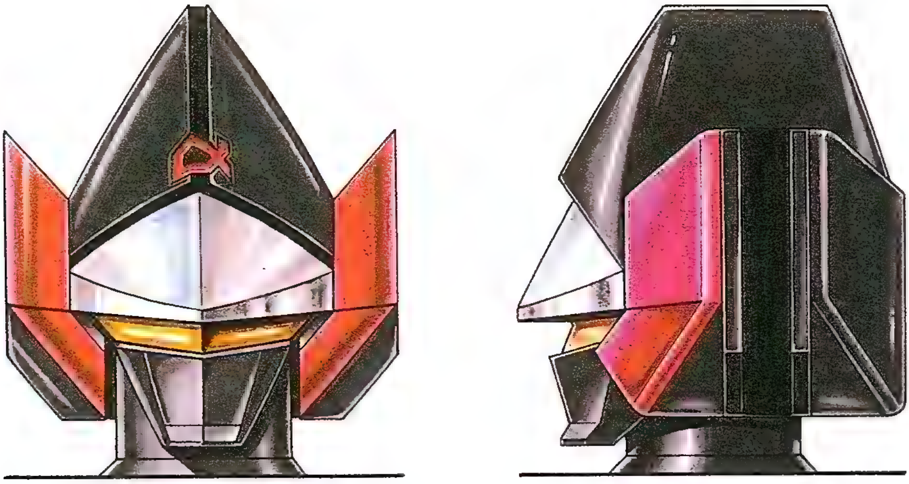
1983–1984

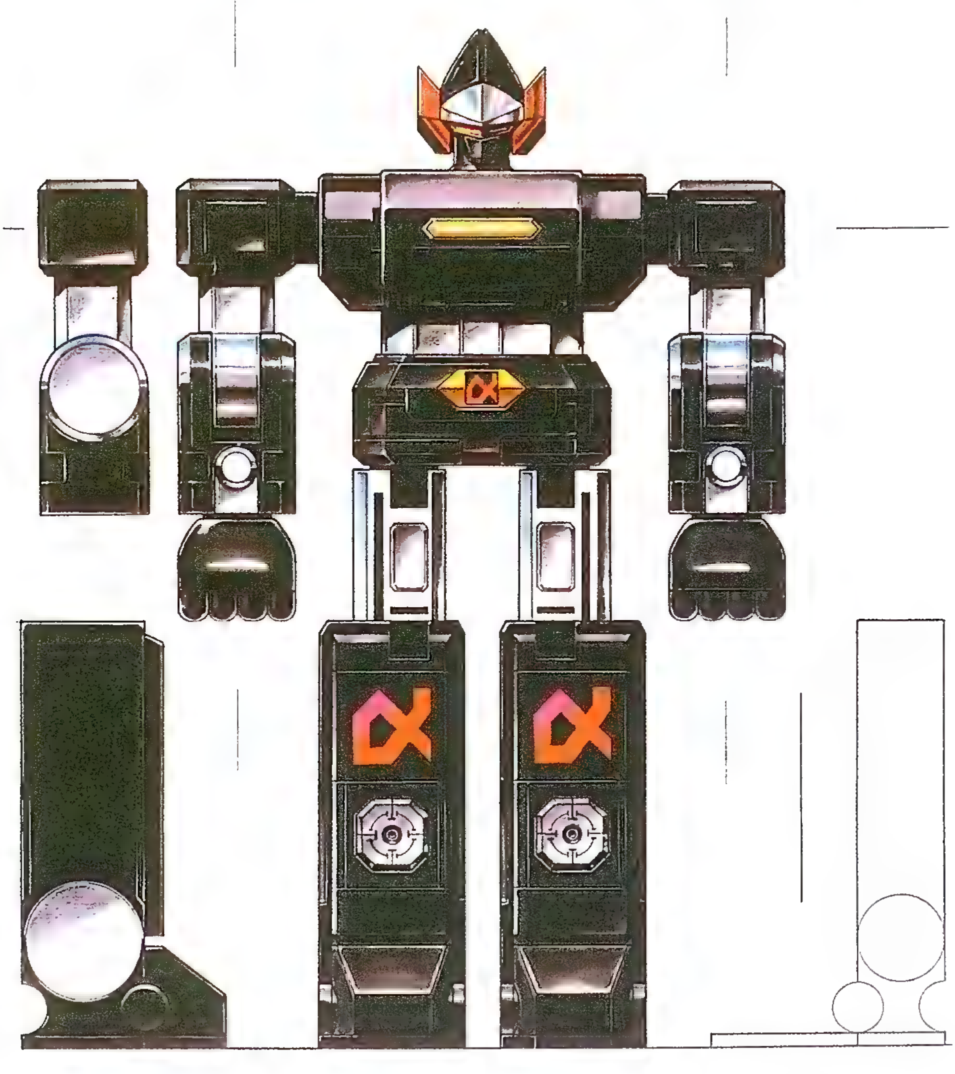
O.A. 1983.3.30–1984.2.8／テレビ東京系放送
WORKS アルベガス、スーパーアベガ、ニュースーパーアベガ

1980年代、村上は3体合体型ロボットのパターンを数多く生み出している。その新たなシステムとして提案されたのが、アルベガスのマトリクス合体システムである。3体のロボットが合体位置を変えることで、6タイプのロボットに変化するというアイディアは、かつての『ゲッターロボ』を想起させる。

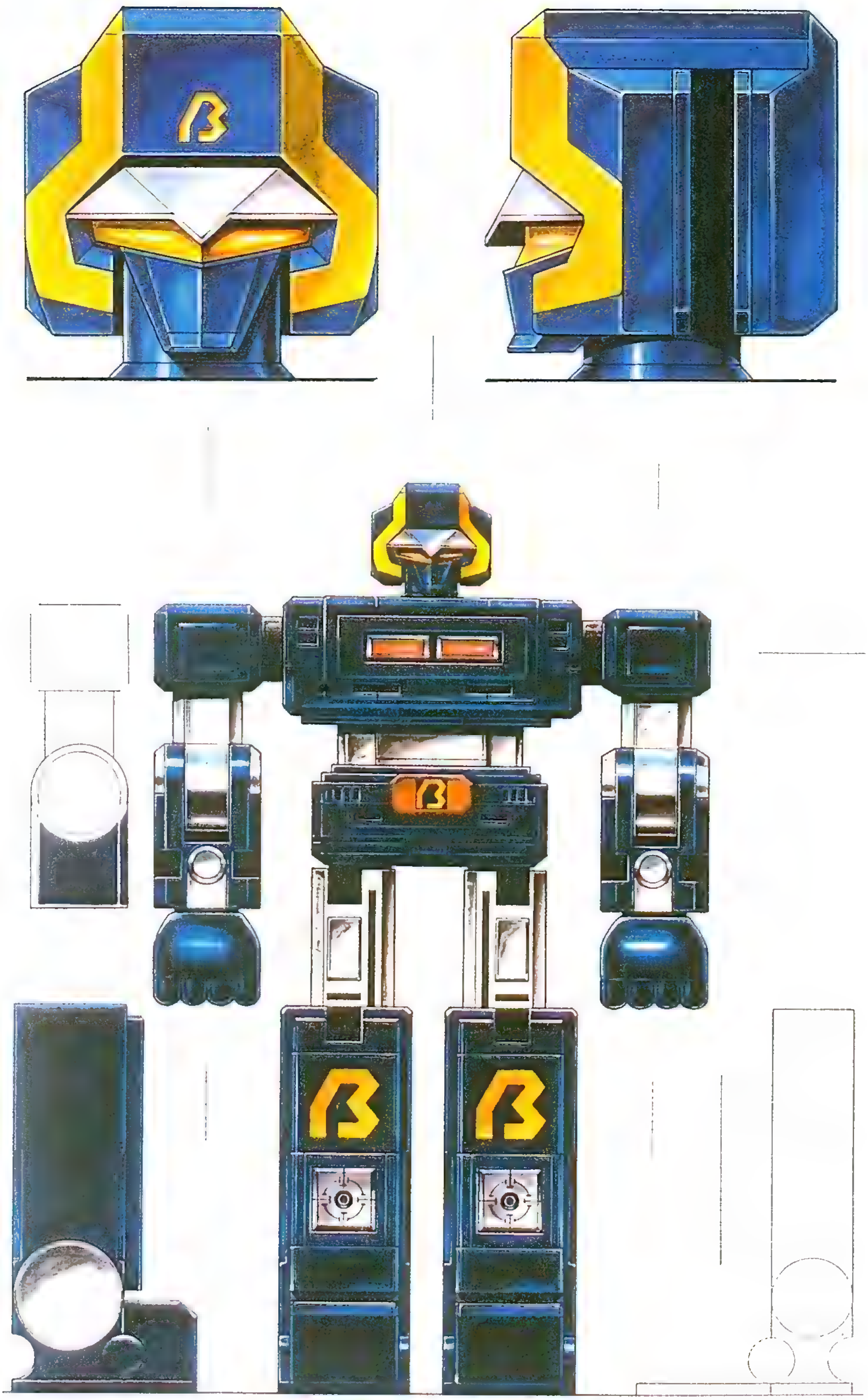
アルベガス。これは基本となるデンジン・ディメンジョン。アルファロボが中心となっている。



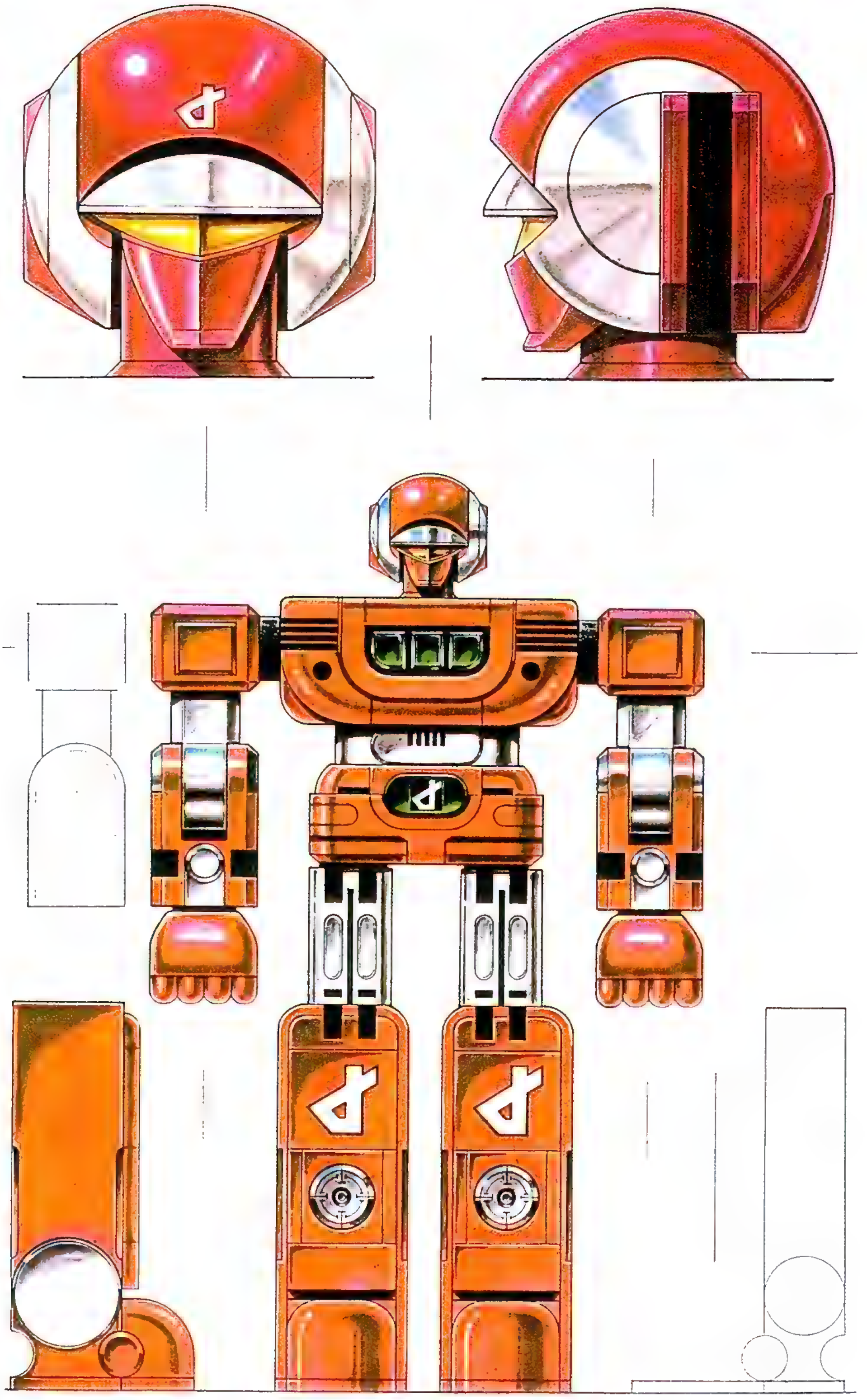




アルファロボ。デンジン・ディメンジョン、スペース・ディメンジョンの頭部と腕部になる。

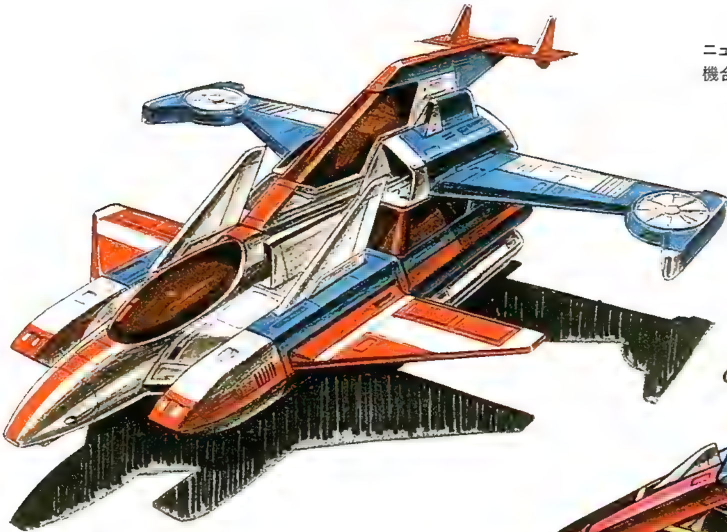


ベータロボ。スカイ・ディメンジョン、マグマ・ディメンジョンの頭部と腕部に合体する。

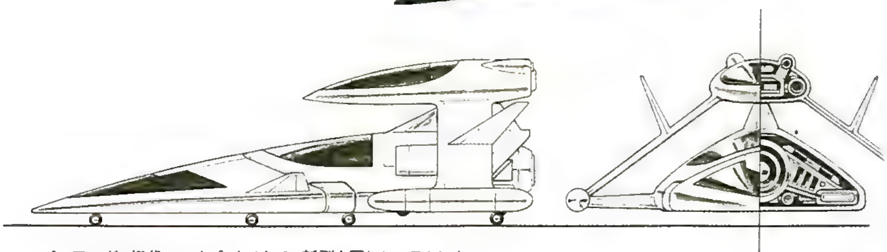


ガンマロボ。マリン・ディメンジョン、レスキュー・ディメンジョンの頭部と腕部を構成する。

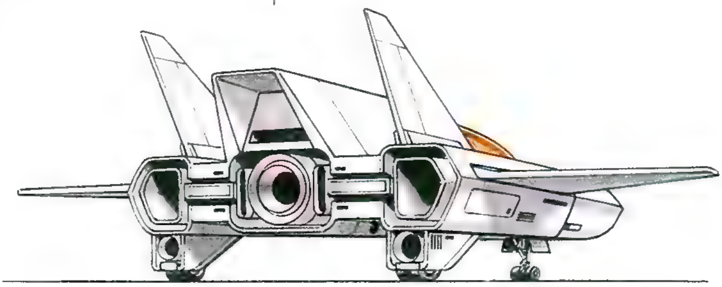
ニュースーパーアベガ。アルベガスのコクピットとなる飛行メカで、3機合体も可能である。左のデザインは3機合体形態。

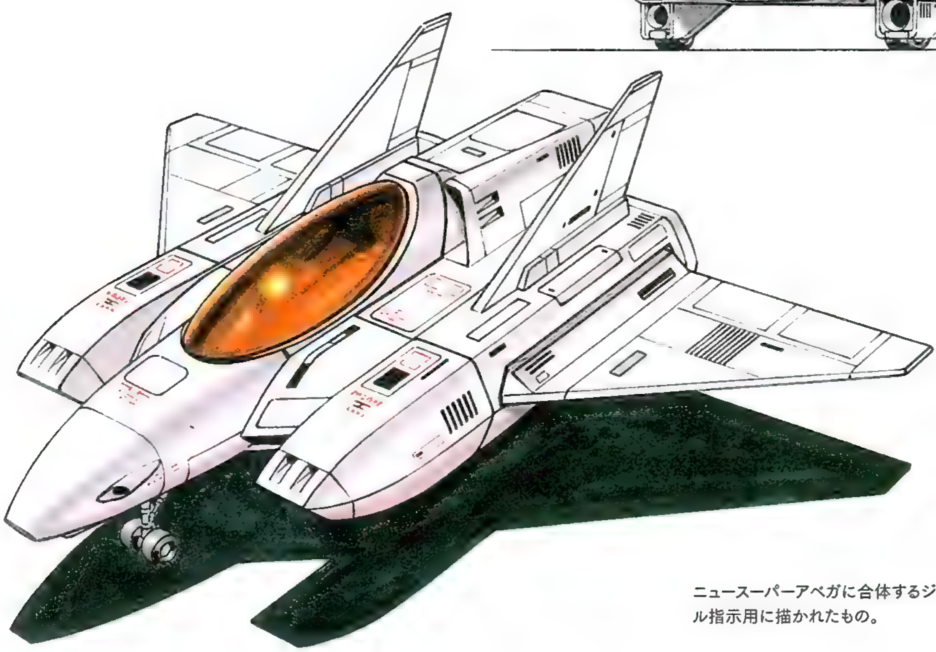






スーパーアベガ。初代のコクピットメカで、新型と同じシステムにより3機合体する。





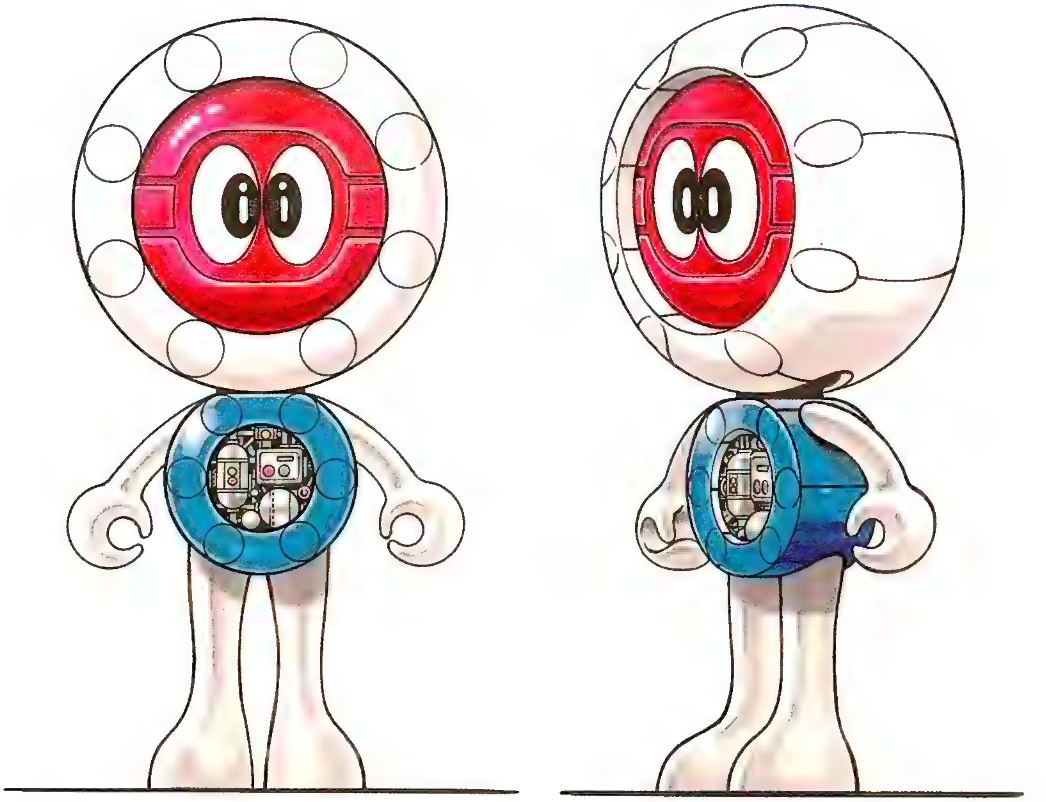
ニュースーパーアベガに合体するジェットアルファ。各部のディテール指示用に描かれたもの。

石ノ森章太郎原作の実写ロボットコメディ。前作『ロボット8ちゃん』に続いて村上が主人公ロボットのマーチャンダイズドデザインを担当した。コミカルかつ整合性のあるデザインは、村上の引き出しの多さを感じさせる。

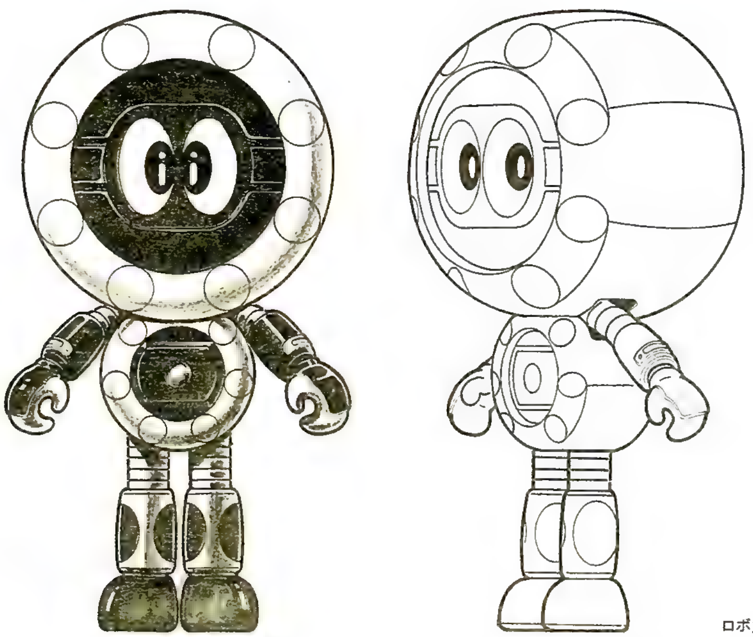
バッテンロボ丸

1982–1983

1982.10.3–1983.9.25／フジテレビ系放送
マーチャンダイズドデザイン



ロボ丸のマーチャンダイズドデザインアイディア。



ロボ丸のマーチャンダイズドデザイン。

超電子バイオマン

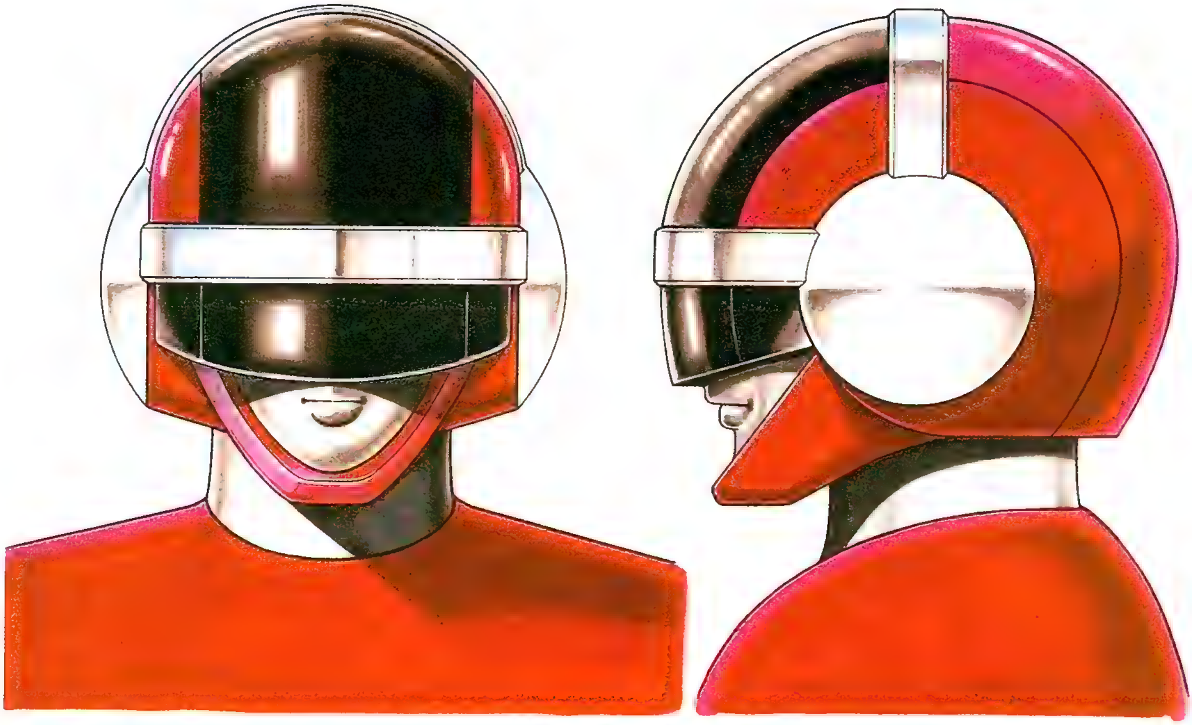
1984–1985

O.A.　1984.2.4–1985.1.26／テレビ朝日系放送
WORKS　ヒーロー、ヒーローのメインメカニック

かつて『電子戦隊デンジマン』で使用したマスクにメカニックを盛り込んだヒーローデザインに、村上は再びチャレンジする。その結果、白のラインを大胆に用いることで、デンジマン以上にシンプルでスマートなヒーローデザインが誕生した。なお、村上は本作以降、メインデザイナーの立場を後進に譲っていくことなる。



レッドワン（左）、イエローフォーのスーツデザイン。胸にはLSIを思わせる基盤が描かれていた。男女で太腿部の白いラインの太さが異なっているのがわかる。



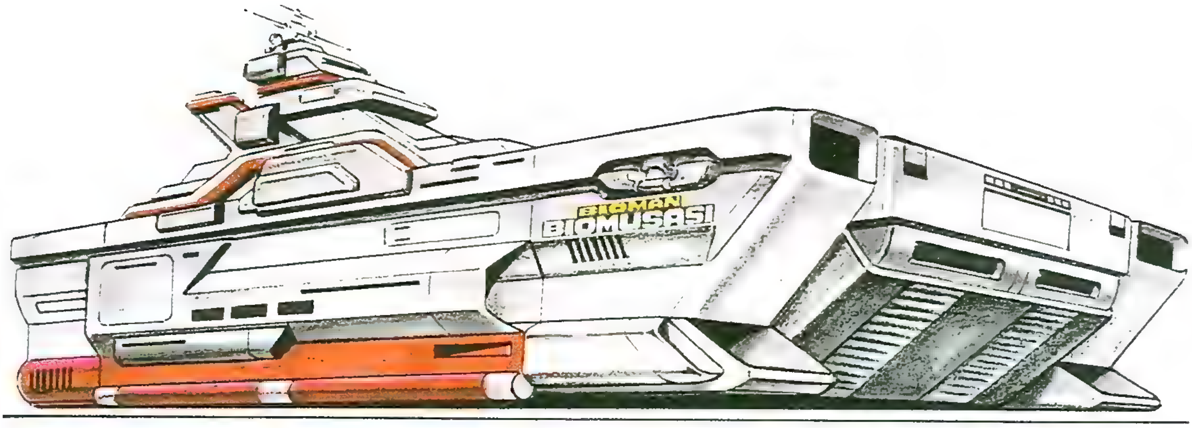
レッドマンのマスク。額にはスモークグレーのドームがあり、中にメカニックが存在する。



グリーンツー、ブルースリー、イエローフォー、ピンクファイブのマスクデザイン。額のドームの形はナンバーを想定しており、この時点ではピンクが2で、ブルーが5であった。



バイオドラゴン。本作より母艦に変形システムが取り入れられた。
こちらは戦艦形態。デザイン時の名称はバイオムサシ。



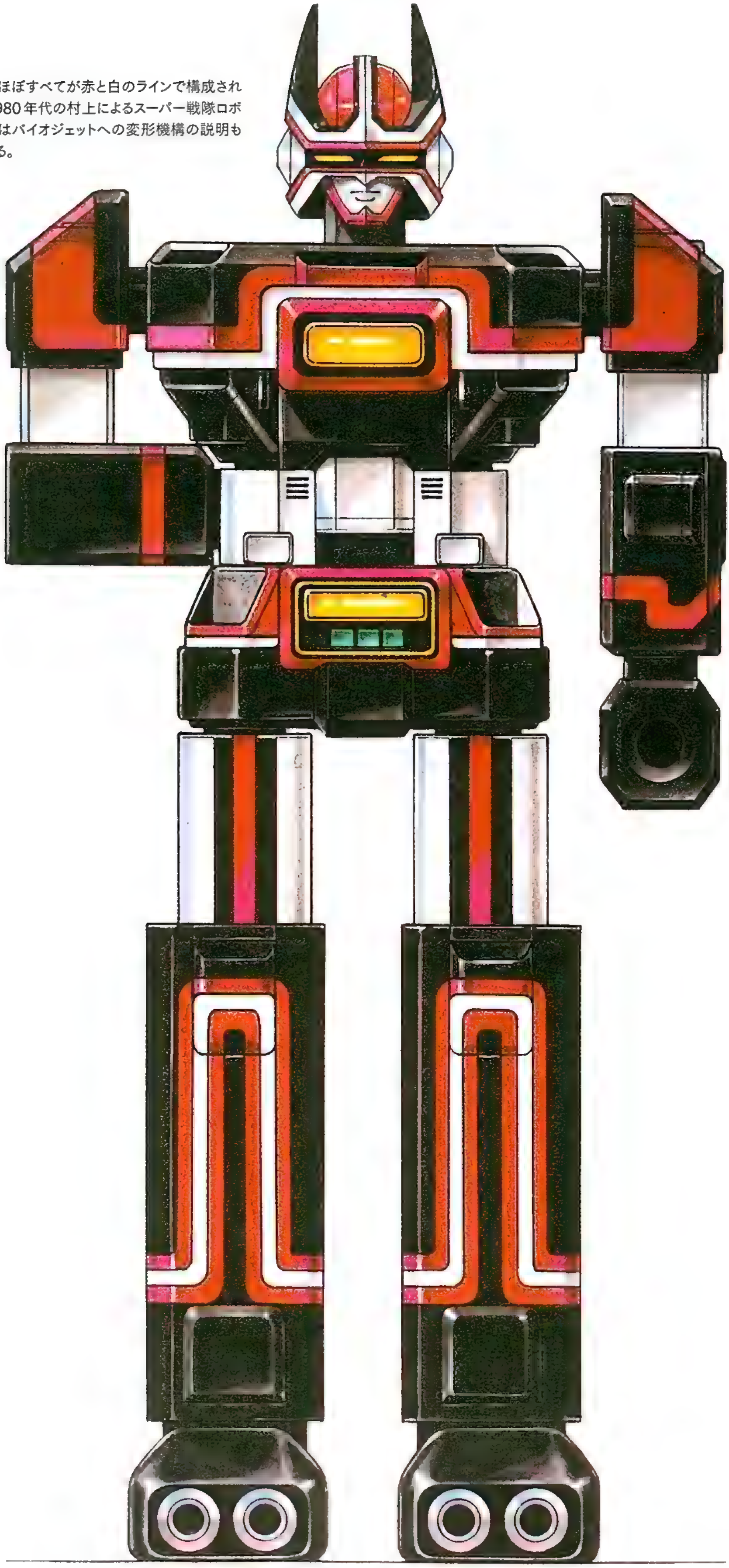
バイオドラゴンの空母状態。甲板から2機のバイオジェットが発進する。

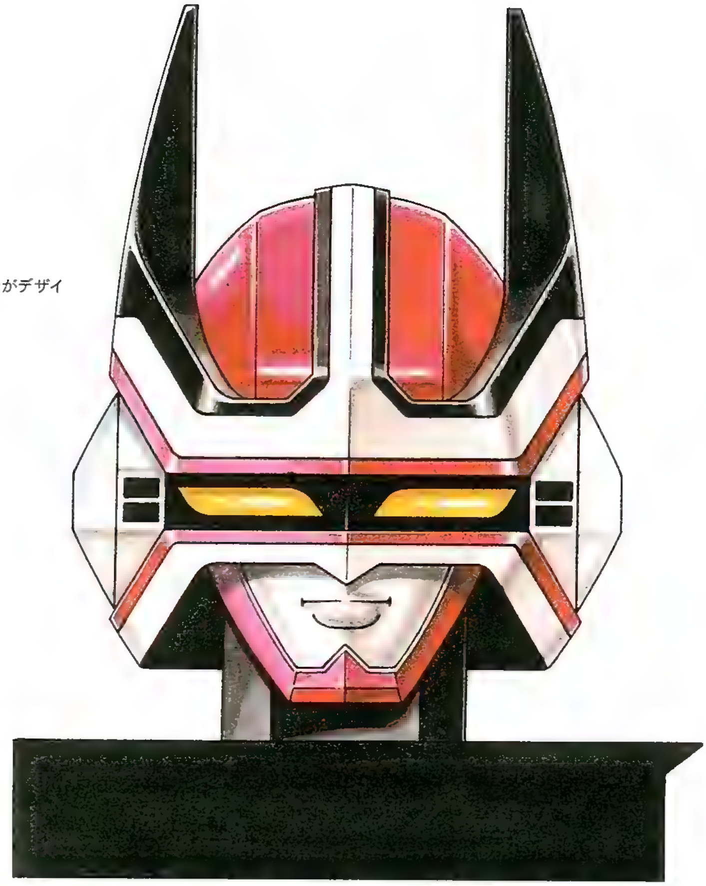


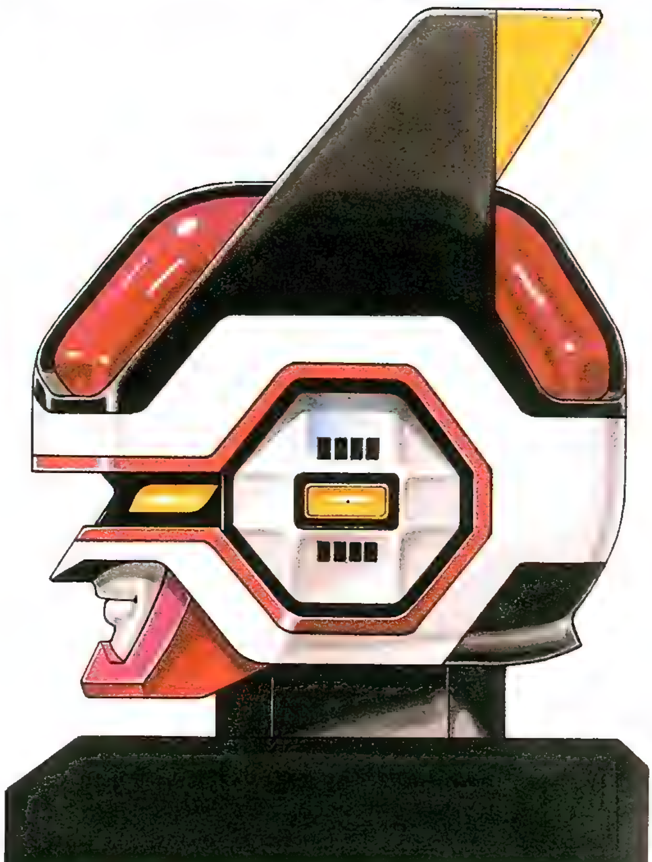


バイオマッハ1号（左）、バイオマッハ2号。

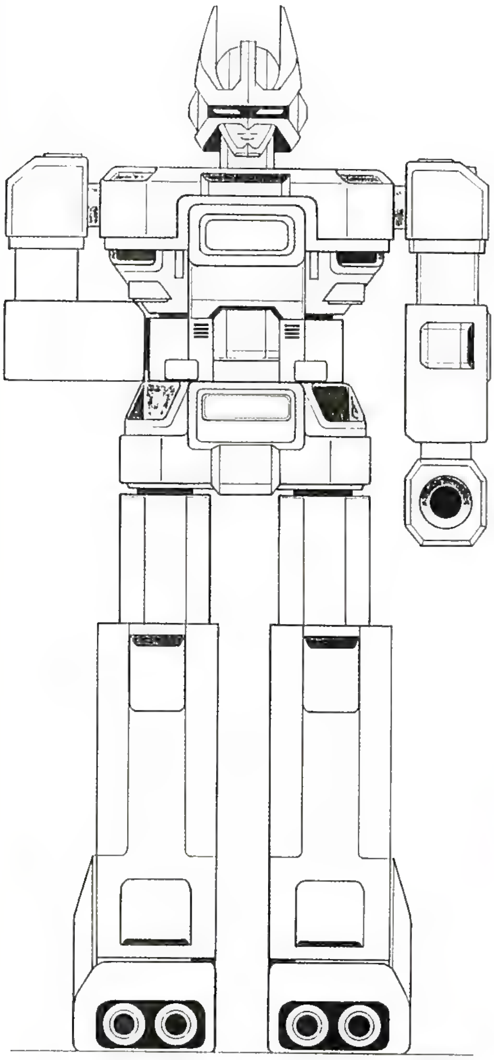
バイオロボ。ディテールのほぼすべてが赤と白のラインで構成されたシンプルなデザイン。1980年代の村上によるスーパー戦隊ロボの完成形と言える。右腕はバイオジェットへの変形機構の説明も兼ねて折り曲げられている。



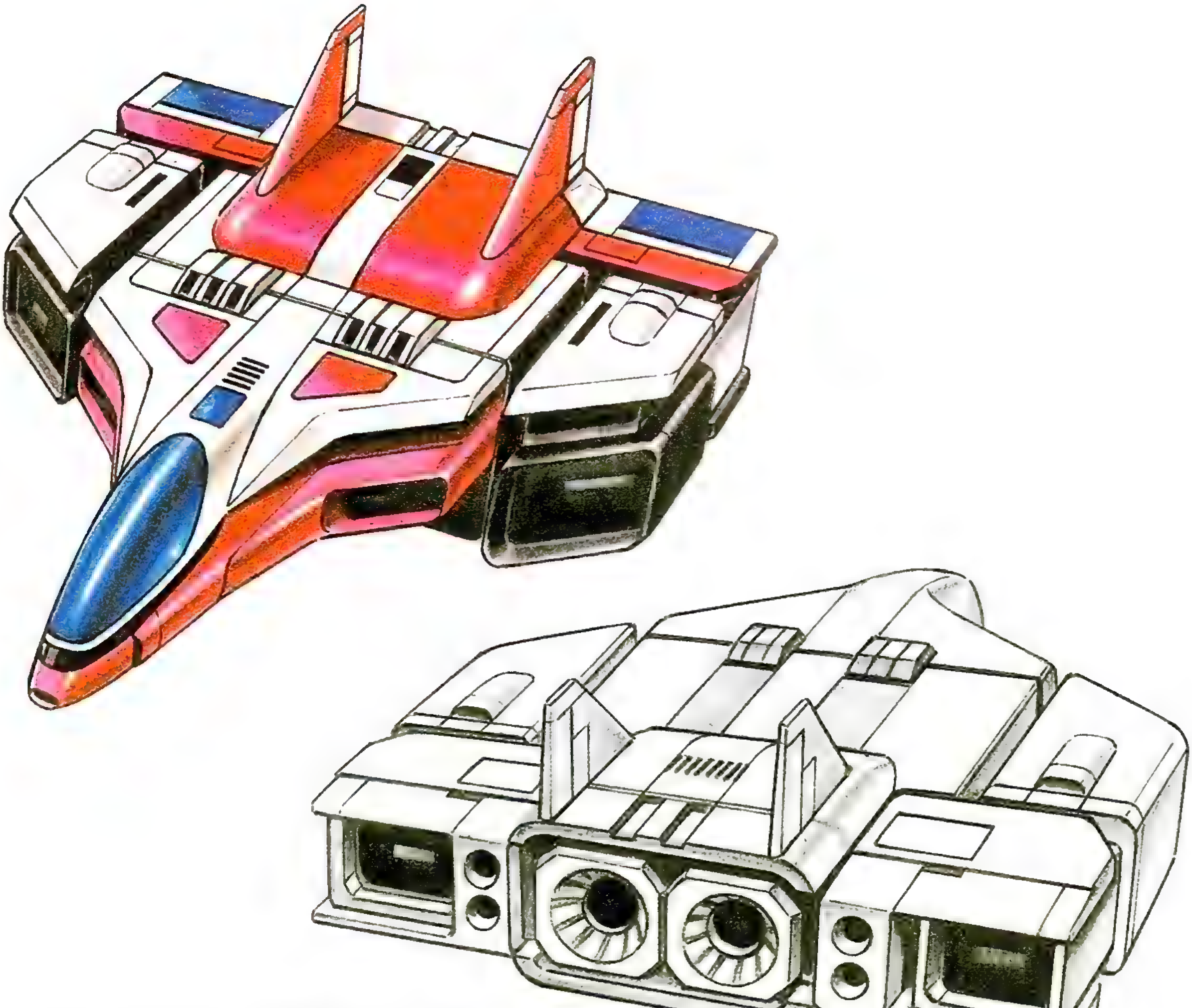




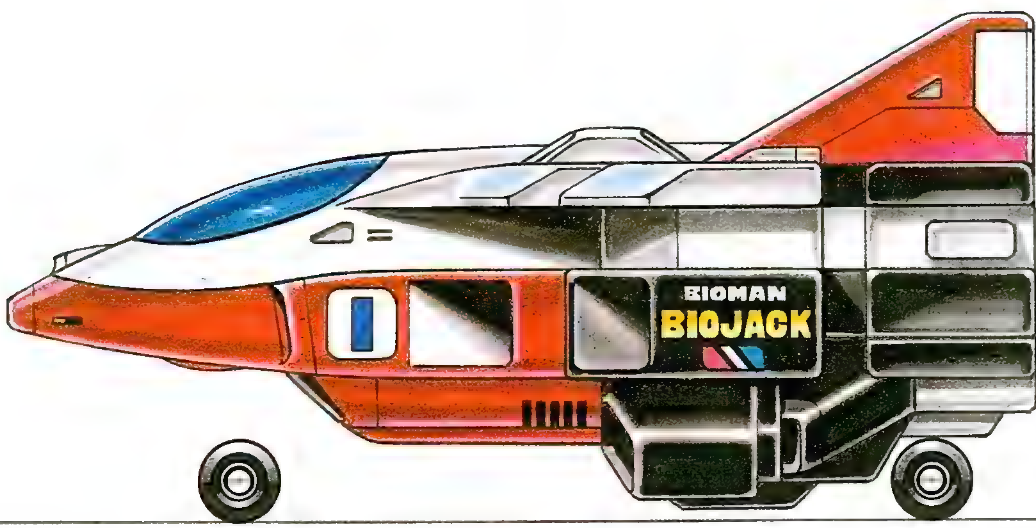
バイオロボの頭部デザイン。ヒーローと同様に白のラインがデザインを引き立てている。



バイオロボの線画。左手の拳に穴が空いているのは、バイオジェット1の噴射口を兼ねているため。



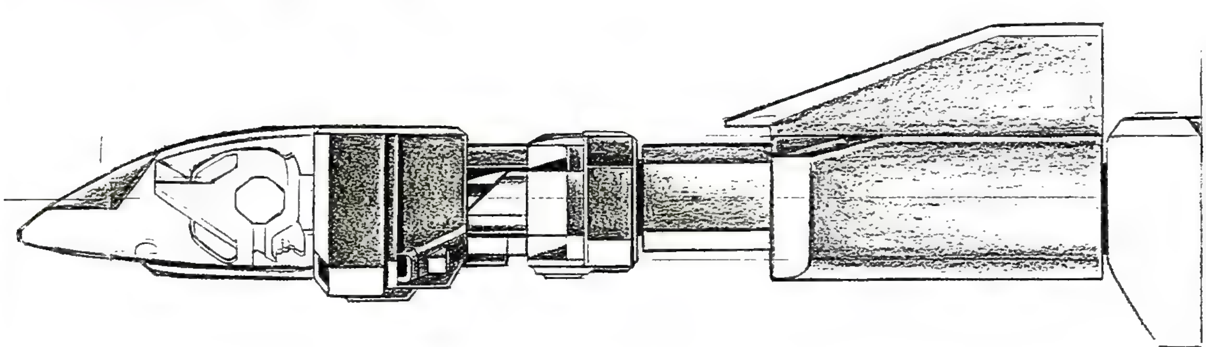
バイオジェット1。バイオロボの上半身を構成する。腕は90度折り曲げて翼に、拳は噴射口となっている。

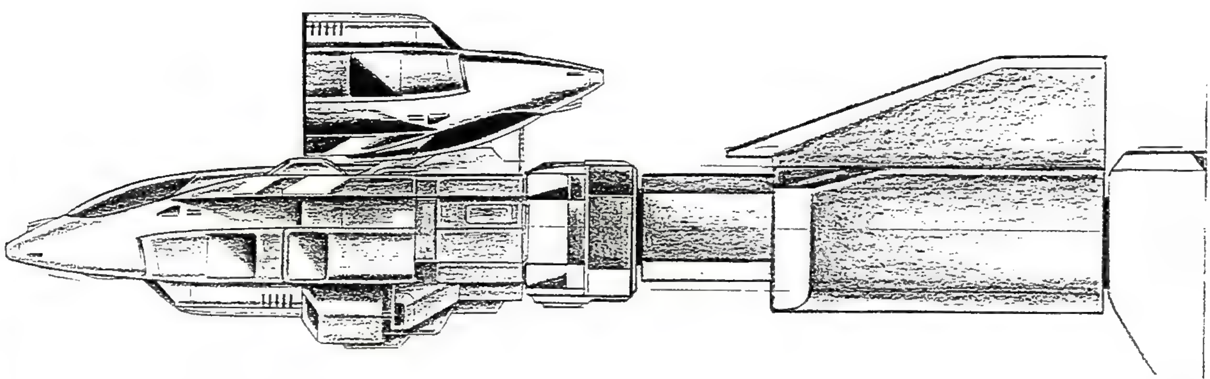


バイオジェット1の側面図。デザイン画が描かれた時点の名称は「バイオジャック」。



バイオジェット2。バイオロボの下半身となる。デザイン決定時の名前は「バイオフット-2」。





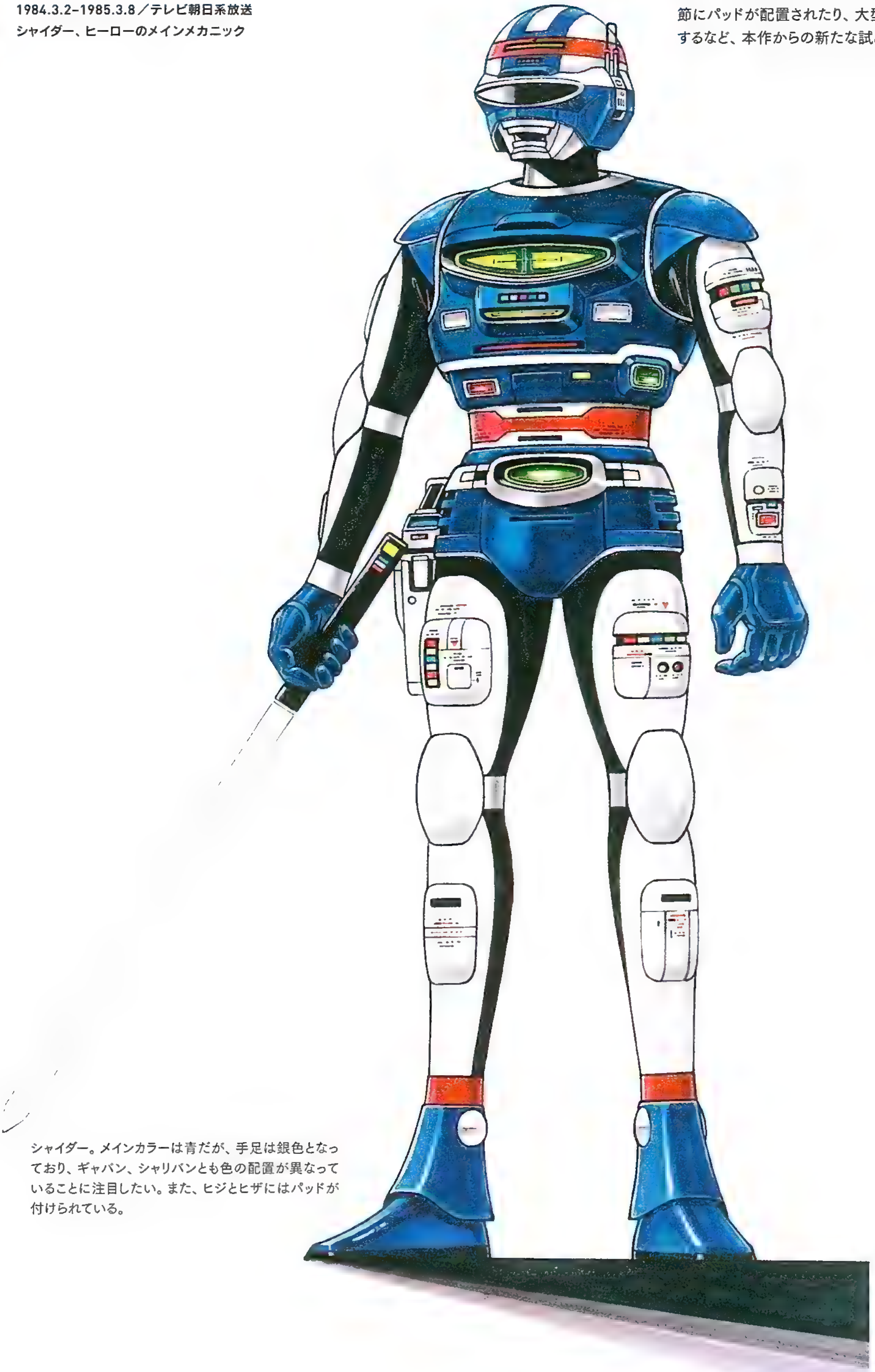
バイオロボの合体概念図。頭部の収納位置、そしてバイオジェット1の機首の移動が記されている。

宇宙刑事シャイダー

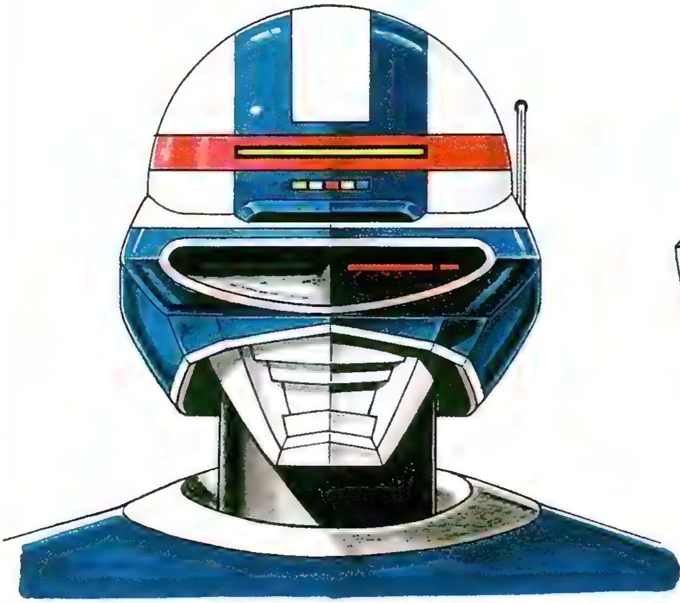
1984–1985

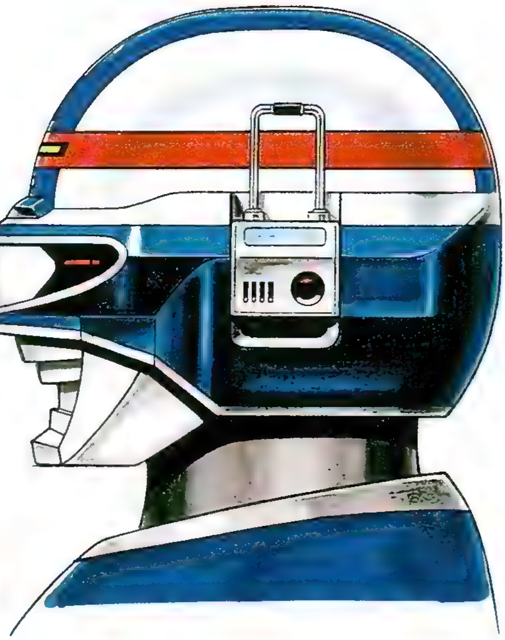
D.A. 1984.3.2–1985.3.8／テレビ朝日系放送
WORKS シャイダー、ヒーローのメインメカニック

宇宙刑事シリーズの第3作。ヒーローのシャイダーのマスクは前作シャリバンから一転して、土偶をイメージしたものとなる。同じシリーズの作品でありながら、モチーフを新たに求める手法は村上の一貫した姿勢である。また、スーツの関節にパッドが配置されたり、大型メカが3段変形するなど、本作からの新たな試みも多い。

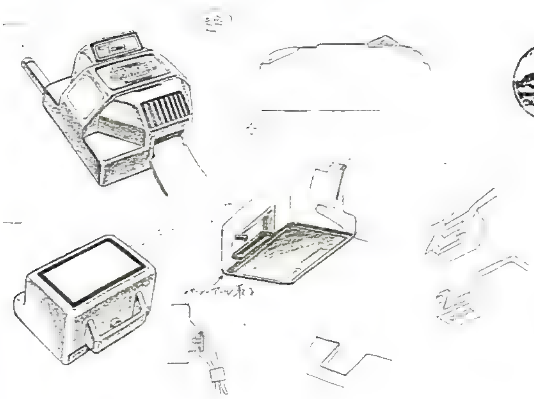


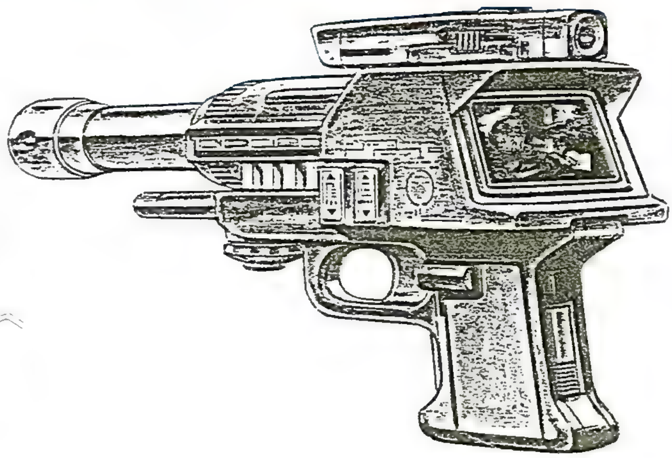
シャイダー。メインカラーは青だが、手足は銀色となっており、ギャバン、シャリバンとも色の配置が異なっていることに注目したい。また、ヒジとヒザにはパッドが付けられている。



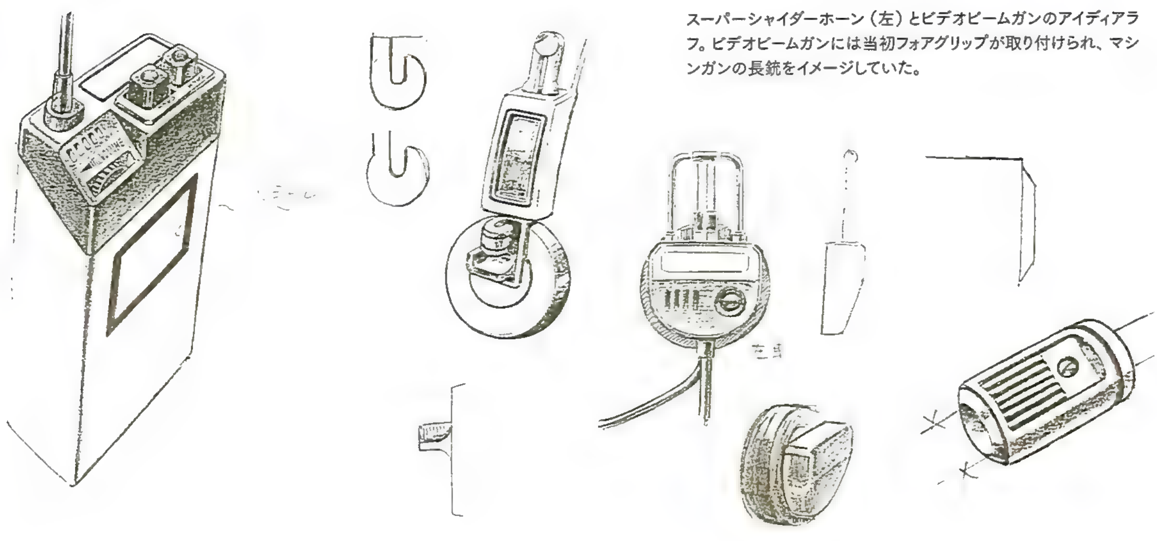


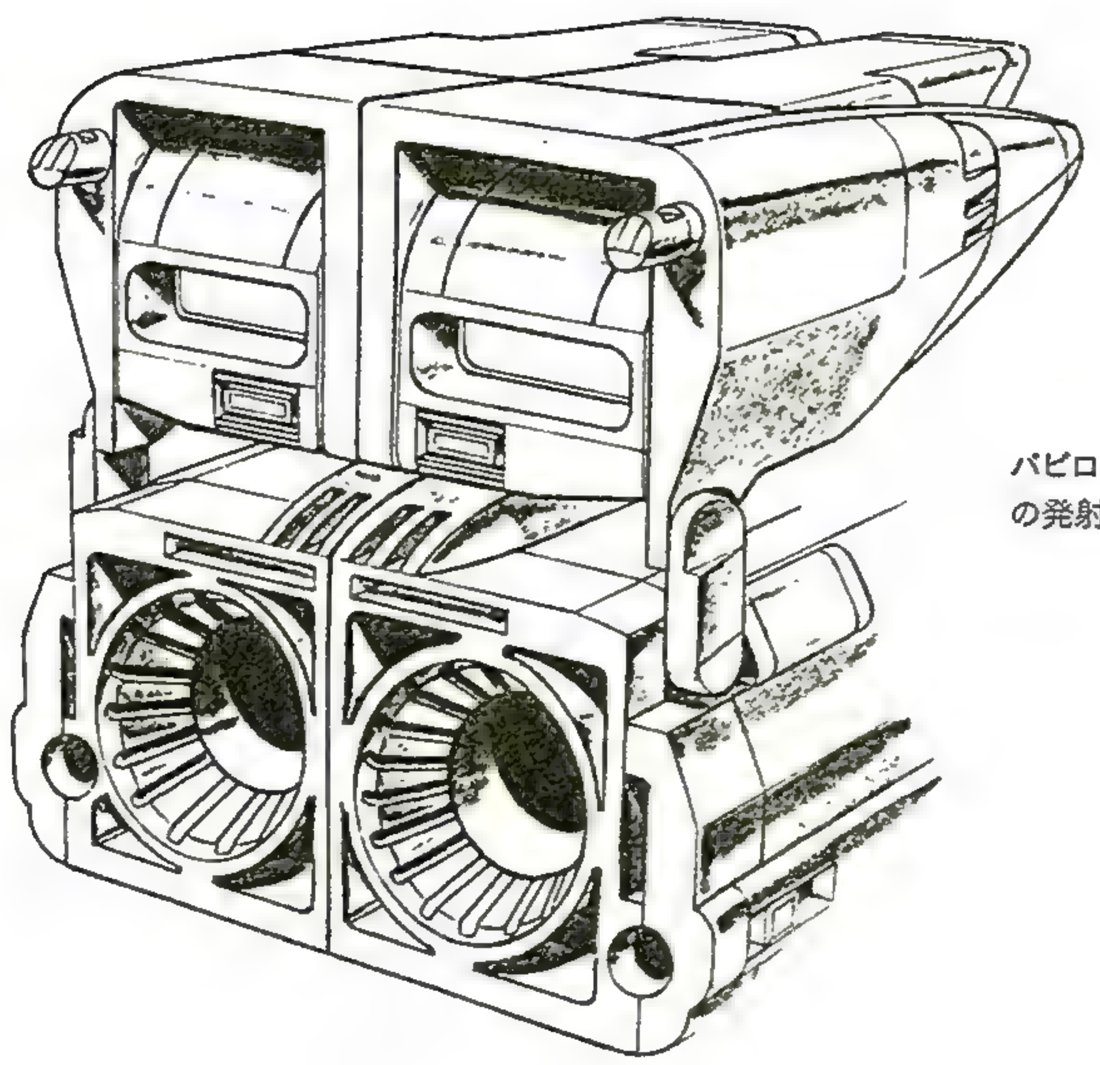
シャイダーのマスク。右側の目の部分が赤く塗られているのは、
シャイダースコープが点灯していることを示す。




スーパーシャイダーホーン（左）とビデオビームガンのアイディアラフ。ビデオビームガンには当初フォアグリップが取り付けられ、マシンガンの長銃をイメージしていた。

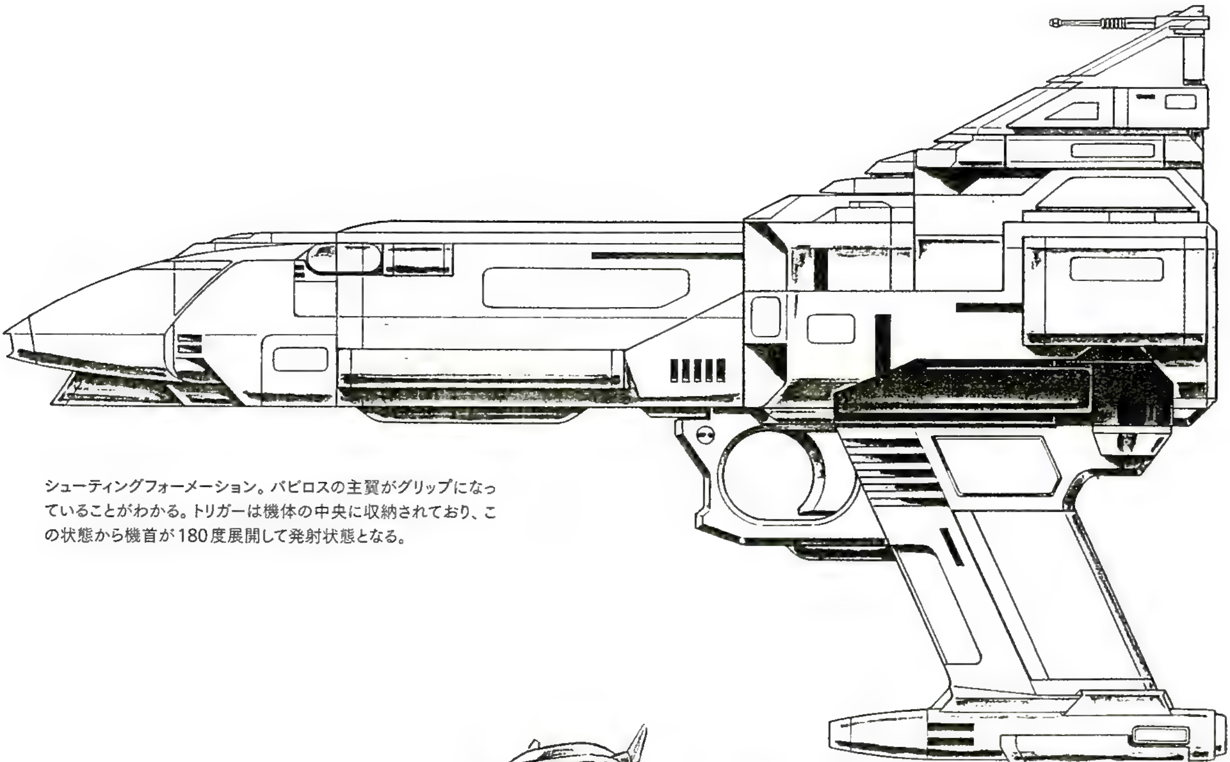




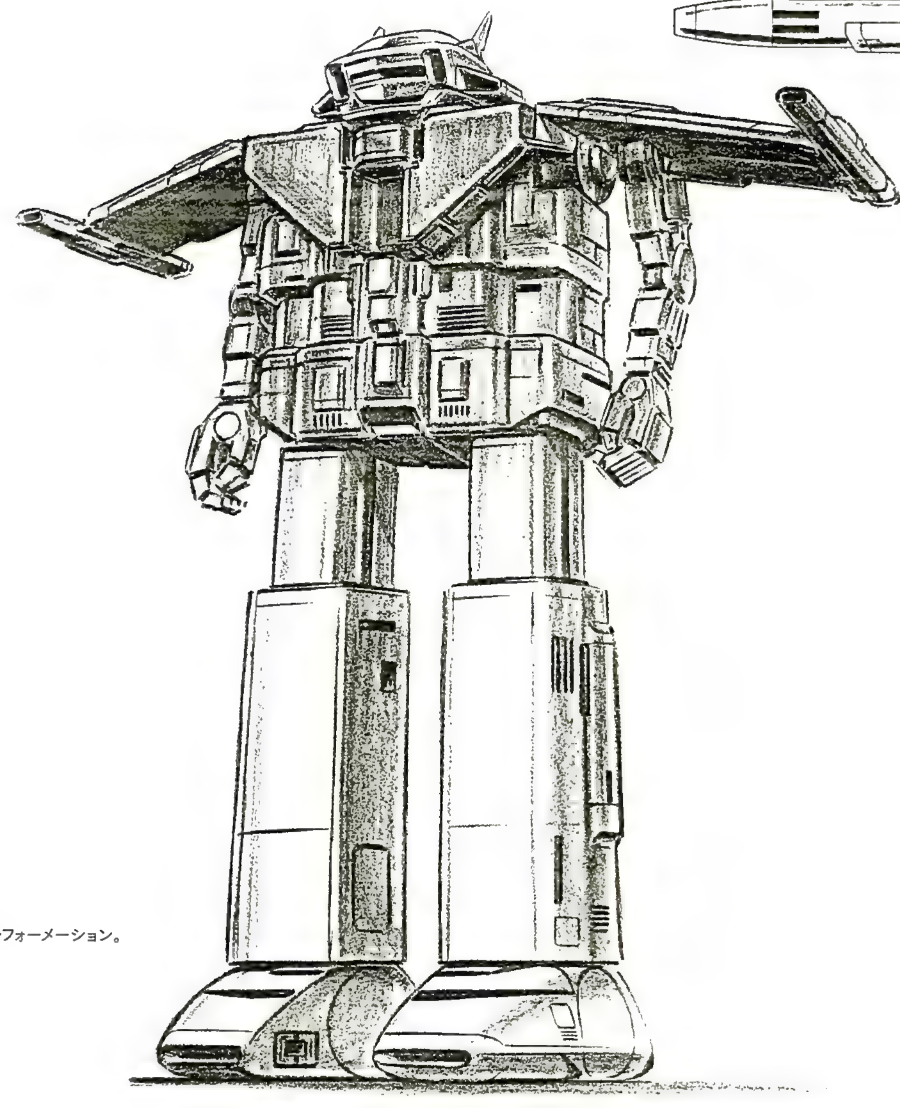
バビロスの機首が180度展開し、シューティングフォーメーションの発射口が現れる。



超次元戦闘母艦バビロス。バトルフォーメーション、シューティングフォーメーションに変化する。主翼は左右が一体になって銃のグリップとなる。

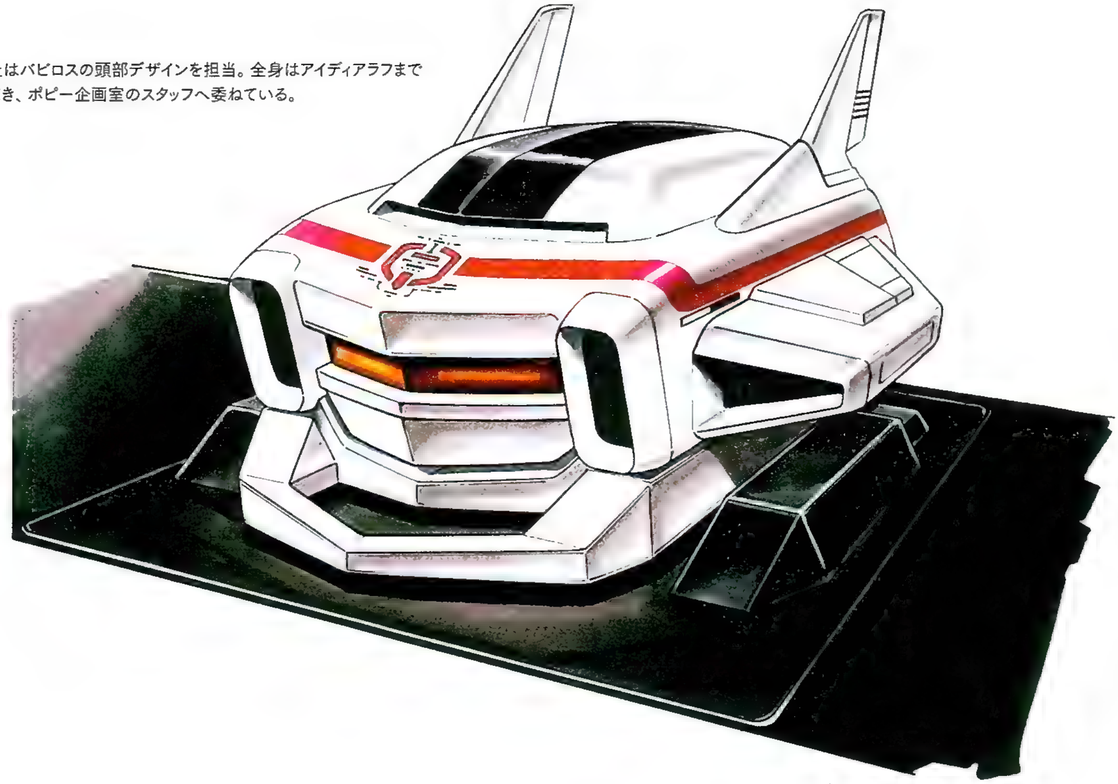


シューティングフォーメーション。バビロスの主翼がグリップになっていることがわかる。トリガーは機体の中央に収納されており、この状態から機首が180度展開して発射状態となる。



バビロスのバトルフォーメーション。

村上はバビロスの頭部デザインを担当。全身はアイディアラフまでを描き、ポピー企画室のスタッフへ委ねている。



超次元戦車シャイアン。宇宙刑事の戦車の共通意匠として、黒がベースとなっている。シャイダーのメインカラーである青はほとんど使用されていない。



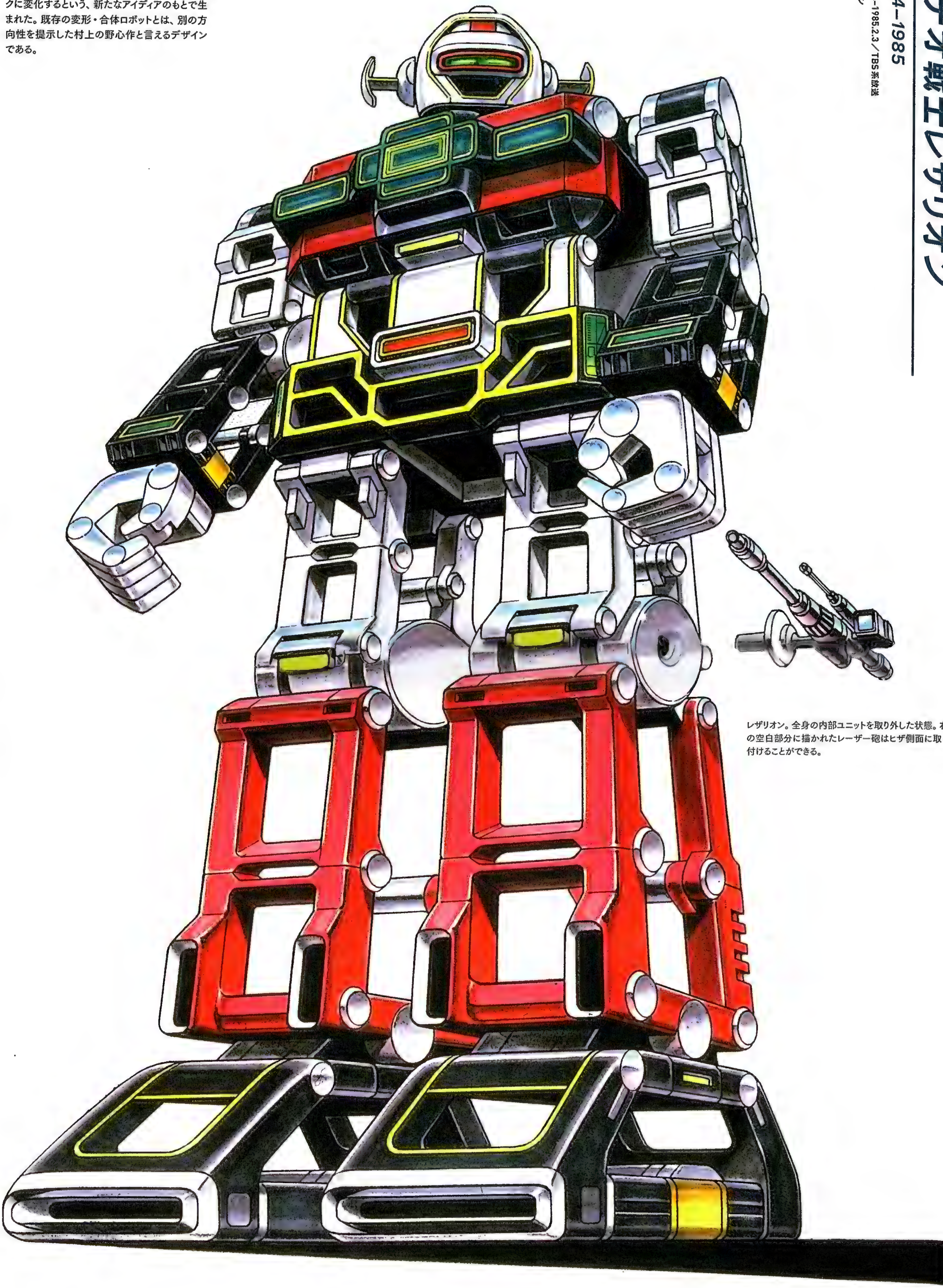
ビデオ戦士レザリオン

1984–1985

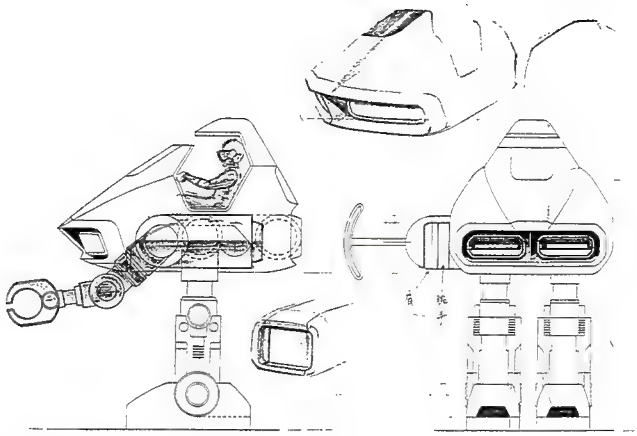
O.A. 1984.3.4–1985.2.3／TBS系放送

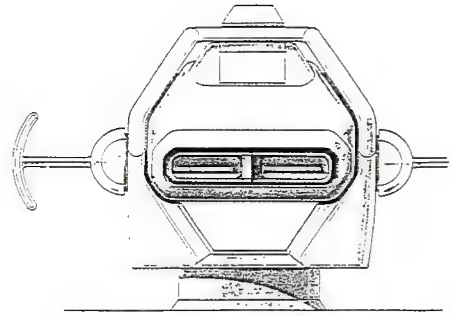
WORKS レザリオン

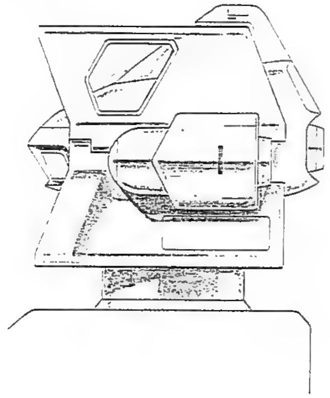
レザリオンは本体がパンタグラフ状に変形し、ボディの内部ユニットが合体して2種類のメカニックに変化するという、新たなアイディアのもとで生まれた。既存の変形・合体ロボットとは、別の方向性を提示した村上の野心作と言えるデザインである。



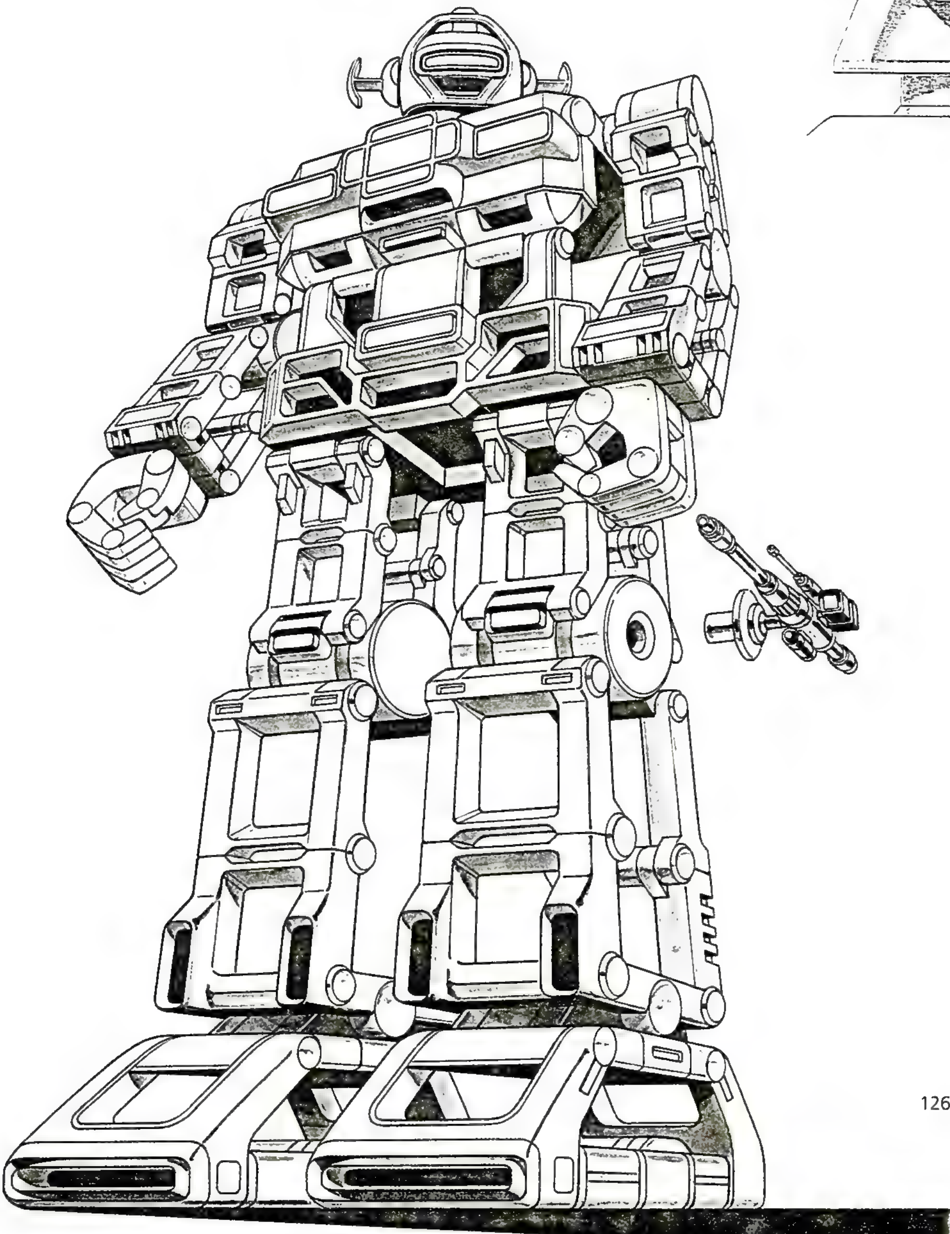
レザリオン。全身の内部ユニットを取り外した状態。右の空白部分に描かれたレーザー砲はヒザ側面に取り付けることができる。



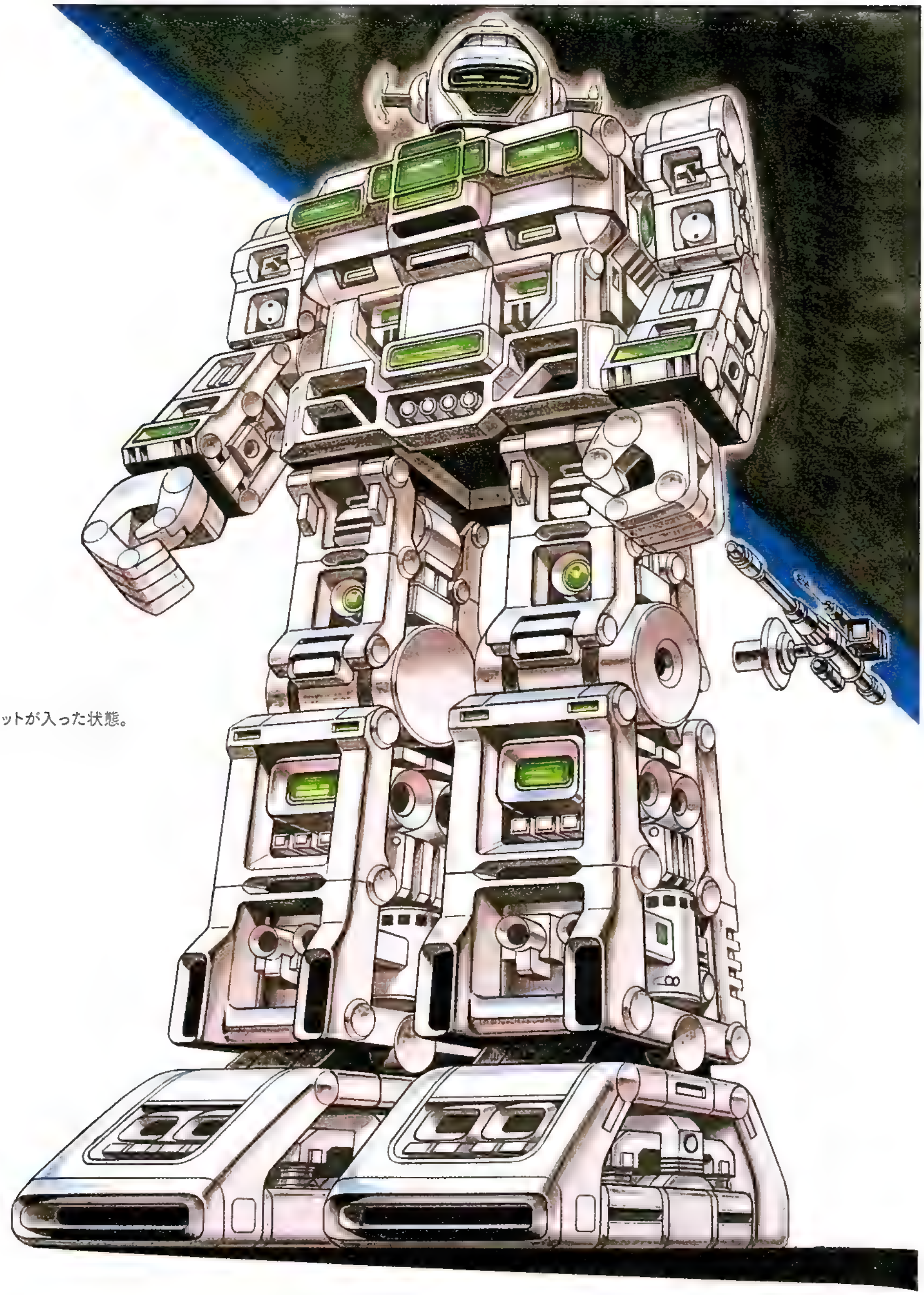




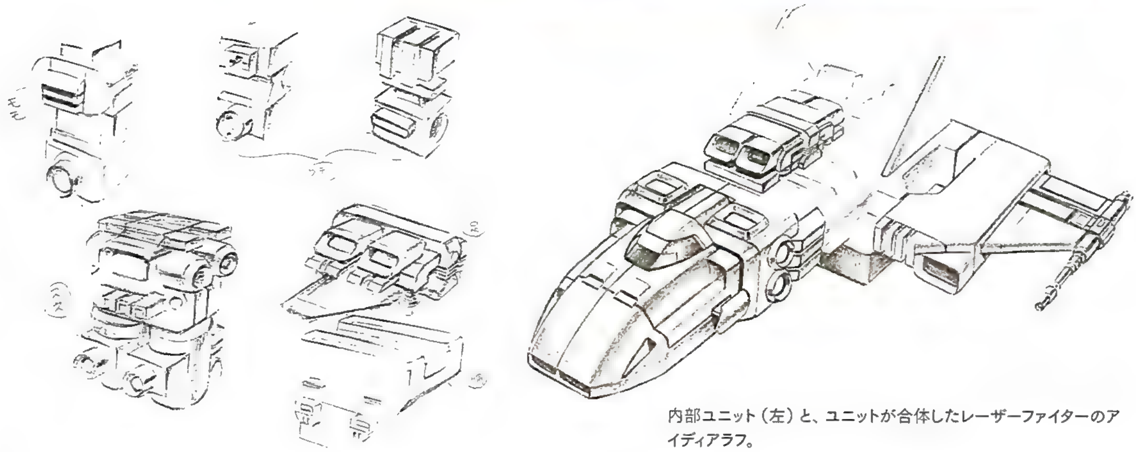
頭部（右端）とコクピット機。コクピット機は腕と脚パーツが付くアイディアも検討されていた。



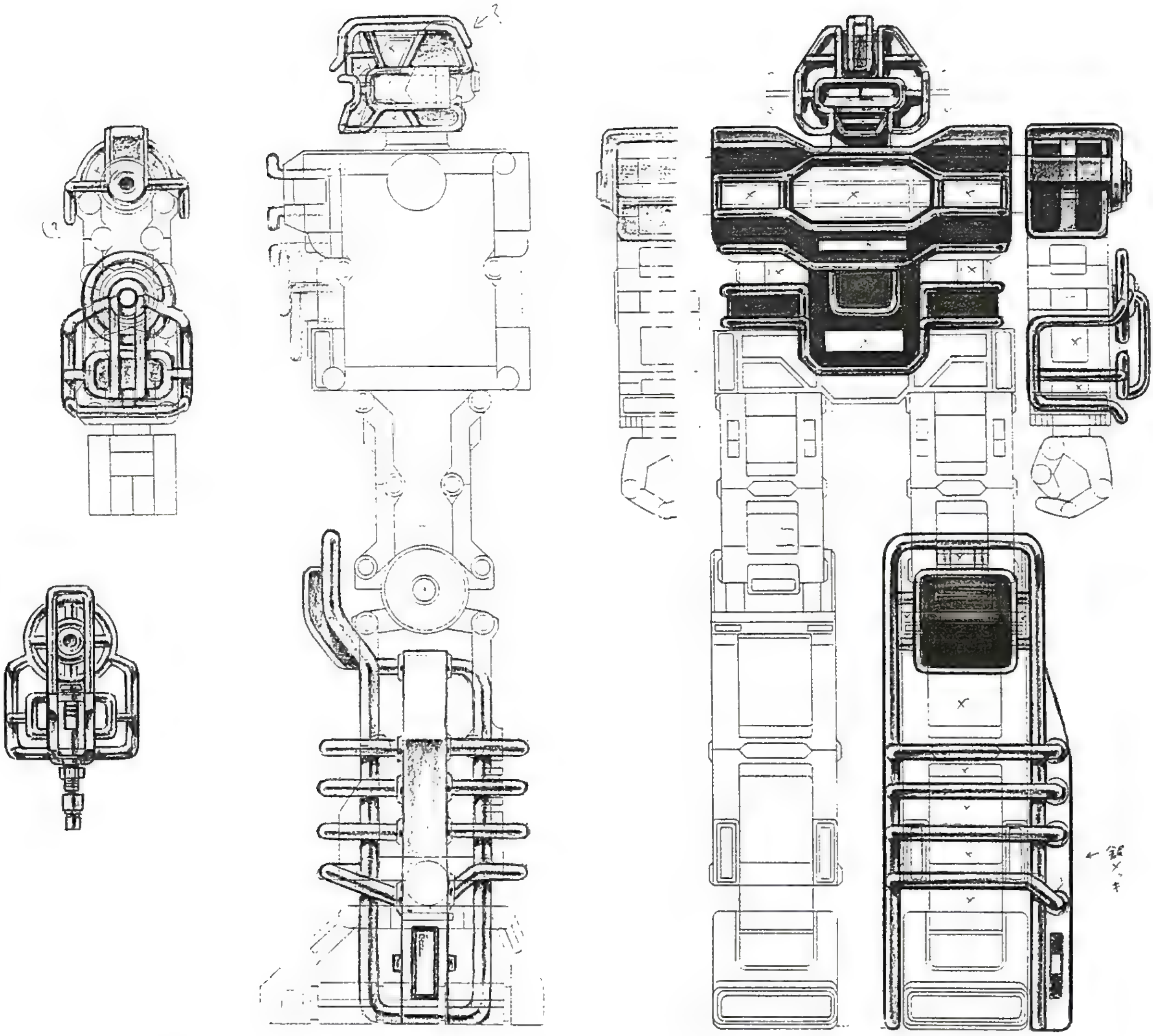
126ページのデザインの線画。



レザリオンのボディに内部ユニットが入った状態。



内部ユニット（左）と、ユニットが合体したレーザーファイターのアイディアラフ。



フルアーマーレザリオンのアイディアラフ。『DX超電送ロボ レザリオン』の商品用図面に直接描き足されている

石ノ森章太郎原作の特撮番組。スーパー戦隊、宇宙刑事に続くヒーローを模索する中、ゴーグルを怪傑ゾロのごとき覆面になぞらえる発想にたどり着く。かつ、ヘルメットへマシン（自動車）の意匠を盛り込むことで、デザインを先鋭化させていった。

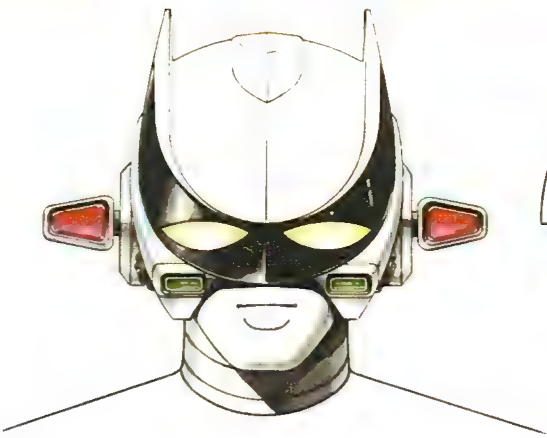
星雲仮面マシンマン

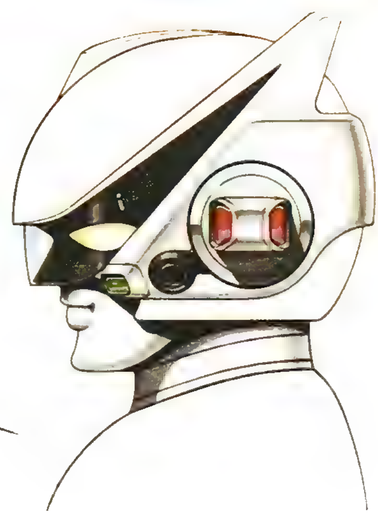
1984

1984.1.13–9.28／日本テレビ系放送 O.A
マーチャンダイズドデザイン WORKS

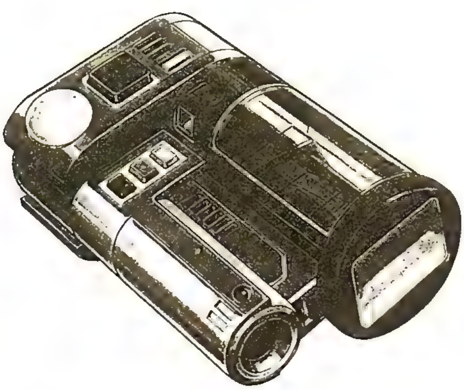




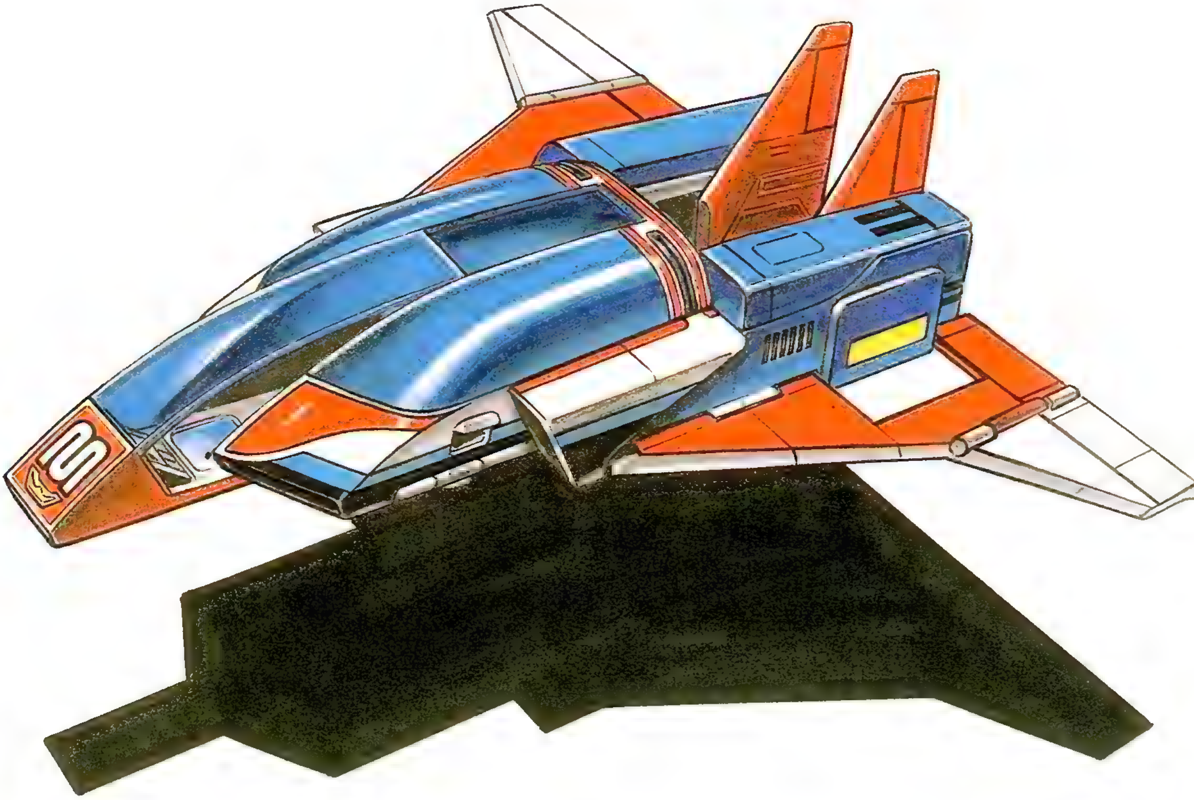




マシンマン頭部デザイン。口の部分は人間の顔がそのまま出ることを想定している。



ワープスロットル。これは携帯状態で、バレルを90度回転させるとスロットルガンとなる。



ドルフィンジェット。マシンドルフィンの飛行形態。後部のパーツが90度展開して主翼に変化する。機能の変化とともに、タイヤが前輪、後輪ともに格納されるところに村上のこだわりが感じられる。



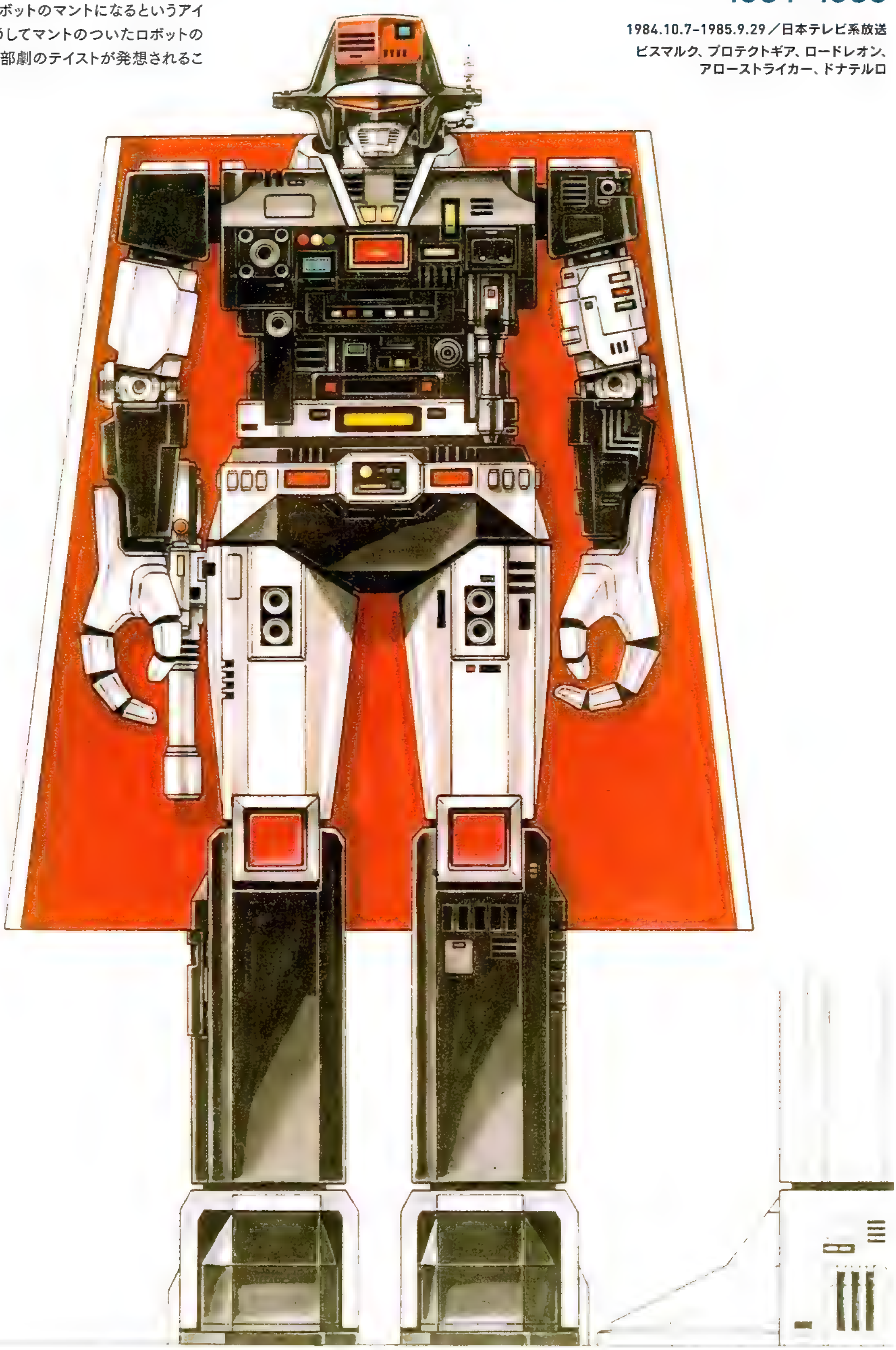
マシンドルフィン。レーシングマシンを思わせる優美なフォルムが鋭角的なドルフィンジェットに変形する。

これまで変形ロボットにとってひとつの難題となっていた、背面の余剰パーツ。それに対して、村上はこのビスマルクで独自に取り組み、それを解消する。具体的には戦闘母艦ビスマルクの甲板が折りたたまれ、ロボットのマントになるというアイディアである。こうしてマントのついたロボットのデザインから、西部劇のテイストが発想されることとなった。

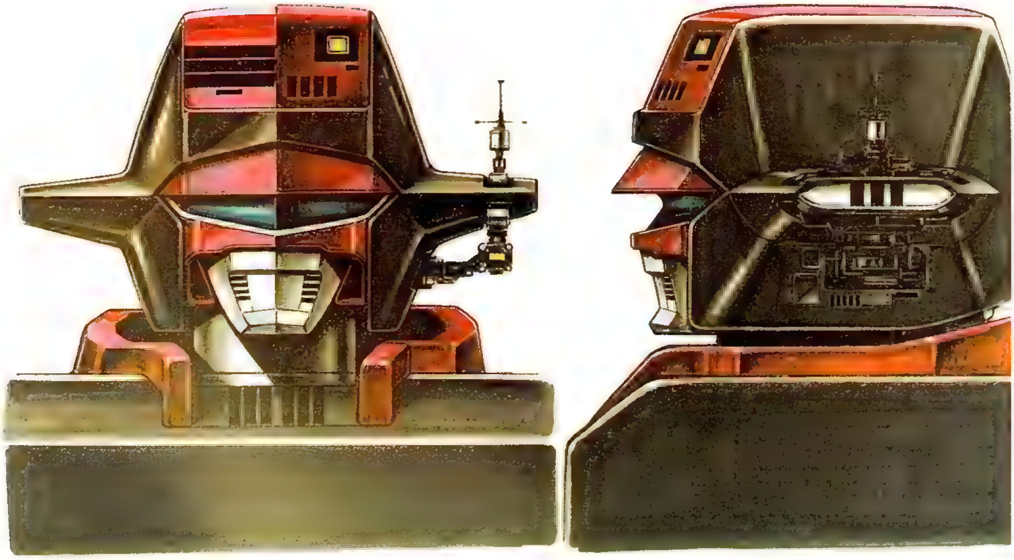
星銃士ビスマルク

1984–1985

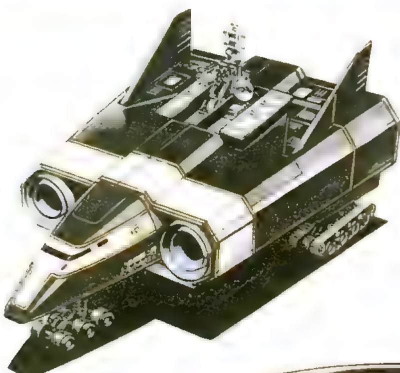
1984.10.7–1985.9.29／日本テレビ系放送
ビスマルク、プロテクトギア、ロードレオン、アローストライカー、ドナテルロ



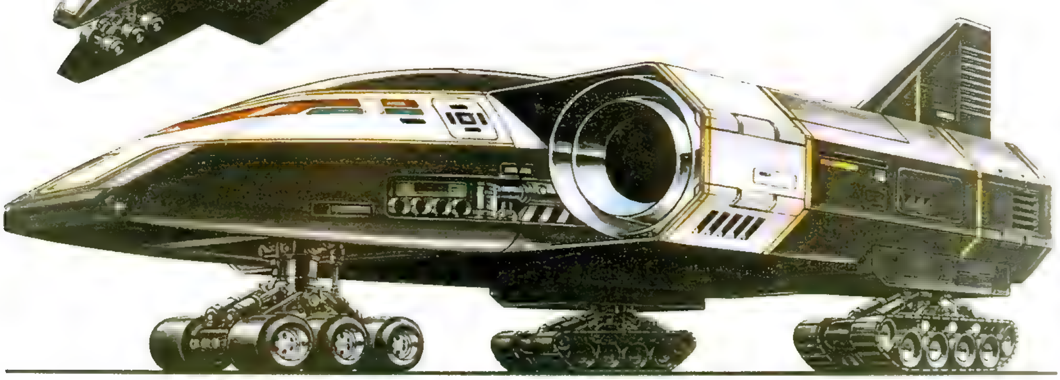
ビスマルク。テンガロンハットを被ったガンマンのごとき出で立ち。腰には拳銃ロングトムをぶら下げている。左胸の大砲は取り外された状態。



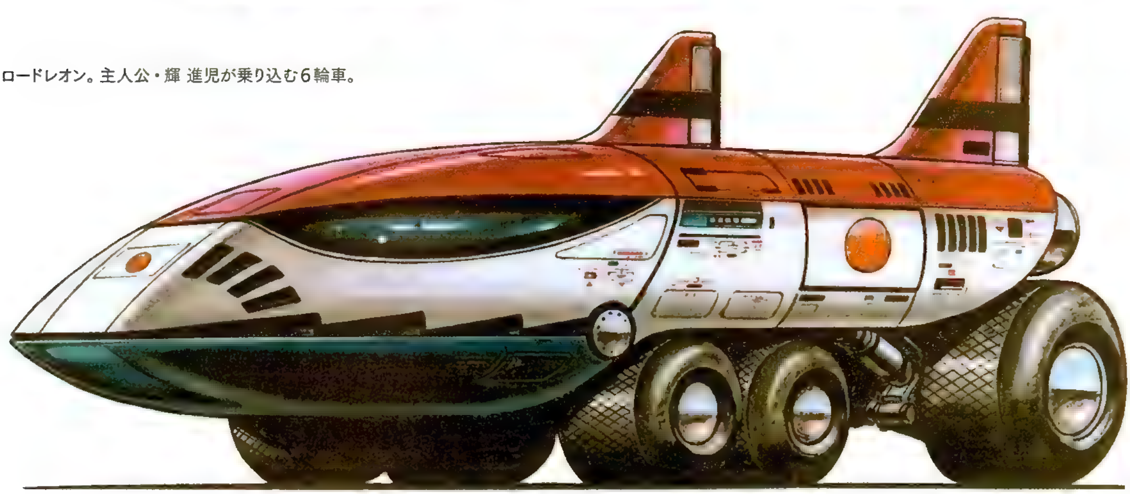
ビスマルク頭部。額や頭部右側などが左右非対称となっていることがわかる。カラーリングはこちらが決定となった。

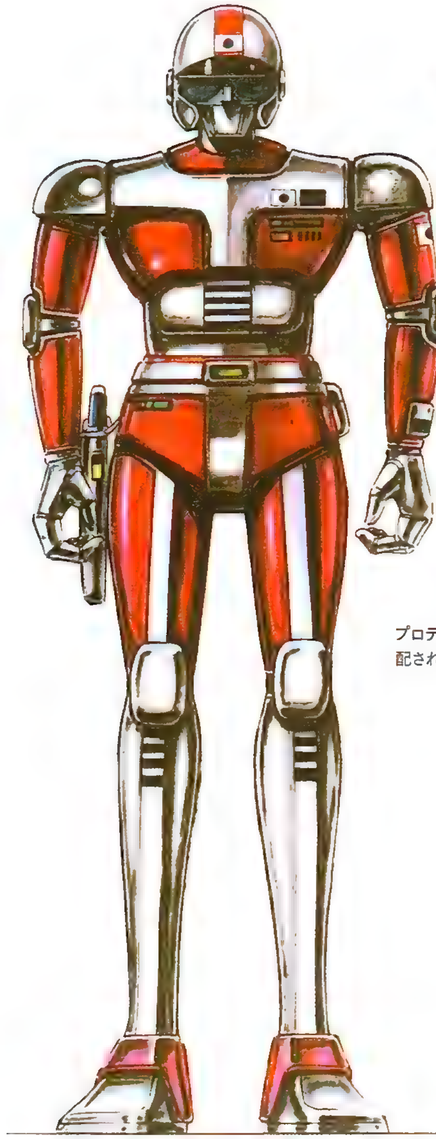


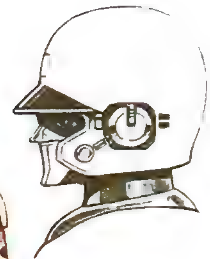
戦闘母艦ビスマルク。機首以外の装甲が折りたたまれて、ビスマルクのプロテクターマントとなる。



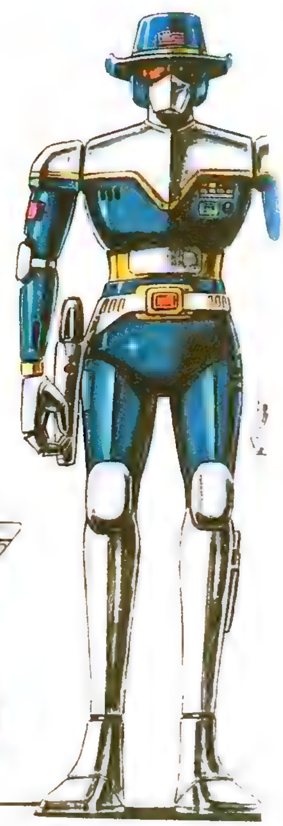
ロードレオン。主人公・輝 進児が乗り込む6輪車。

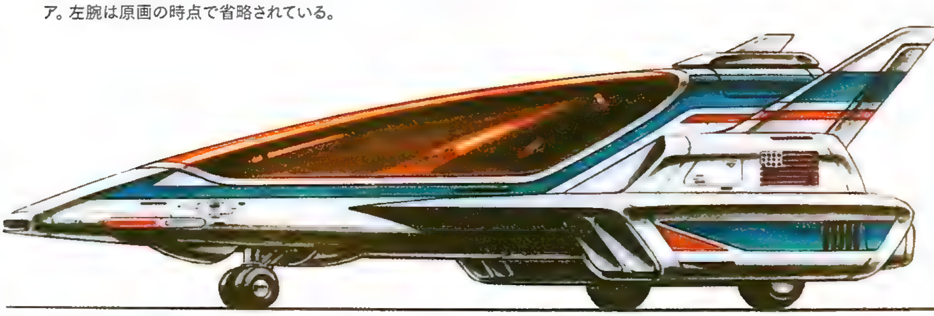




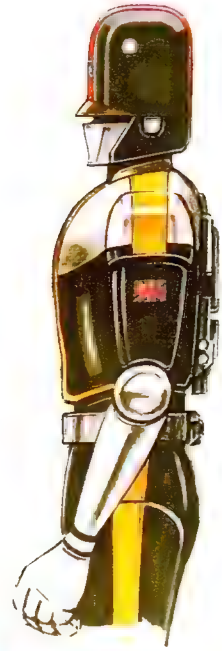


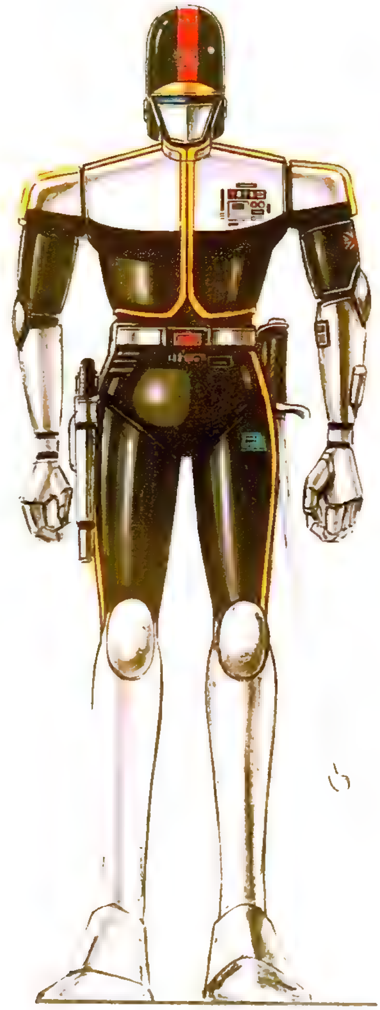
プロテクトギア（輝 進児用）。各メンバーともに出身国の国旗が配されている。

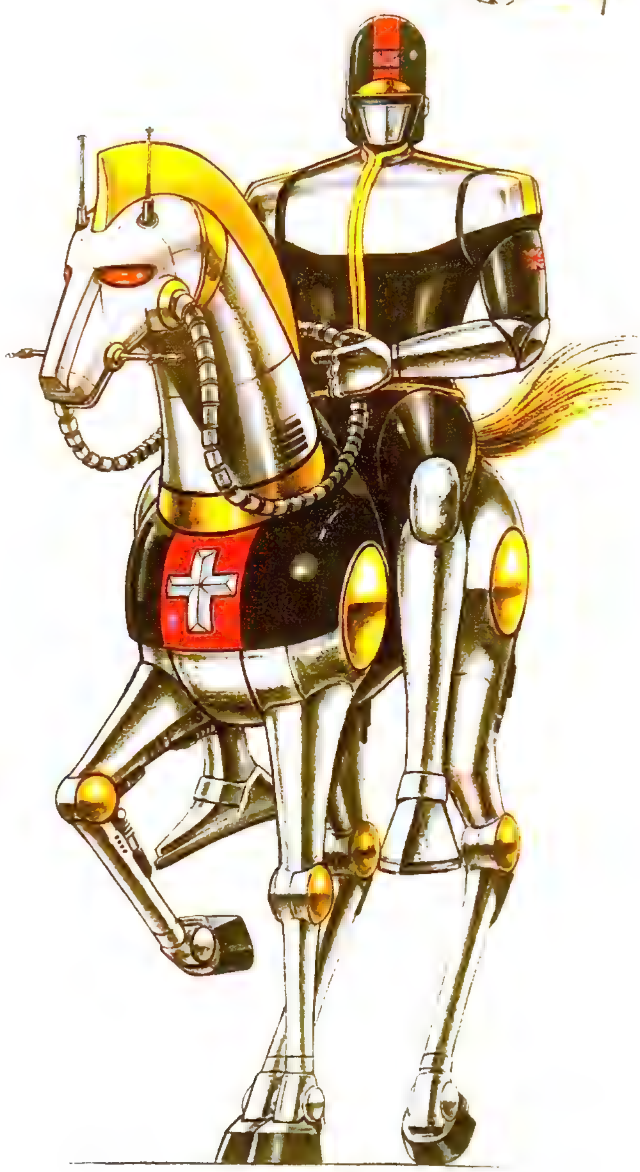




戦闘機アローストライカーとビル・ウィルコックス用のプロテクトギア。左腕は原画の時点で省略されている。



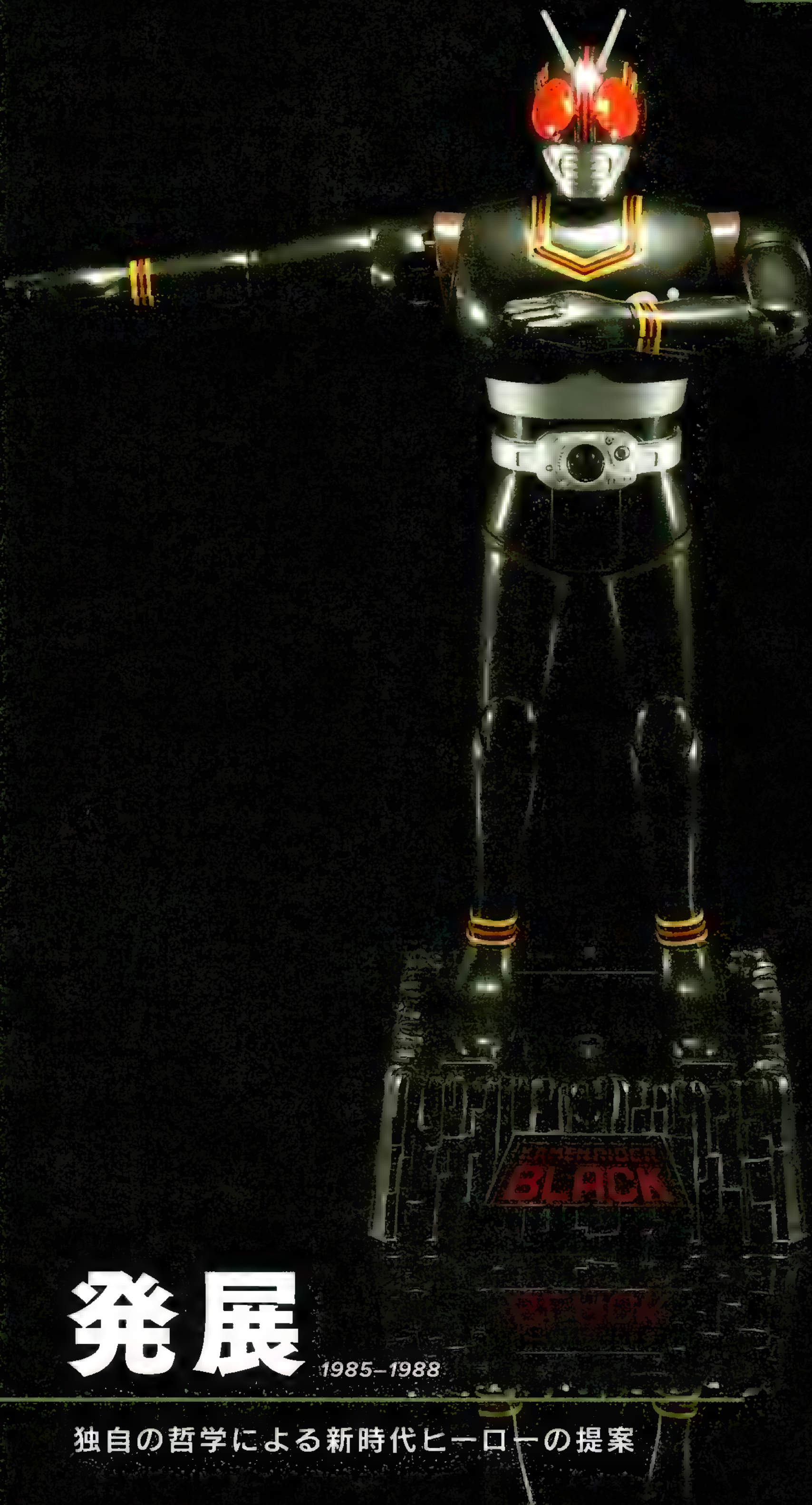




スペースホース・ドナテルロに乗るリチャード・ランスロット。上はリチャード用のプロテクトギア。左腰にサーベルを装備する。

第3章

CHAPTER 3



発展

1985–1988

独自の哲学による新時代ヒーローの提案

電撃戦隊チェンジマン

1985–1986

O.A. 1985.2.2–1986.2.22

WORKS ヒーロー、チェンジロボ

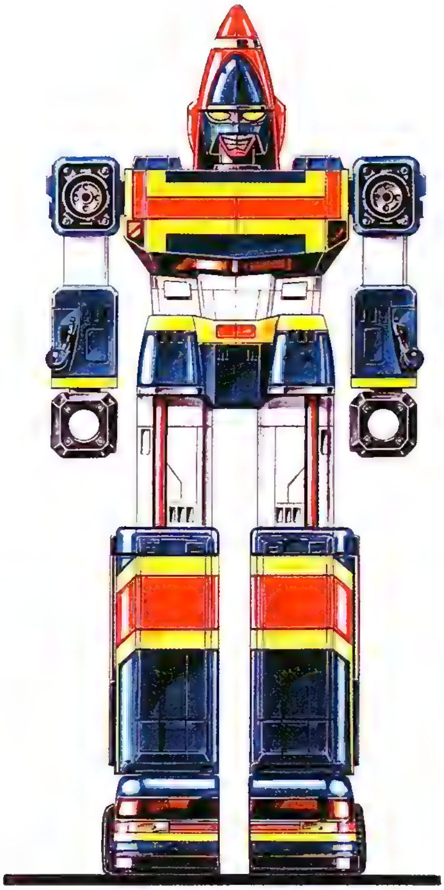
村上はスーパー戦隊シリーズ前作の『バイオマン』以降、後進のデザイナーに少しずつデザインワークを移行していくことになる。それは村上がバンダイに自らのデザイン理論を浸透させることに繋がっていく。『チェンジマン』は過渡期に当たる作品であり、ヒーローとロボットのデザインを重点的に担当している。



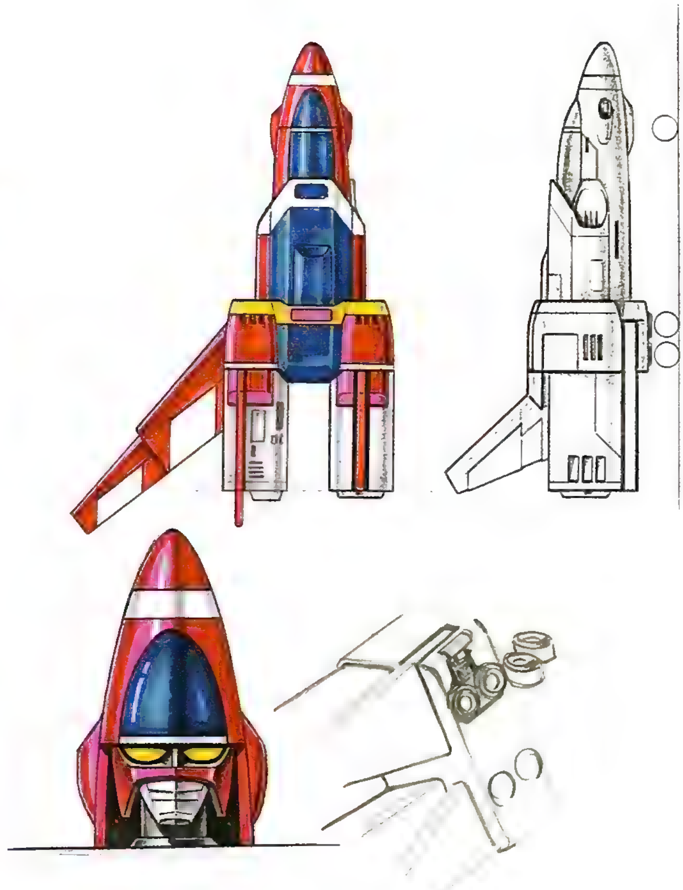
チェンジドラゴン。チェンジマンはスーパー戦隊のヒーローの中でも極めてシンプルなスーツデザインとなった。これにはスポーツウェアが発想の原点に存在しているという。ベルトと拳のエンブレムはドラゴンの「D」からチェンジマンの共通エンブレムに変更された。



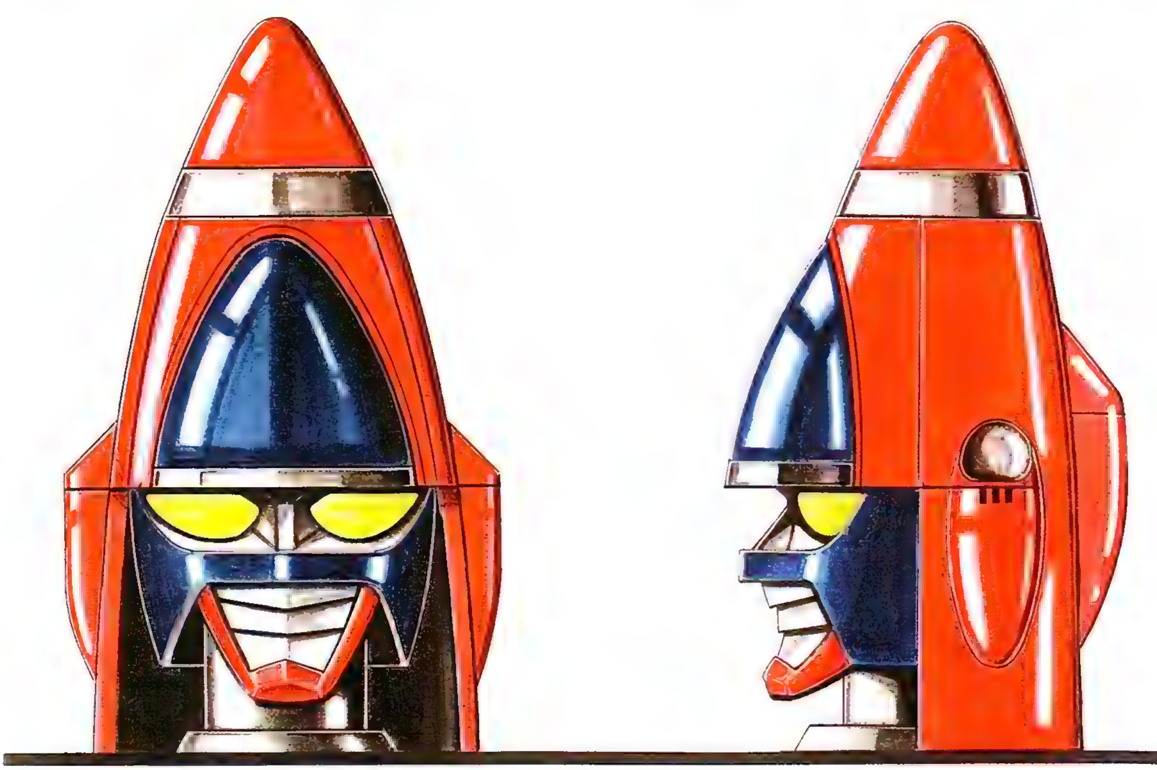
チェンジマンのマスク。ドラゴン、グリフォン、ペガサス、マーメイド、フェニックスとそれぞれの伝説獣が額に存在した。その周辺の模様（エフェクト）もモチーフによって変更されている。



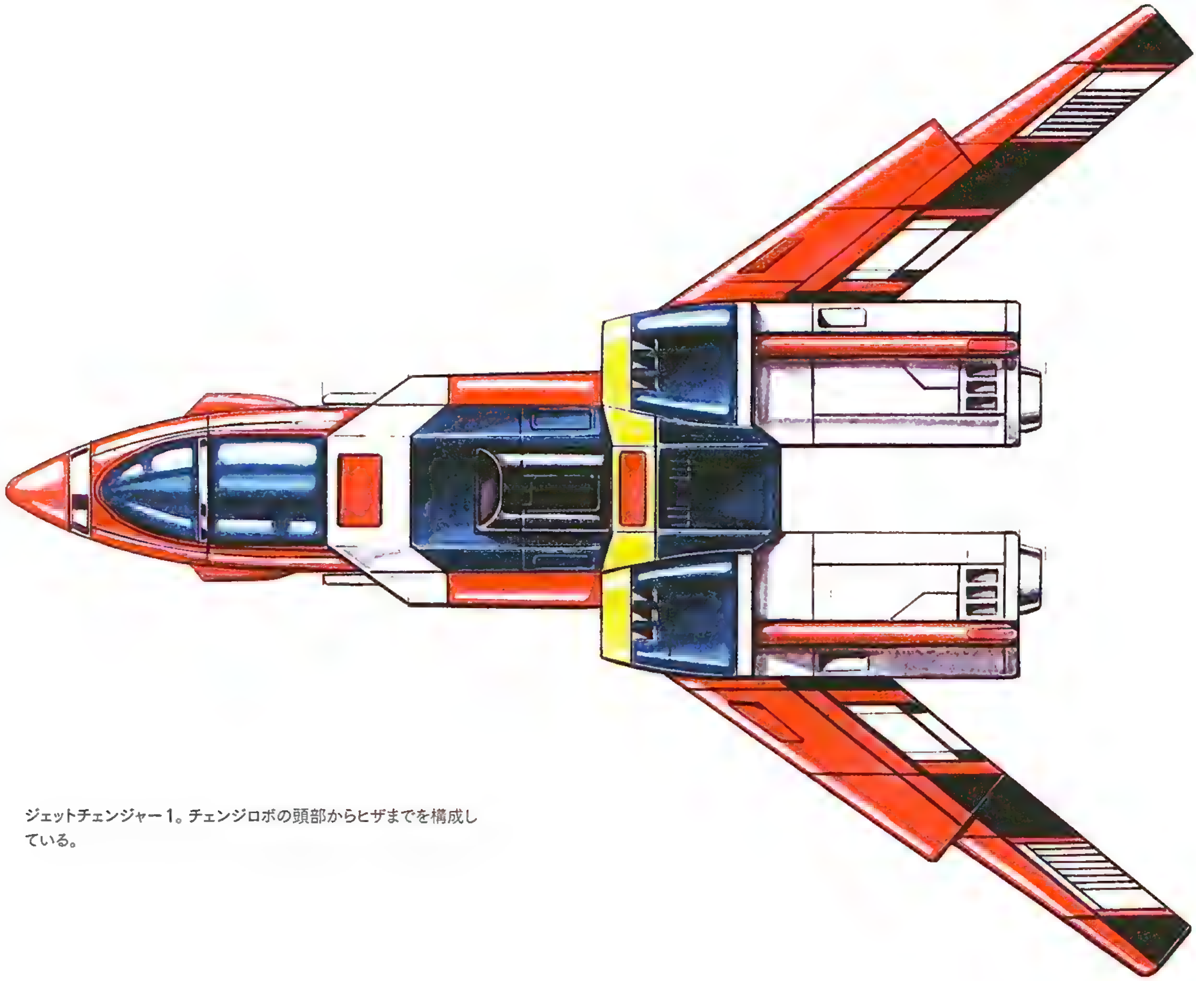
チェンジロボ。バイオロボのストライプを受け継ぎ、赤や黄色のラインが全身に配置された。



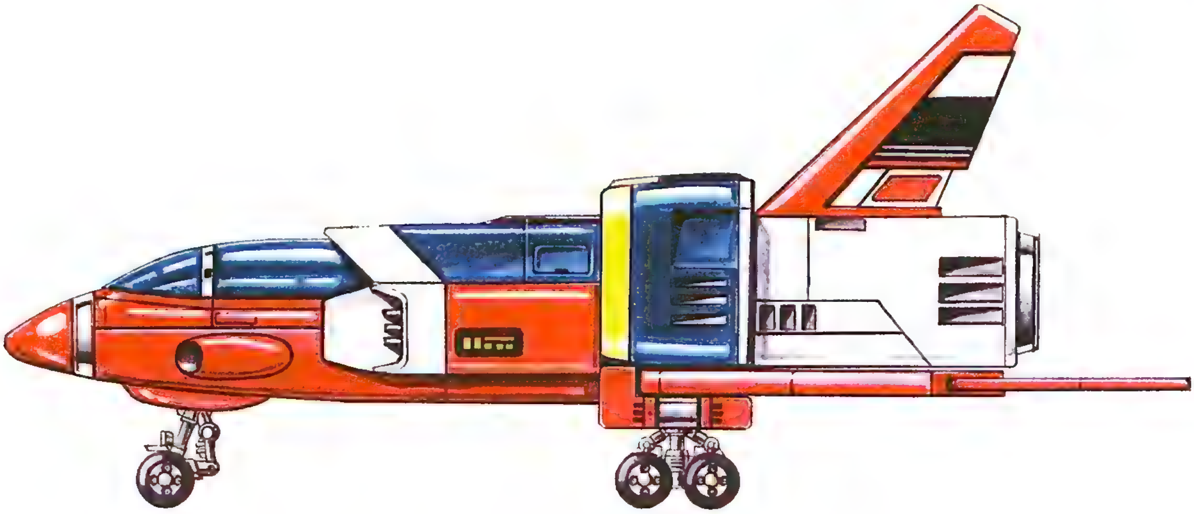
チェンジロボ頭部とジェットチェンジャー１のアイディアラフ。頭部の横に描かれているのは着陸脚のアイディア。



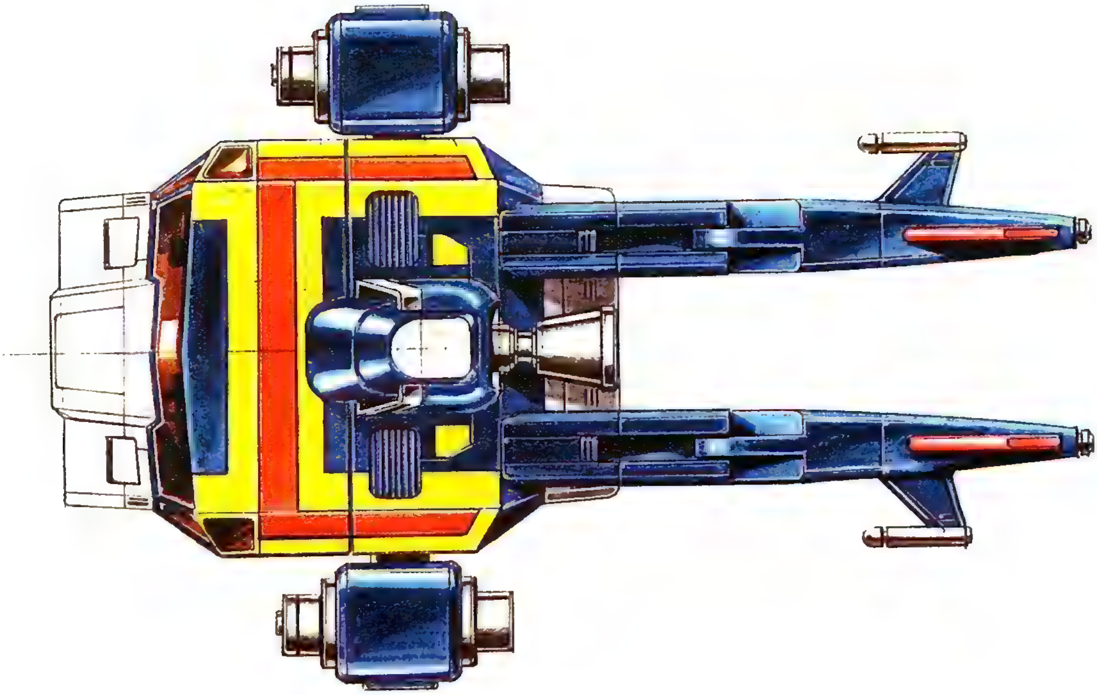
チェンジロボの頭部。シンプルなデザインだが、目や顎の形状が何度も手直しが行われている。

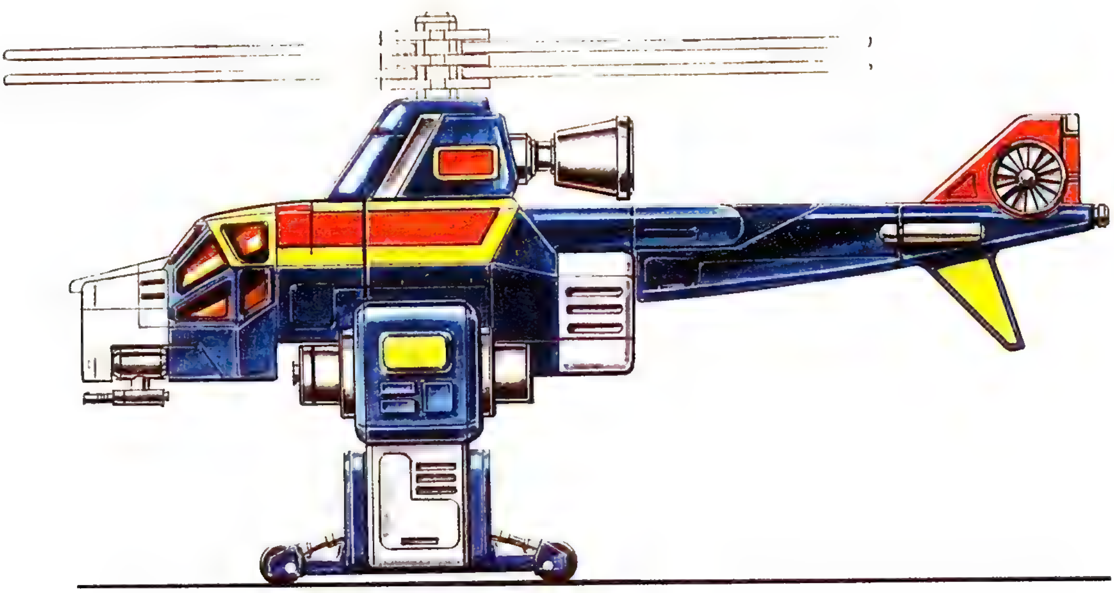


ジェットチェンジャー1。チェンジロボの頭部からヒザまでを構成している。

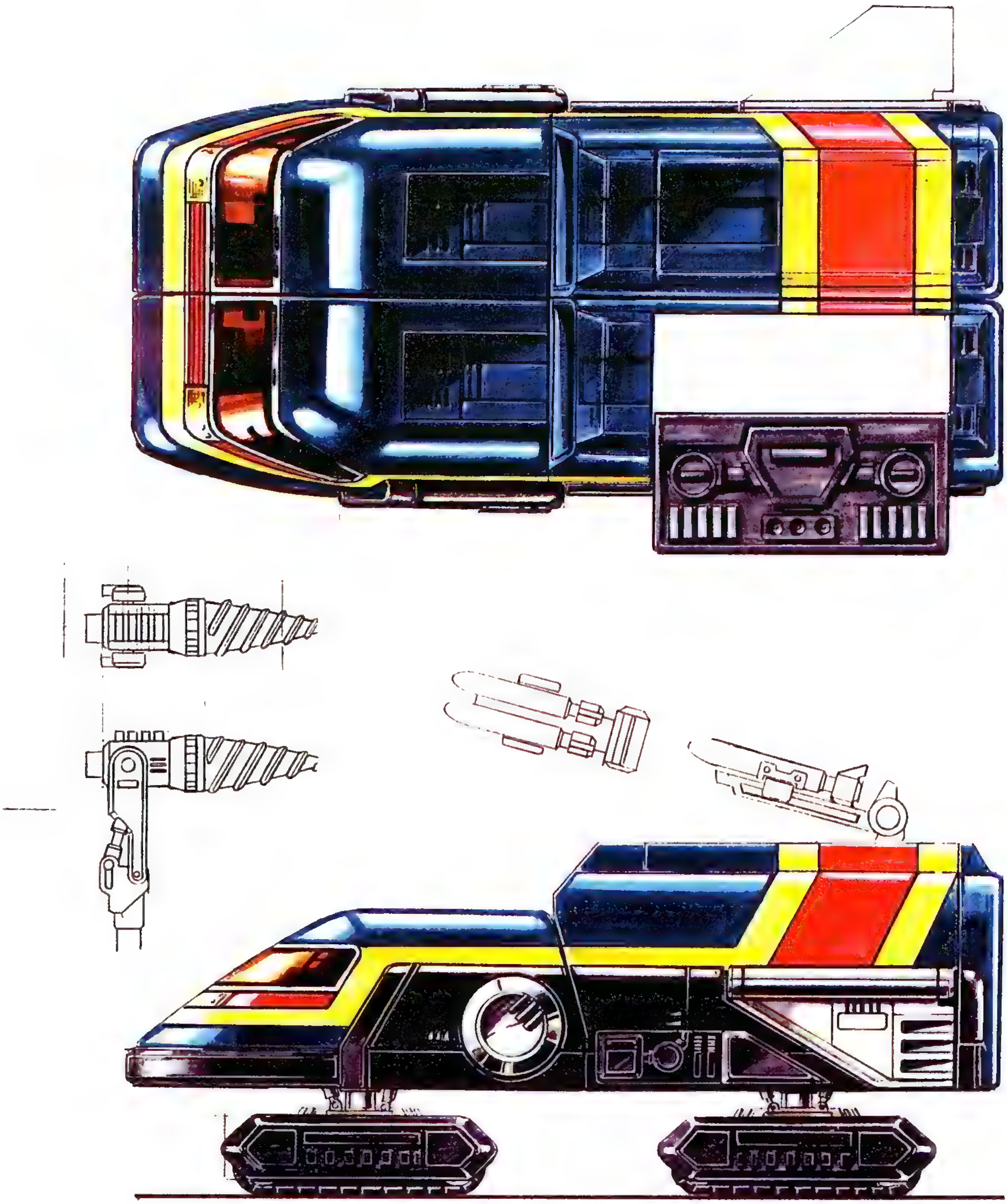


ジェットチェンジャー1の側面。頭部は機首のドームに存在する。





ヘリチェンジャー2。スーパー戦隊ロボ、初のヘリコプターメカとなる。中央から機体が前後に割れて、チェンジロボの胸、胴体、腕となる。



ランドチェンジャー3。チェンジロボのヒザから下を構成する。中央に描きこまれたドリルとミサイルは後部パネルが開いて現れる武装である。

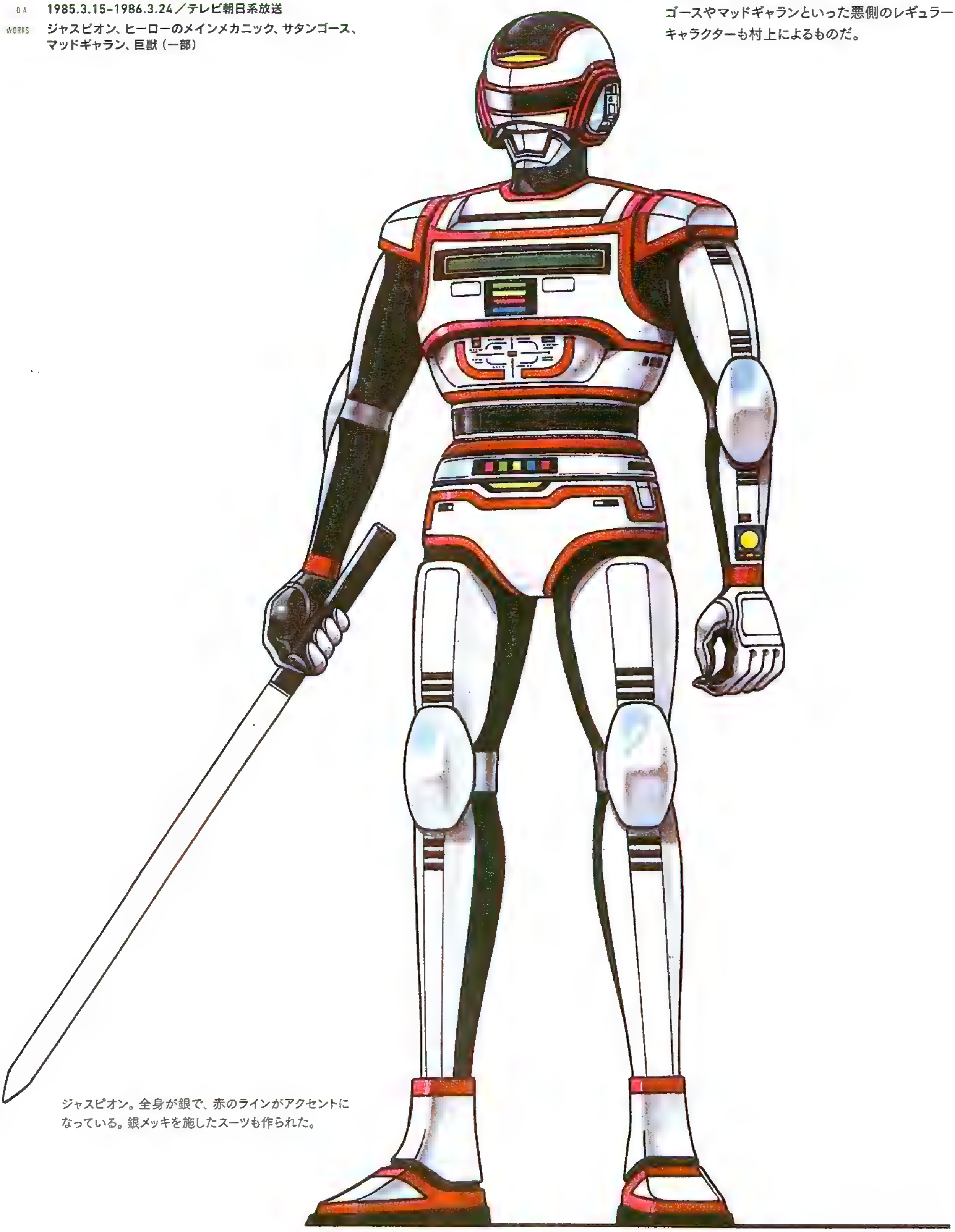
巨獣特捜ジャスピオン

1985–1986

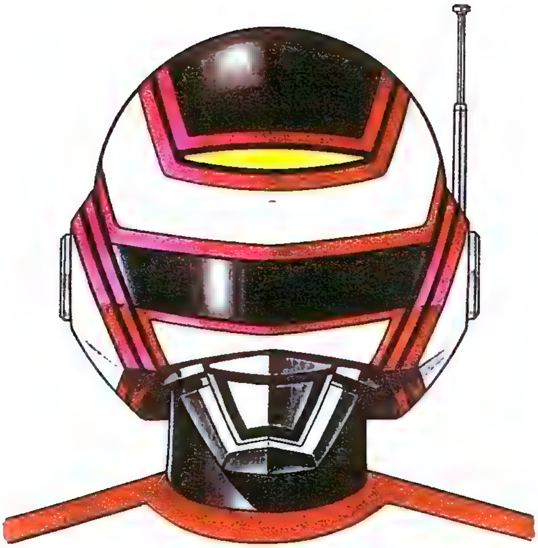
OA 1985.3.15–1986.3.24／テレビ朝日系放送

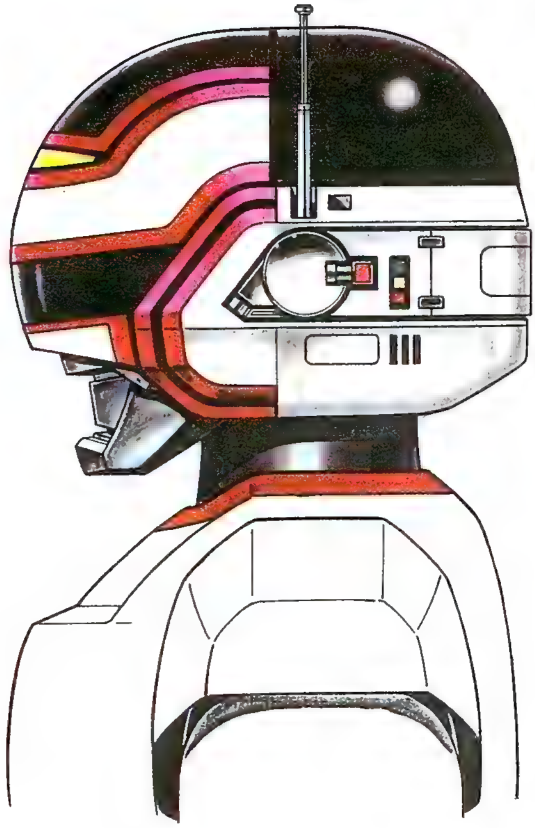
WORKS ジャスピオン、ヒーローのメインメカニック、サタンゴース、マッドギャラン、巨獣（一部）

宇宙刑事シリーズに続く強化スーツヒーローで、現在は「メタルヒーローシリーズ」としてカテゴライズされている。巨獣と呼ばれる巨大モンスターが毎回登場するのが作品の特徴であり、村上も多くの巨獣のデザインを手掛けた。また、サタンゴースやマッドギャランといった悪側のレギュラーキャラクターも村上によるものだ。

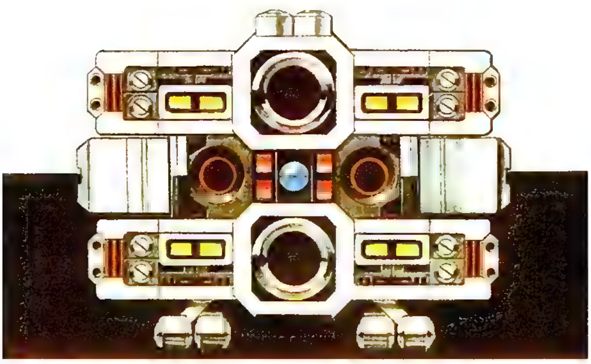


ジャスピオン。全身が銀で、赤のラインがアクセントになっている。銀メッキを施したスーツも作られた。

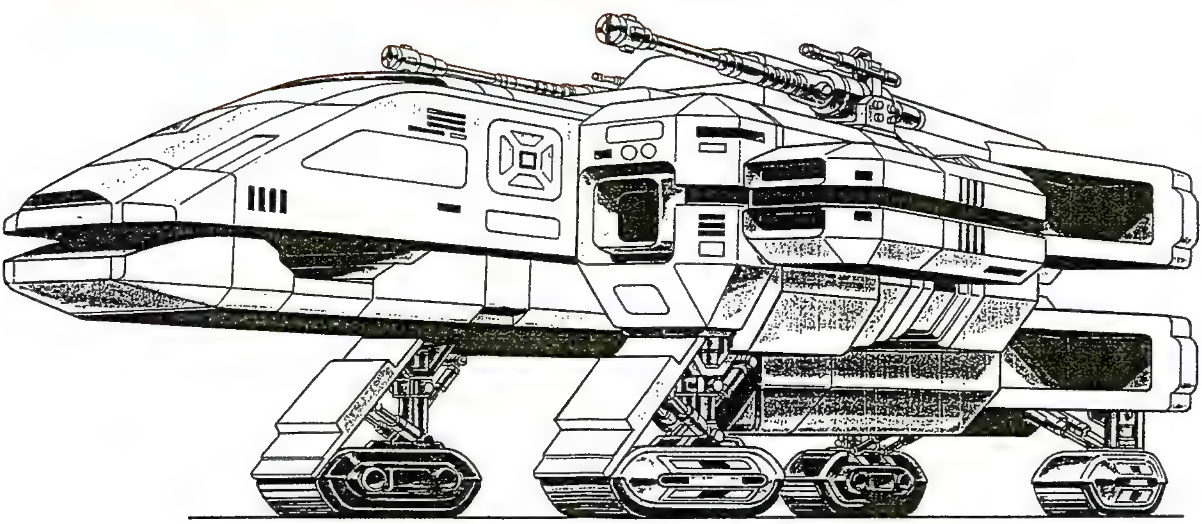


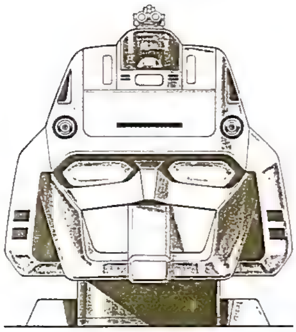


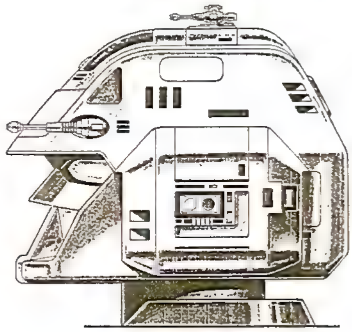
ジャスピオンのマスク。デザインではゴーグルの中央に若干の角度がついていることがわかる。



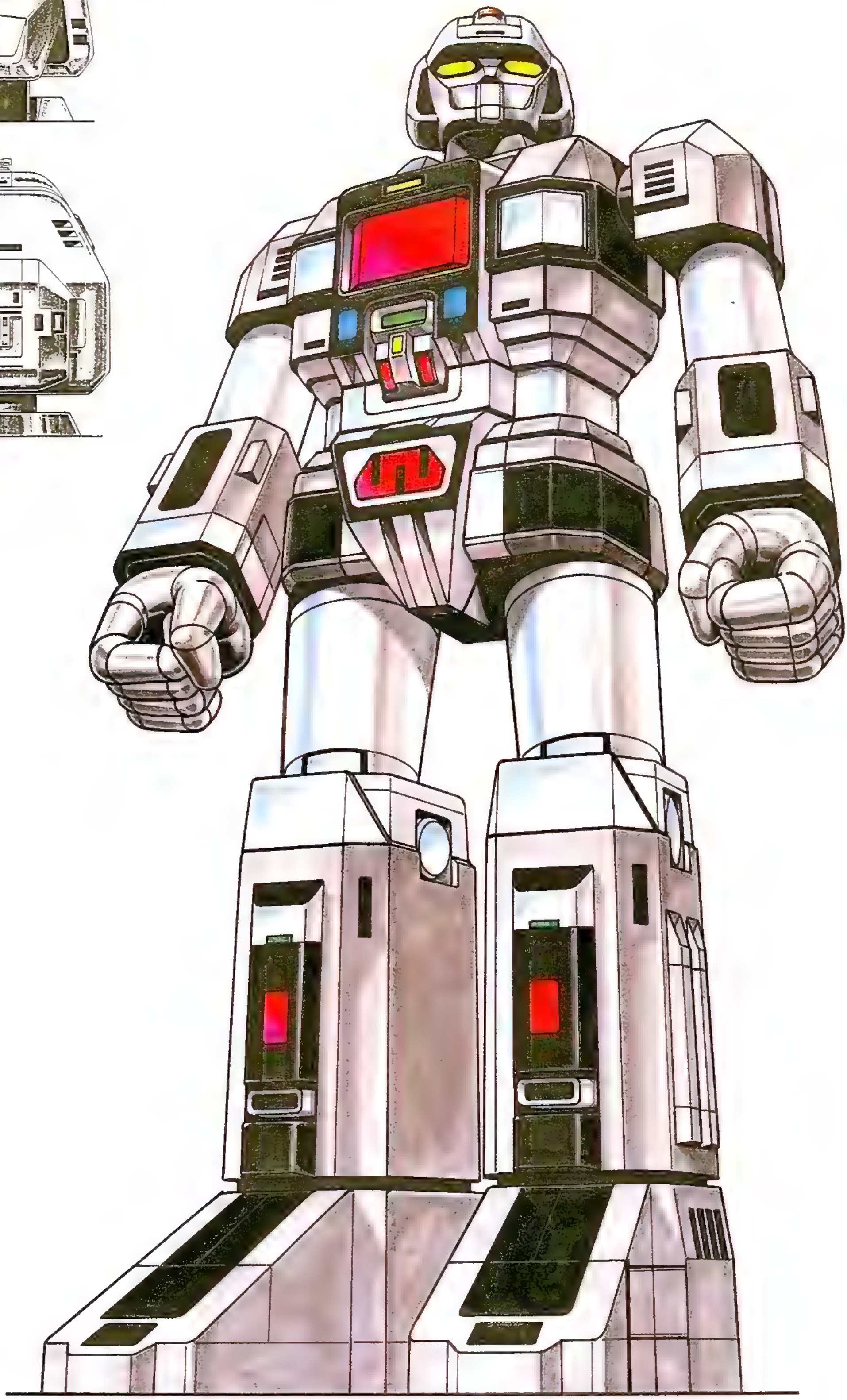
超惑星戦闘母艦ダイレオン。左は船体後部。







超惑星戦闘巨人ダイレオン。超惑星戦闘母艦が変形した姿である。頭部には3門の機銃が備えられている。





ガービンジェット。ガービンの上部が分離した飛行メカ。



超惑星戦車ガービン。下はガービンミサイルの発射口（左）を開けた状態。





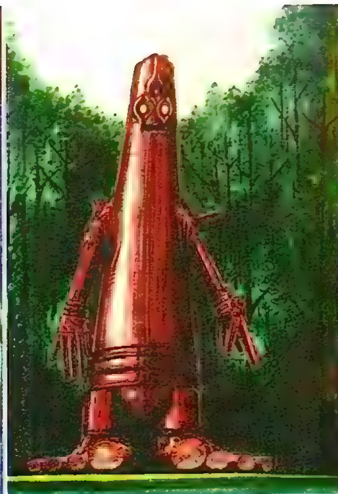
サタンゴースのイメージイラスト。村上が特撮作品で敵側をデザインすることは極めて珍しい。





マッドギャラン。ジャスピオンに敵対する悪のヒーロー。曲線を多用することで、正義のヒーローとの差別化を行っている。



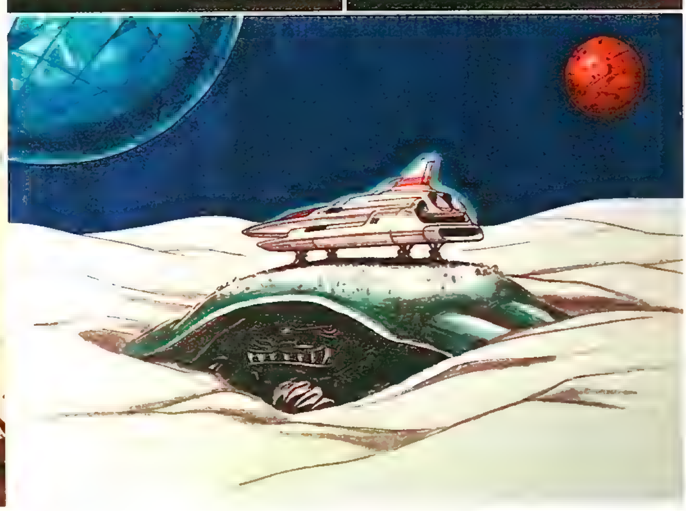






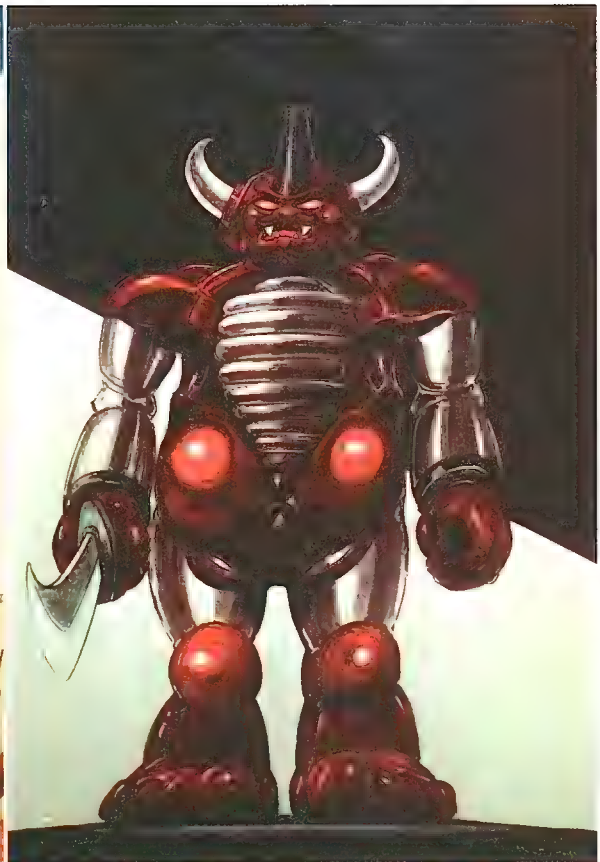




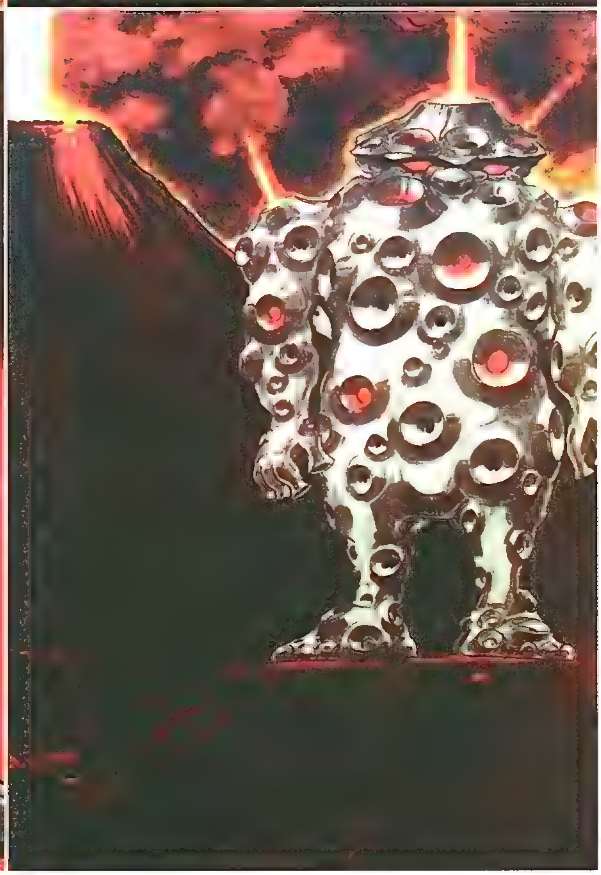


村上の手がけた巨獣デザイン。150ページの左一列目上からハネダー、マグネーダー。二列目上からキダマー、ダイマン星人、ガイオス（原案）。三列目上からマリゴス、ピラザール。
151ページの一列目上からイワゴリーラ（原案）、テツゴス。二列目上からオニデビラー、ゲルゴン。







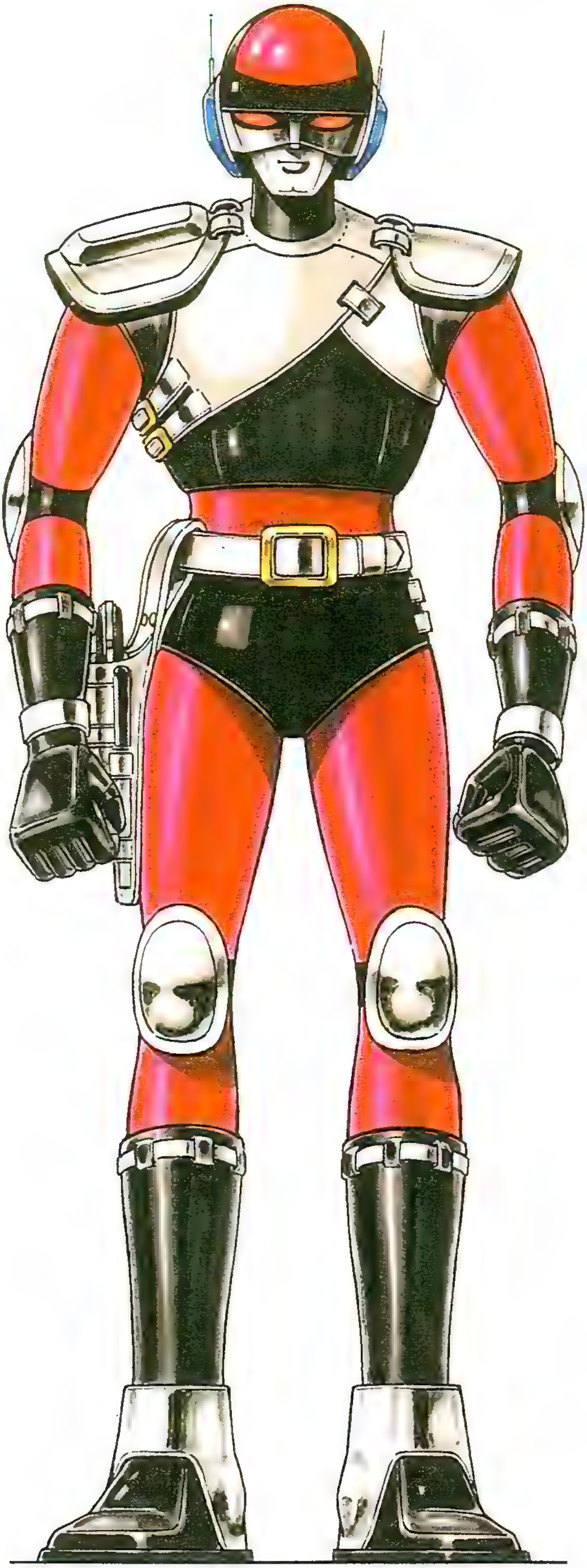


兄弟拳バイクロッサー

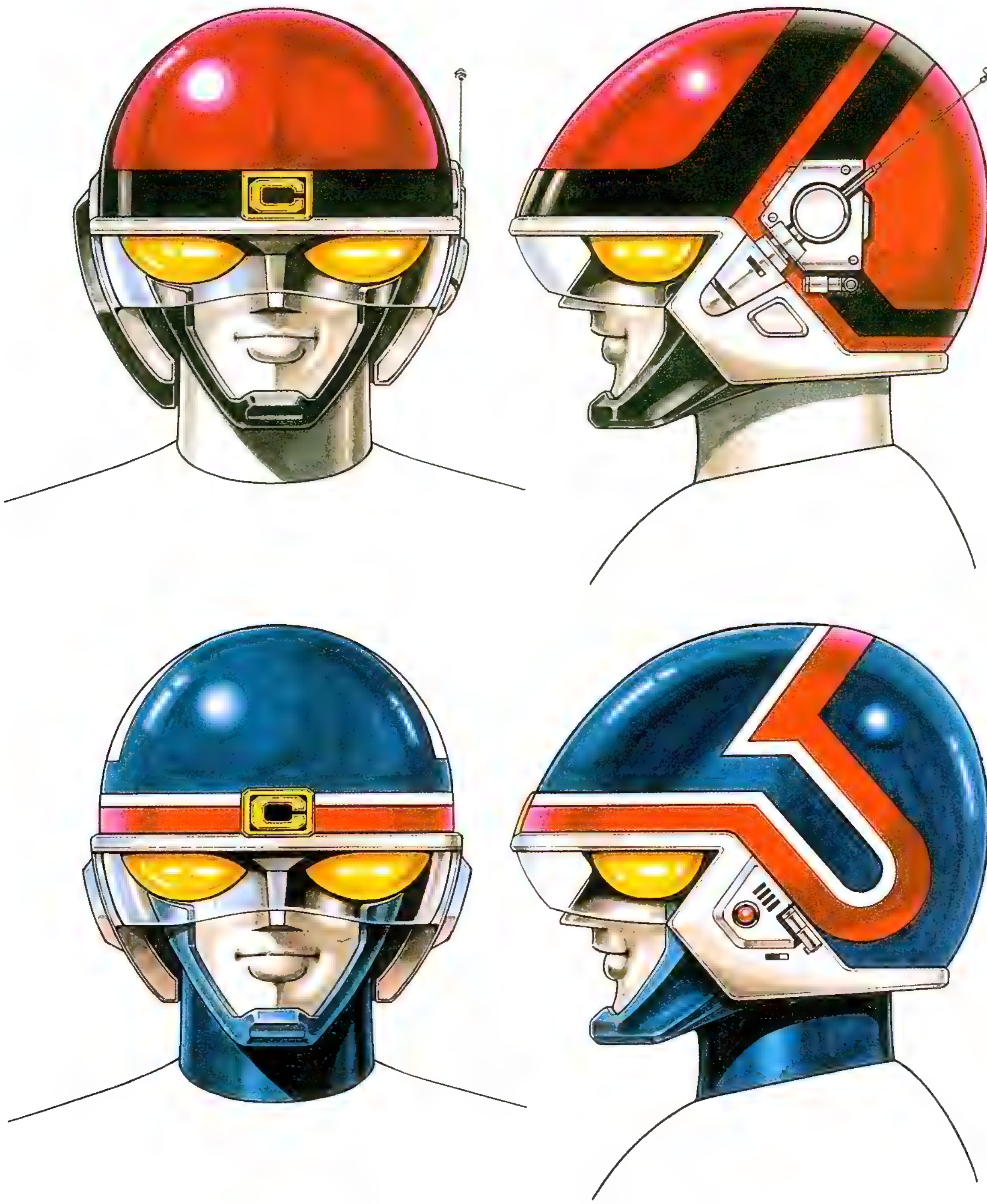
1985

石ノ森章太郎原作の特撮ヒーローアクション。マシンマンと同様に、ヒーローとマシンが密接な関係にある。兄弟戦士と大型武器になるバイクが特徴である。

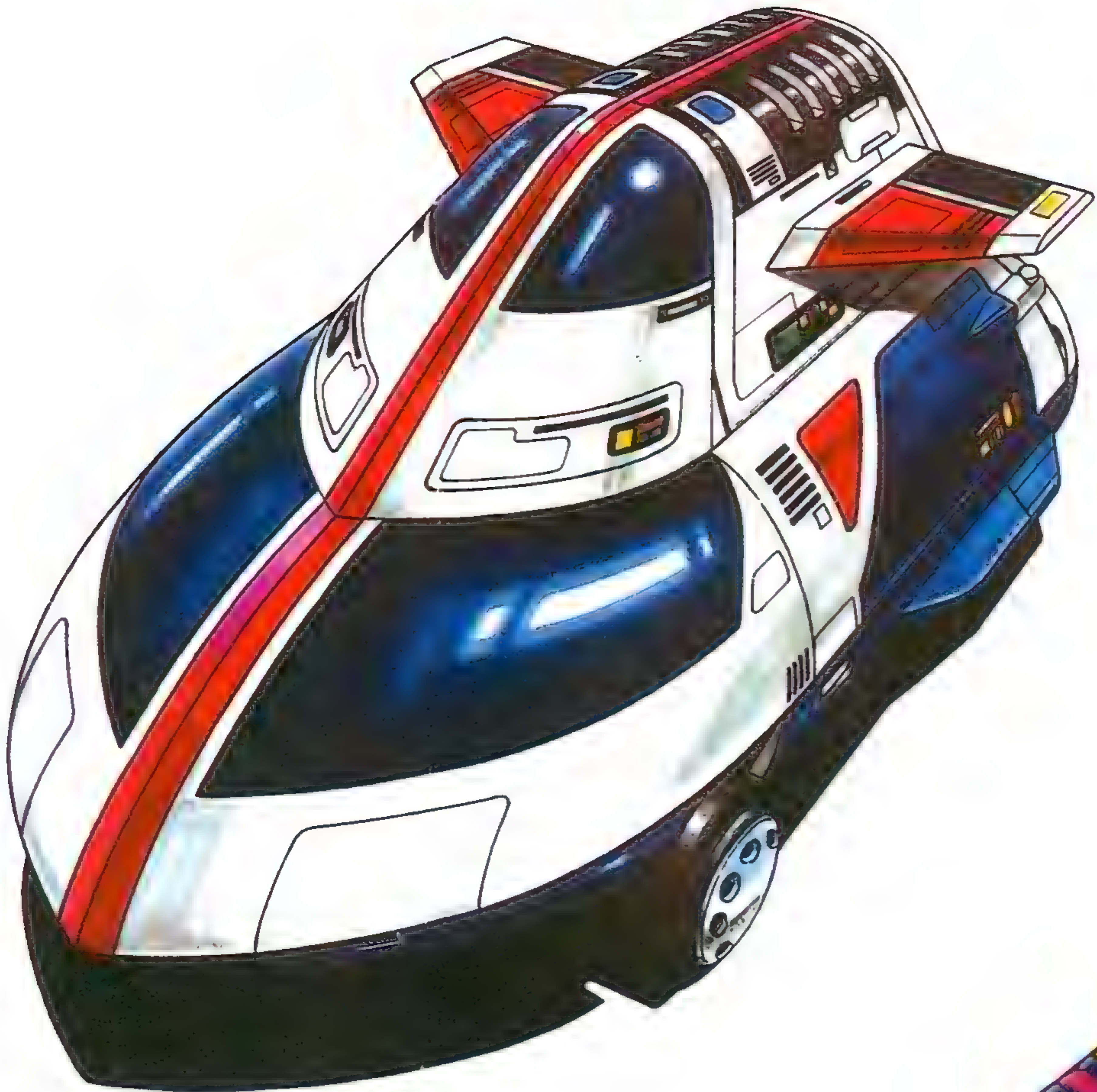
OA　1985.1.10-9.26／日本テレビ系放送
WORKS　マーチャンダイズドデザイン



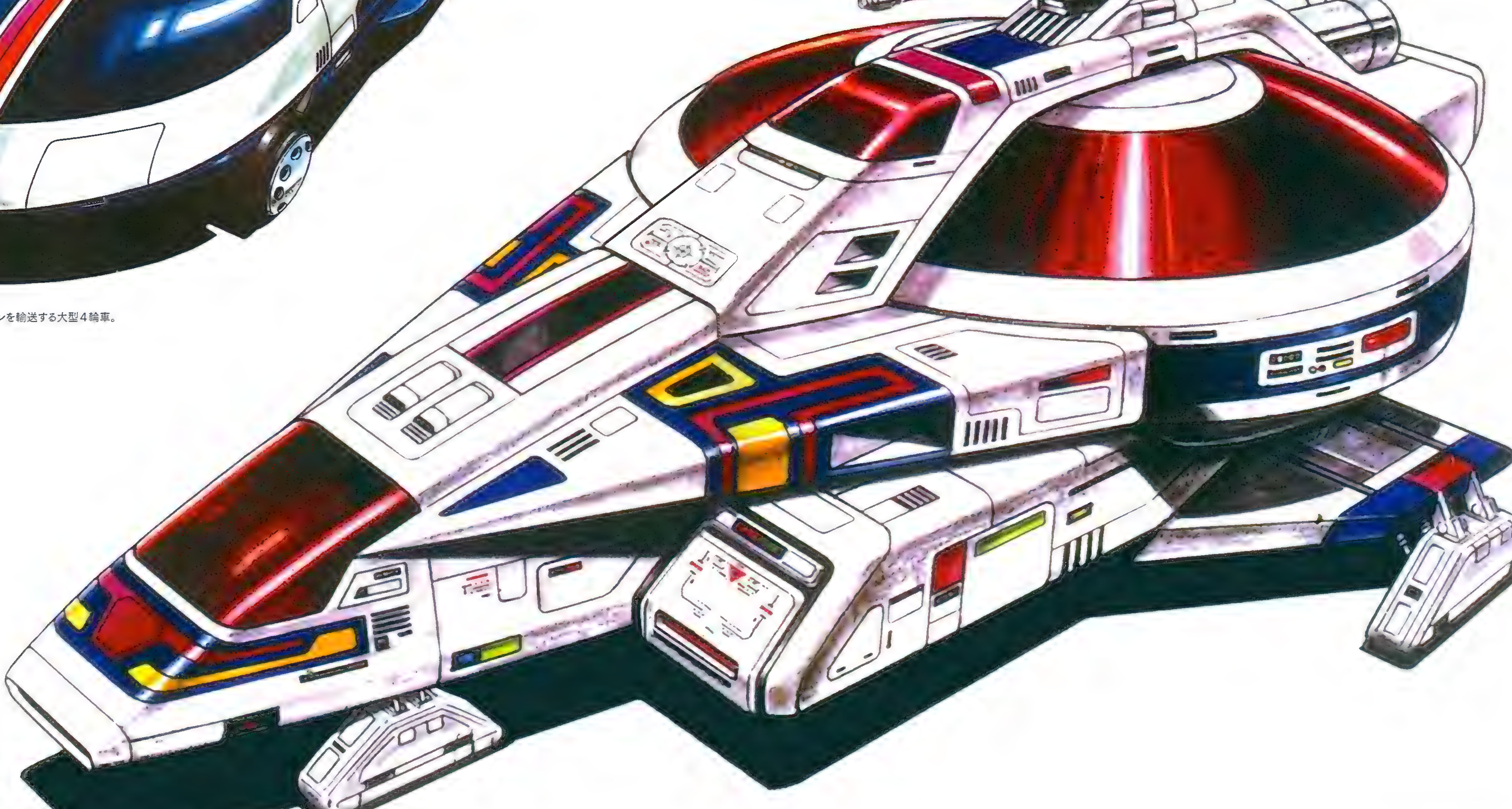
全身のマーチャンダイズドデザイン。



バイクロッサー・ケン（上）、バイクロッサー・ギン。ヘルメットを被ったヒーローをイメージしている。



ケンローダー。ギンクロンを輸送する大型４輪車。



スターコア。ケンローダーが発進する大型母艦。変形や合体システムを搭載しない、純粋な宇宙船として描かれた。

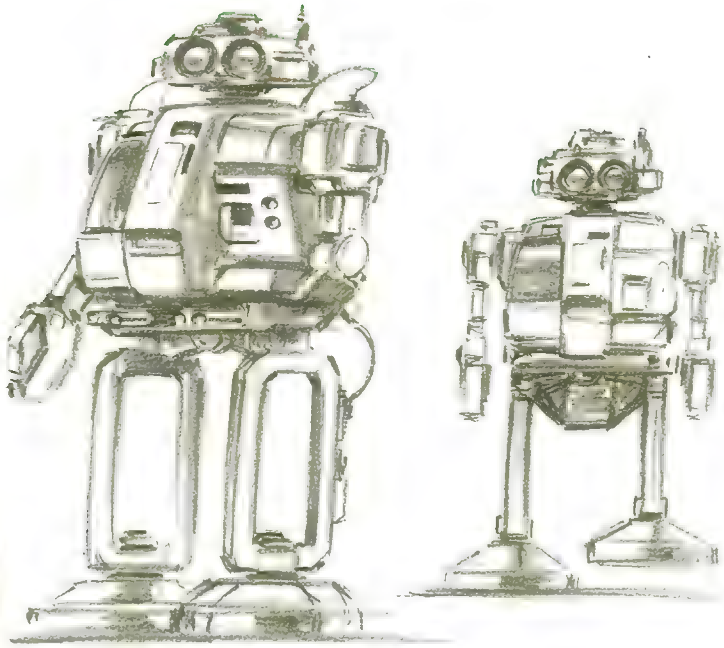
ウォーキングロボRK

1985

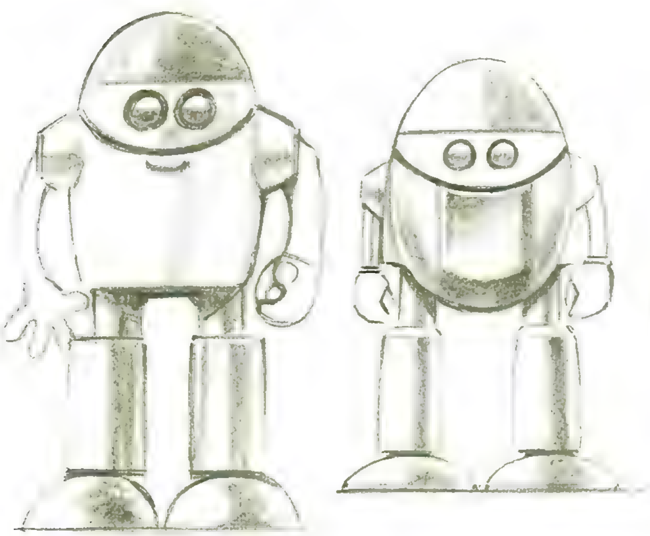
O.A. 1985／玩具オリジナル企画
WORKS デザイン原案

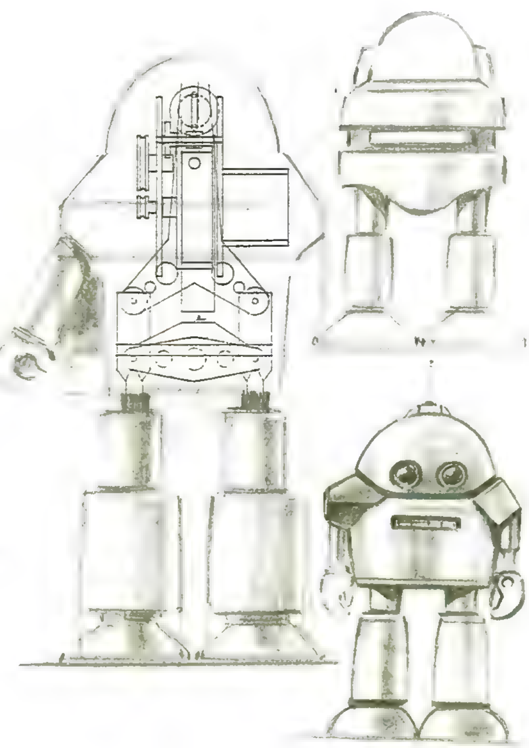
ウォーキングロボアールケーは、バンダイのラジオコントロール歩行玩具。モーターを2個内蔵し、1個はジャイロを1分間に6000回から9000回、回転させる。もう1個のモーターは脚を上下するためのもので、これらが連動して歩行するシステムとなっていた。村上は、RKの外装用のアイディアラフを多数提案している。



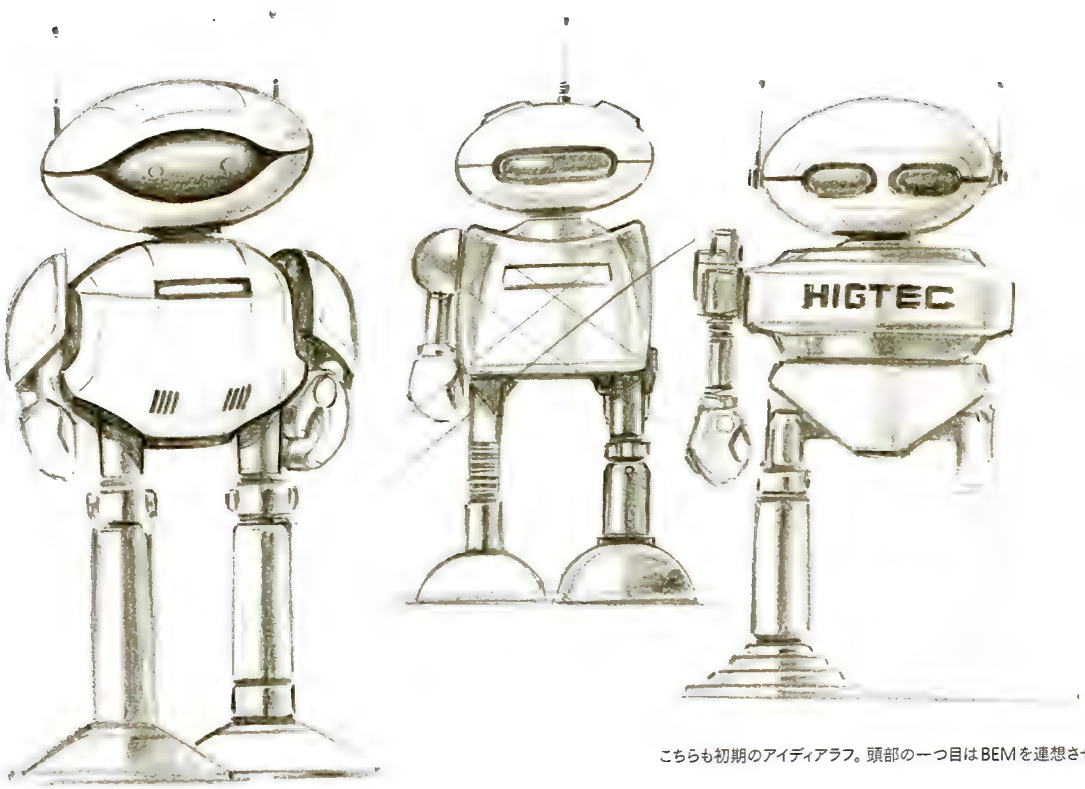


RK TYPE-1の原案。2つの大きな目が特徴となっている。

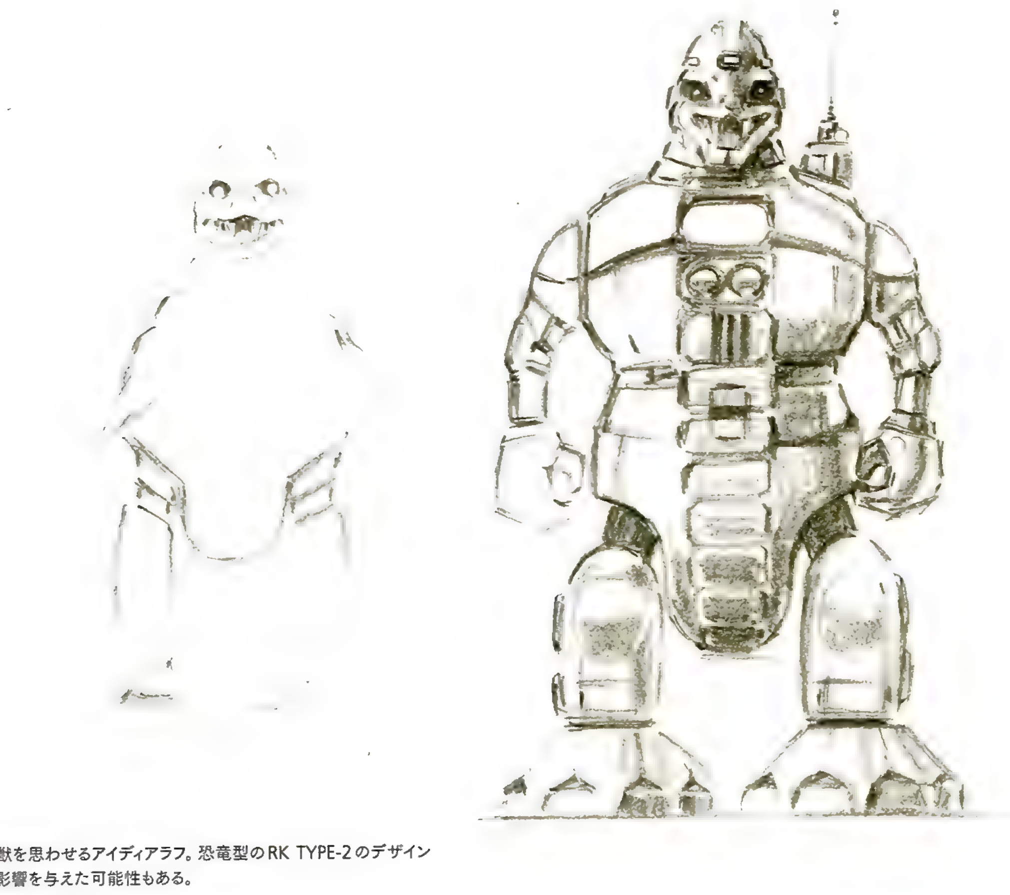




卵型のボディからコミカルなイメージを連想させる初期のアイディアラフ。



こちらも初期のアイディアラフ。頭部の一つ目はBEMを連想させる。



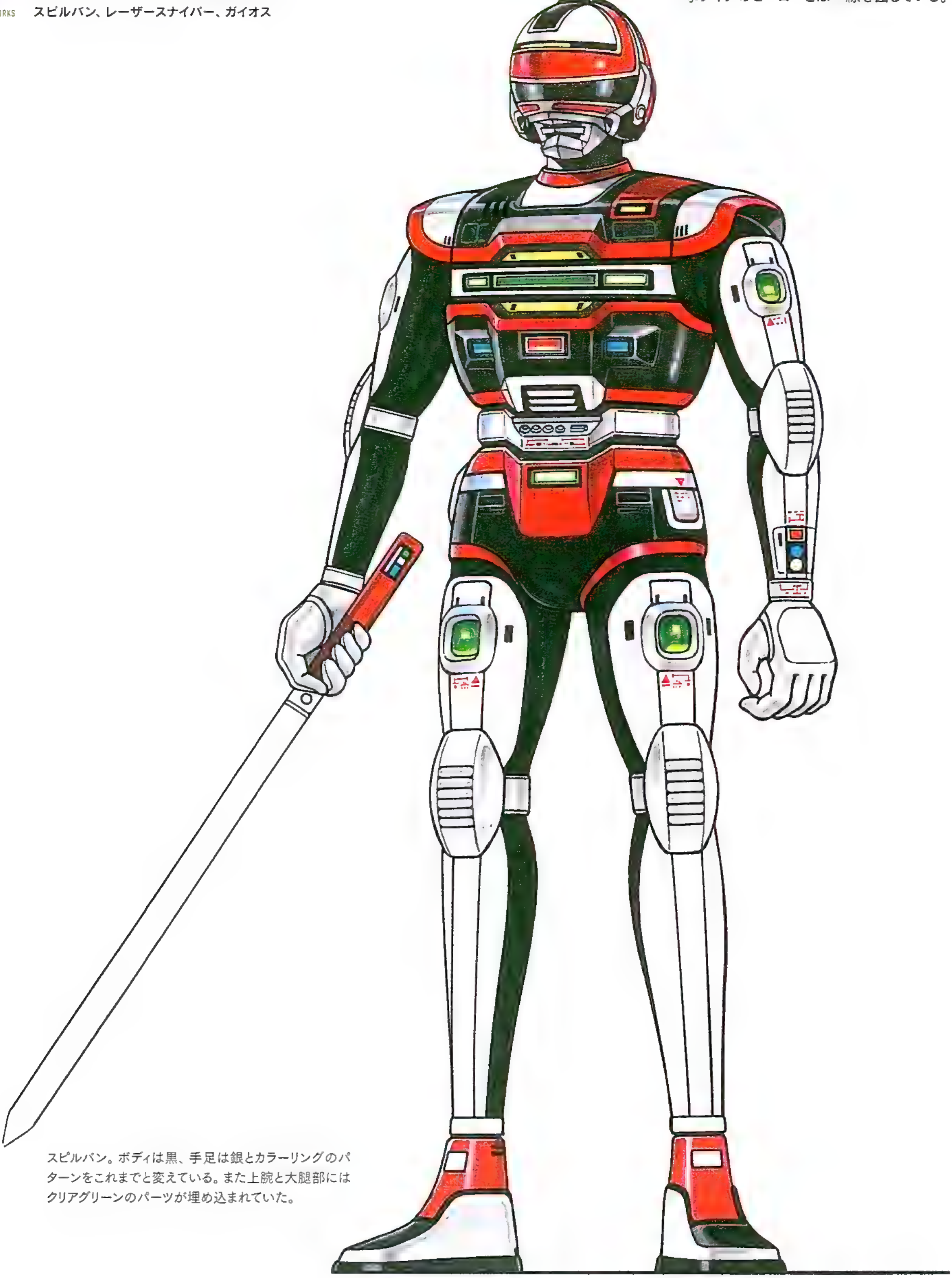
怪獣を思わせるアイディアラフ。恐竜型のRK TYPE-2のデザイン
に影響を与えた可能性もある。

時空戦士スピルバン

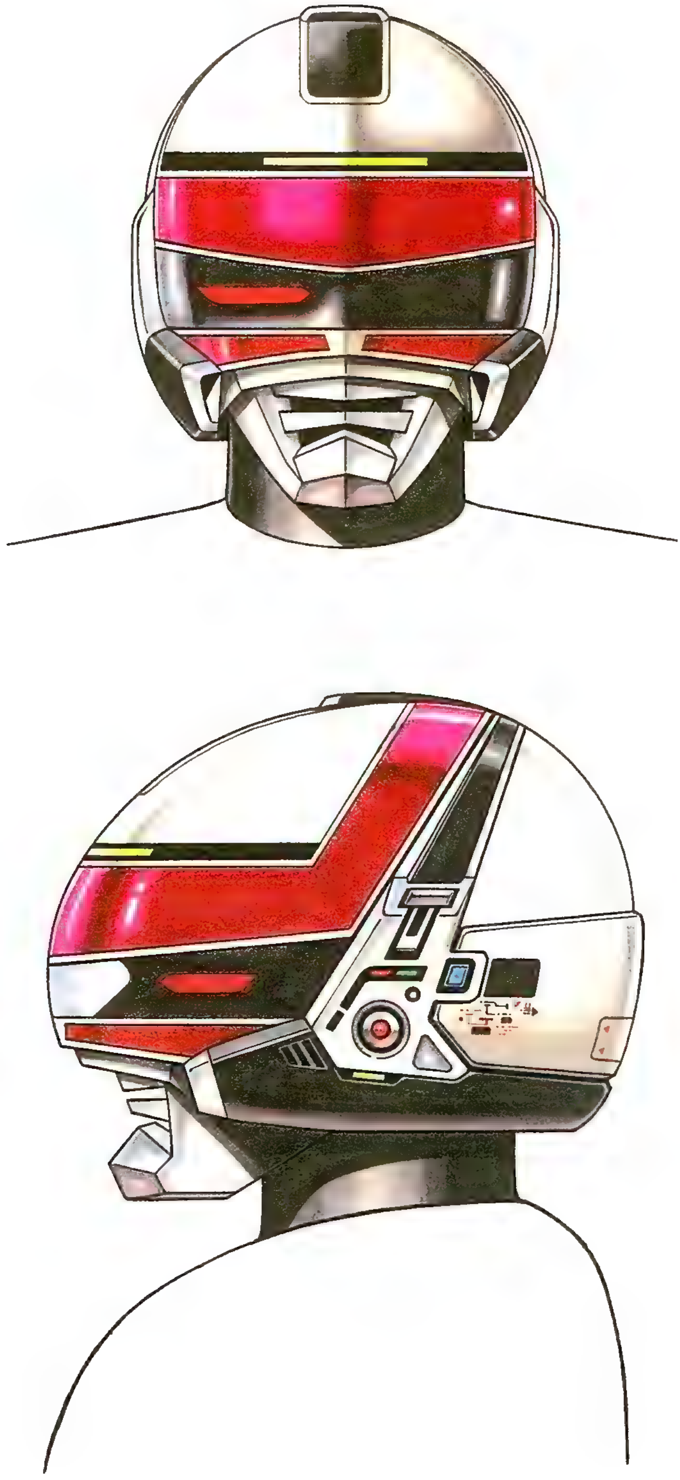
1986–1987

DA 1986.4.7-1987.3.9／テレビ朝日系放送
WORKS スピルバン、レーザースナイパー、ガイオス

メタルヒーロー路線の1本。ギャバンから始まった強化スーツヒーローの決定版を目指して制作された作品で、ヒーローデザインも総決算を思わせるものとなった。マスクの側面形状が前後に長いのがスピルバンの特徴で、これまでの宇宙刑事タイプのヒーローとは一線を画している。



スピルバン。ボディは黒、手足は銀とカラーリングのパターンをこれまでと変えている。また上腕と大腿部にはクリアグリーンのパーツが埋め込まれていた。



スピルバンのマスク。側面から見ると前後に伸びていることがわかる。

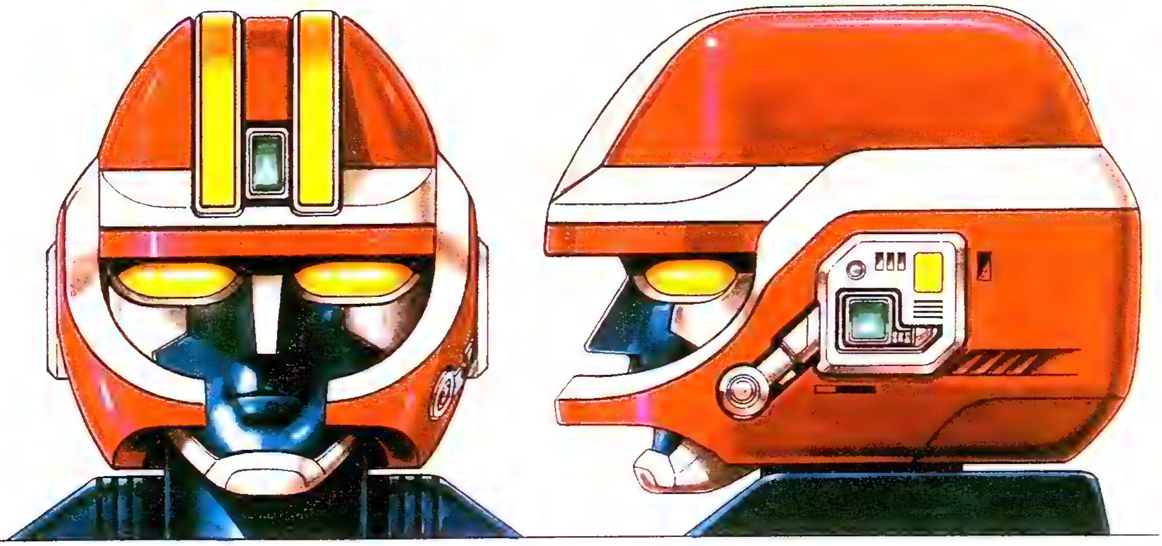
光戦隊マスクマン

1987–1988

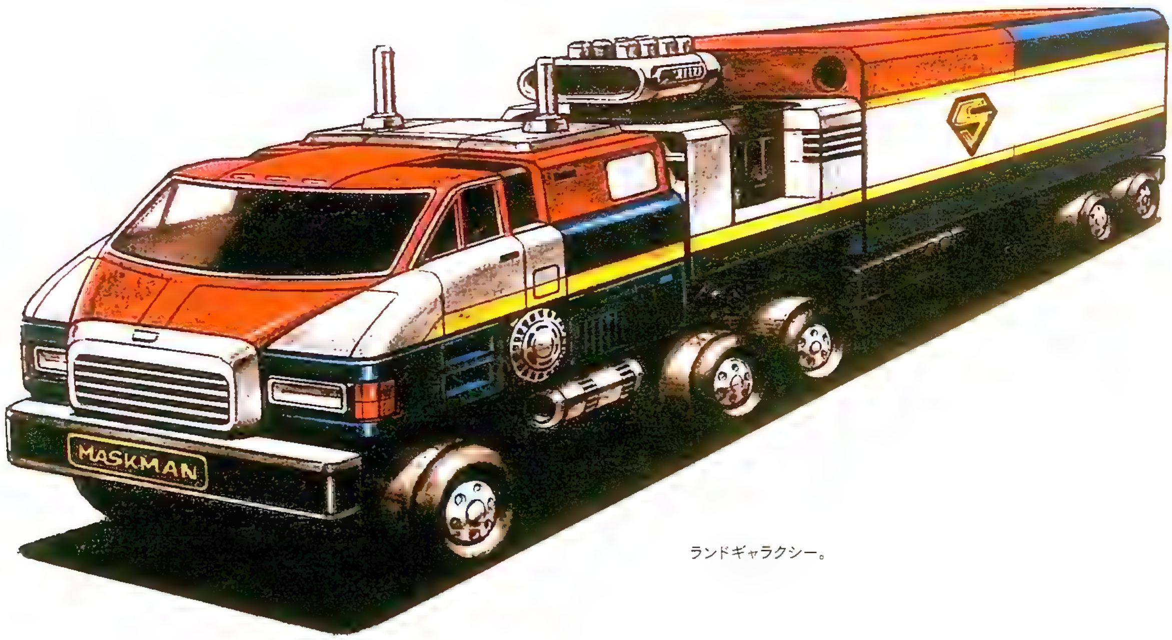
1987.2.28–1988.2.20／テレビ朝日系放送

ヒーロー、ギャラクシーロボ

前作『超新星フラッシュマン』より、村上はスーパー戦隊シリーズに関してはアイディア提供およびデザイン監修の立場に回ることになる。『マスクマン』ではヒーローのデザインをまとめる際の最終チェックを担当した。また、前作からの登場となる2号ロボは、フラッシュタイタンに引き続いて村上が手がけている。



ギャラクシーロボの頭部。



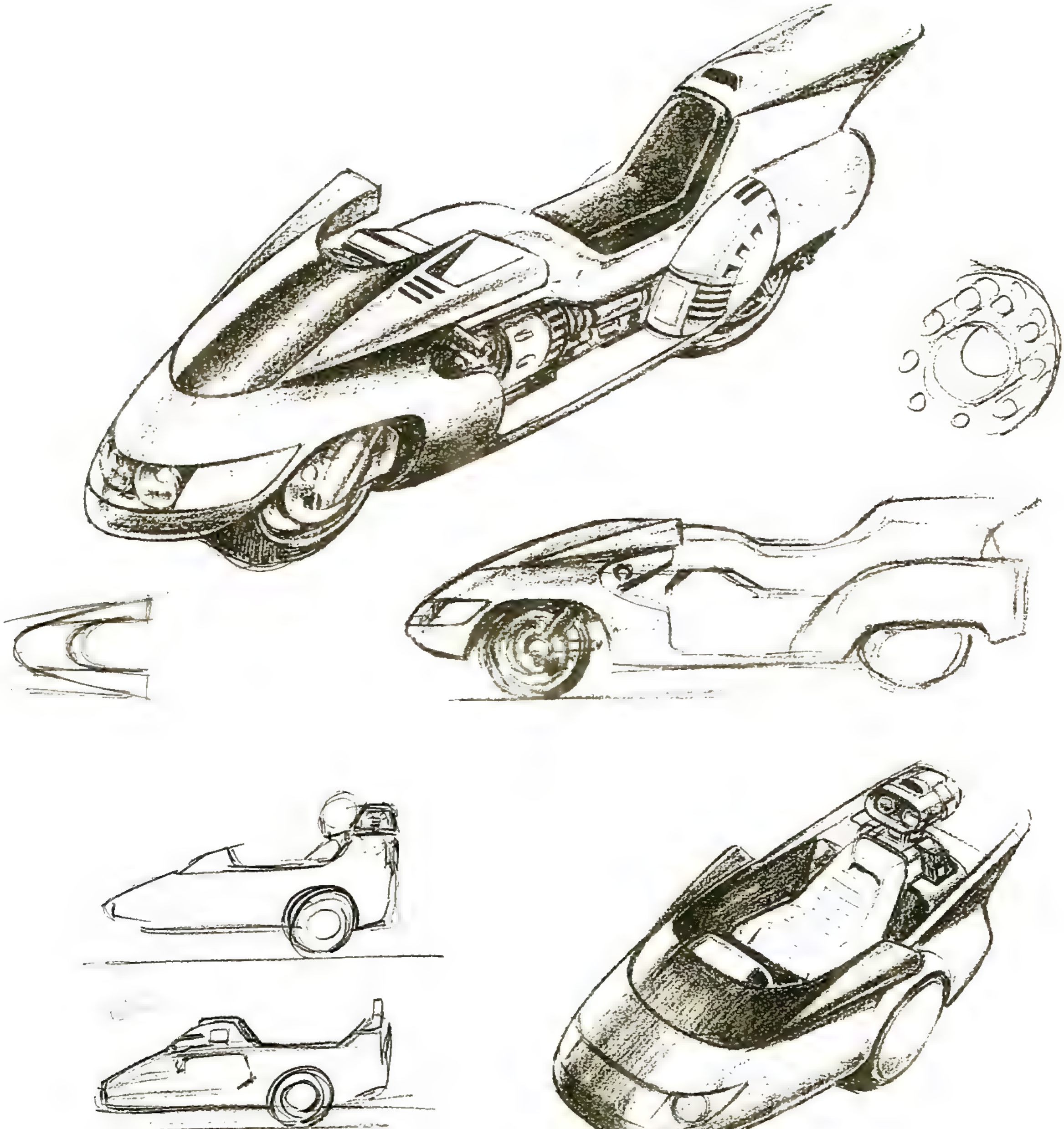
ランドギャラクシー。

村上は主人公メタルダーの頭部デザインとサイドファントムの原案を提案している。メタルダーは森木靖泰、サイドファントムはプレックスの大石一雄が担当した。本作のごとく、各作品にピンポイントでアイディアラフを提供していくことも、村上のメインワークのひとつとなる。

超人機メタルダー

1987–1988

1987.3.16–1988.1.17／テレビ朝日系放送
メタルダー（頭部のみ）、サイドファントム



サイドファントムのアイディアラフ。サイドカーモチーフは決まっており、ディテールを提案した。側車シートの後ろに突き出たパーツは、もともとロボットの頭部だったことがわかる。

仮面ライダーBLACK

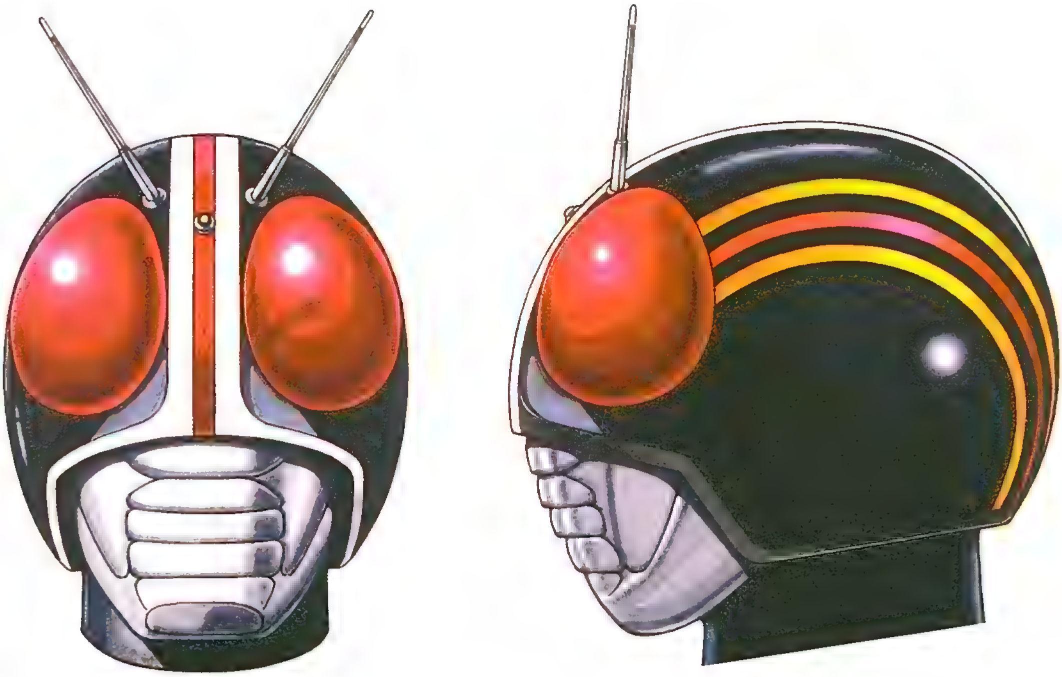
1987–1988

D.A. 1987.10.4–1988.10.9／毎日放送系放送
WORKS マーチャンダイズドデザイン

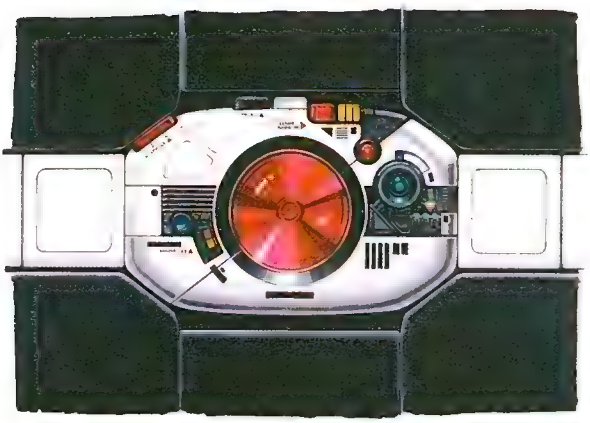
6年ぶりに連続テレビシリーズとして復活した仮面ライダー。南光太郎と彼を改造した暗黒結社ゴルゴムとの対決を描く。原点となる石ノ森章太郎の発想、そこへ1980年代に多くのヒーローを生んだ村上のセンスが加わり、仮面ライダーは新たなスタイルに生まれ変わったのだ。



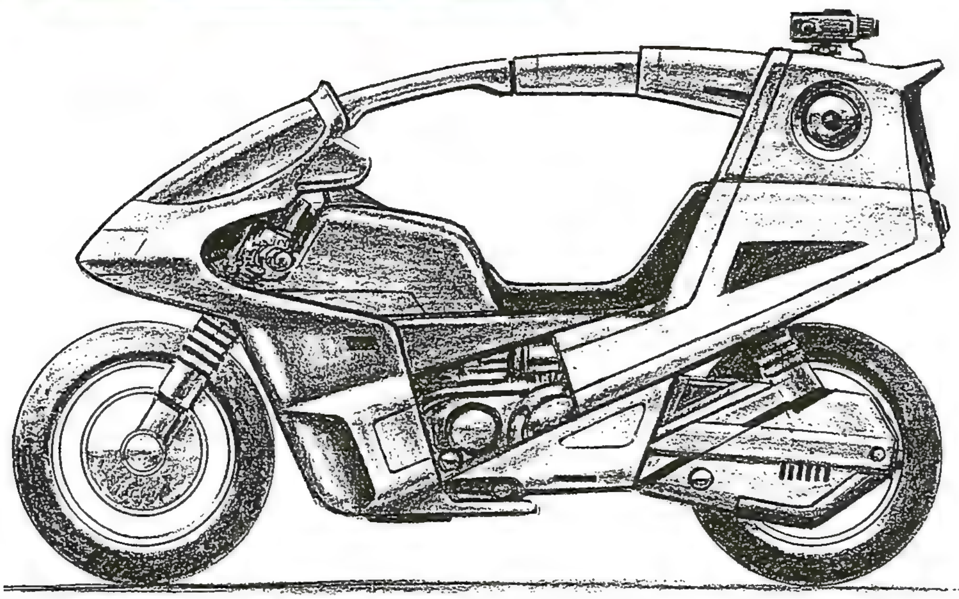
仮面ライダーBLACKのマーチャンダイズドデザイン。



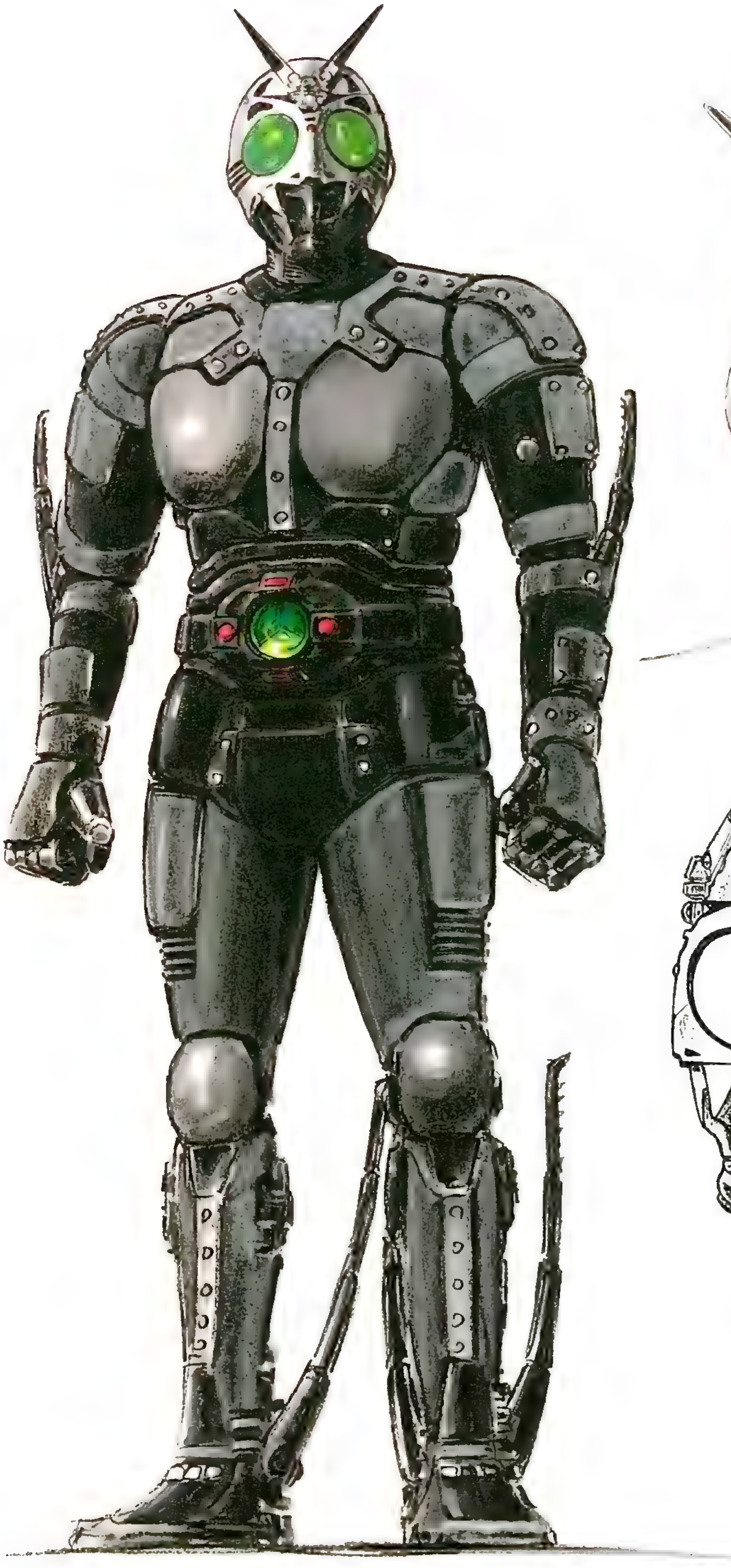
仮面ライダーBLACK頭部デザイン。



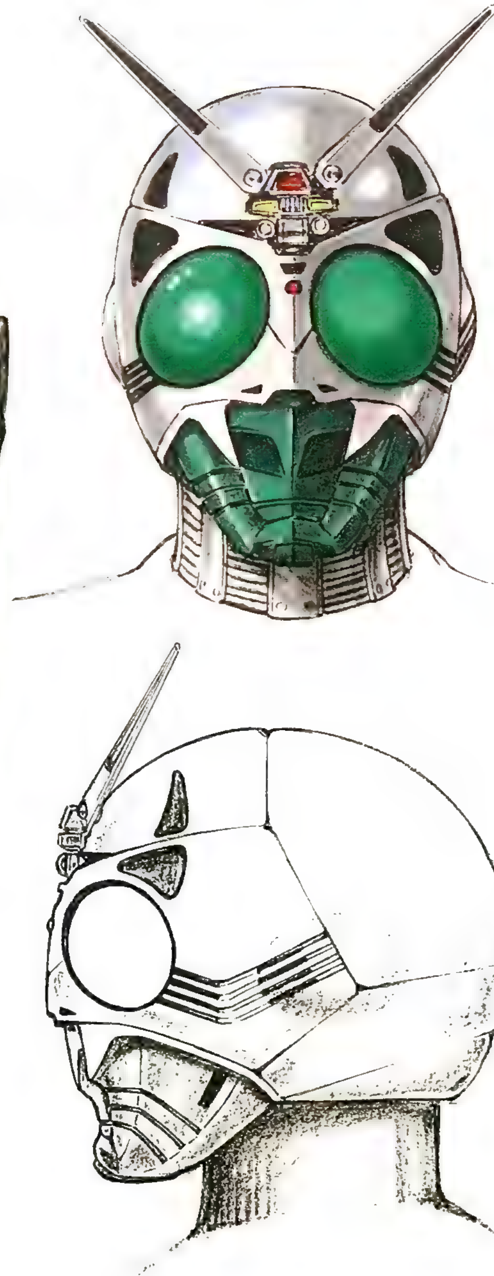
変身ベルト。極めてシンプルにまとめられた全身の中で、ベルトだけはハイテクメカを思わせる精密なディテールが描きこまれた。



ロードセクターの玩具アイディアラフ。フロントカウルは仮面ライダー1号のサイクロン号を思わせる。



シャドームーン。メカニック要素と仮面ライダーが見事に融合した
マーチャンダイズドデザインとなった。



シャドームーン頭部。

世界忍者戦ジライヤ

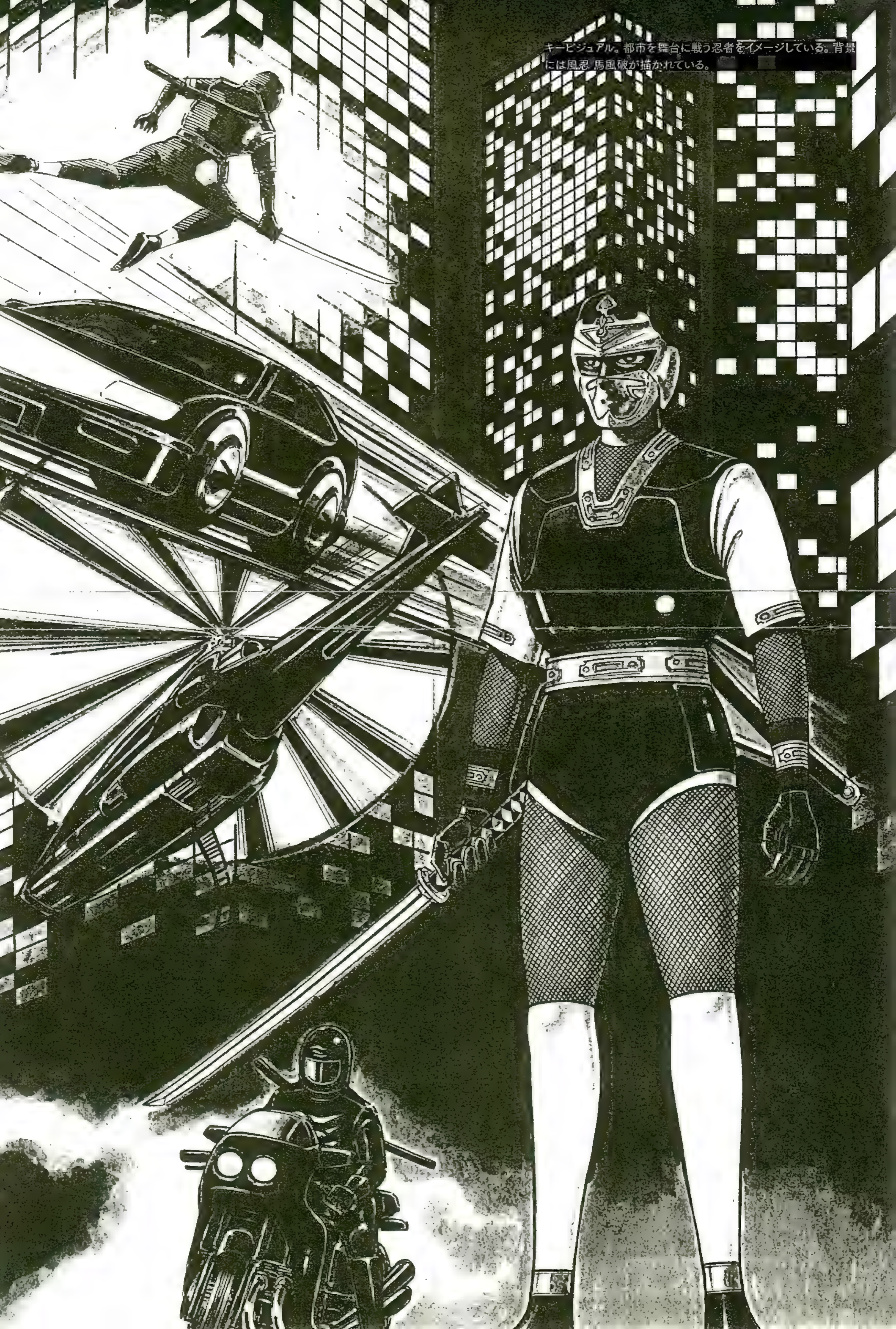
1988–1989

1988.1.24–1989.1.22／テレビ朝日系放送
ジライヤ、世界忍者多数、磁雷神

メタルヒーローに代わる新たなヒーロー像を模索した作品のひとつである。忍者という有名なモチーフを使いつつ「世界忍者」というコンセプトを盛り込んで、バラエティに富んだヒーローが多数登場した。本作には敵・味方を含めて多くの世界忍者が登場しているが、その多くは村上が提案したものとなっている。

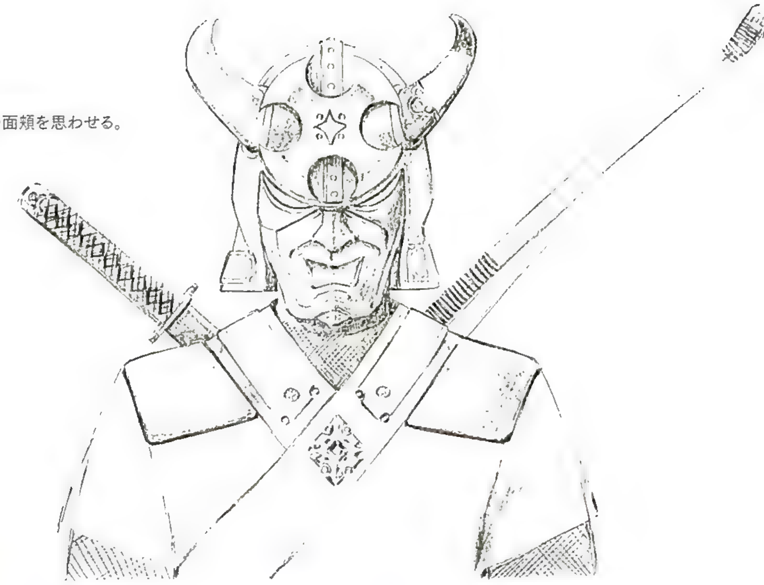


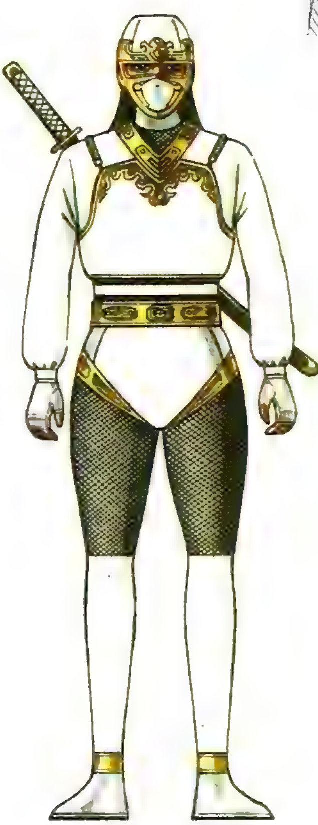
ジライヤ。マスクから両目がのぞいているのが特徴的である。映像のスーツでは赤と黒の配置が逆転している。



キービジュアル。都市を舞台に戦う忍者をイメージしている。背景には風忍 馬風破が描かれている。

鬼忍 毒斎。そのマスクは具足の面頬を思わせる。







姫忍 恵美破。ジライヤの妹であり、マスクの形状が踏襲されている。





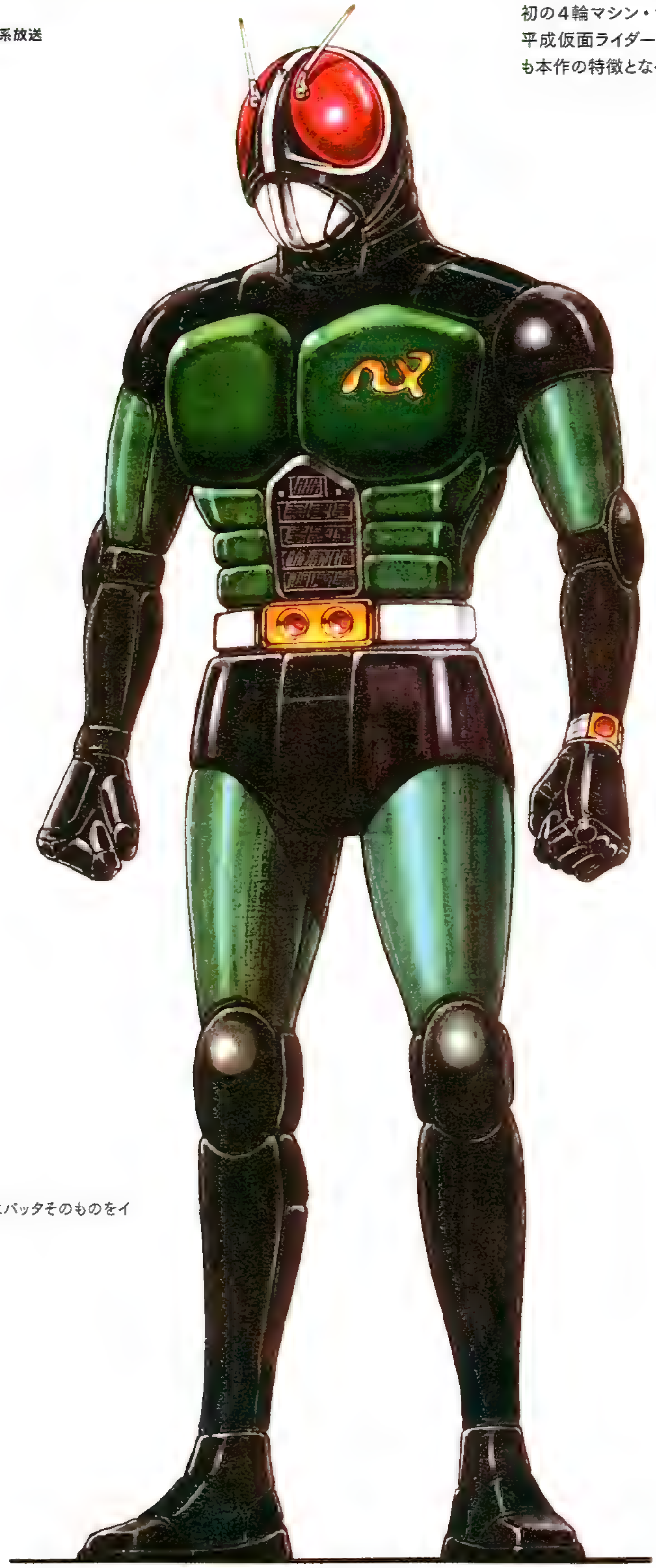
蝶忍 紅牙。村上デザインの中では珍しい女性の悪役である。

仮面ライダーBLACK RX

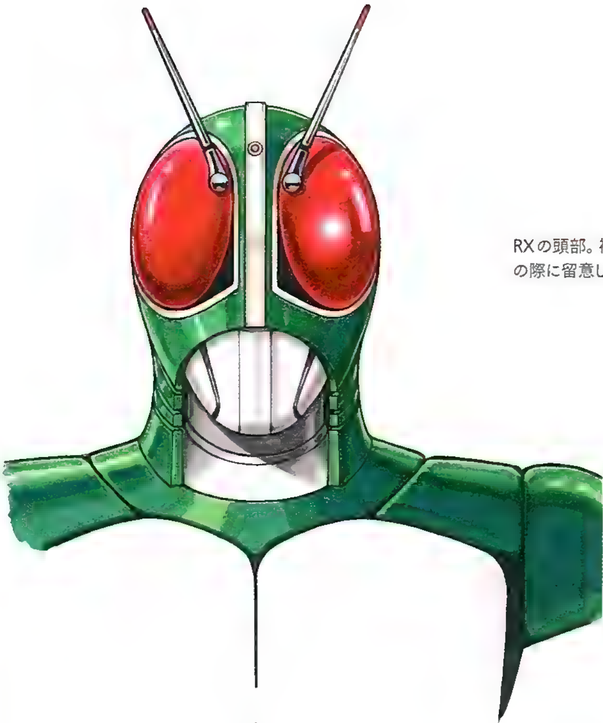
1988–1989

O.A. 1988.10.23–1989.9.24／毎日放送系放送
WORKS マーチャンダイズドデザイン

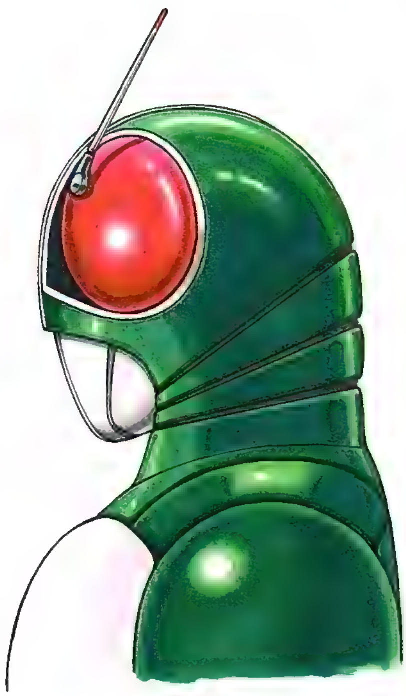
『仮面ライダーBLACK』の続編。仮面ライダーのデザインは前作を踏襲しつつ、新たなる仮面ライダーのイメージを生み出している。ロボライダー、バイオライダーへの3タイプの変身や、シリーズ初の4輪マシン・ライドロンの登場など、のちの平成仮面ライダーシリーズに受け継がれる要素も本作の特徴となっていた。

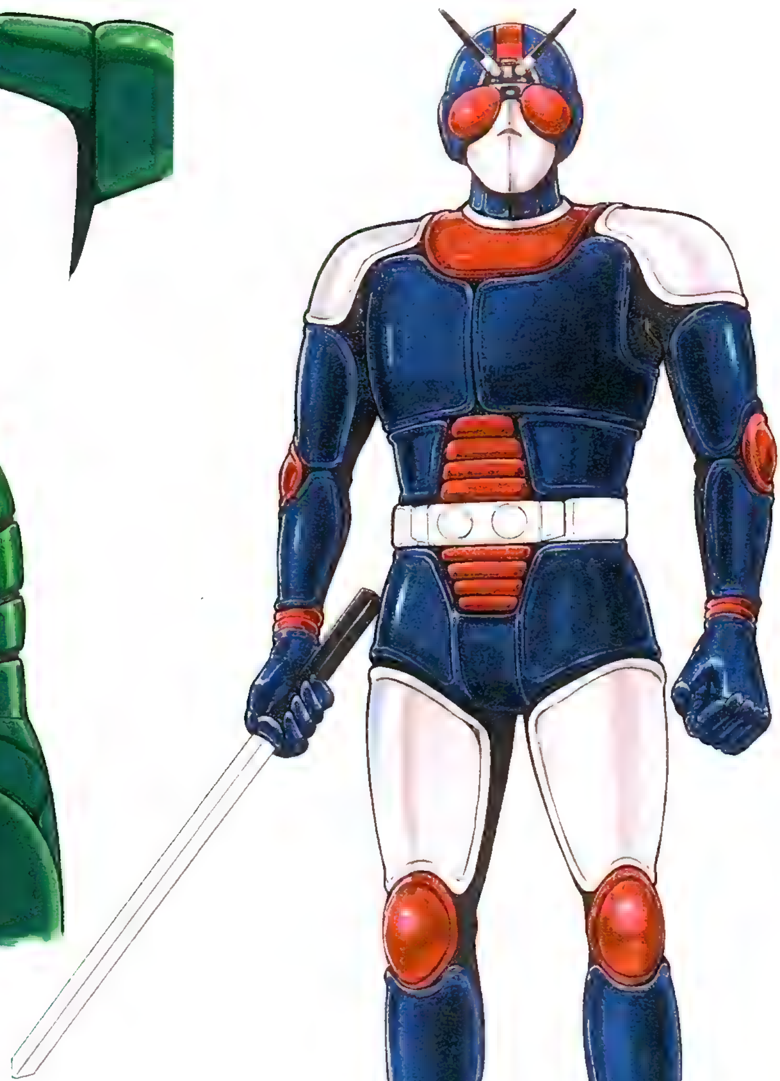


仮面ライダーBLACK RX。頭部はバッタそのものをイメージしている。

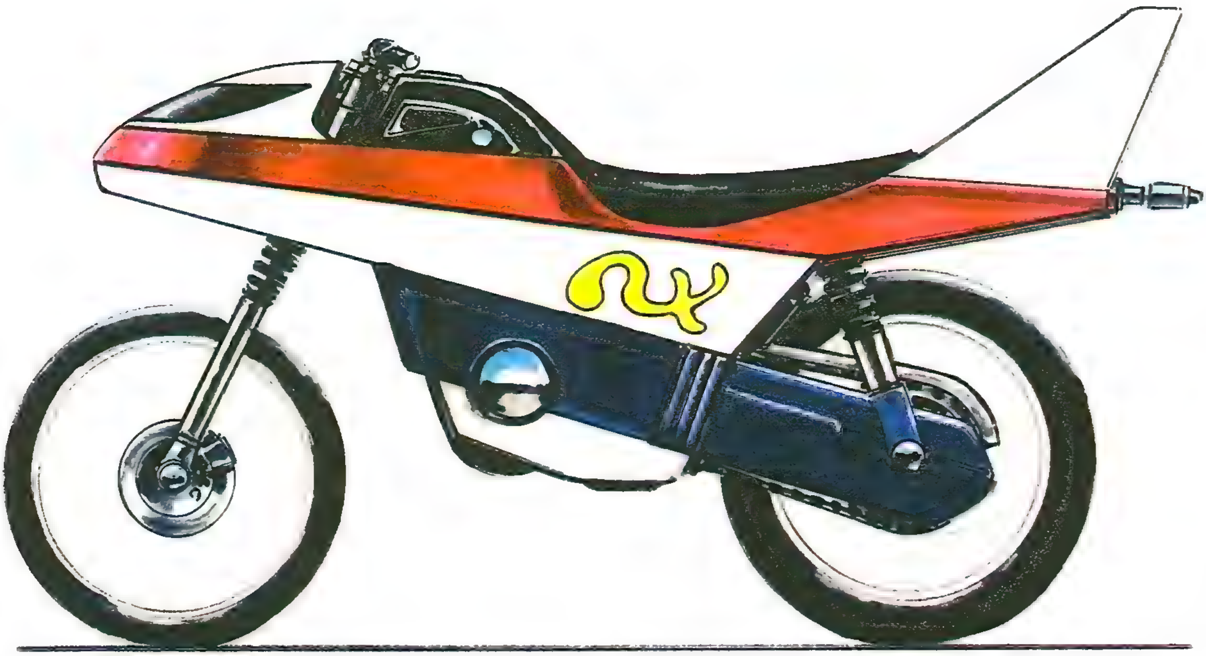


RXの頭部。襟からつながる首の処理は、前作BLACKの際に留意していた襟の形状を発展させている。

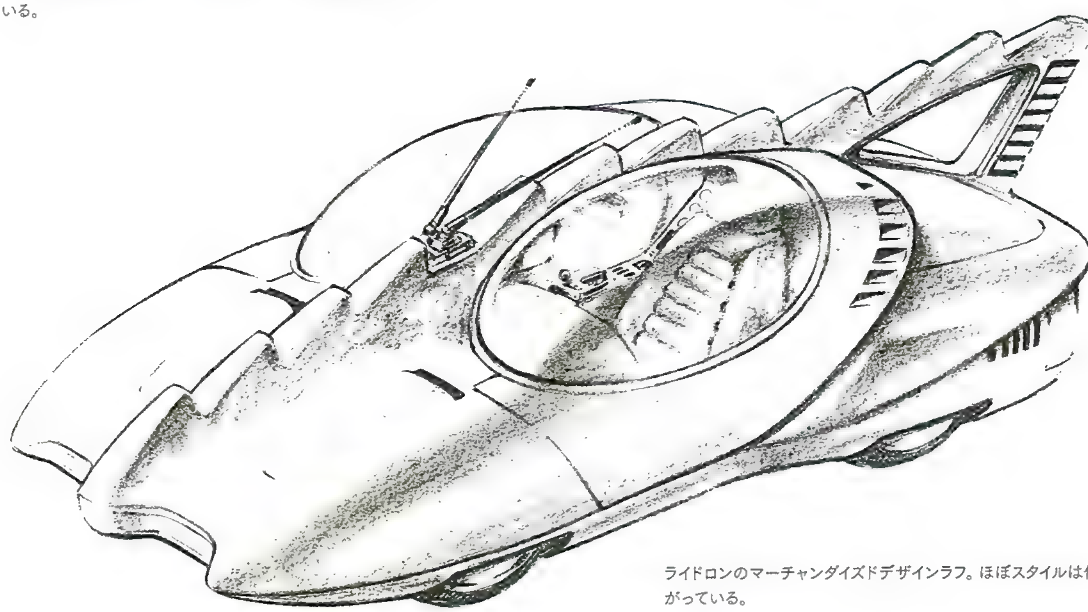




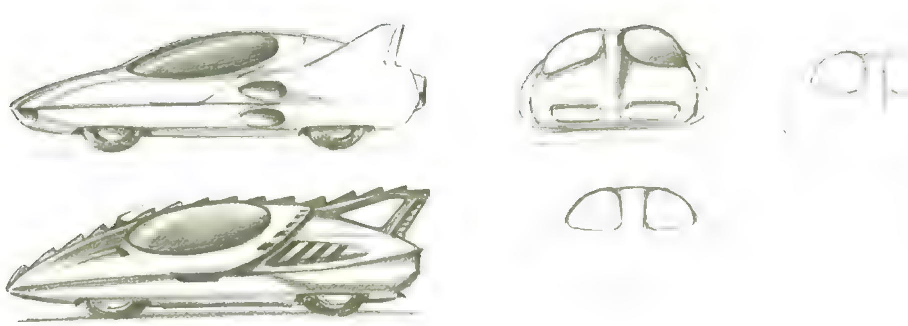
バイオライダー。マスクはあえて口の意匠をなくしている。これもまた新たな仮面ライダーのための形である。



ロボライダーのマシン、ロボイザー。側面からは見えないが、RXのマシンの共通デザインとして、フロントカウルに触覚がつけられている。



ライドロンのマーチャンダイズドデザインラフ。ほぼスタイルは仕上がっている。



第4章

CHAPTER 4



追求

1989–1995

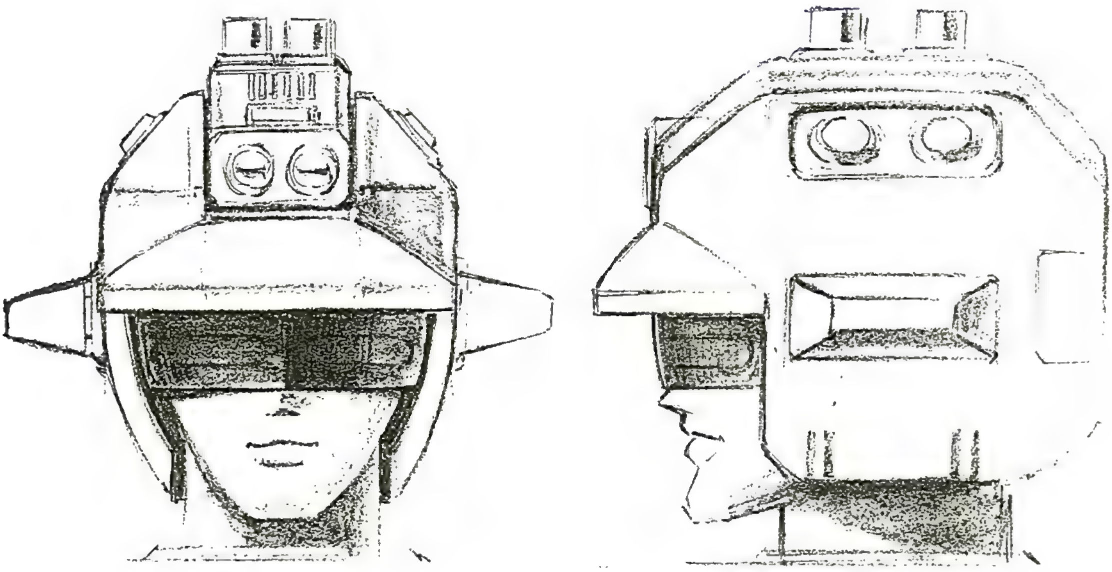
新分野に向けられた先駆者の視点

高速戦隊ターボレンジャー

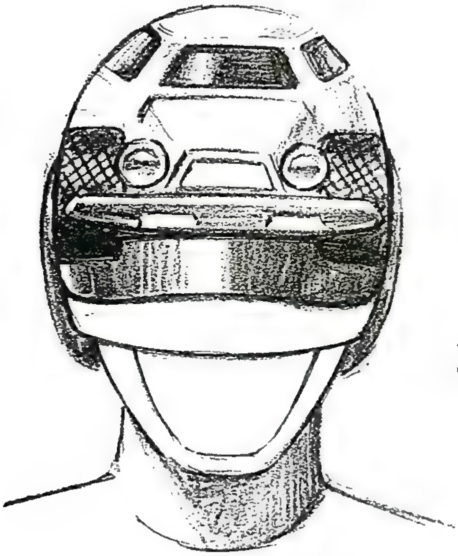
1989–1990

OA 1989.2.25–1990.2.23／テレビ朝日系放送
WORKS ヒーロー、ターボロボ原案（頭部のみ）

スーパー戦隊シリーズで初めて車をモチーフとしたのが『ターボレンジャー』である。ターボはタービンの意味も兼ねており、タービンのついたマスクもアイディア段階では存在していた。村上はターボロボの頭部の原案も担当しており、これは前年の『超獣戦隊ライブマン』のライブロボでも同様の作業を行っていた。



ターボロボ頭部のアイディアラフ。



イエローターボのマスクのアイディアラフ。側面のタイヤの位置がまだ決まっていない。

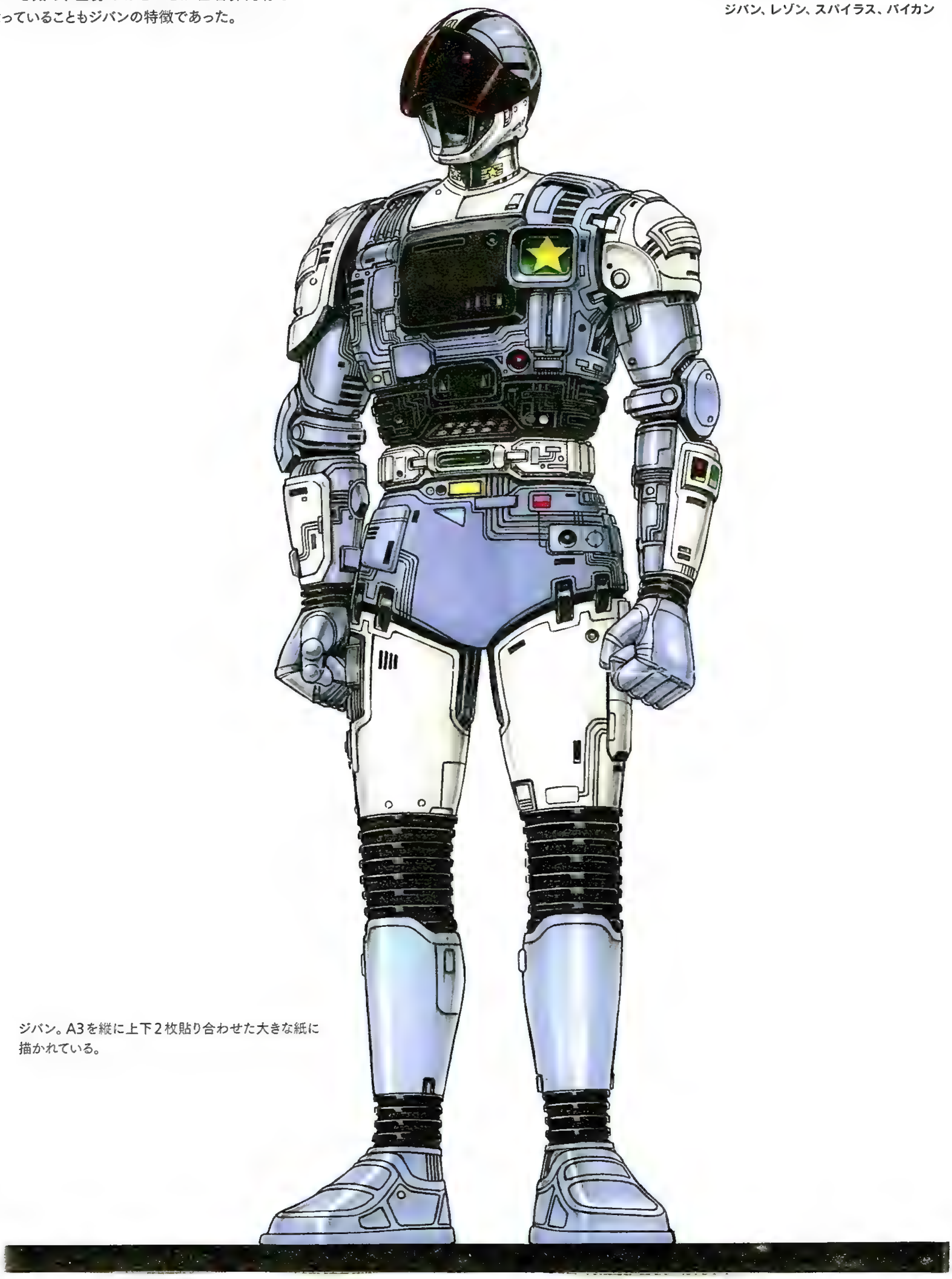
機動刑事ジバン

1989–1990

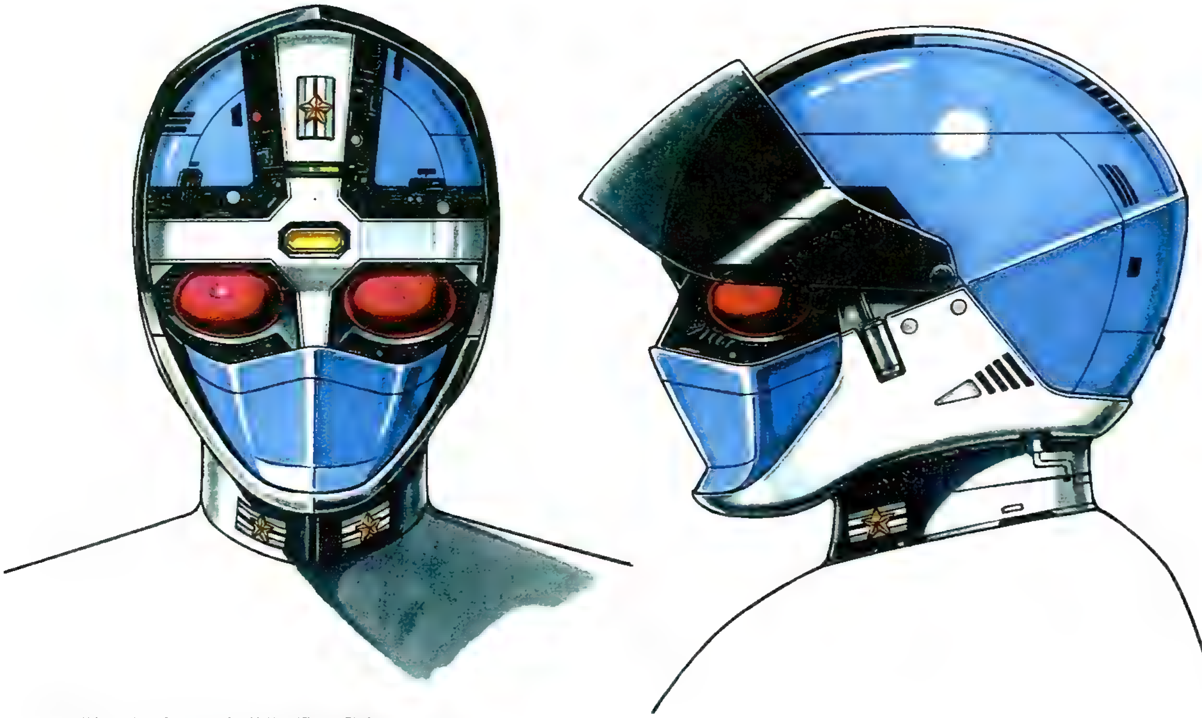
1989.1.29–1990.1.28／テレビ朝日系放送
ジバン、レゾン、スパイラス、バイカン

O.A WORKS

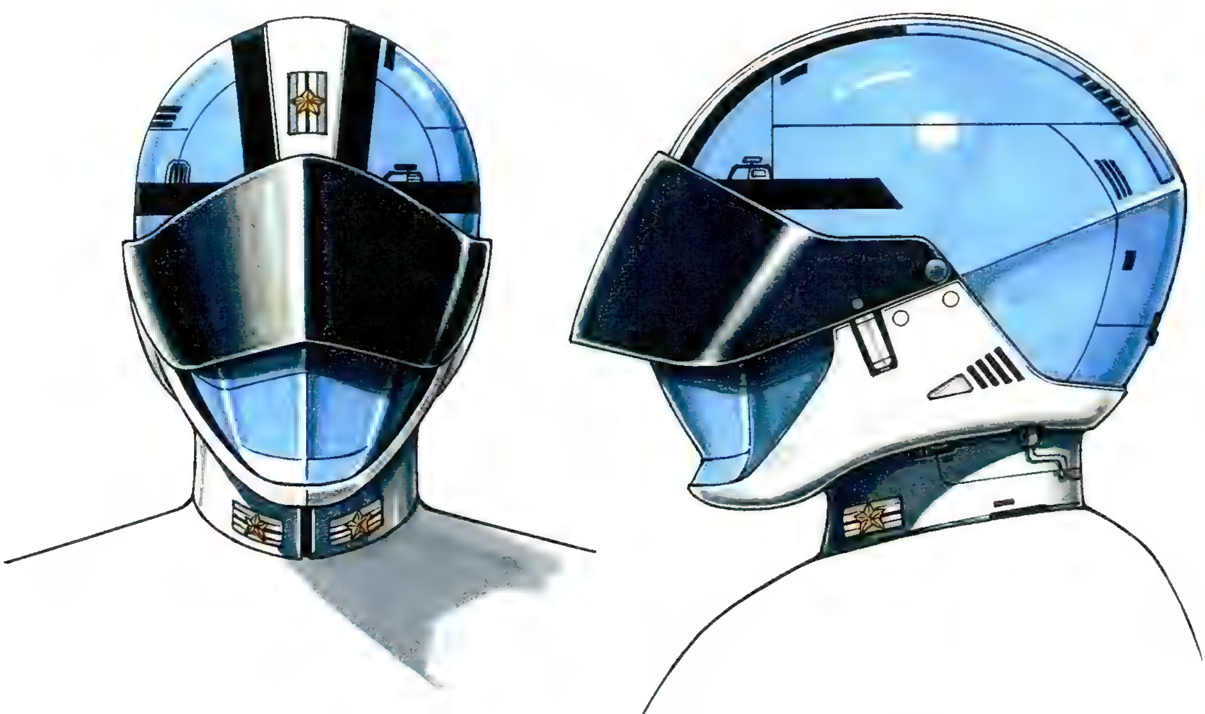
宇宙刑事シリーズ以来、久々の刑事ヒーロー。アメリカ映画『ロボコップ』のヒットの影響もあり、本作ではロボット刑事の登場となる。村上はロボットということを意識し、全身をプロテクターで覆ったデザインを提案している。また、肩アーマーを始め、全身のほとんどが左右非対称となっていることもジバンの特徴であった。



ジバン。A3を縦に上下2枚貼り合わせた大きな紙に描かれている。



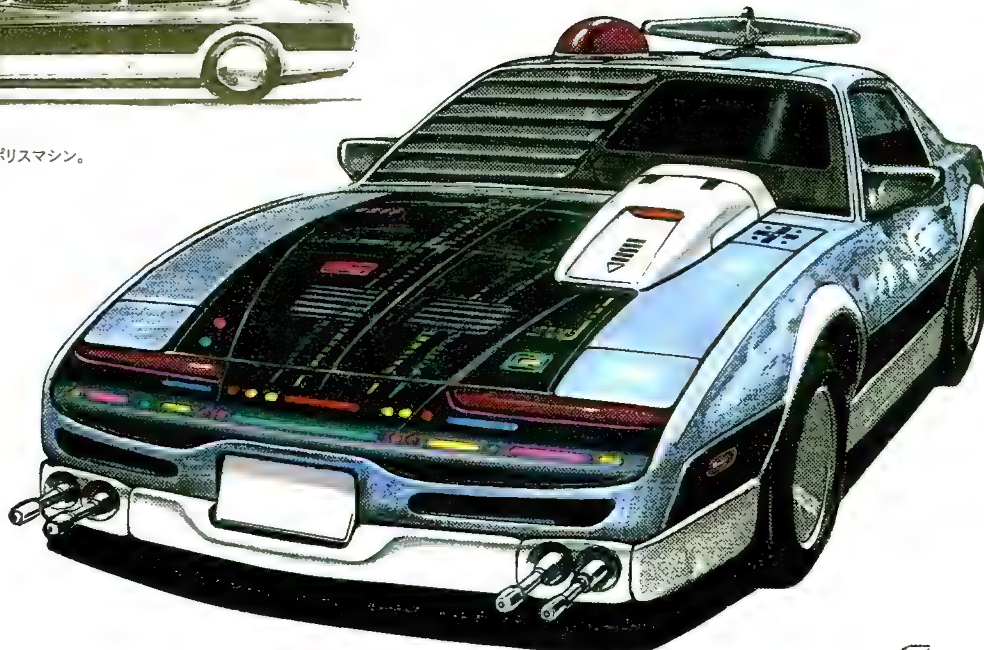
ジバン頭部。ゴーグルを上げた状態。額には警察をイメージした
階級章がある。

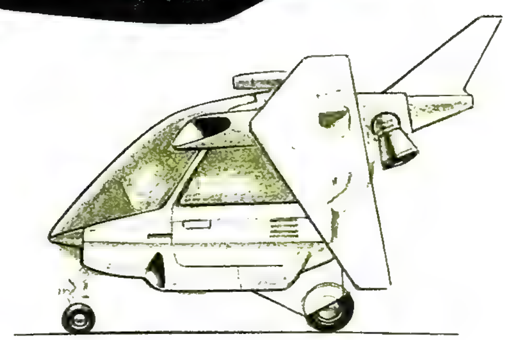


ゴーグルを下げた状態。階級章は襟にも描かれており、制服を
モチーフに取り込んでいることがわかる。

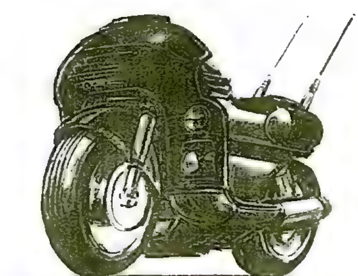


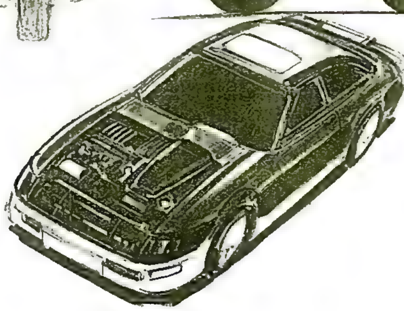
レゾン。ジバンのポリスマシン。



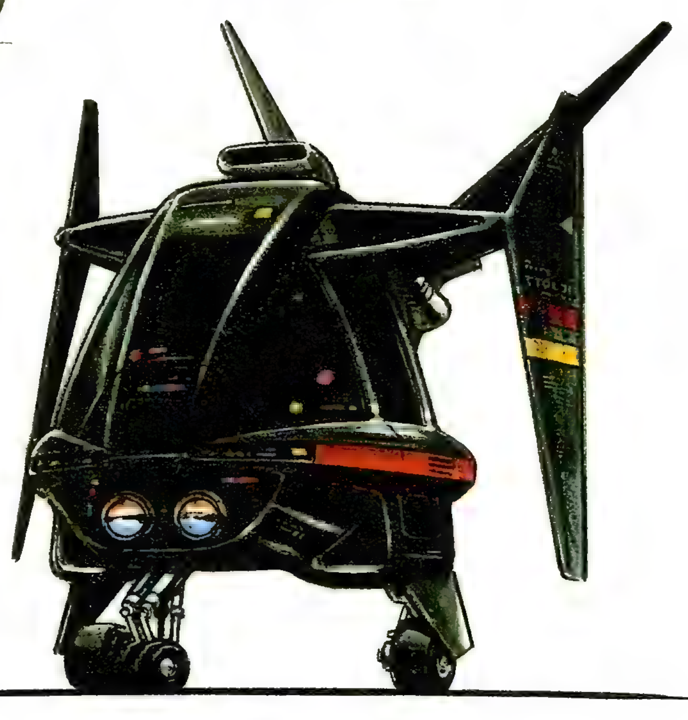




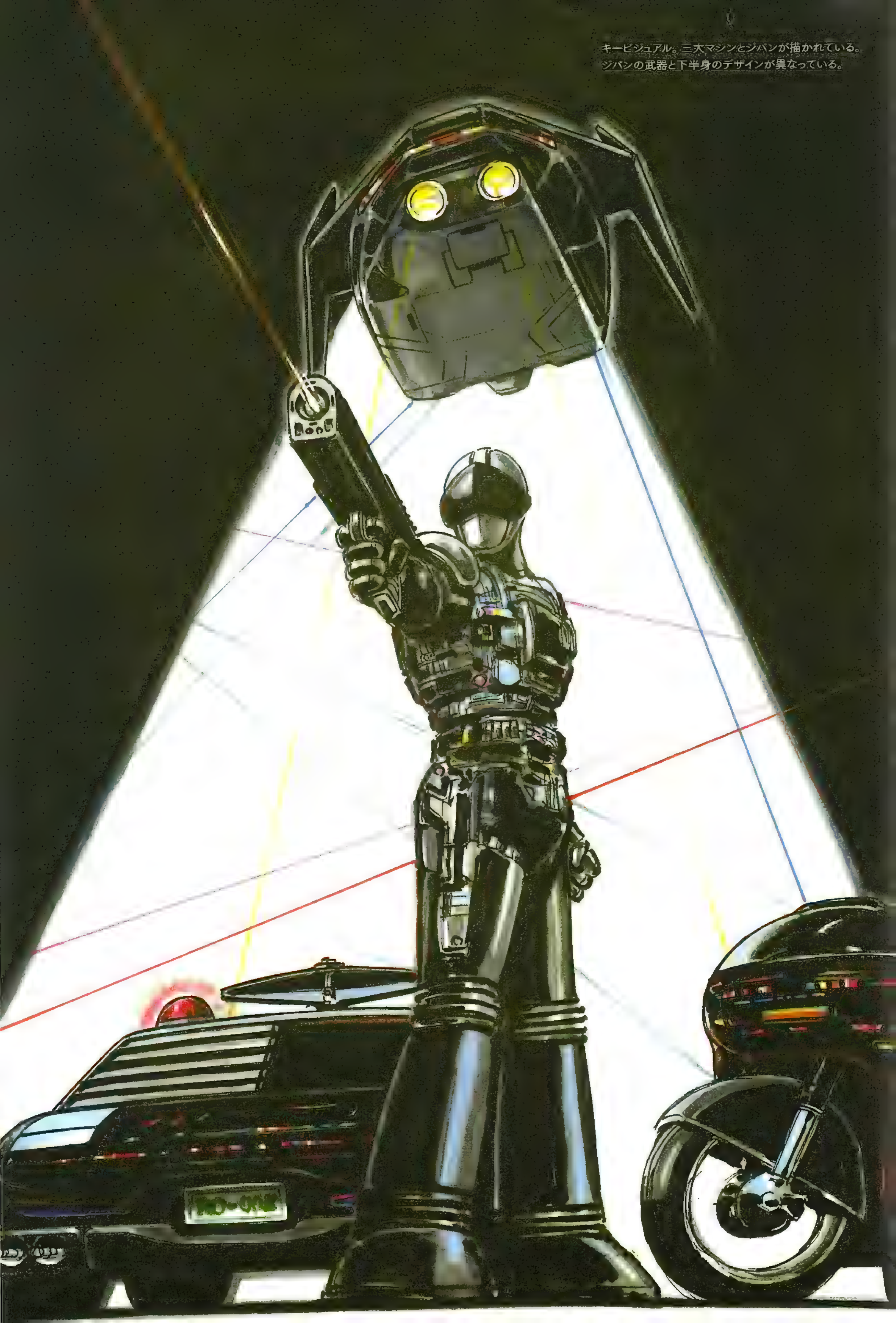




バイカン（上）とレゾンのアイディアラフ。



スパイラス。ジバンのポリスジェット。バイカンとスパイラス、いずれも黒がメインカラーとなった。



キービジュアル。三大マシンとジバンが描かれている。
ジバンの武器と下半身のデザインが異なっている。

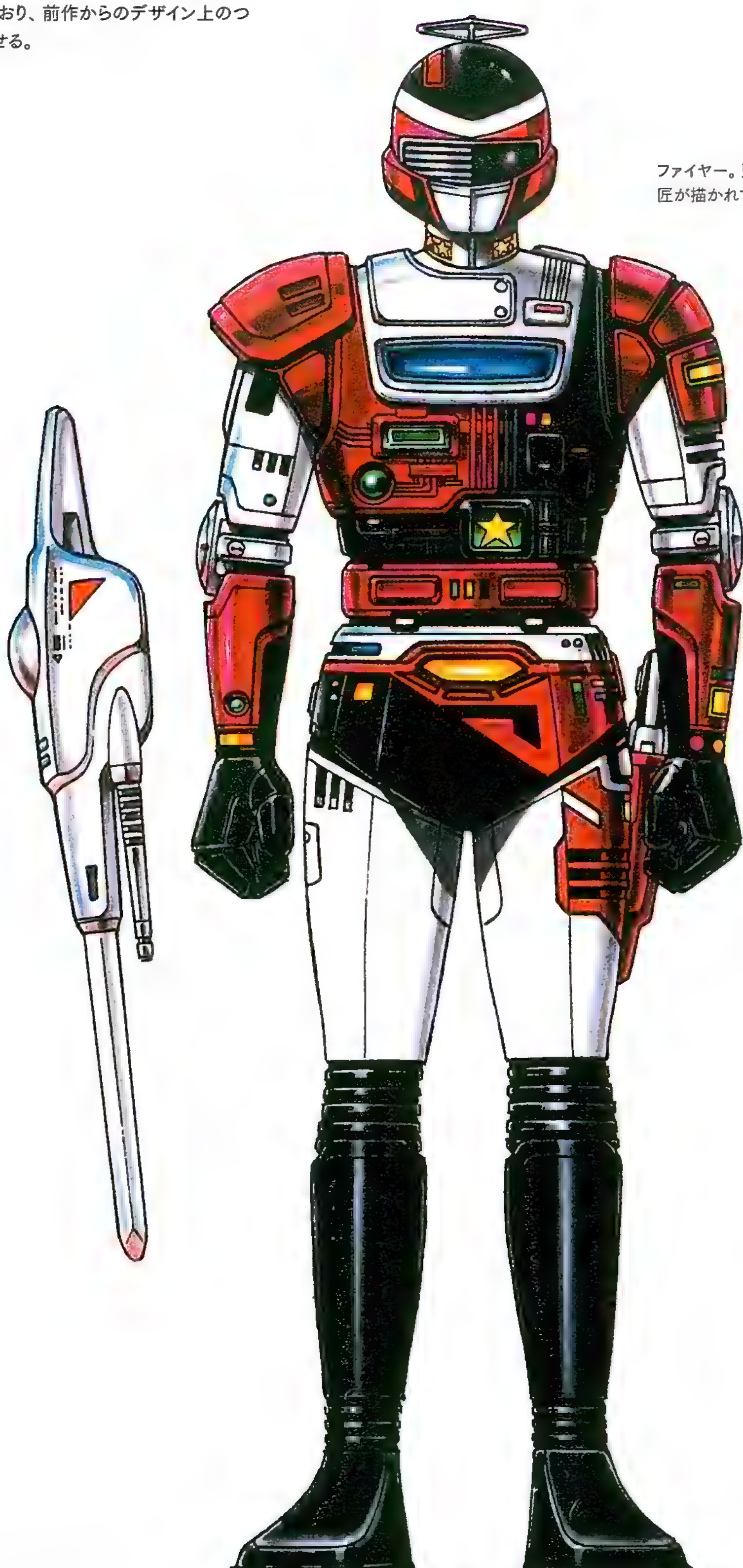
レスキューポリスシリーズの第1作。ファイヤー、バイクル、ウォルターの3体は、『機動刑事ジバン』のポリスマシン・レゾン、バイカン、スパイラスをイメージしてデザインされている。また、左右非対称の肩アーマーや星のエンブレムなどの共通点も存在しており、前作からのデザイン上のつながりを感じさせる。

特警ウインスペクター

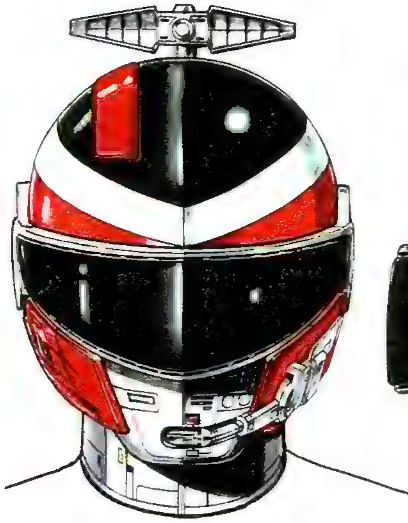
1990–1991

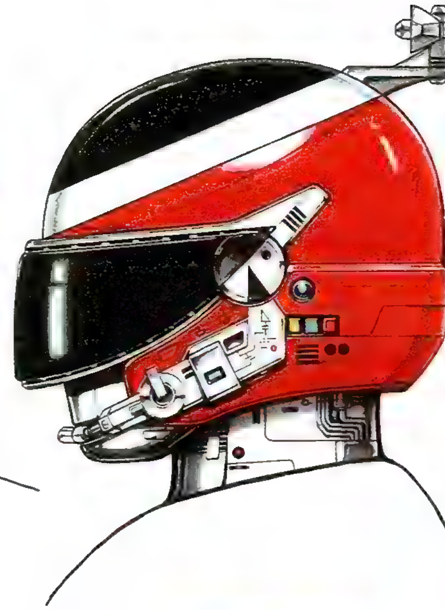
1990.2.4-1991.1.13／テレビ朝日系放送

ファイヤー、バイクル、ウォルター

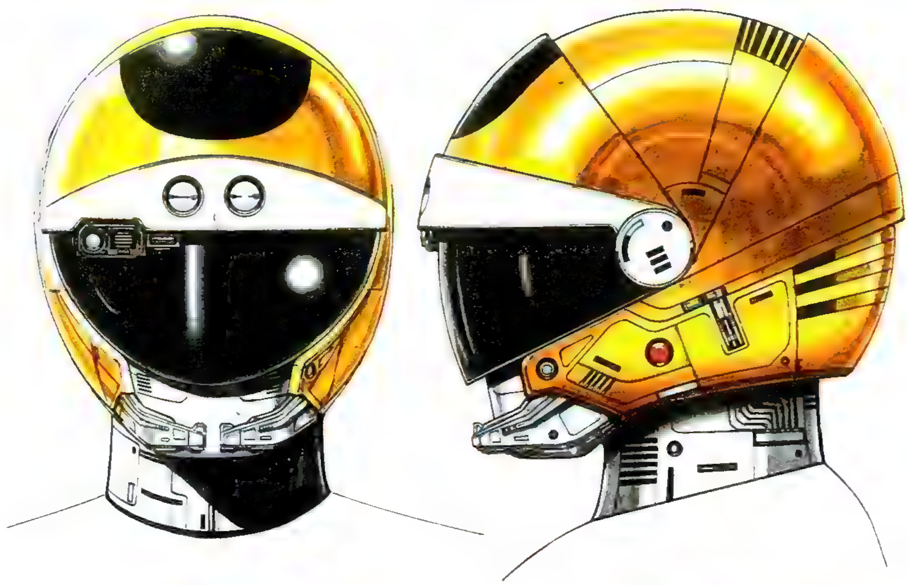


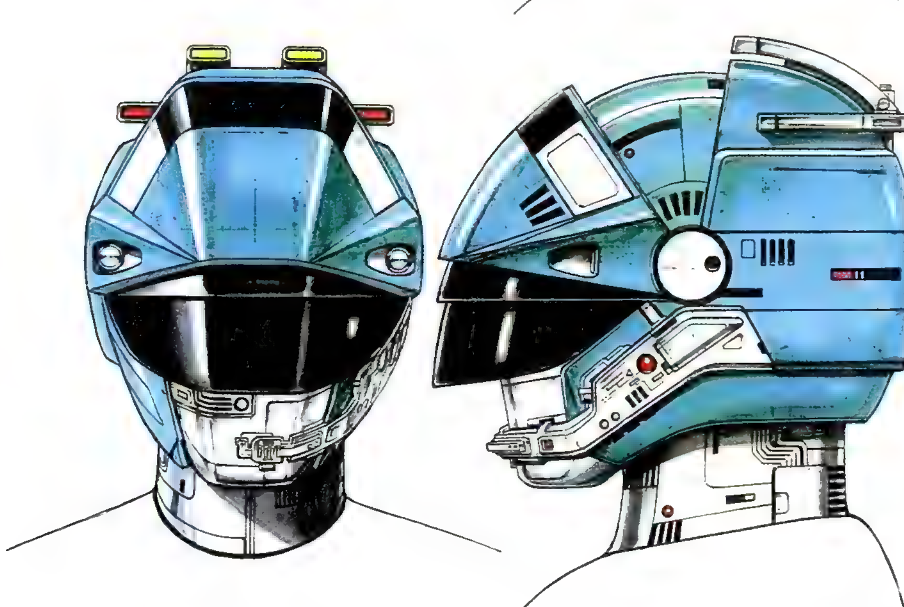
ファイヤー。頭部にはレゾンのフロントガラスと同じ意匠が描かれている。

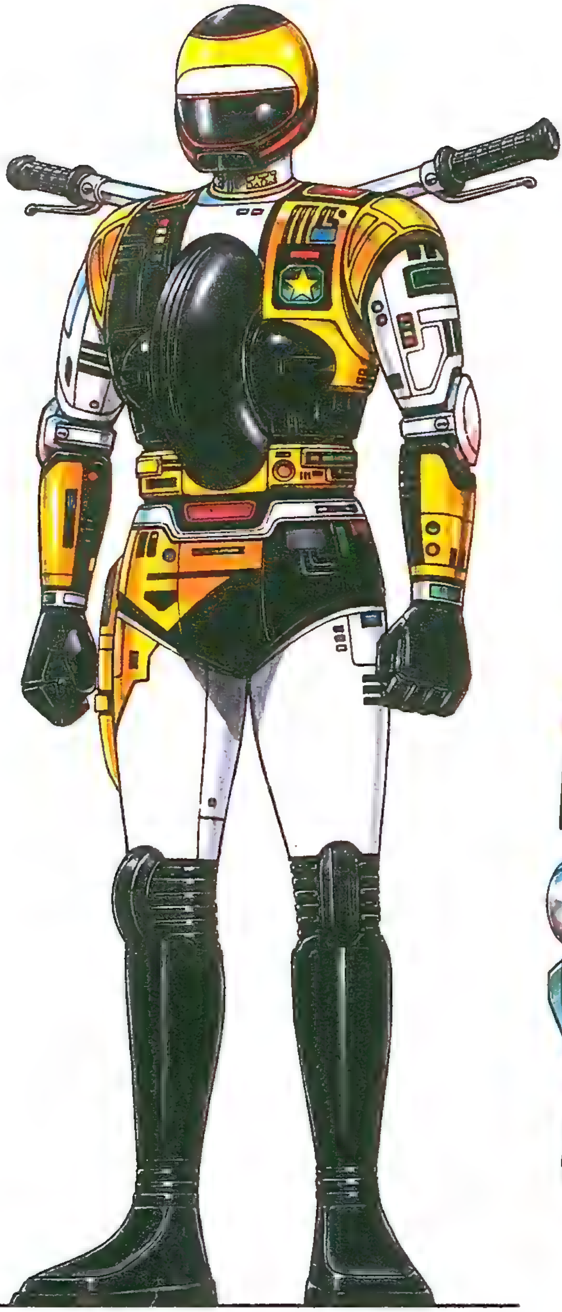




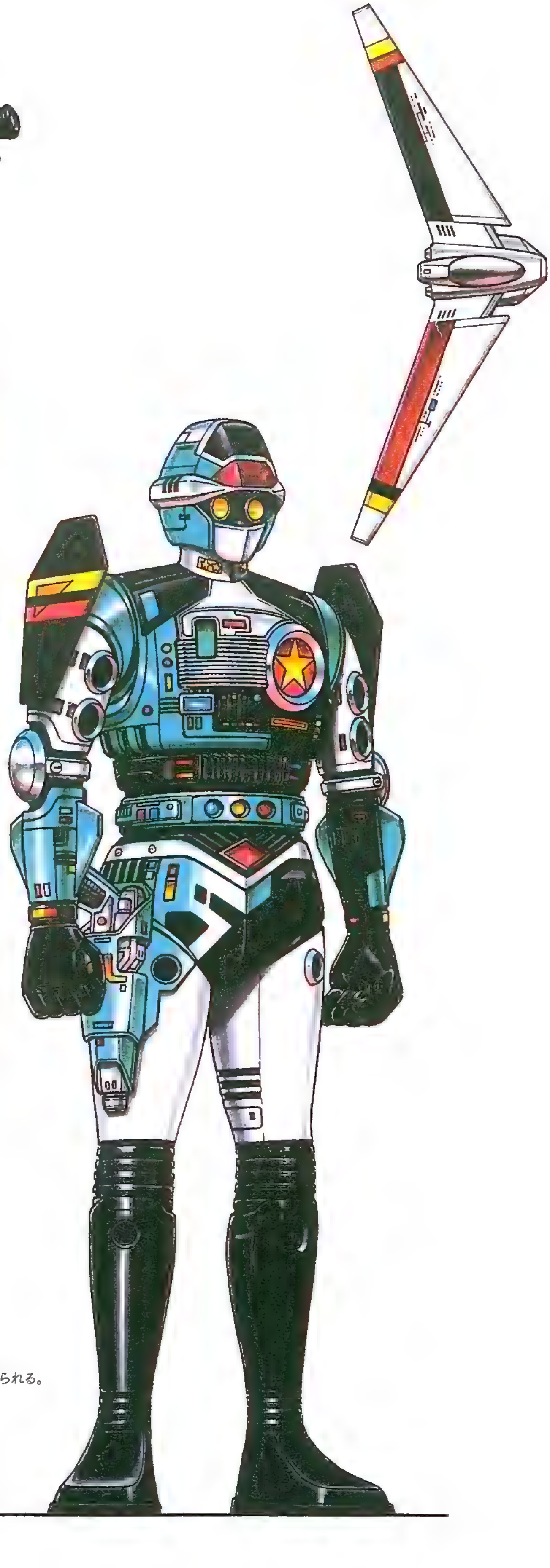
上からファイヤー、バイクル、ウォルターのマスク。『機動刑事ジバン』との接点がなくなった時点で新たに起こされたものである。







バイクル。黄色のラインはバイカンと共通の意匠となる。



ウォルター。頭部にスパイラスの機首、肩に翼の意匠が見られる。

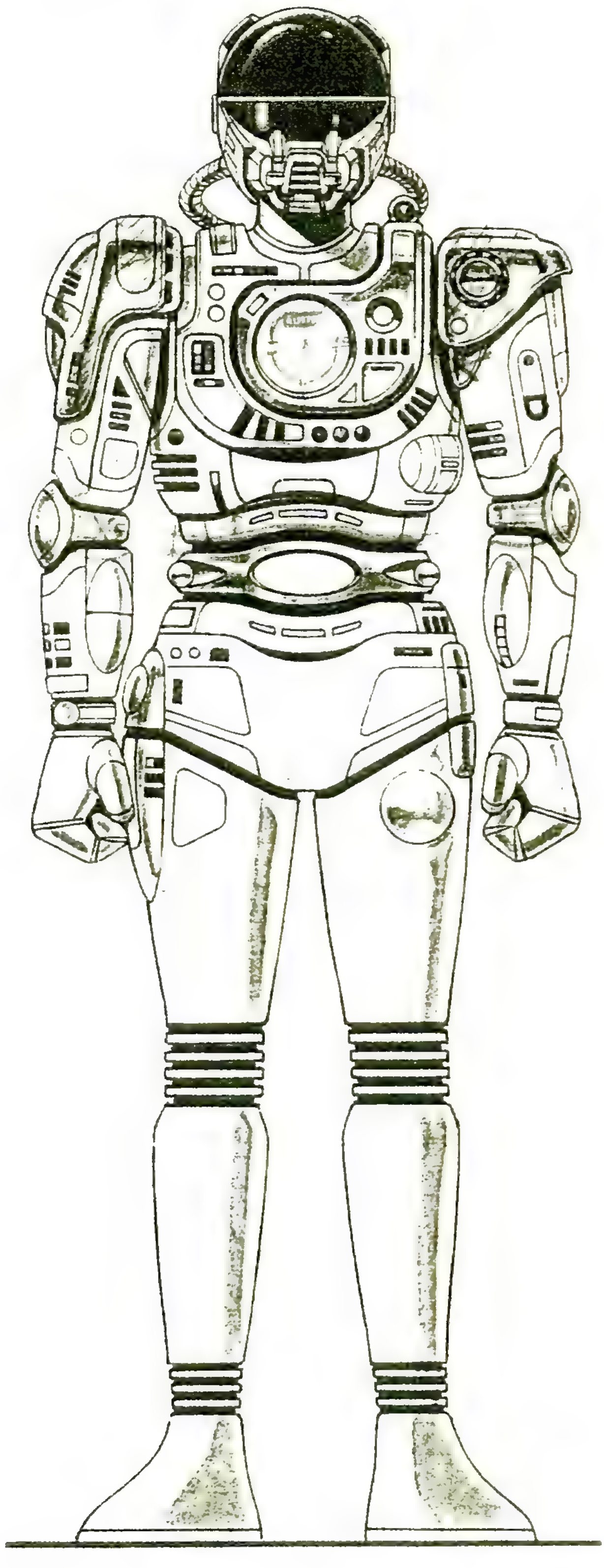
特救指令ソルブレイン

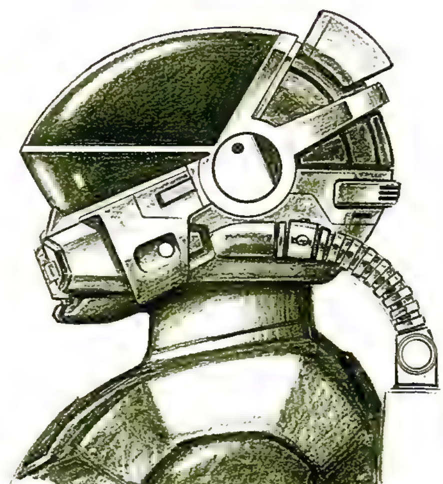
1991–1992

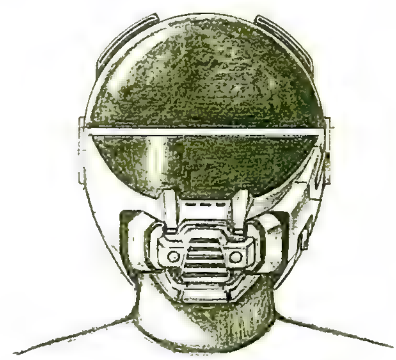
O.A. 1991.1.20-1992.1.26／テレビ朝日系放送

WORKS ソルブレイバー、ソルドーザー（頭部のみ）、ソリッドステイツ-Ⅰ

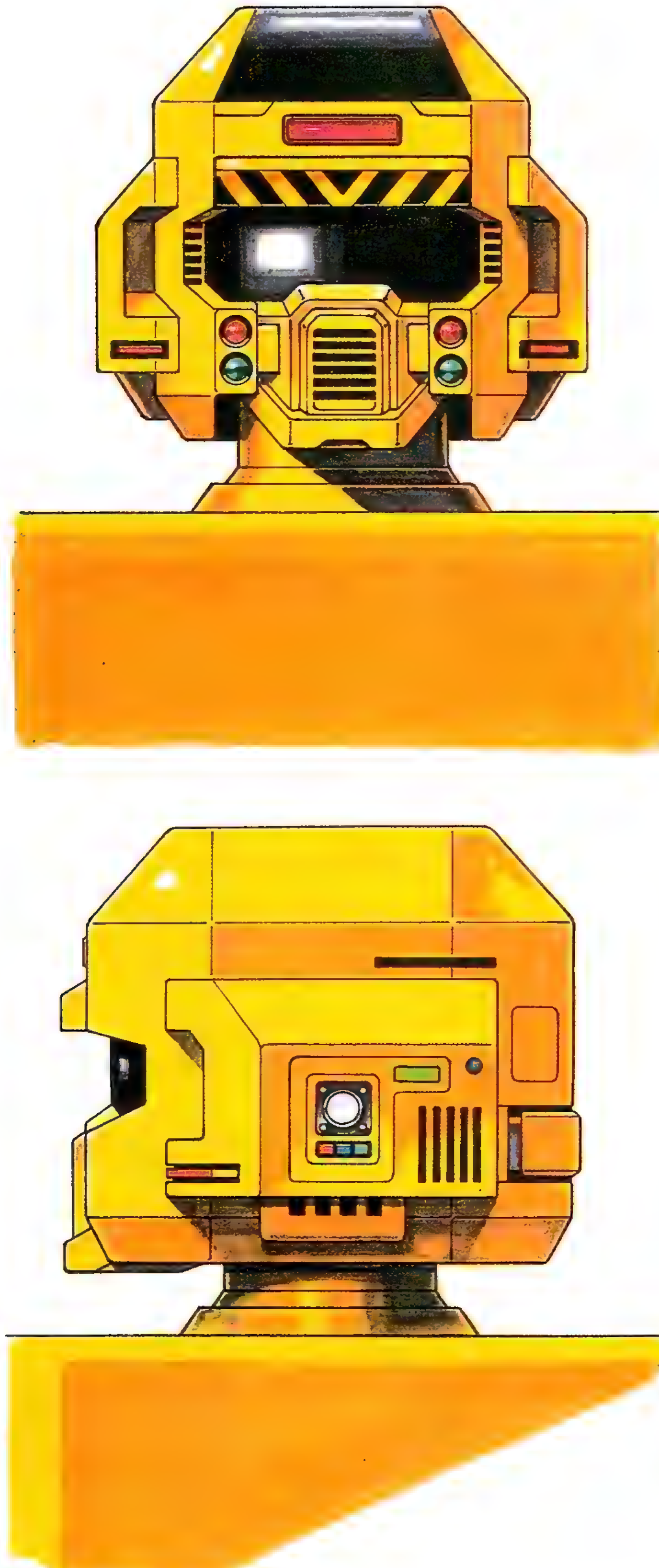
『特警ウインスペクター』と世界観を共有するシリーズ。よりリアリティに重きをおいたレスキューメカが登場している。村上はヒーローのソルブレイバー、大型指令母艦ソリッドステイツ-Ⅰなどのデザインを提案した。



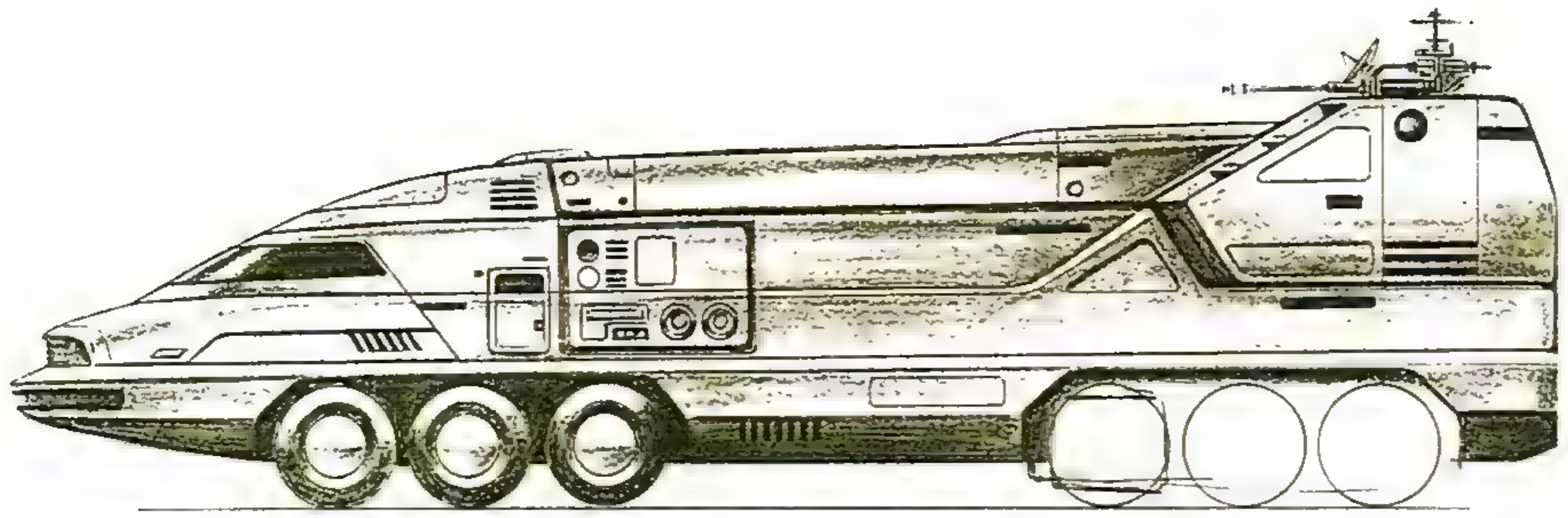


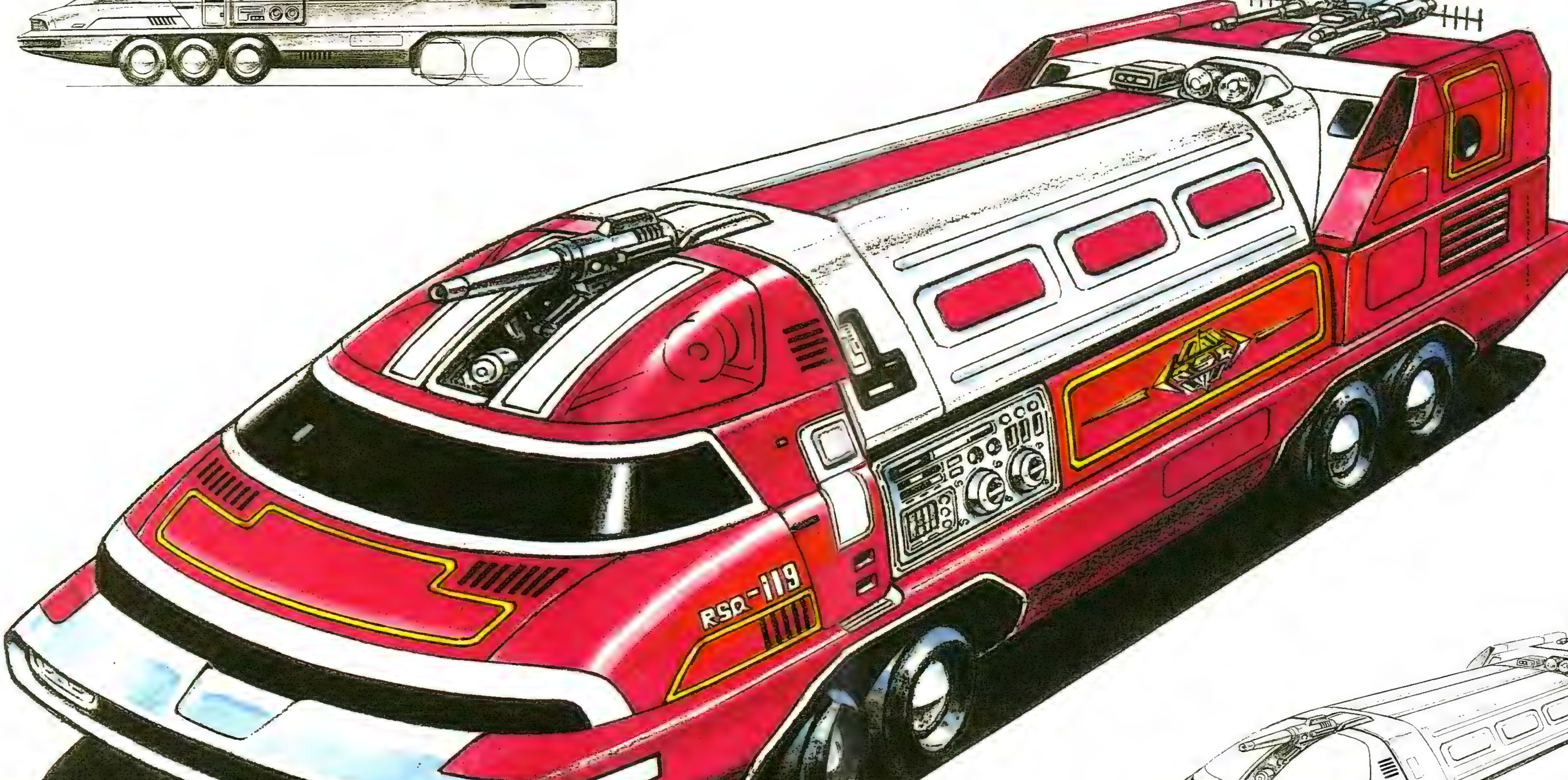


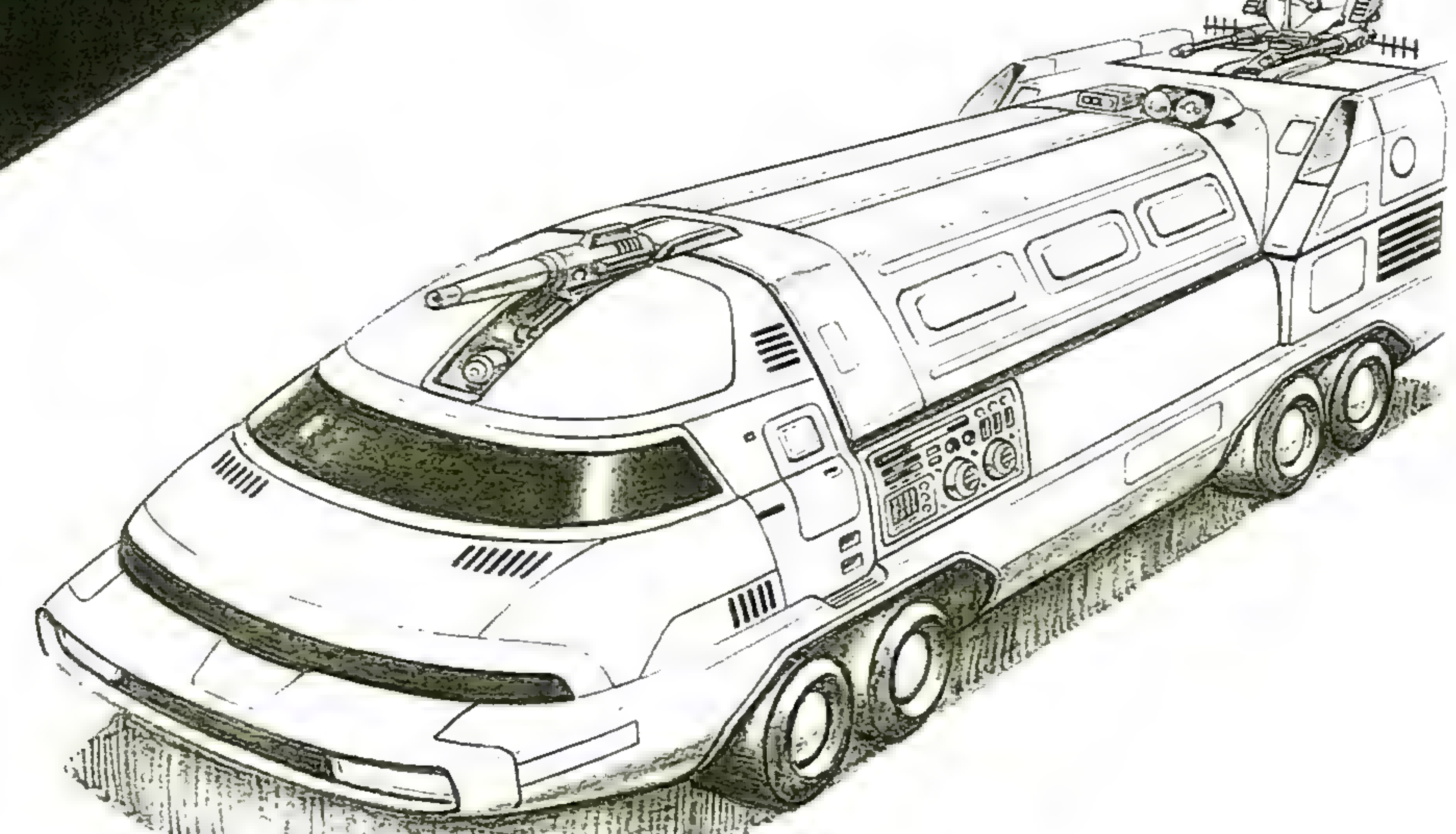
ソルブレイバー。胸部パーツは上に持ち上がり、探査装置ウィザードサーチャーとなる。上の2点はマスクのアイディアラフ。



ソルドーザー頭部デザイン。工事車両と同じ黄色と黒のストライプが入っている。







ソリッドステイツ-Ⅰ。消防車モチーフの大型指令母艦。

恐竜戦隊ジュウレンジャー

1992–1993

OA　1992.2.21–1993.2.12／テレビ朝日系放送

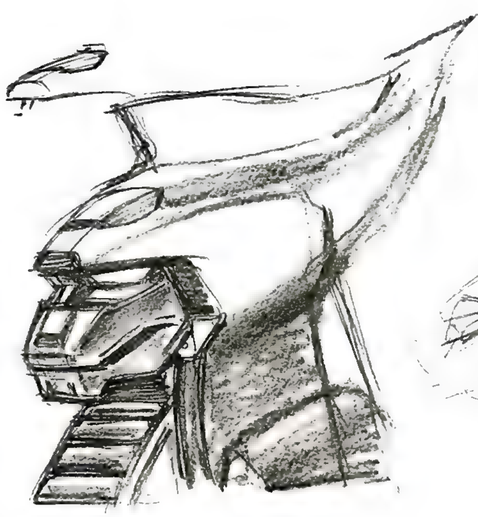
WORKS　ヒーロー、大獣神（頭部のみ）、ドラゴンシーザー原案（頭部のみ）

恐竜がモチーフとなったスーパー戦隊。バンダイおよびプレックスのスタッフが本作から若返ったため、村上はアドバイザー的な立場から、ヒーローやロボットに対する提案を行った。村上は恐竜の牙をイメージした、ひし形をデザインのアクセントとして取り入れている。



ヒーローのアイディアラフ。胸、腕、ヒザにひし形のマークが入っていることがわかる。





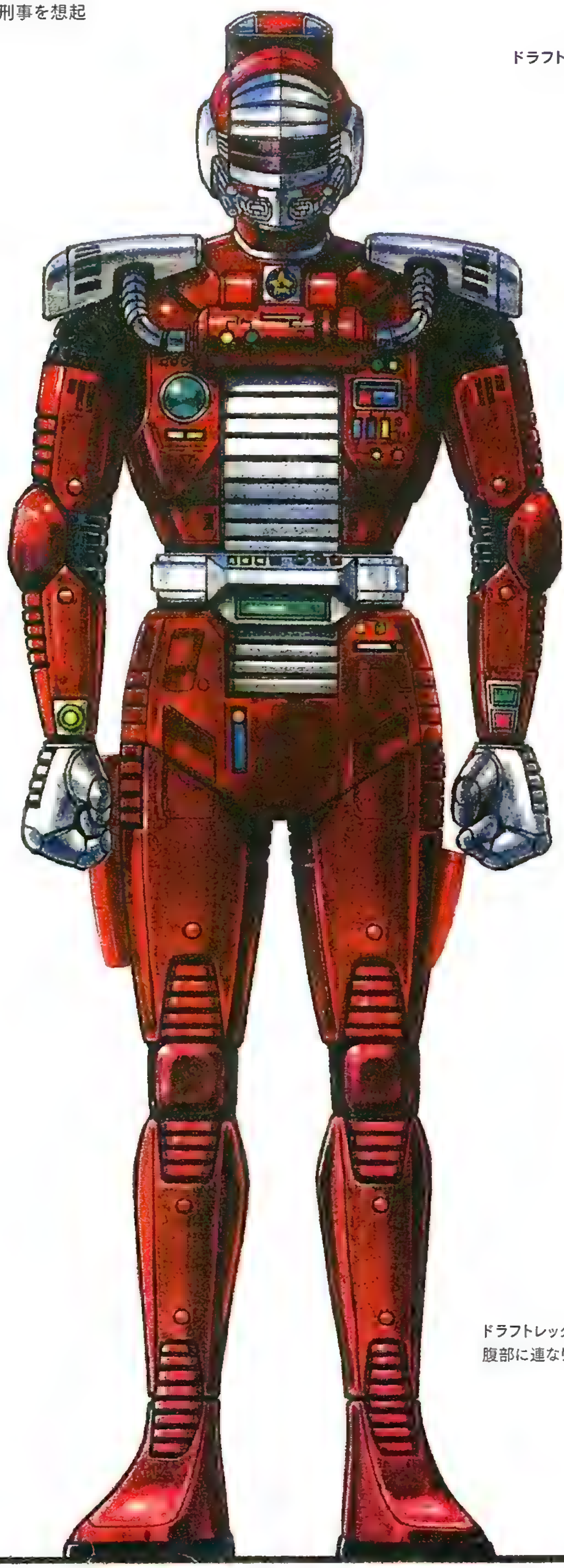
ドラゴンシーザーの頭部アイディアラフ。

特捜エクシードラフト

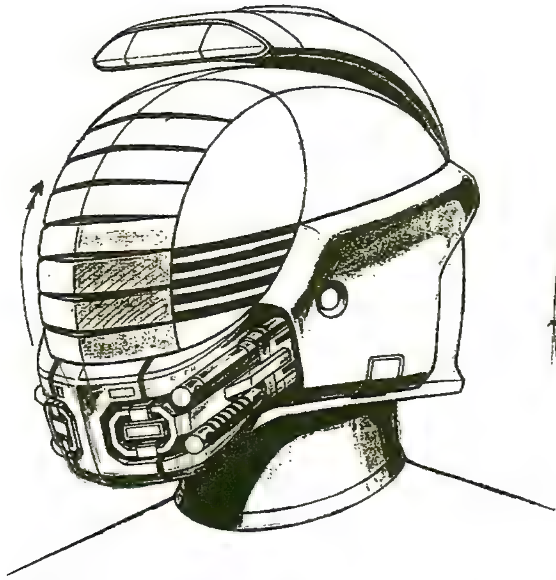
1992–1993

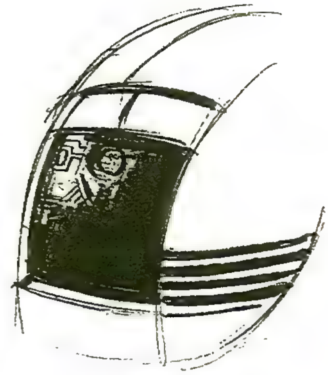
1992.2.2–1993.1.24／テレビ朝日系放送 O.A
ドラフトレッダー、ドラフトブルース、ドラフトキース WORKS

レスキューポリスシリーズ第3作。「実装」をキーワードに、マスクの装着システムに重点を置いたデザインが提案された。ヒーローのシルエットは3作の中では最もシンプルなものとなり、プロテクターを着たヒーローの原点たる宇宙刑事を想起させる。

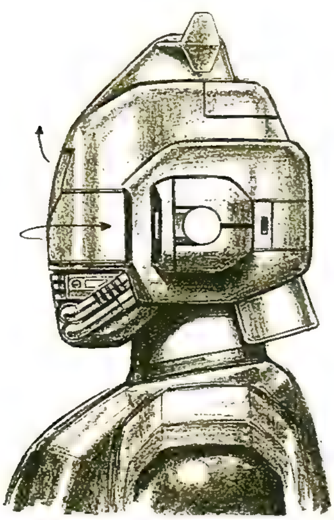


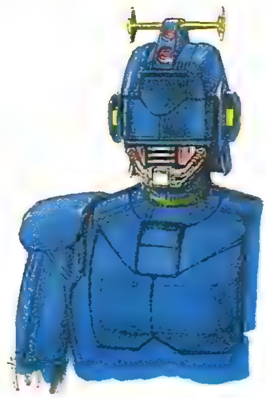
ドラフトレッダー。シャッター状のモールドが頭部から腹部に連なり、また手足にも配置されている。

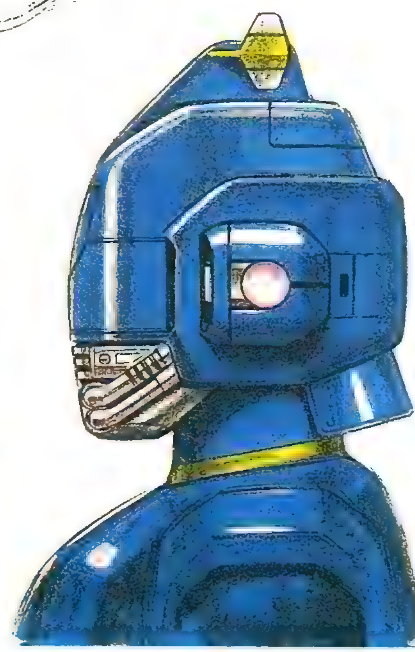




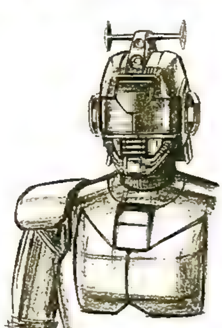
ドラフトレッダーのアイディアラフ。シャッターが上に開く指示が書き込まれている。

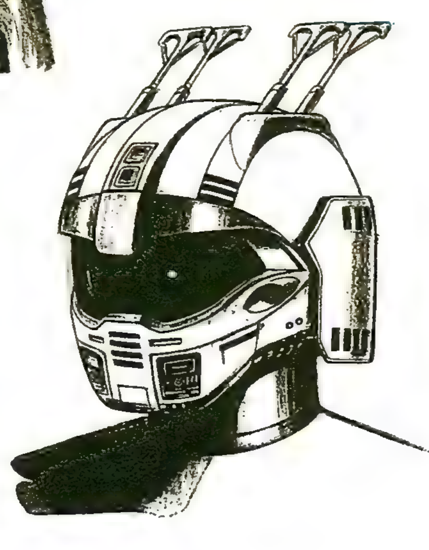


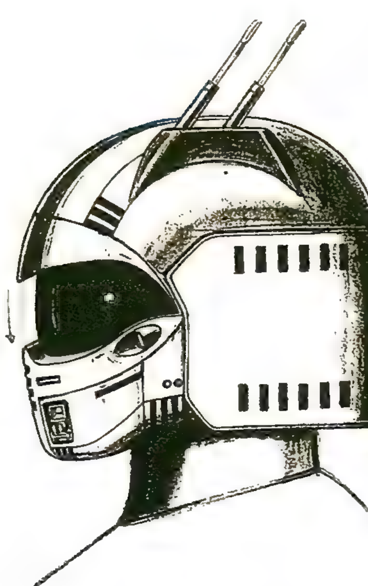




左端はドラフトブルースのアイディアラフ。上は彩色案。







ドラフトキースのアイディアラフ。頭部のハーケンダートは忍者の武器を想定していた。

大予言 復活の巨神

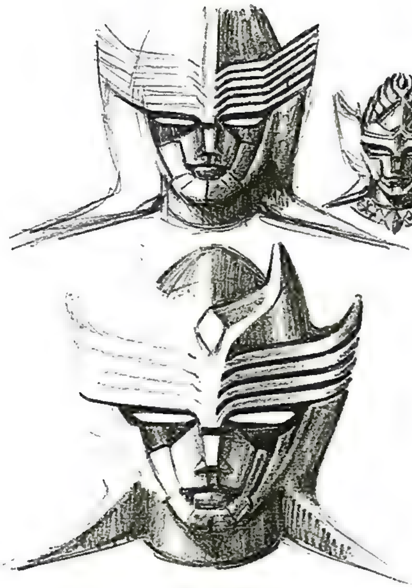
1992

ビデオ用オリジナル映画で、村上はエグゼクティブプロデューサーとして参加するとともに、大巨神トリスメジスタンのデザインを提案している。「SFXスペクタクル・アドベンチャー・ロマン」の副題がつけられており、一般層に向けて壮大なスケールで描かれた作品となった。

1992.4.28／バンダイビジュアルよりビデオリリース
大巨神トリスメジスタン



トリスメジスタンの検討用デザイン。村上の神像に対する憧憬が感じられる。









アイディアラフ。額の装飾はナスカの地上絵を基点に、次第に翼へと変化していく。マントも翼から始まったことがわかる。



映像本編のデザインスタッフが描いた上半身に、村上が頭部と左半身を上から描き足したもの。頭部はこれが決定となった。

村上はジャンパーソンのマスクに対して野心的な試みを行った。通常のゴーグルに加えて、口にもゴーグルを配置しているのだ。また、目を覆うゴーグルの上には空間があり、その奥からマスクの点灯部分が見える。多くのゴーグルヒーローを生んだ、村上ならではの新たな方向性である。

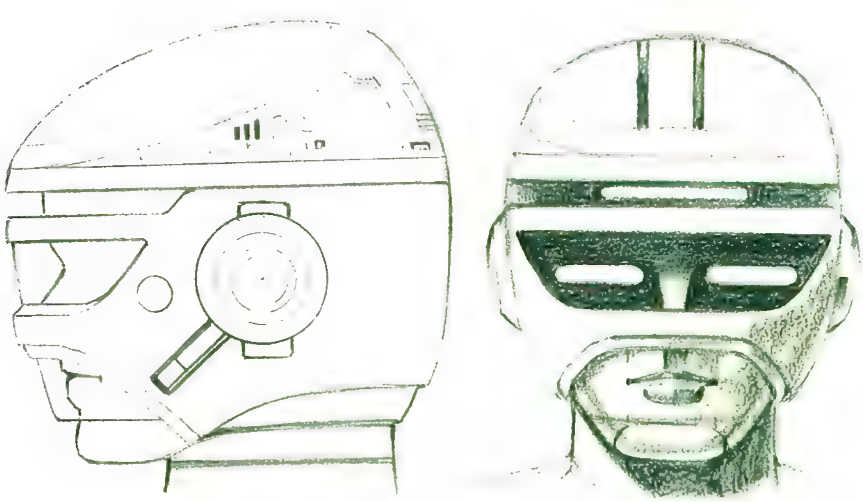
特捜ロボ ジャンパーソン

1993–1994

1993.1.31–1994.1.23／テレビ朝日系放送
ジャンパーソン



ジャンパーソンの検討用デザイン。頭部横にはマスク脱着用の回転軸がある。



アイディアラフ。側面を見ると、ゴーグルの構造がわかる。最終的に額の下の空間と口のゴーグルはオミットされている。

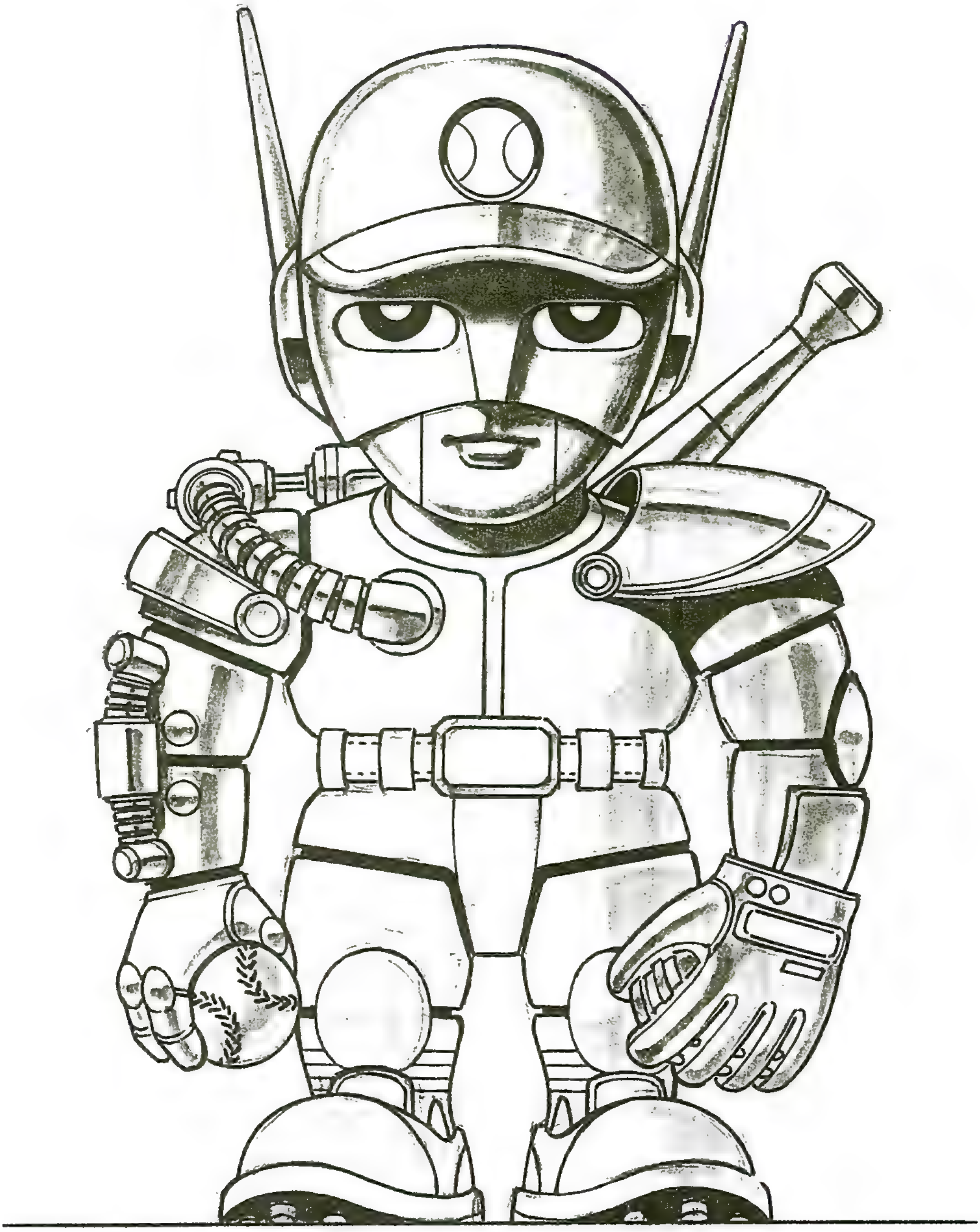
疾風！アイアンリーガー

1993–1994

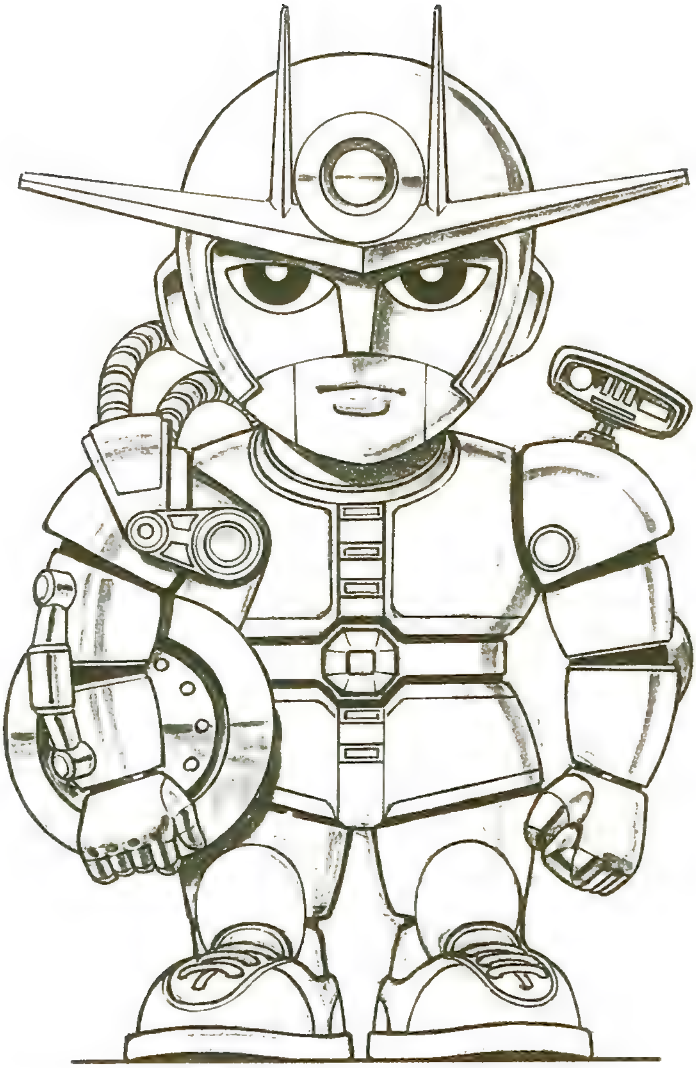
O.A. 1993.4.6–1994.3.29／テレビ東京系放送

WORKS メインメカ原案

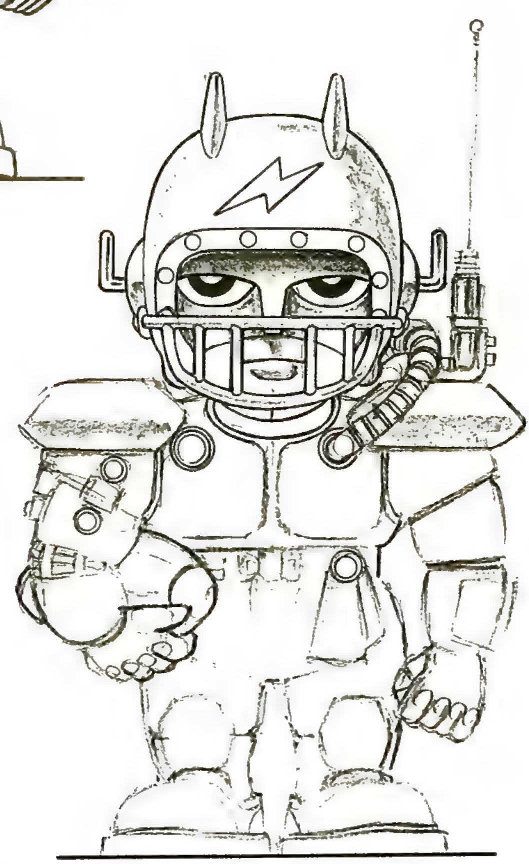
本作はデフォルメロボットが活躍するスポーツアニメーション。村上はリーガーたちの原案を提案している。その特徴は目にあり、村上はあえて怖い目を描いている。それは『アイアンリーガー』がギャグアニメではなく、ロボットの真剣勝負を描くという企画趣旨に沿ったものであった。



主人公マグナムエースの原案となる野球リーガー。野球帽、グローブ、スパイクは決定デザインにも踏襲された。



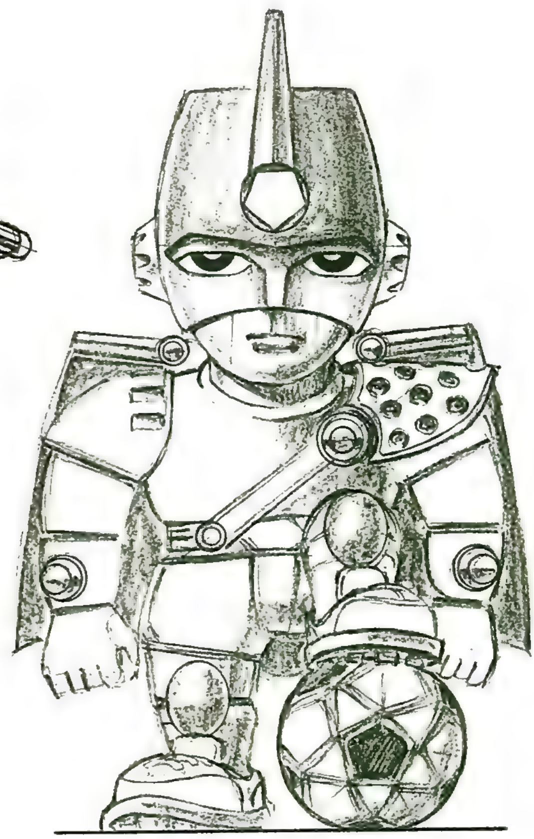
円盤投げリーガー。190ページの野球リーガーと同様に右肩に強化装置が存在する。



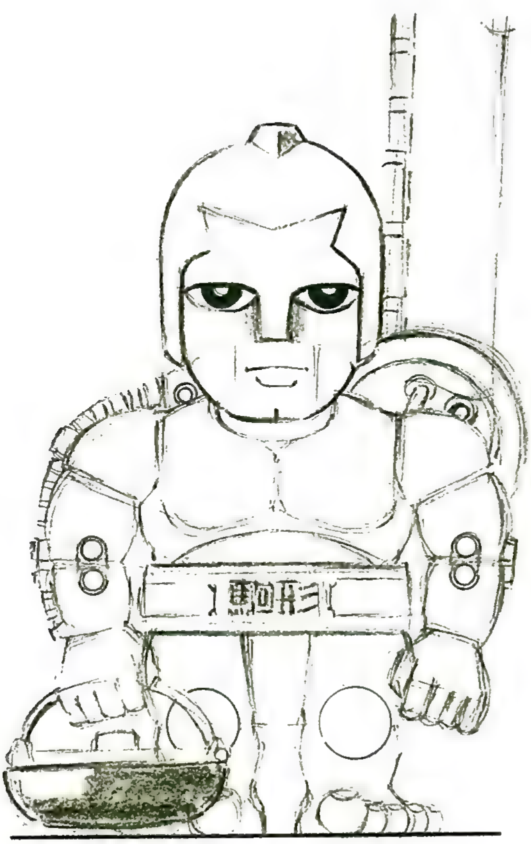
フットボールリーガー。ブルアーマーの原案となった。



剣道リーガー。極十郎太の原案。



サッカーリーガー。マッハウインディの原案。



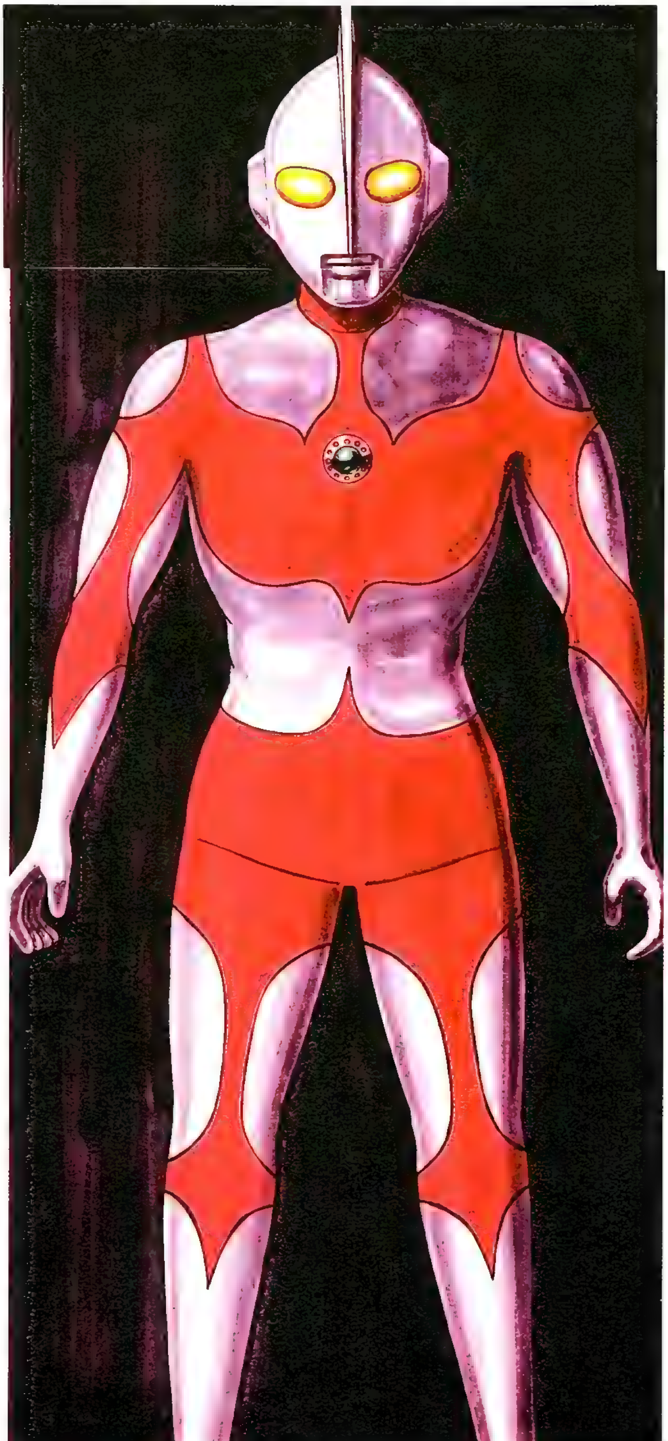
力士リーガー。武器はちゃんこ鍋。まわしの「駒形」はバンダイ本社の所在地である。

円谷プロとアメリカの合作となるウルトラマン。村上は頭部に科学特捜隊の車が合体するウルトラマンという、新機軸となるアイディアを提案した。ウルトラマンとメカニックの融合という発想に、村上ならではの独自性がある。2017年3月24日にBlu-rayBOXが発売。

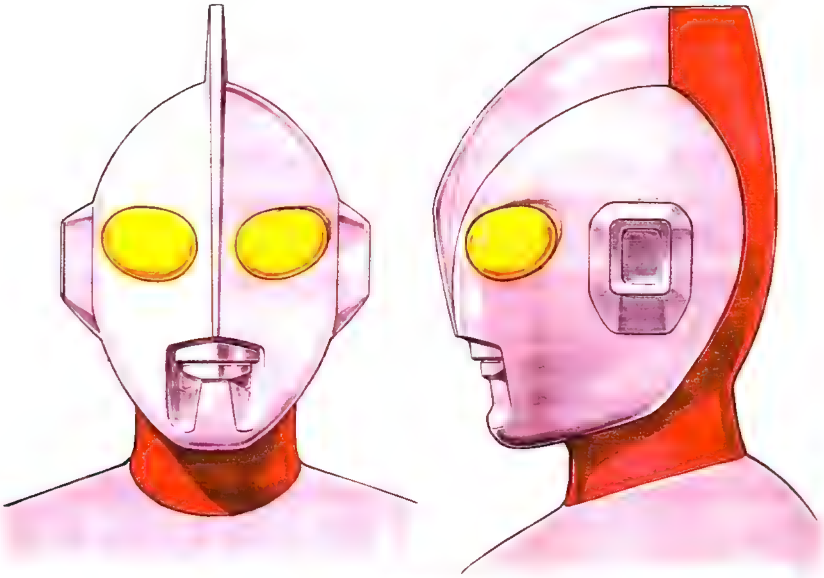
ウルトラマンパワード

1993–1994

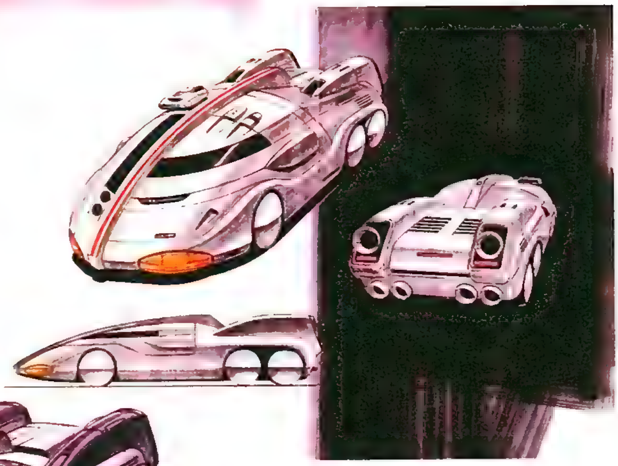
1993.12.5–1994.8.25／バンダイビジュアルよりビデオリリース
ヒーローデザイン提案

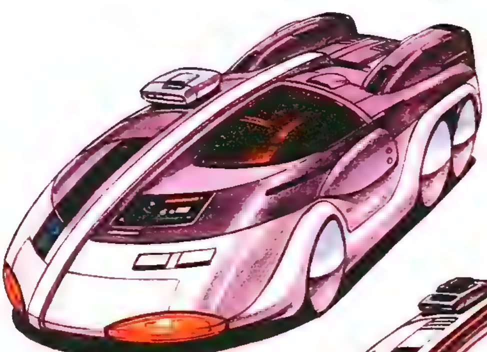


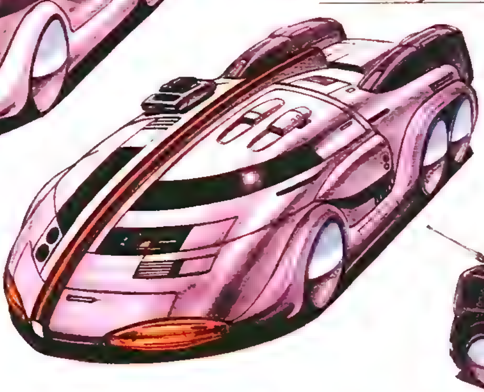
ウルトラマン全身。カラータイマーのデザインは決定デザインにも使用されている。

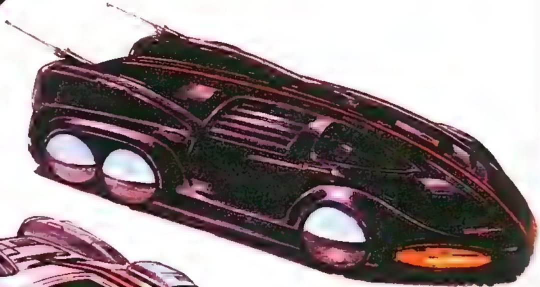


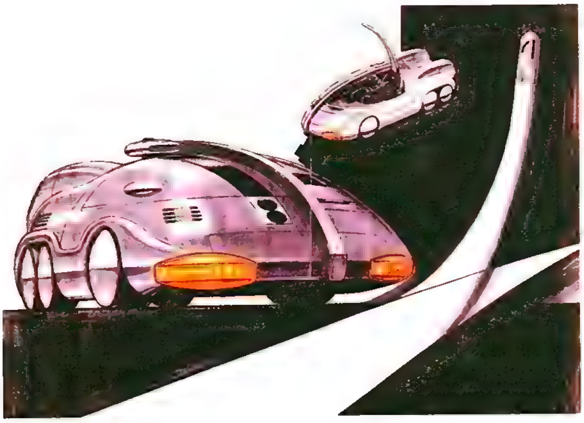
ウルトラマンの頭部。口と耳に村上ならではの立体的な解釈がなされている。

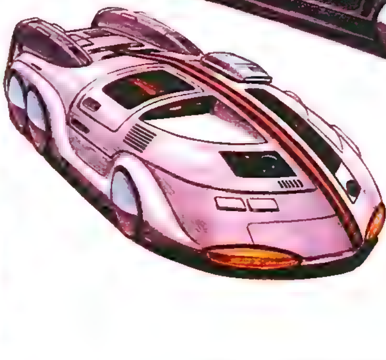












ウルトラマンの頭部となる自動車の検討用デザイン。ライトとボディ中央に配置されたパーツがウルトラマンの頭を思わせる。

仮面ライダーZO

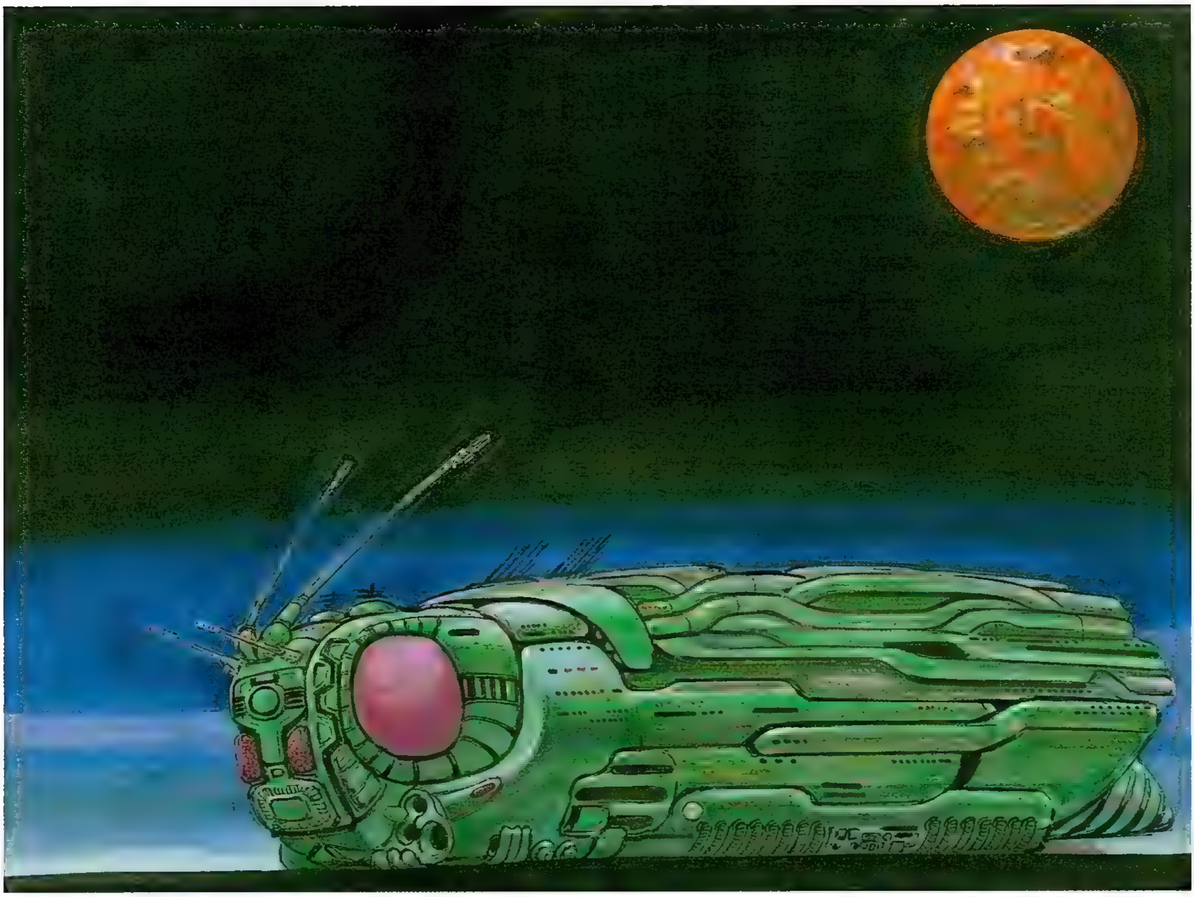
1993

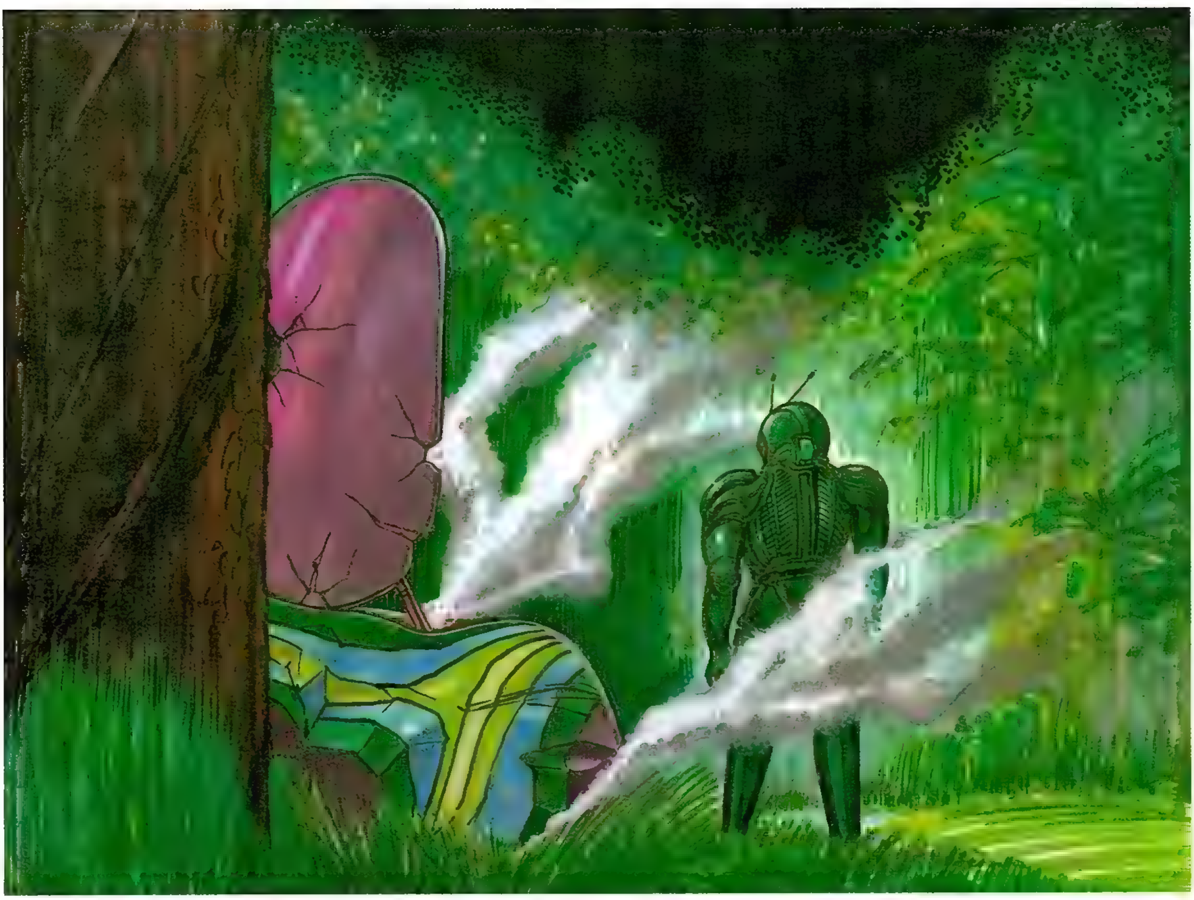
1993.4.17／東映系で劇場公開
マーチャンダイズドデザイン

村上が企画スタッフとして関わった、初めての仮面ライダー。劇場用オリジナル作品ということで、村上は映像用のイメージボードの提案も行っている。村上によれば、ZOがこれまでの仮面ライダーの完成形とのことである。



仮面ライダーZO。変身ベルトを極限まで単純化し、全身にスーツ的な継ぎ目も入っていない。皮膚そのものとしての解釈も可能な発想。







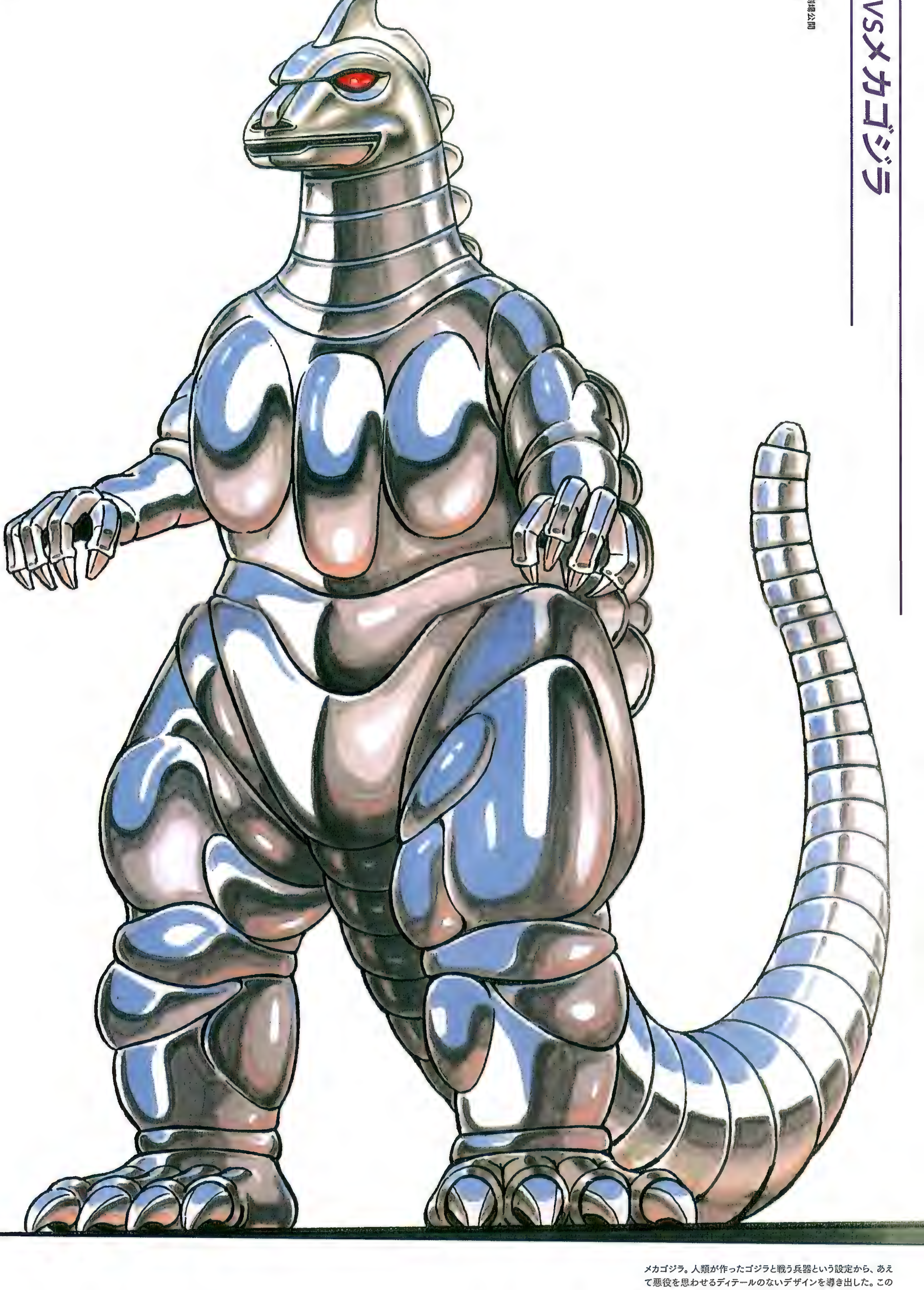
イメージボード。落雷に打たれる仮面ライダー。雷のシークエンスは映像にも取り入れられている。

ゴジラvsメカゴジラ

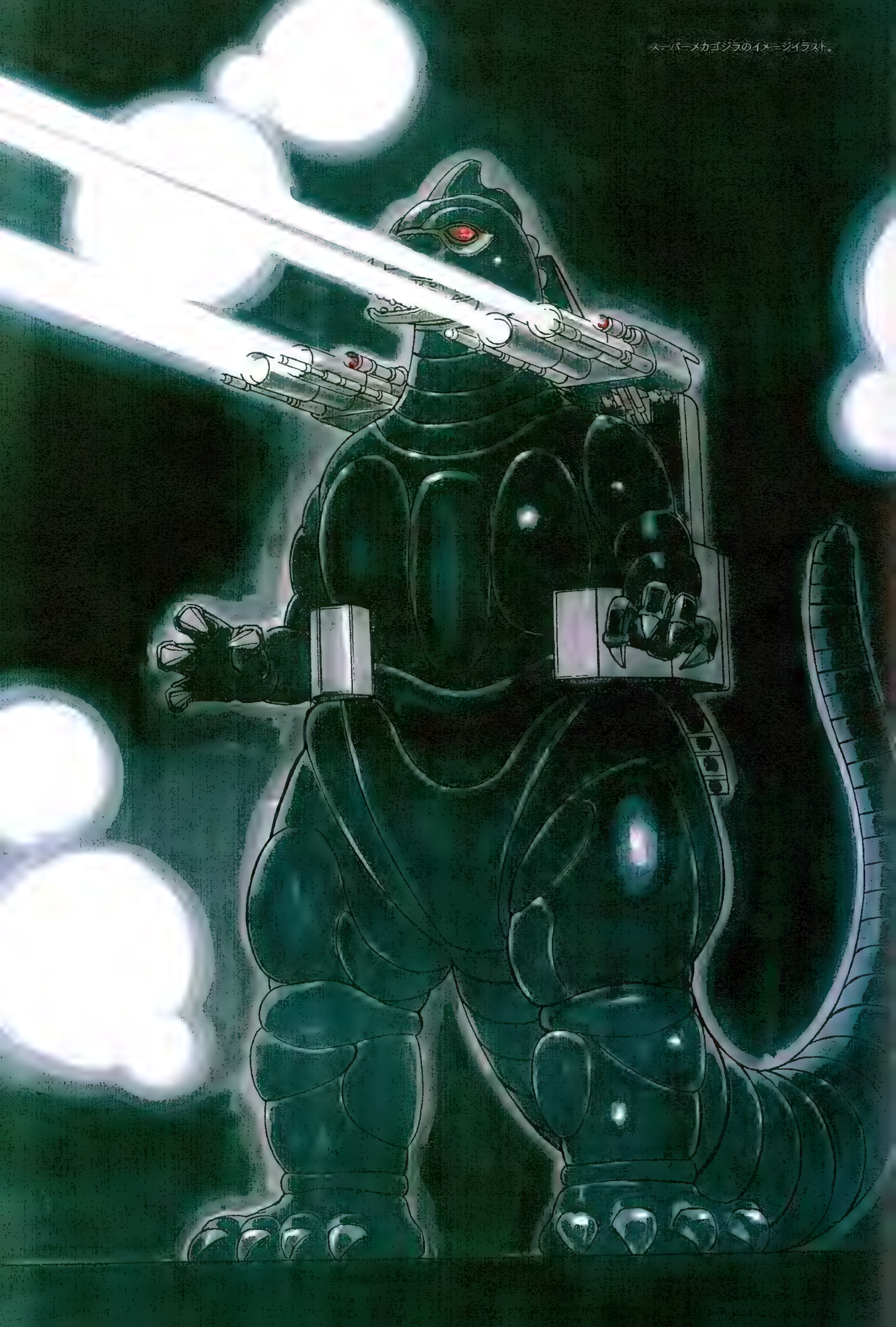
1993

O.A　1993.12.11／東宝系で劇場公開
WORKS　メカゴジラデザイン提案

本作の特技監督である川北紘一から、村上はメカゴジラのデザインを依頼された。既にいくつかのデザインが存在していたが、決定打に欠けていたためだ。村上はゴジラに対抗できるロボットはゴジラしかないと考え、ゴジラの体型からメカニズムとしての機能をプラスしていった。

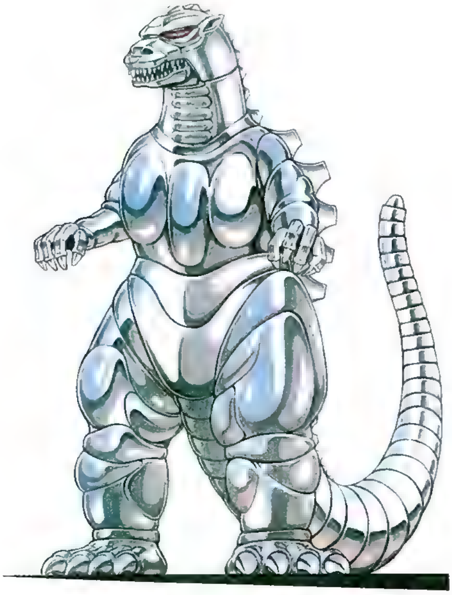


メカゴジラ。人類が作ったゴジラと戦う兵器という設定から、あえて悪役を思わせるディテールのないデザインを導き出した。この絵が映画用のデザインのもとになっている。

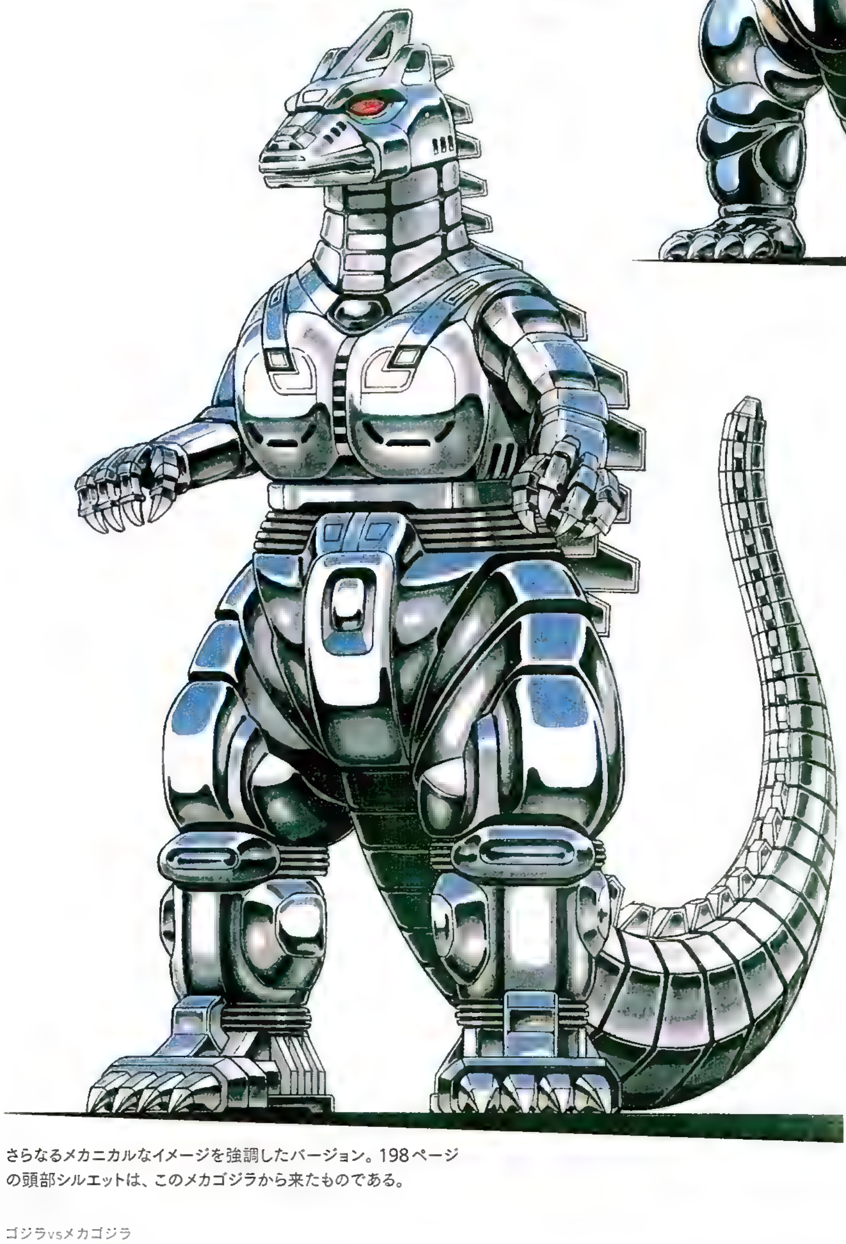


スーパーメカゴジラのイメージイラスト。

このページの3点のデザインはほぼ同時に描かれたものだ。まず、ゴジラを描き（左）、そこから機能を示すディテールを加えている（下）。198ページのメカゴジラのボディは左のバージョンが活かされたことがわかる。







さらなるメカニカルなイメージを強調したバージョン。198ページの頭部シルエットは、このメカゴジラから来たものである。

忍者戦隊カクレンジャー

1994–1995

O.A. 1994.2.18–1995.2.24／テレビ朝日系放送
WORKS ヒーロー、獣将、無敵将軍（頭部のみ）、ニンジャマン原案

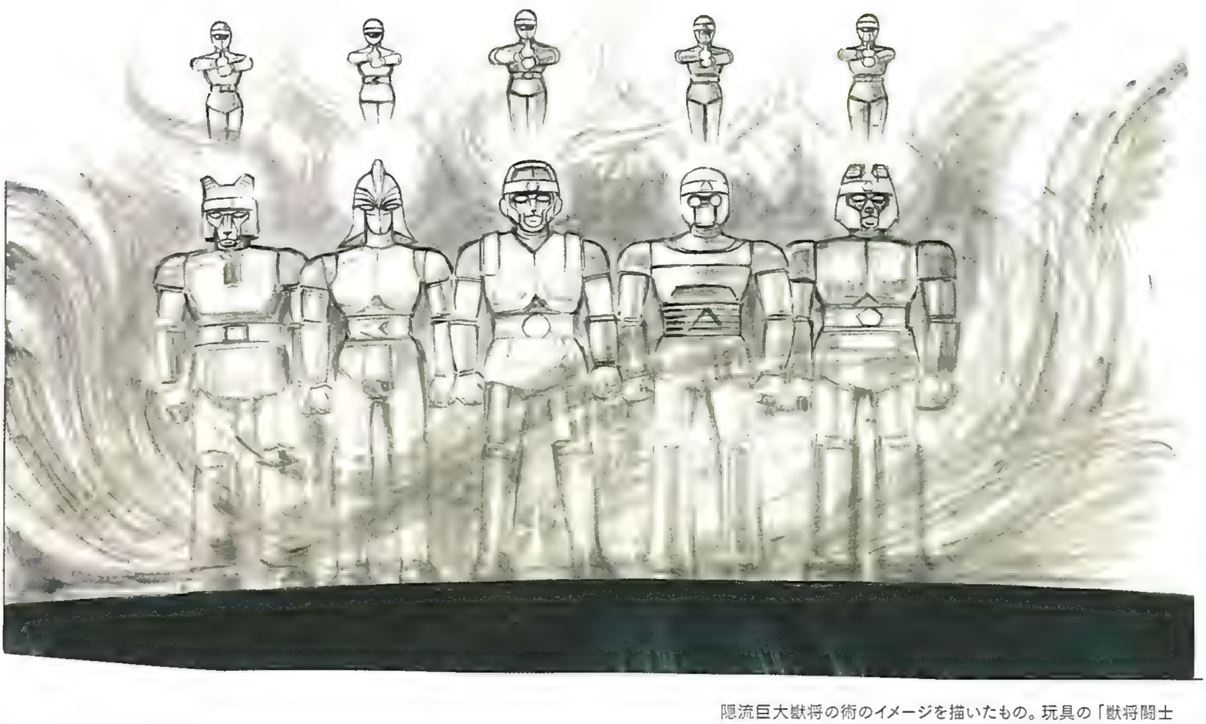
忍者戦隊というモチーフは村上を大いに刺激し、本作において多くのデザインを提案している。特に「獣将」と呼ばれる、動物の顔をしたロボットに対する創作意欲は激しいものとなった。工業デザインの発想でアウトプットされた、忍者アニマルメカを堪能していただきたい。



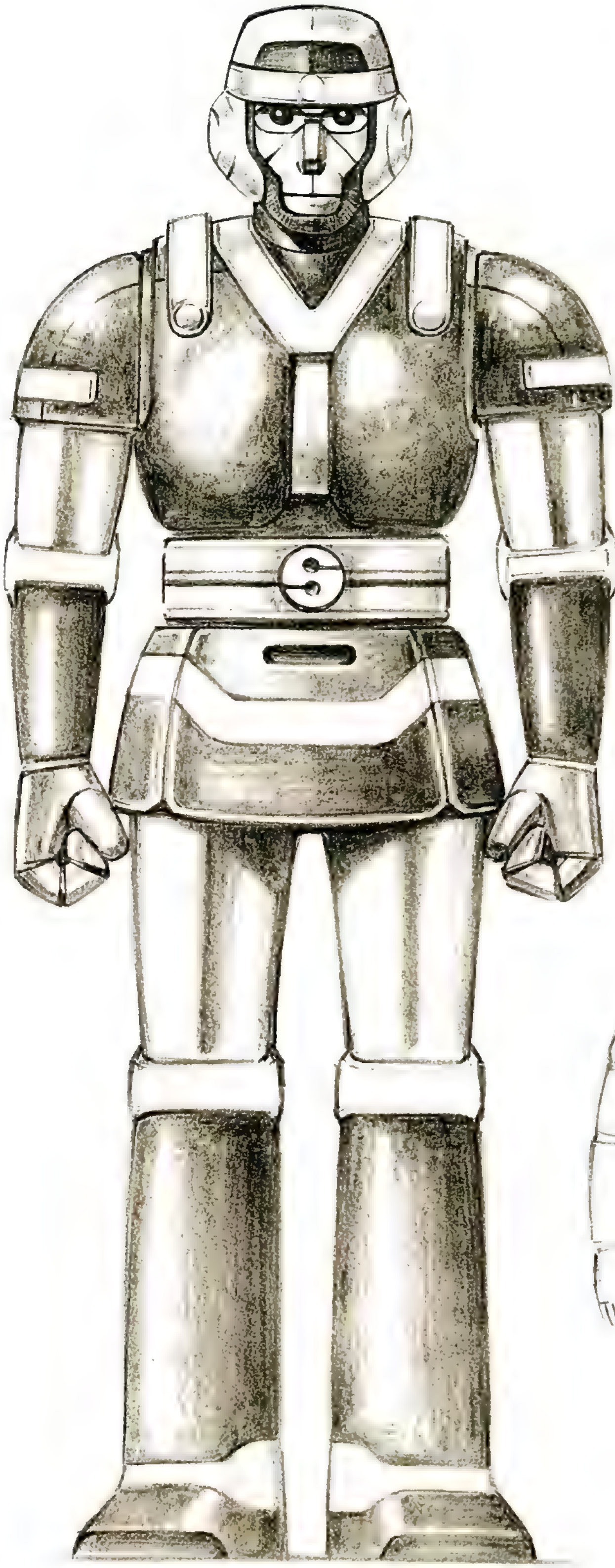
カクレンジャー。当初は胸に「忍」を図案化したエンブレムが存在した。



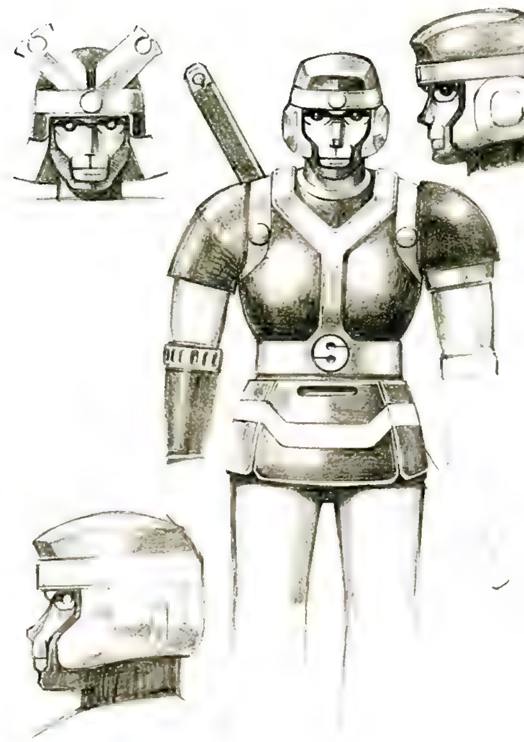
カクレンジャーのマスクのアイディアラフ。村上は自ら試し描きにバツをつけている。



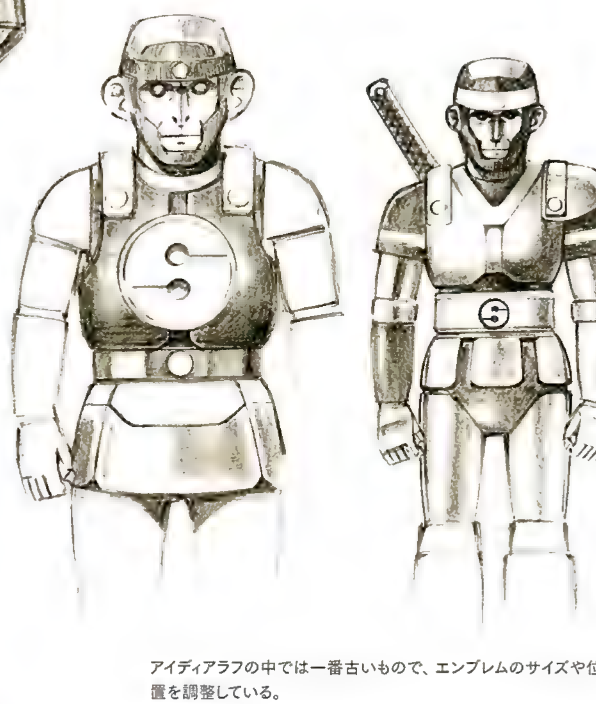
隠流巨大獣将の術のイメージを描いたもの。玩具の「獣将闘士（ファイター）」シリーズで、このシークエンスを忠実に再現できた。



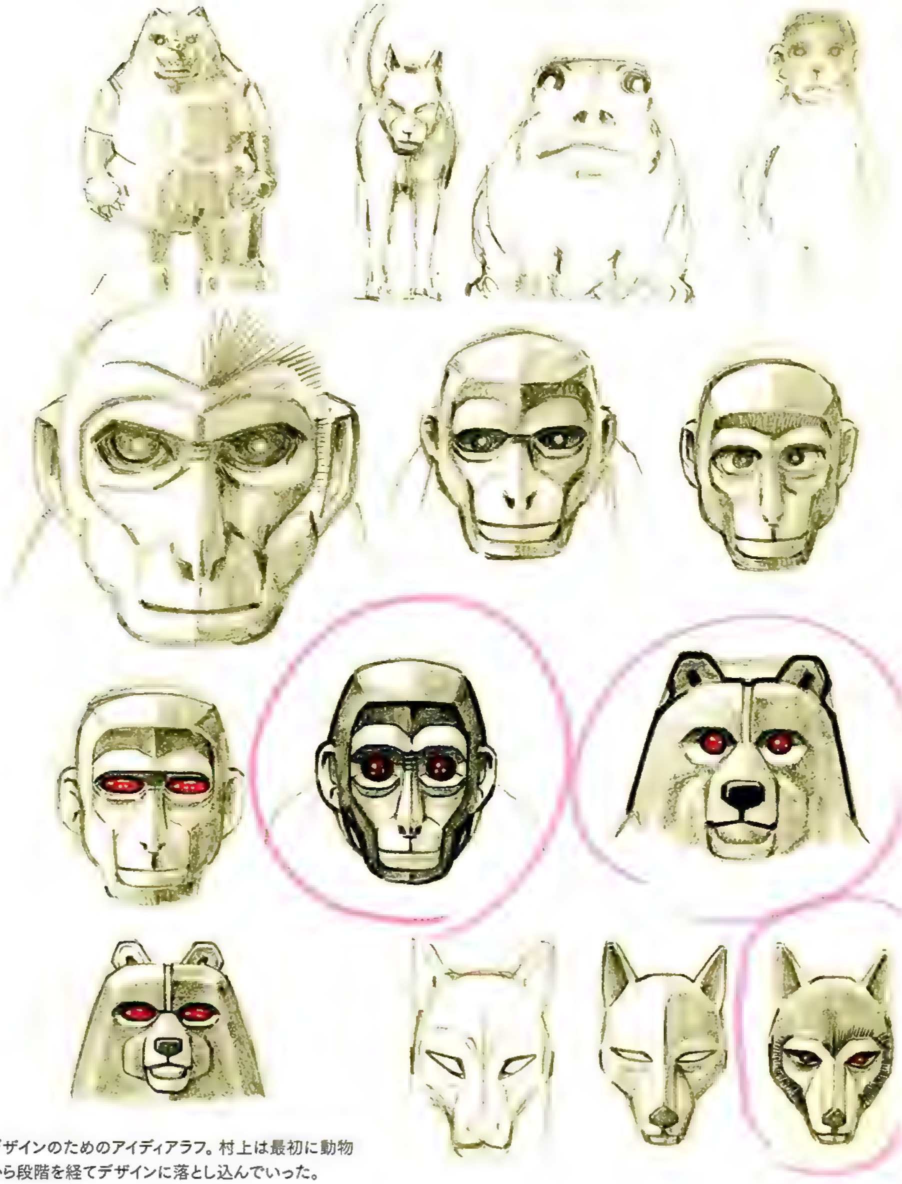
アイディアラフの最終バージョン。村上の提案は獣将ファイターとして映像に登場している。



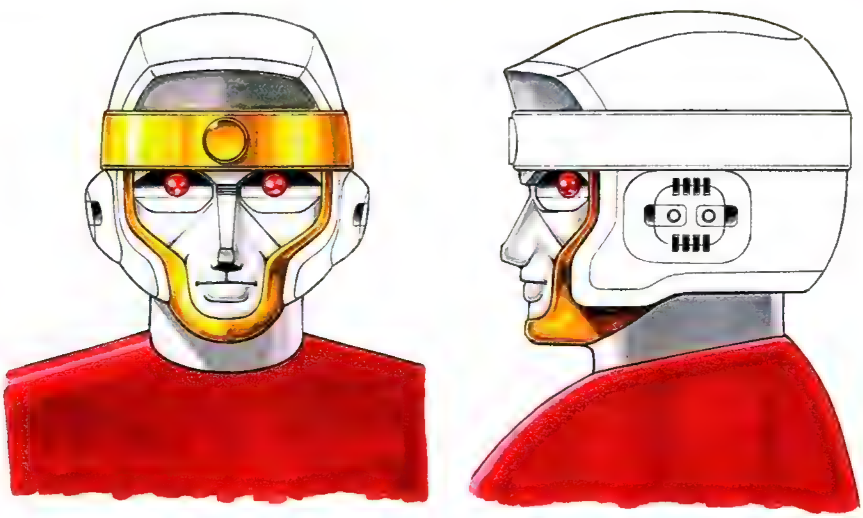
レッドサルダーのアイディアラフ。ボディは決まり、頭部デザインをまとめる段階のもの。



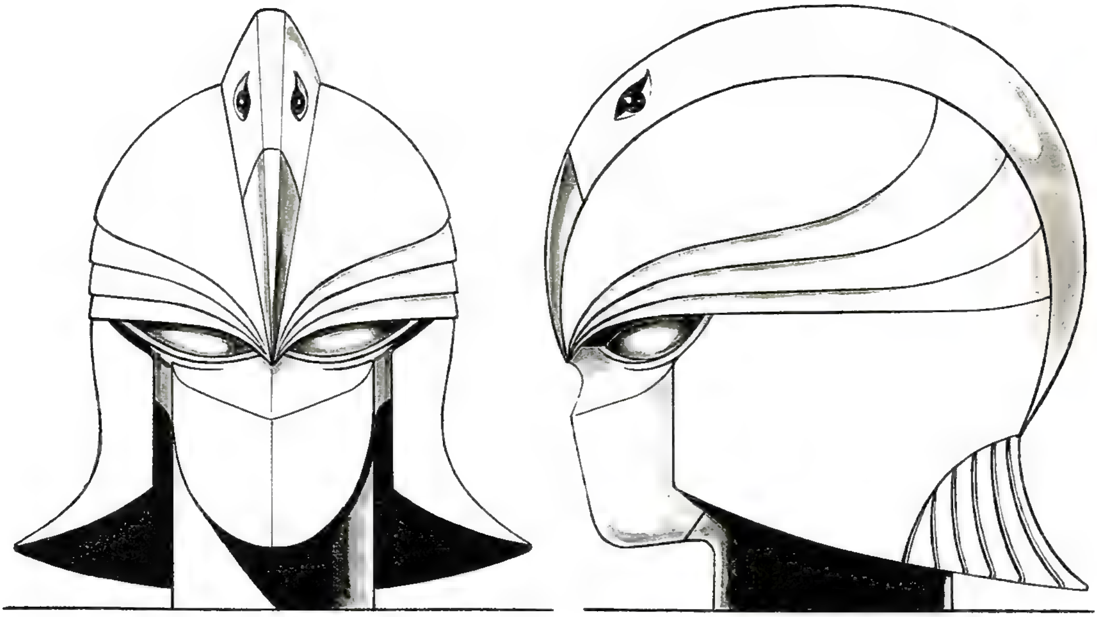
アイディアラフの中では一番古いもので、エンブレムのサイズや位置を調整している。



獣将の頭部デザインのためのアイディアラフ。村上は最初に動物を描き、そこから段階を経てデザインに落とし込んでいった。



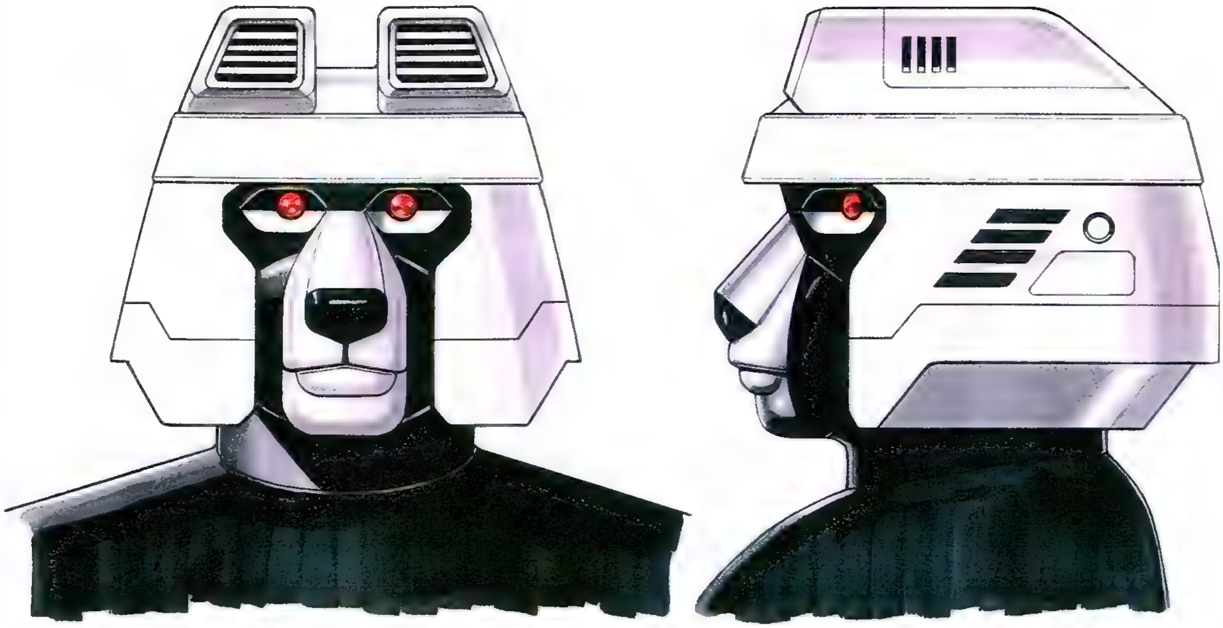
レッドサルダーの頭部デザイン。目に村上独自の表現が見られる。



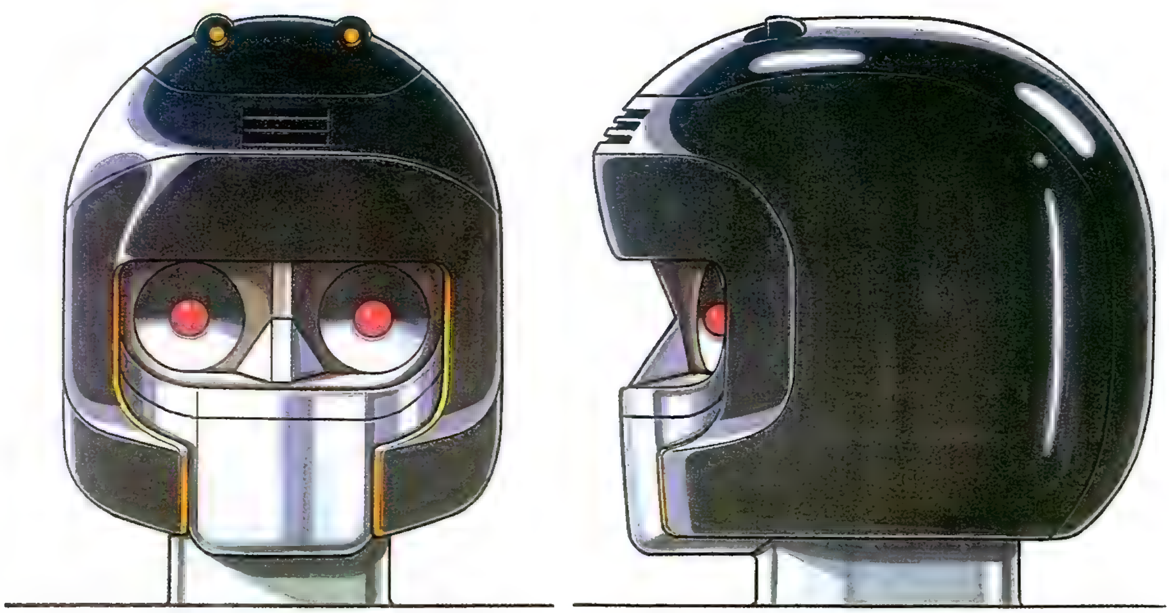
ホワイトカークの頭部。頭頂に描かれた鶴の眼に注目していただきたい。鶴がヘルメットとして頭部を覆っているイメージが盛り込まれているのだ。



ブルーロウガンの頭部。側面の目の位置は立体化された時を想定して、ここに描かれた。

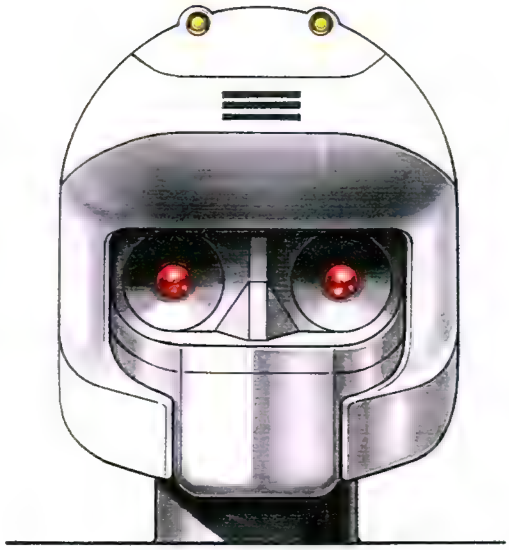


イエロークマードの頭部。耳はメカニック的に処理された。



ブラックガンマーの頭部。頭頂部にガマの目が存在している。

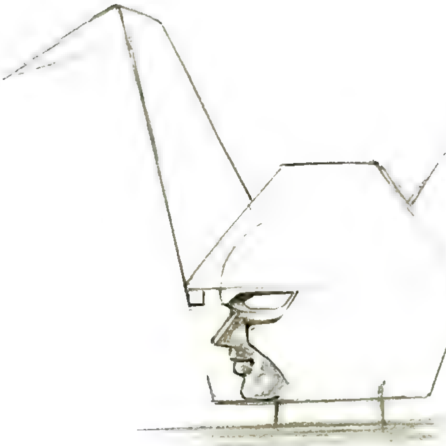
彩色前のブラックガンマー。







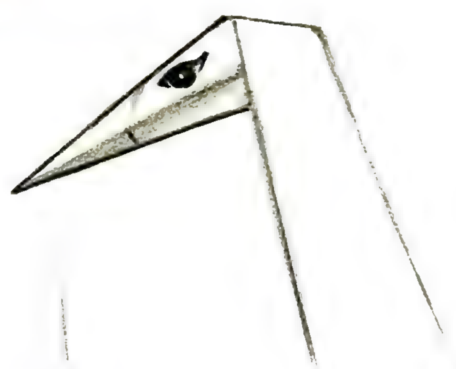
ブラックガンマーのアイディアラフ。鼻に該当するパーツの形状が微妙に調整されている。





無敵将軍の頭部のアイディアラフ。折り鶴が兜となっている。







ブルースワット

1994–1995

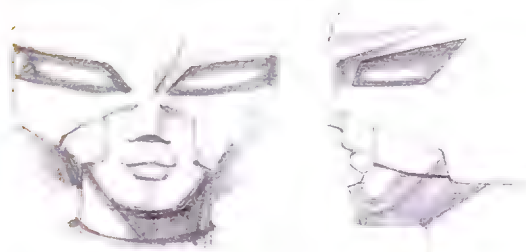
O.A. 1994.1.30–1995.1.29／テレビ朝日系放送

WORKS ヒーロー、ゴールドプラチナム、スターフォートレス原案、パルサーボッド原案

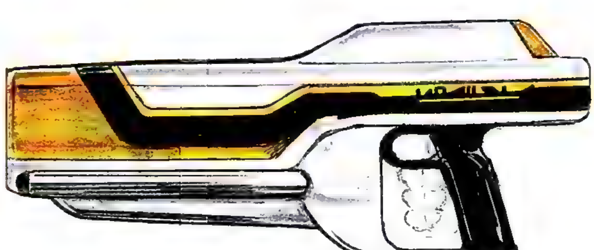
特撮ヒーローにスパイ＆ガンアクションを取り入れた意欲作。村上がこれまで描いてきたプロテクターを全身に纏ったヒーロー像の逆をゆく、頭部と上半身のみを防御した極限にシンプルなキャラクターを提案している。極限かつシンプルであるがゆえに、同時にリアリティも伴ったデザインとなった。





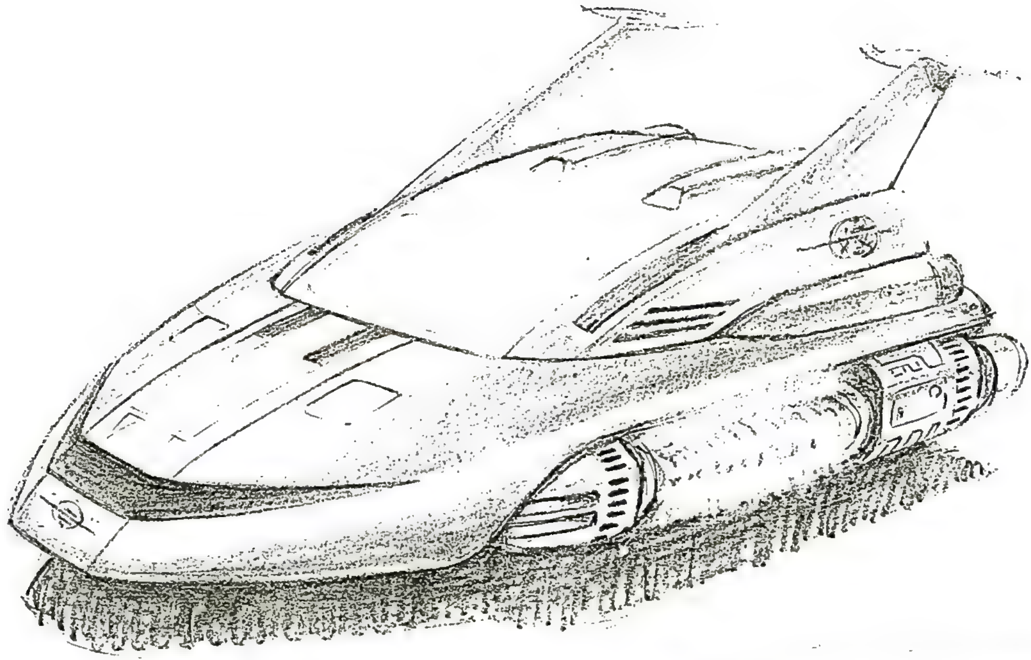


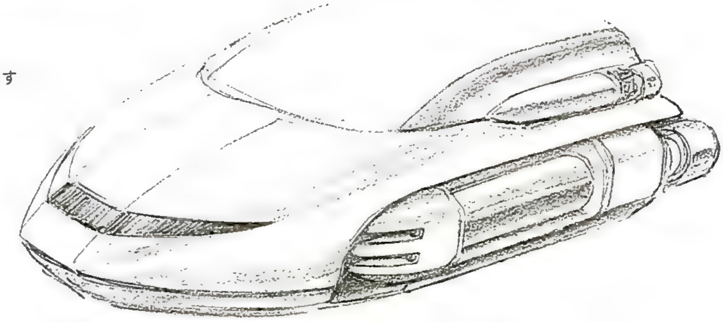
ゴールドプラチナムの頭部のアイディアラフ。漢字の「金」をデザイン化している。



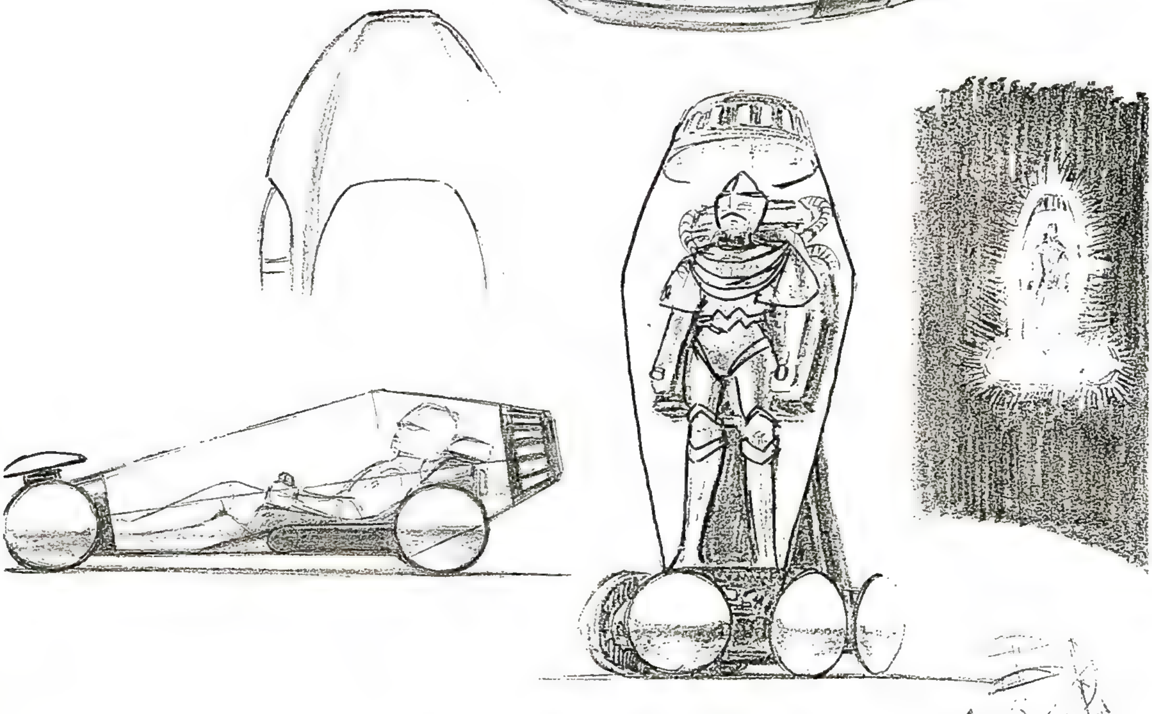
グラビオン。ゴールドプラチナムの使用する銃。

ゴールドプラチナム。ブルースワットと同様にシンプルなスタイルを追求したヒーローとなった。横長に描かれた目は、宇宙人のイメージを表現したもの。





スターフォートレスのアイディアラフ。ゴールドプラチナムの使用する超次元移動要塞で、曲面が美しい。



スターフォートレスに搭載されたパルサーポッド。ゴールドプラチナムを中に収納している。

仮面ライダーJ

1994

O.A. 1994.4.16／東映系で劇場公開
WORKS マーチャンダイズドデザイン

『仮面ライダーZO』に続く、劇場映画第2作。JのデザインはZOを基本にして、そのバリエーションとして描いている。ボディのストライプがツートンカラーになっているのは、ZOに続く2号を想定したものと思われる。



仮面ライダーJ。ZOと同様に変身ベルトは意匠のみにとどめられているが、ストライプによってベルトのごとく見えるようになっている。

スーパー戦隊シリーズの20周年記念作品として制作された。村上はヒーローデザインの提案を行った。古代文明をモチーフにしており、メカニックにその意匠が用いられた。ヒーローのマスクにも当初はそのイメージが存在したが、最終的に数字の1から5を図形に当てはめている。

超力戦隊オーレンジャー

1995–1996

1995.3.3-1996・2・23／テレビ朝日系放送 O.A

ヒーロー WORKS



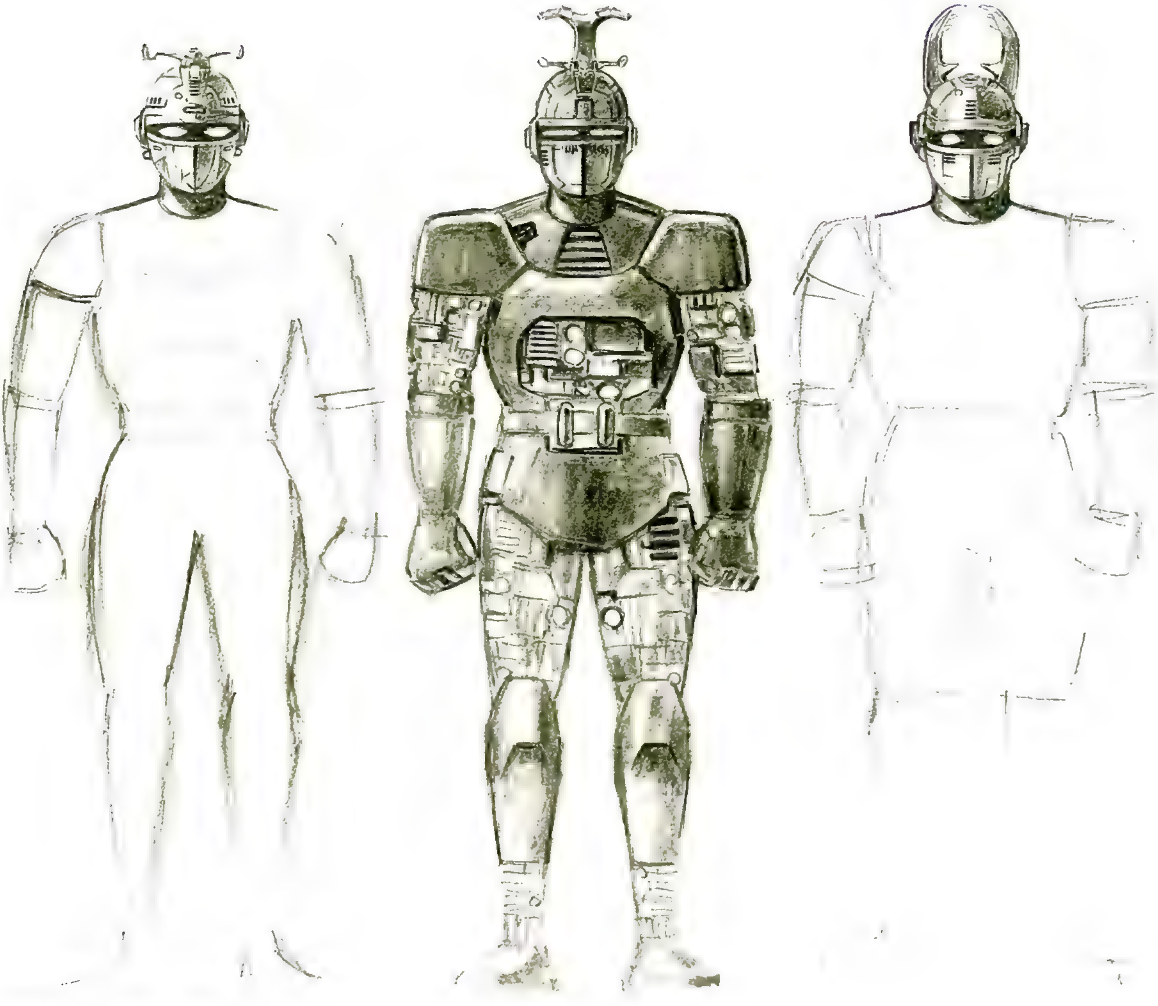
オーレッド。首、胸、ベルト、手足の装飾に古代文明のモチーフがある。マスクは「5」から五角形、転じて星となった。

重甲ビーファイター

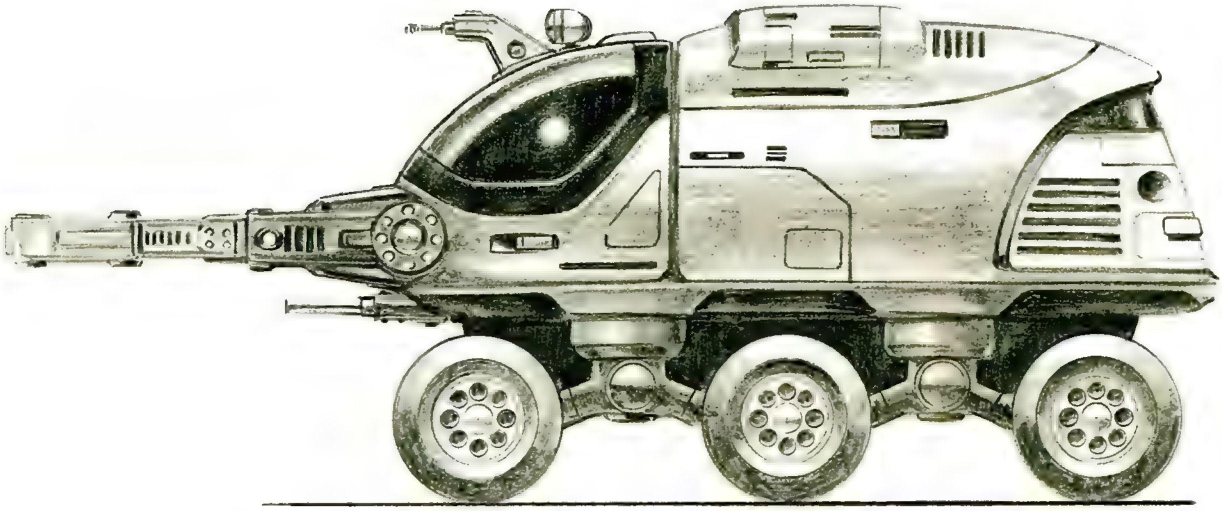
1995–1996

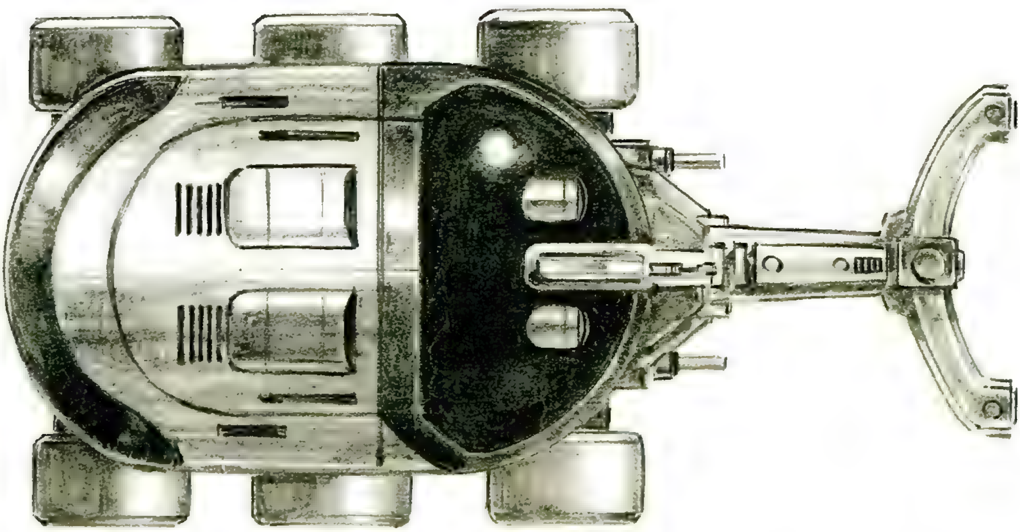
O.A. 1995.2.5–1996.2.25／テレビ朝日系放送
WORKS ヒーロー、ビートマシン、重甲基地原案

ビーファイターはインセクトアーマーを装着したヒーローという設定で、マスクにはカブトムシ、クワガタの角という、ストレートに強さを思わせるモチーフが盛り込まれている。これまで機能美あふれるヒーローを描いてきた村上にとって、久々の正統派ヒーローデザインとなった。

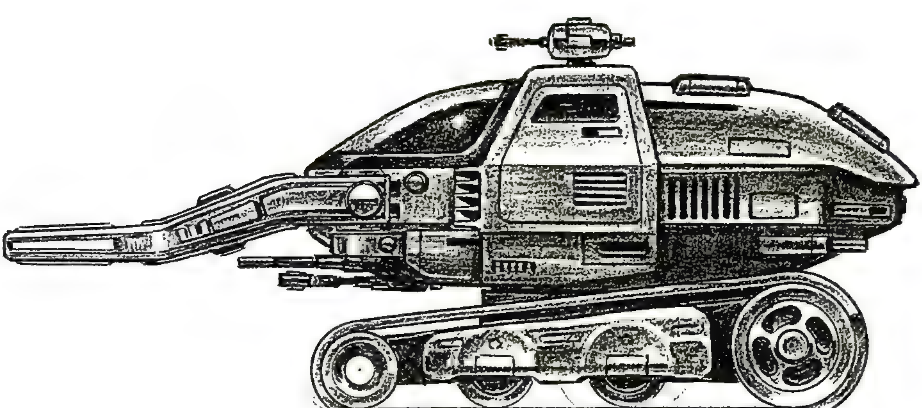


左からレッドル、ブルービート、ジースタッグのアイディアラフ。レッドルのモチーフはメスのカブトムシである。

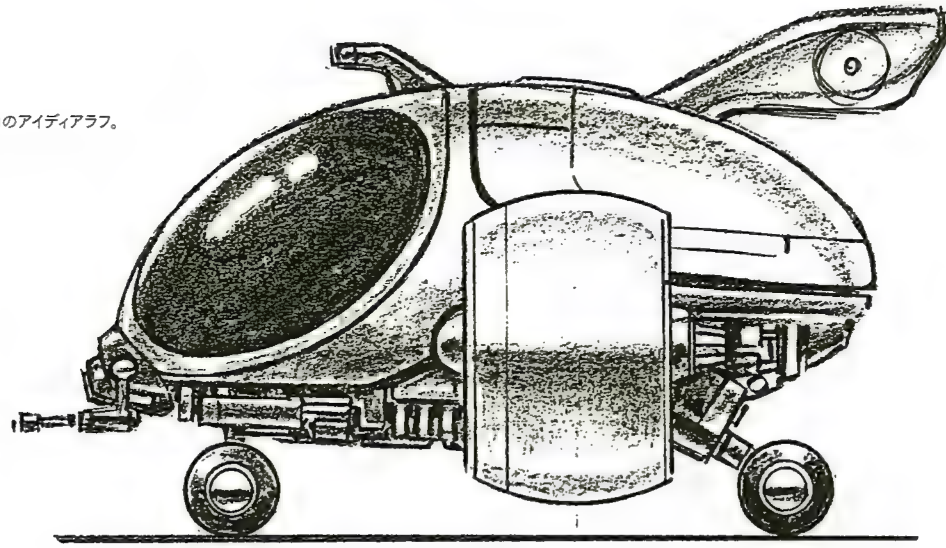


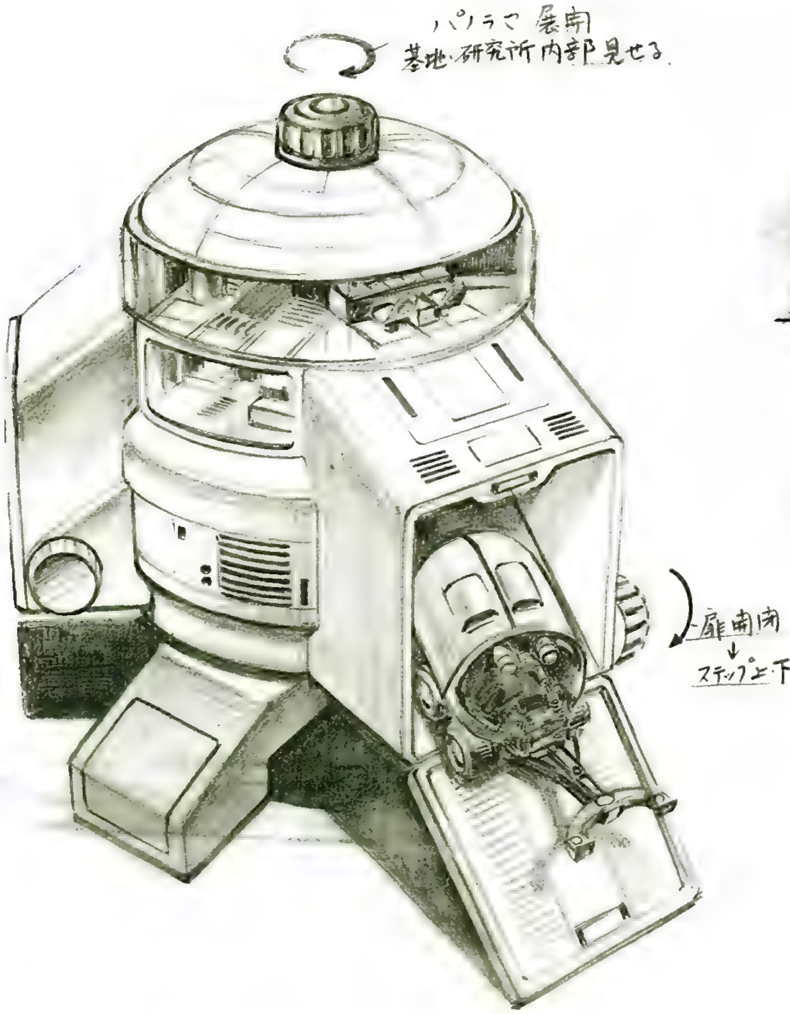


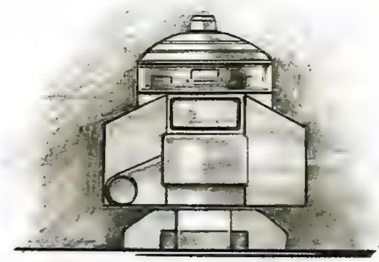
ビーファイターの乗るビートマシンのアイディアラフ。上がビートルーダー、下がスタッガータンク。いずれも巧みに甲虫のシルエットを取り込んでいる。

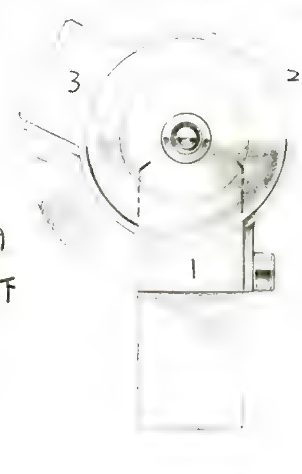


レッドジャイロのアイディアラフ。









重甲基地のアイディアラフ。村上は3つの発進口を備えたデザインを提案した。屋上のドームは決定デザインにもいかされている。

第5章

CHAPTER 5



未来

1996–2007

飽くなき工業デザインへのチャレンジ

激走戦隊カーレンジャー

1996–1997

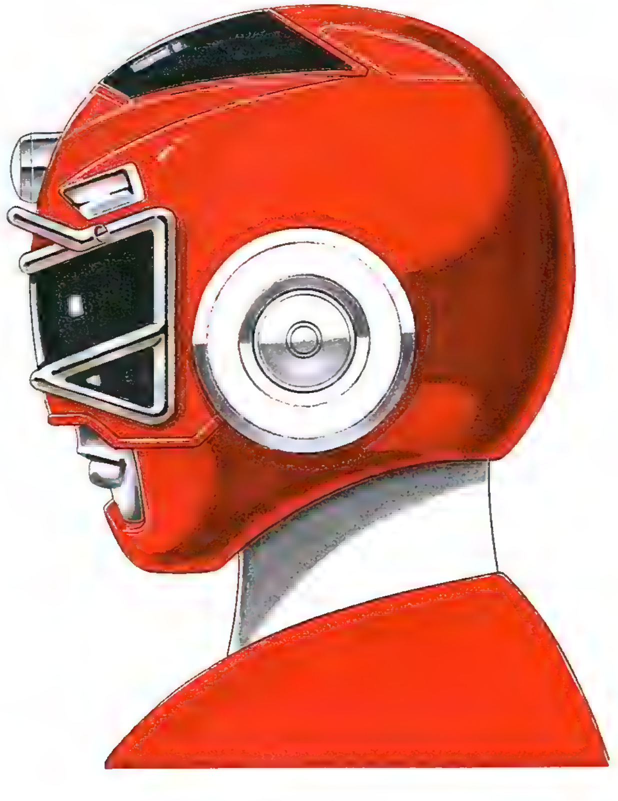
O.A. 1996.3.1–1997.2.7／テレビ朝日系放送
WORKS ヒーロー

『高速戦隊ターボレンジャー』以来の、自動車モチーフのスーパー戦隊。カーレンジャーのヒーローはRV（レクリエーショナル・ビークル）車がモチーフである。具体的にはゴーグルをRV車のフロントガードバーで囲むことで、自動車としての機能を押し出したデザインとなっている。



レッドレーサー。バックルを除き、決定デザインとなった。

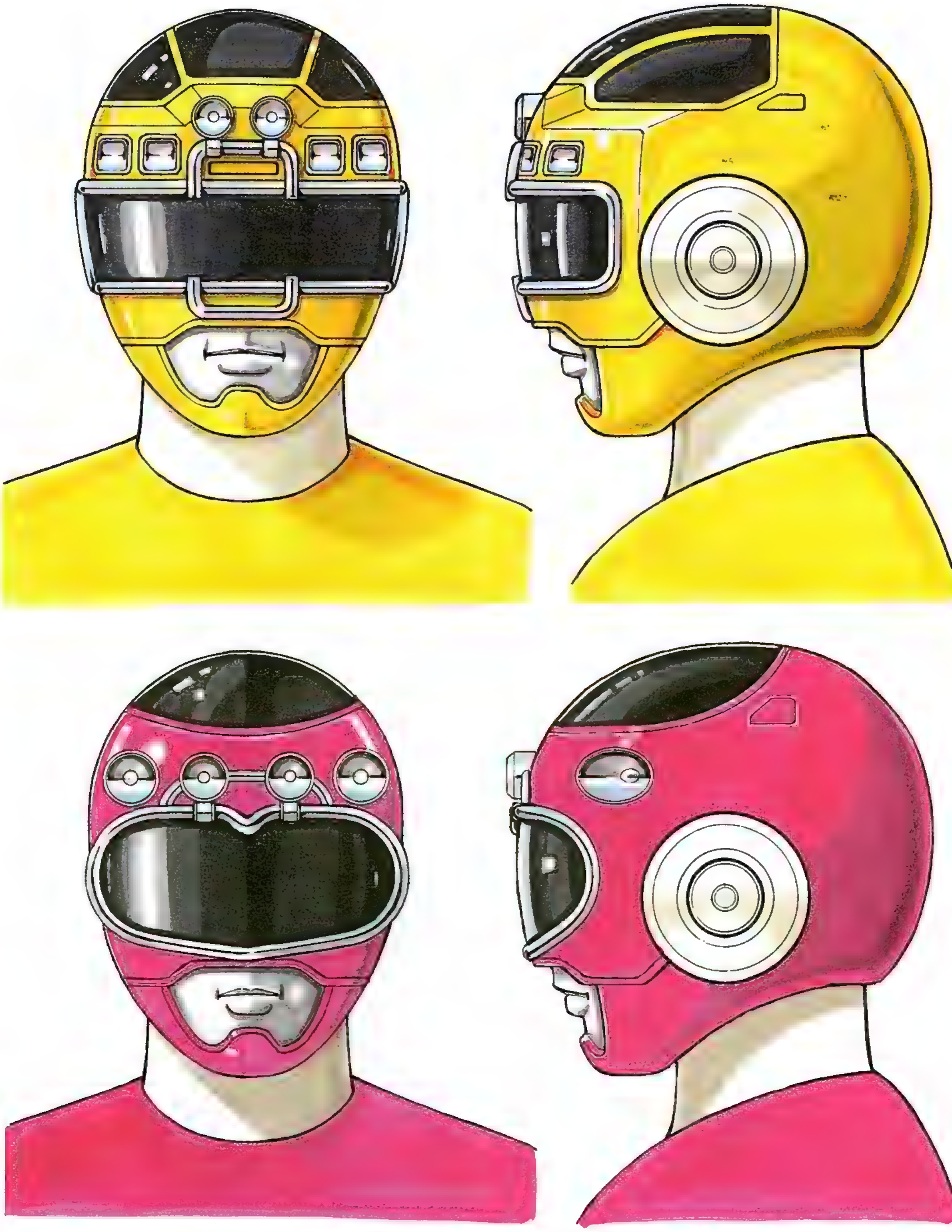




レッドレーサーのマスク。頭頂がフロントガラス、ヘッドライト、フロントガードバーと正面から見た自動車を綿密に落とし込んでいる。



上からブルーレーサー、グリーンレーサー。



上からイエローレーサー、ピンクレーサー。コンセプトを統一しながら、デザインそのものはヒーローごとに大きく変わっているのも本作の特徴だった。

電磁戦隊メガレンジャー

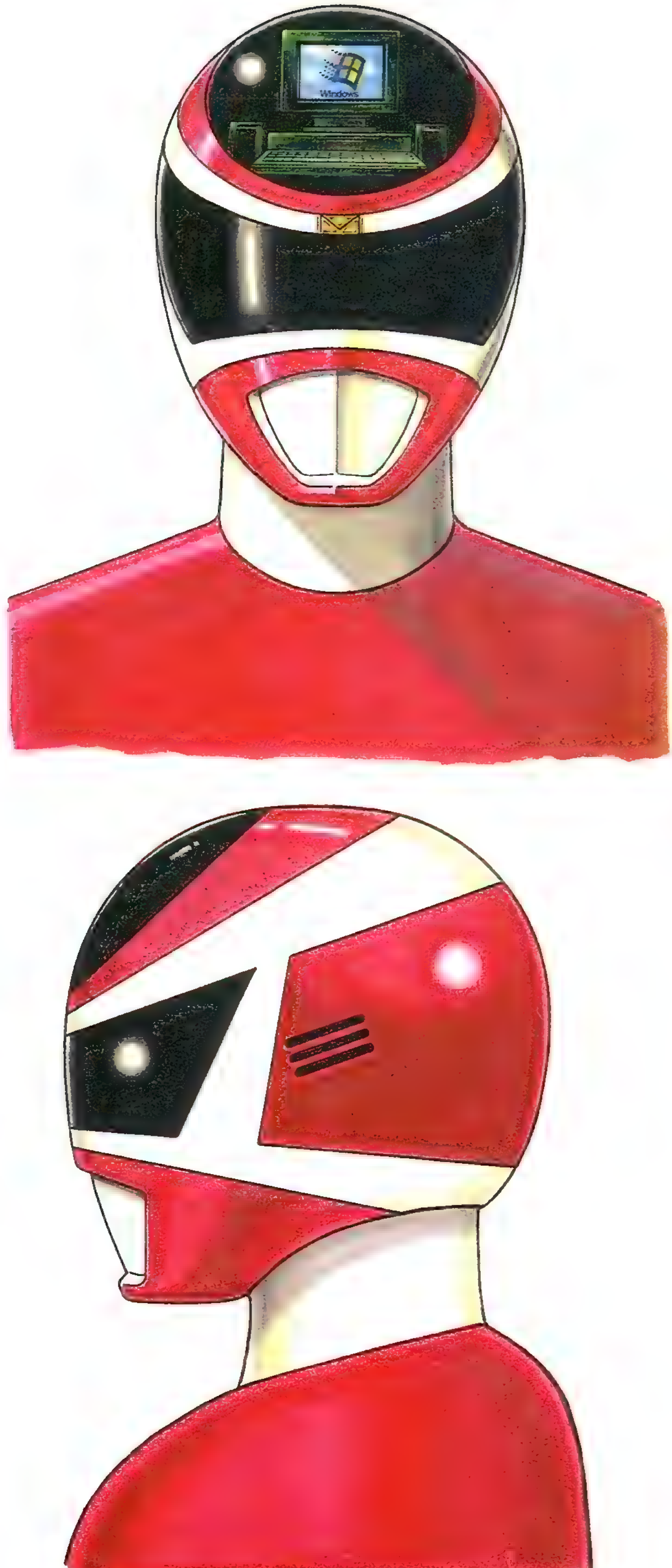
1997–1998

O A　1997.2.14–1998.2.15／テレビ朝日系放送
WORKS　ヒーロー

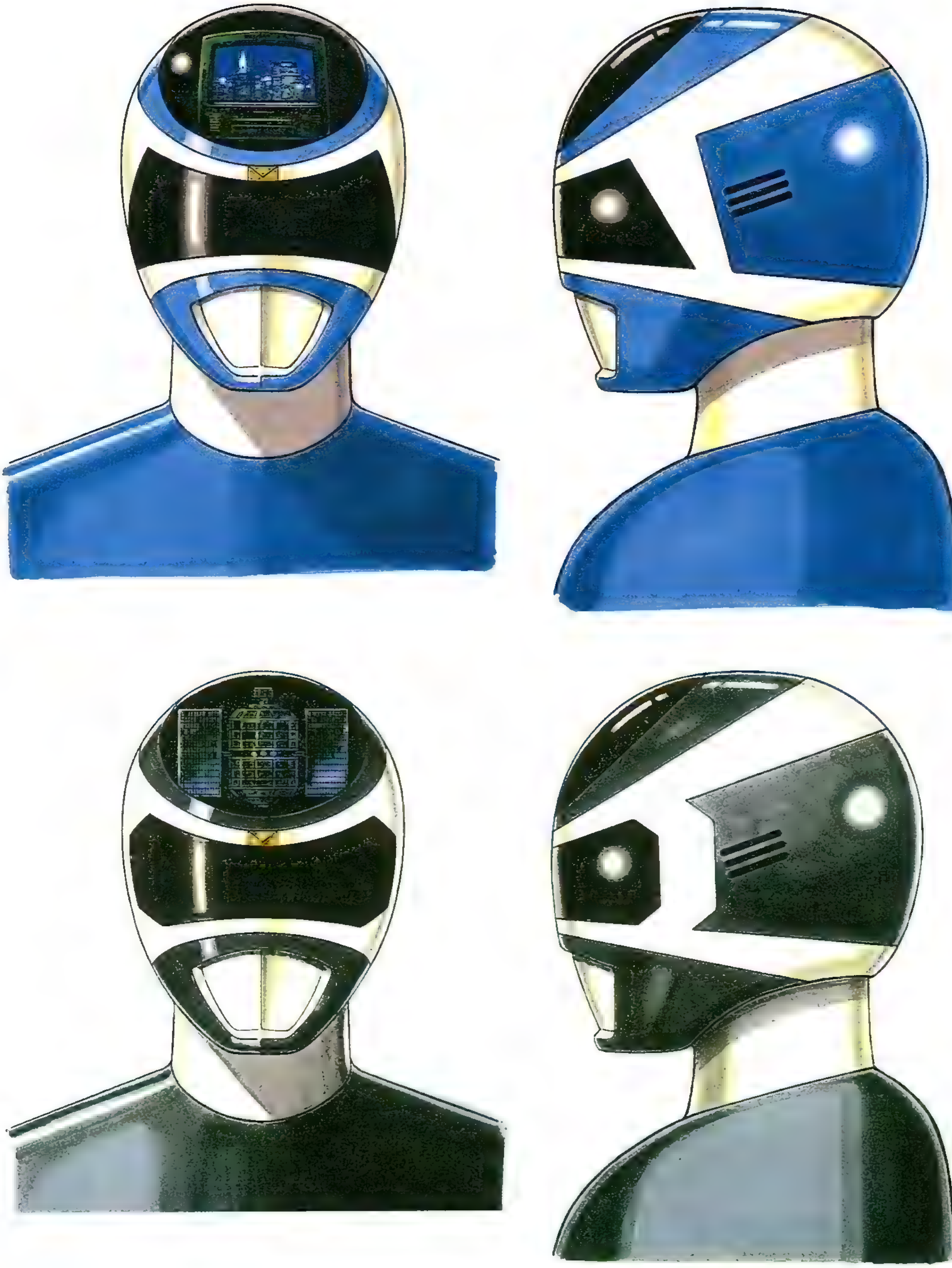
メガレンジャーはインターネットや携帯電話など、1990年代のハイテク技術だったデジタル機器をモチーフとしたスーパー戦隊ヒーローである。村上はデンジマンやバイオマンで培った、マスクとメカニックの融合を再び試み、1990年代の「電磁ヒーロー」を提案している。



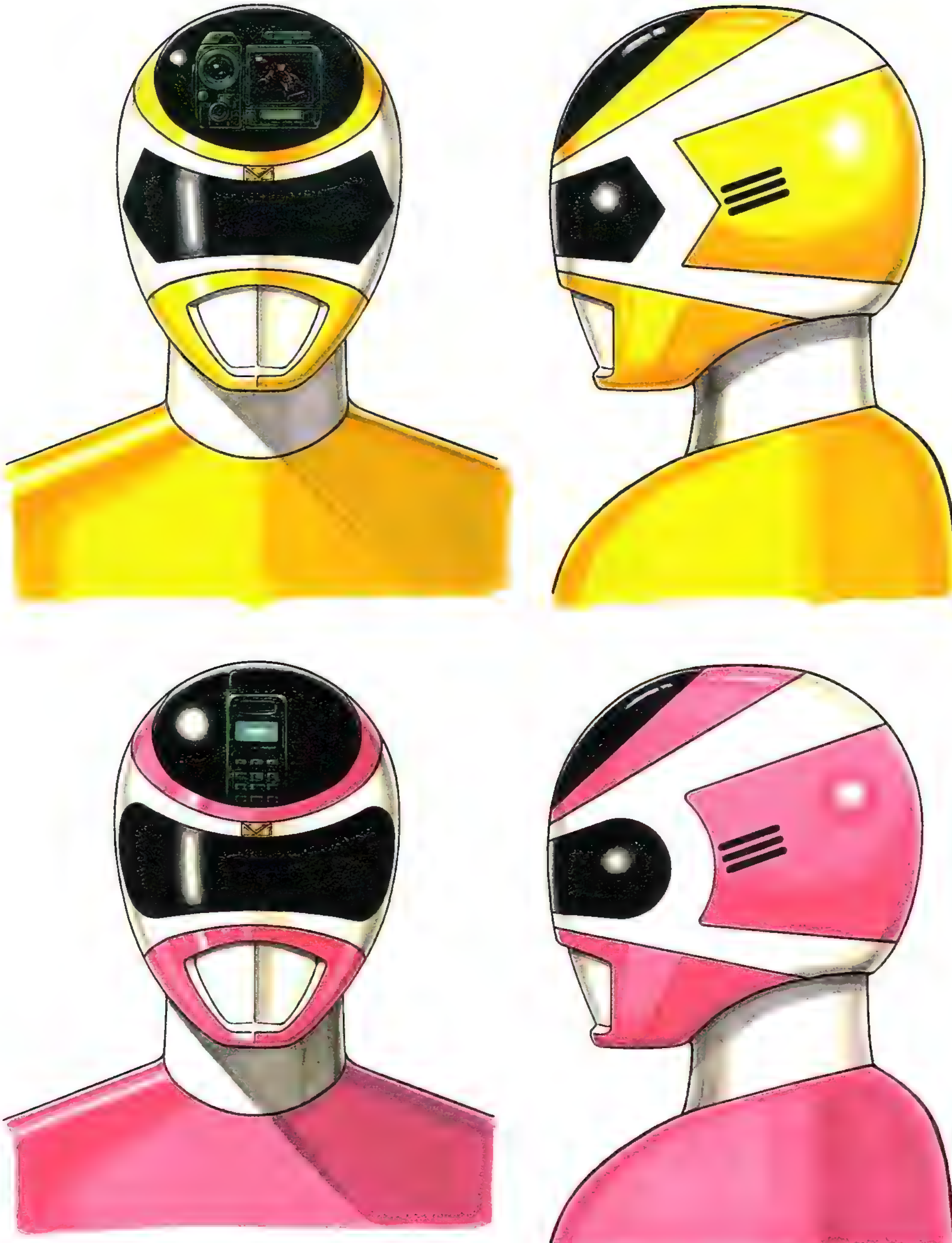
メガレッド。メガの頭文字「M」を首から胸にかけて取り入れている。



メガレッドのマスク。額にはノートパソコンがシンボルとして浮かんでいる。



上からメガブルー、メガブラック。



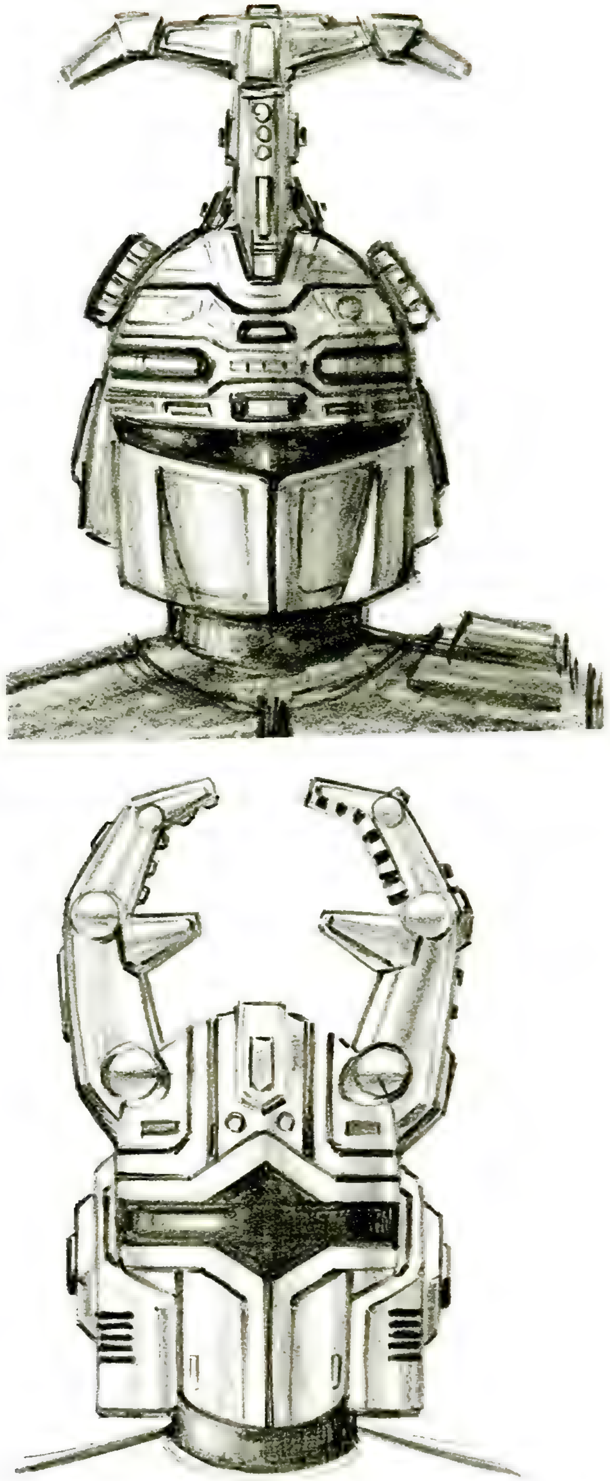
上からメガイエロー、メガピンク。メガピンクは携帯電話をモチーフにした最初のヒーローとなった。

ビーファイターカブト

1996–1997

D.A. 1996.3.3–1997.2.16／テレビ朝日系放送
WORKS ヒーロー

ビーファイターシリーズの第2作。カブトムシ、クワガタにてんとう虫が加わった。前作のヒーローと変わった点としては、目に該当するパーツが本作ではゴーグルとなったことが挙げられる。また、昆虫のシルエットを踏襲しつつ、よりメカニックのテイストが加えられた。



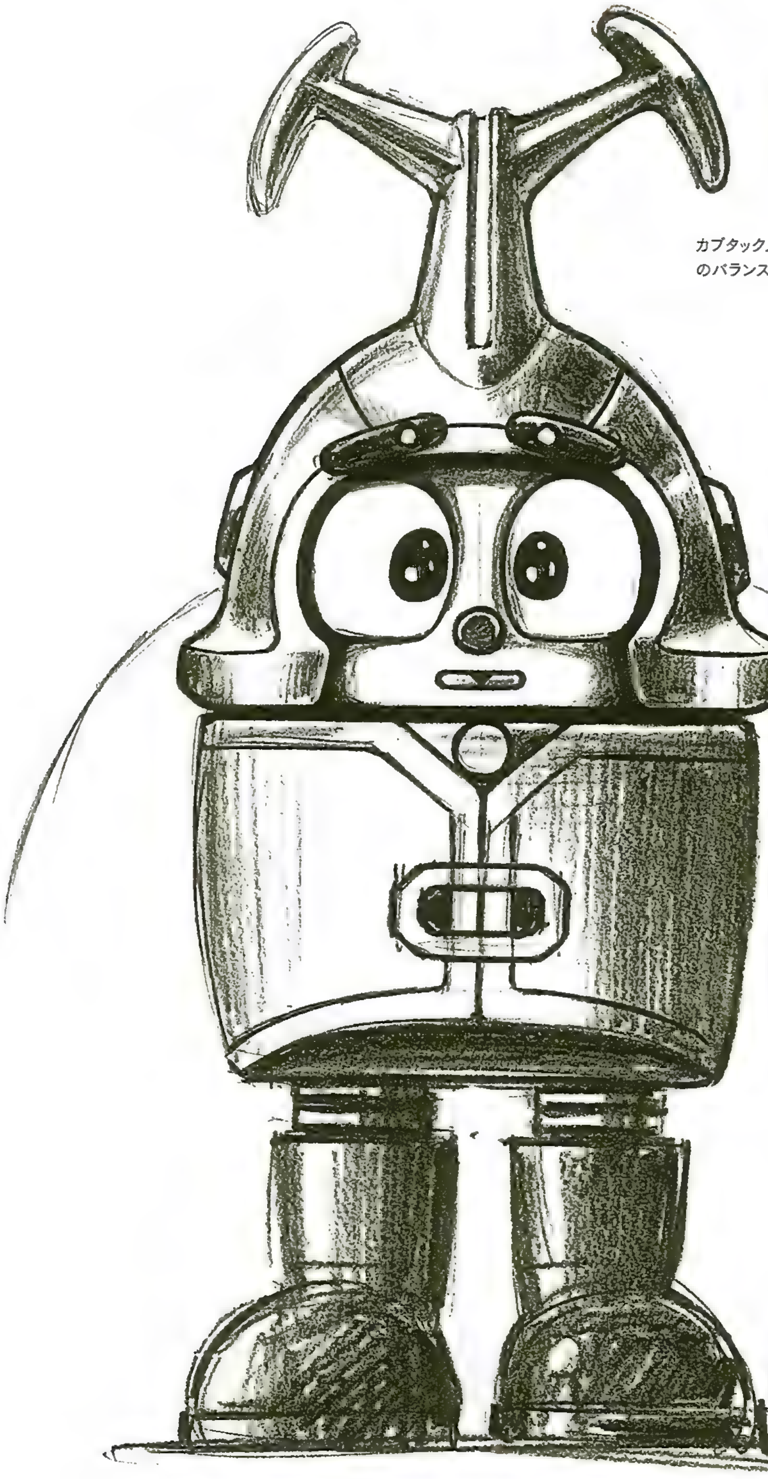
ビーファイターカブトとビーファイタークワガーのアイディアラフ。クワガーはゴーグルと角を逡巡した様子が伺える。

昆虫モチーフのロボットが活躍する特撮ドラマ。コミカルなノーマルモードからスマートなスーパーモードへ変形する。村上のノーマルモードについての提案は、特に目の表情について丁寧なサジェスチョンを行っていた。

ビーロボ カブタック

1997–1998

1997.2.23–1998.3.1／テレビ朝日系放送
カブタック





カブタックノーマルモードのアイディアラフ。黒目と白目のバランスに村上のこだわりが見られる。

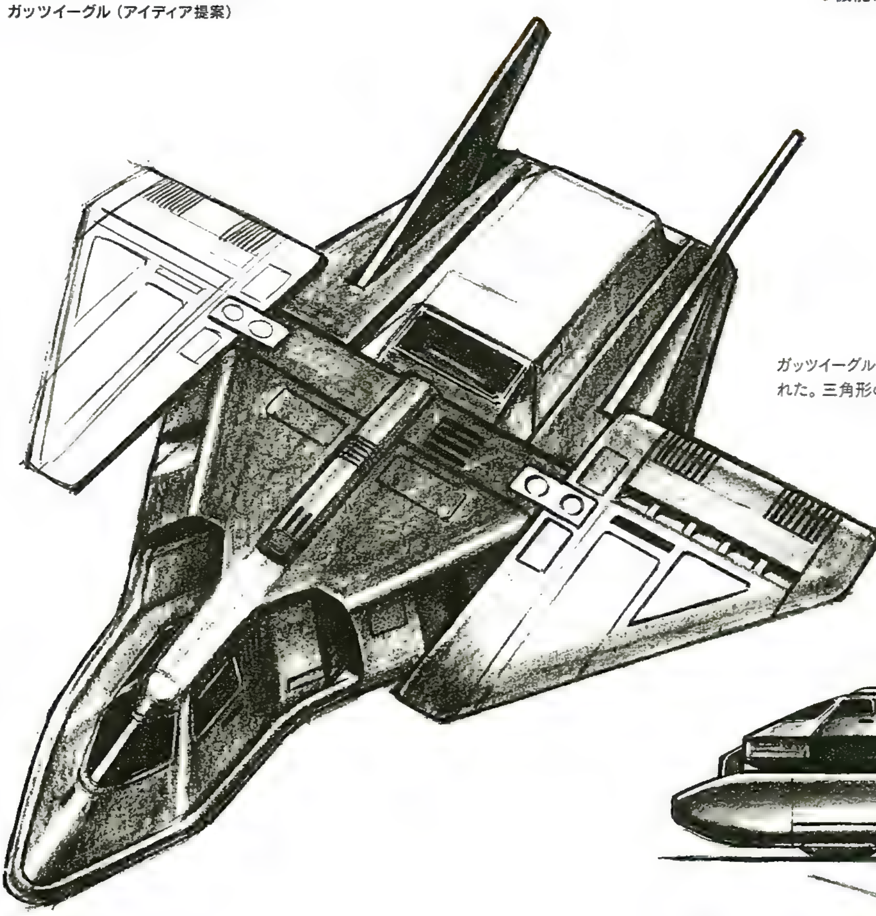
ウルトラマンダイナ

1997–1998

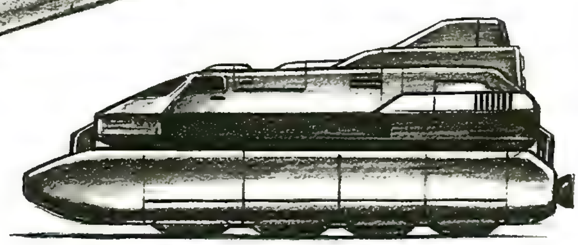
D.A. 1997.9.7–1998.8.30／毎日放送系放送

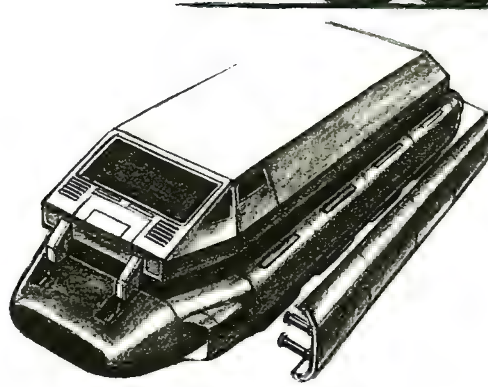
WORKS ガッツイーグル（アイディア提案）

平成ウルトラマンシリーズの第２作『ウルトラマンダイナ』に登場するメインメカ・ガッツイーグル。村上はガッツイーグルの飛行メカ３機の合体コンセプトに対して、２機の飛行メカ＋タンクというシステムを提案している。タンクのメカニックとしての機能に村上のこだわりが見られる。

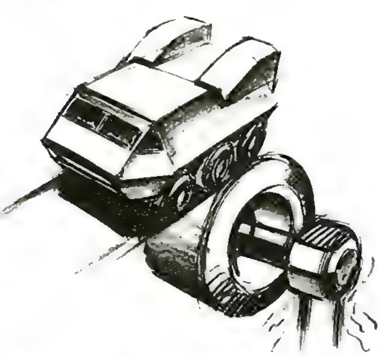


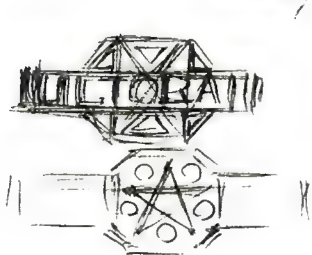
ガッツイーグルのアイディアラフ。重爆撃機として提案された。三角形のシルエットは決定デザインとの共通点。

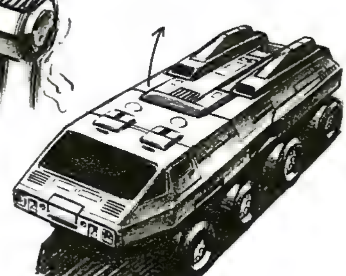




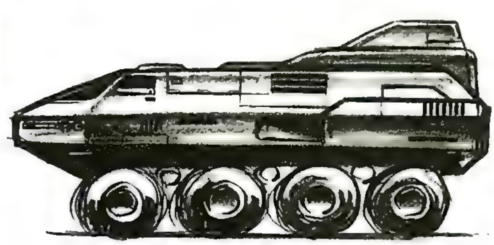
タンクの合体をタイヤ回転と連動させるための概念図。下はエンブレム案。







機体後部のタンクは、多くのアイディアラフが残されている。上はブースターとの合体システム。



アニマルモチーフのスーパー戦隊だが、モチーフは地球上の動物ではなく、星獣という架空の生物となる。そのため、村上は星獣のデザインを数多く提案した。また、村上は「星の獣」という解釈を広げて、宇宙をモチーフにしたメカニックのデザイン案も数多く残している。

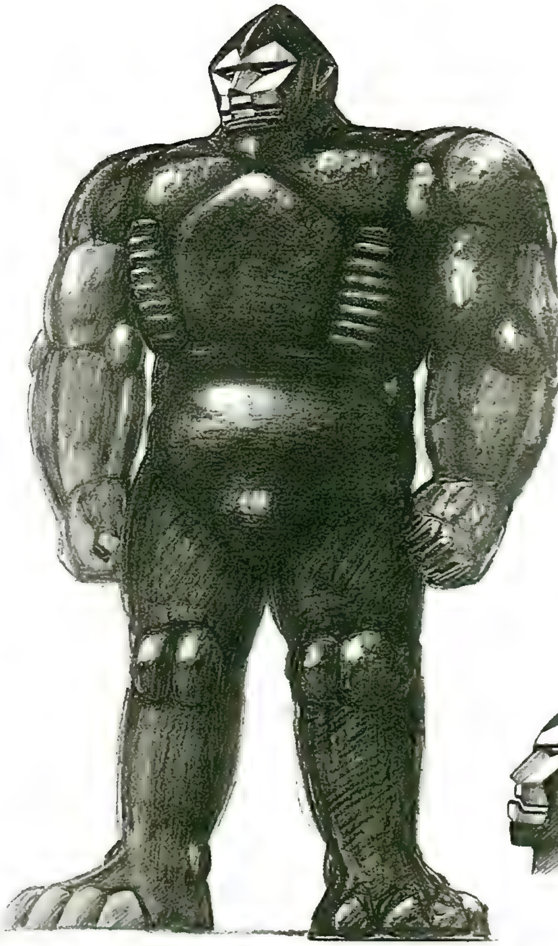
星獣戦隊ギンガマン

1998–1999

1998.2.22–1999.2.14／テレビ朝日系放送 O.A
ヒーロー、星獣、ギガライノス WORKS



ギンガレッドのアイディアラフ。

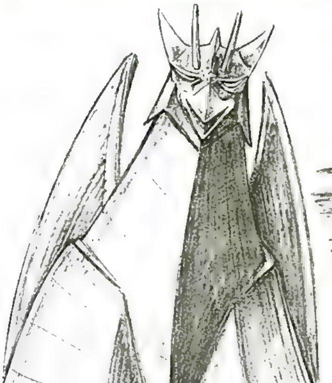


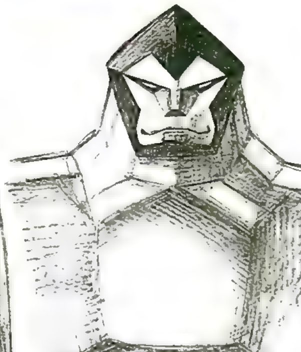




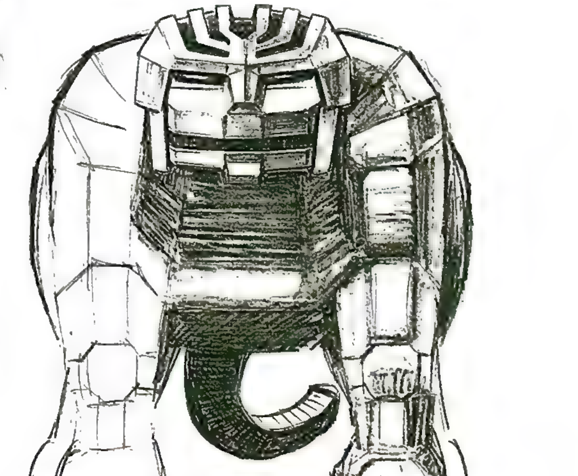
星獣ギンガリラ、ギンガット、ギンガルコンのアイディアラフ。ギンガリラの胸、ギンガットの耳、ギンガルコンの翼にギンガレオンのたてがみと共通のモチーフがある。



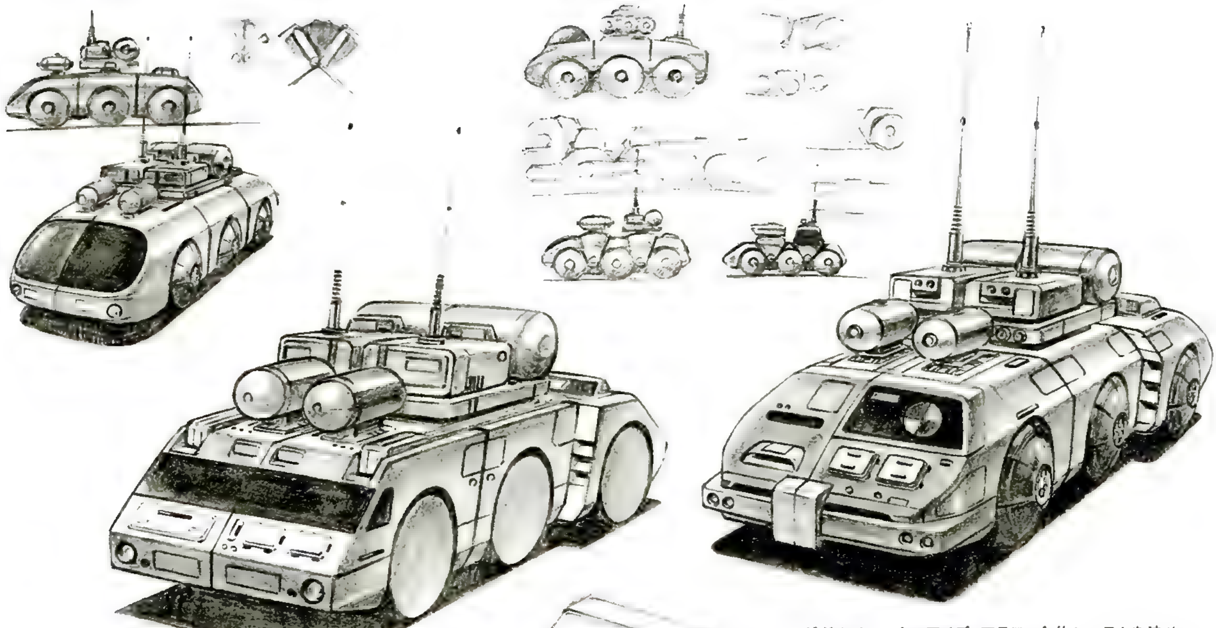


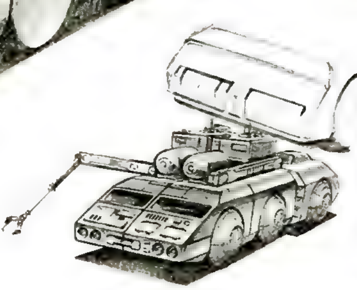




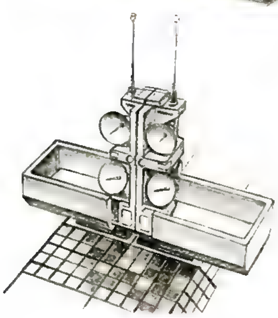


初期段階のアイディアラフ。

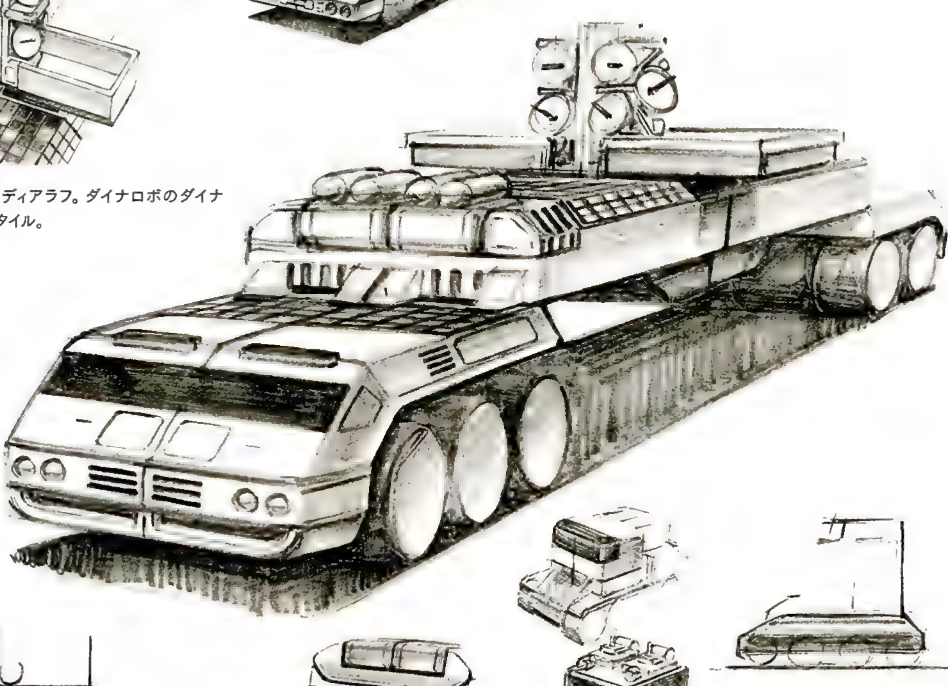


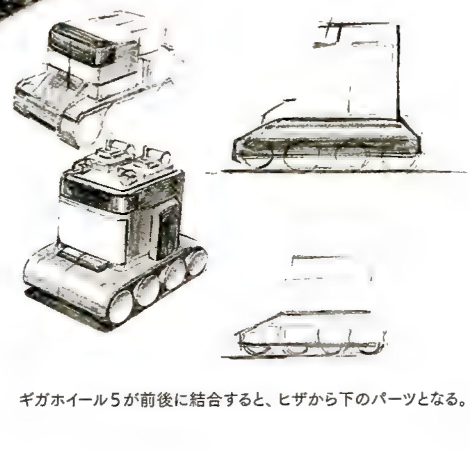


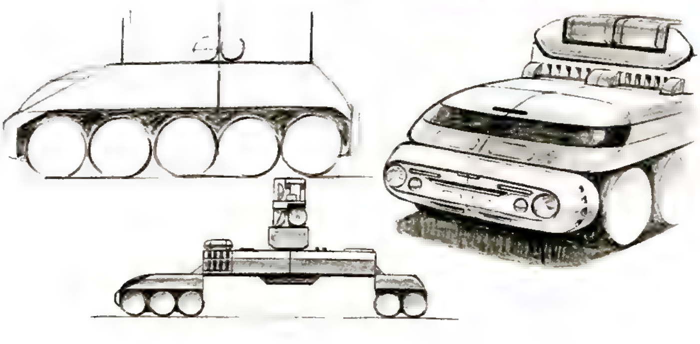
ギガホイール１のアイディアラフ。合体システムを決めてからディテールを構築する順番でデザインされた。



ギガホイール５のアイディアラフ。ダイナロボのダイナギャリーを思わせるスタイル。







ギガホイール５が前後に結合すると、ヒザから下のパーツとなる。

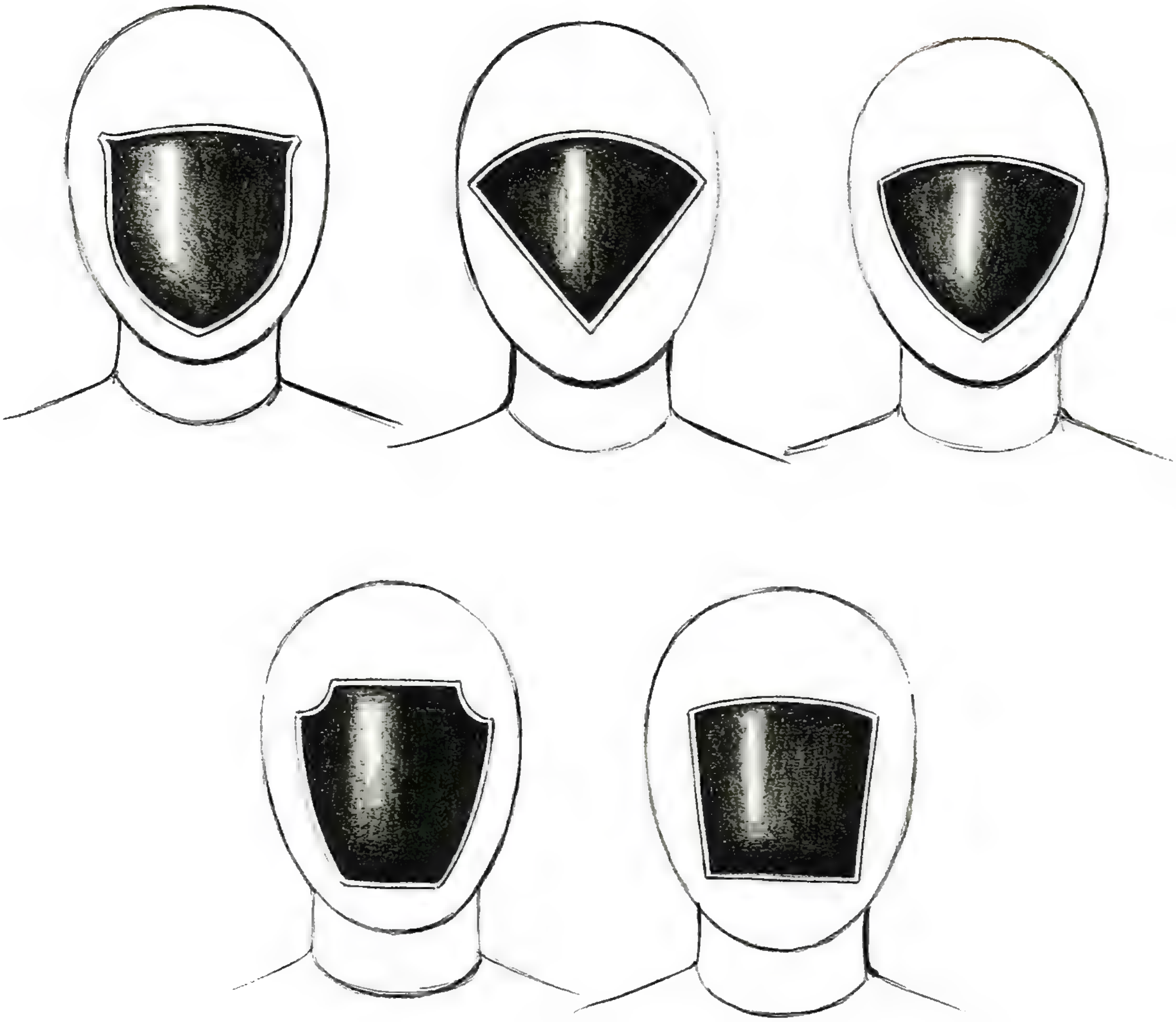
救急戦隊ゴーゴーファイブ

1999–2000

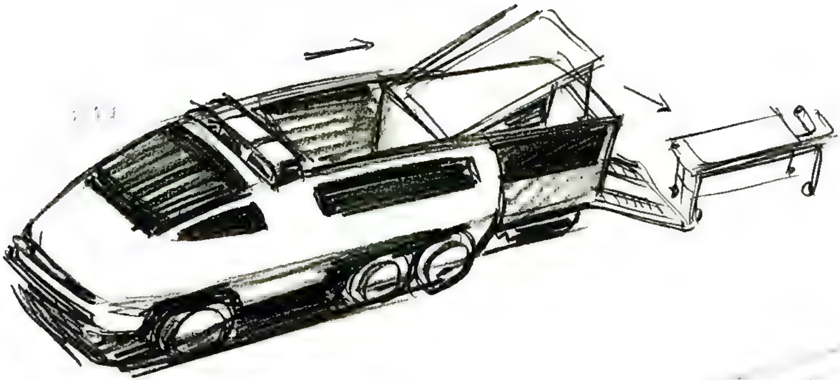
D.A. 1999.2.21–2000.2.6／テレビ朝日系放送

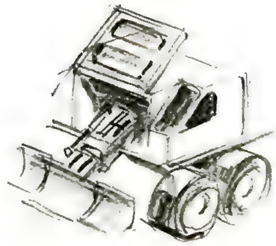
WORKS ヒーロー、99マシン

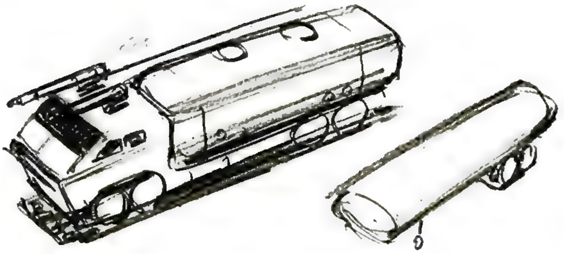
救急戦隊の由来は1999年に放送された作品であることと、レスキューの救急とのダブルネーミングである。村上は「救急」に活路を見出し、世界で使用されている消防、警察、救急などのエンブレムからゴーグルの形状を提案する。

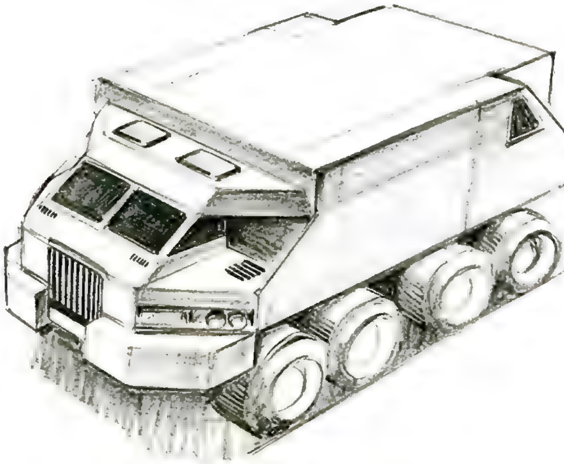


マスクのアイディアラフ。いずれももとになったエンブレムが存在している。

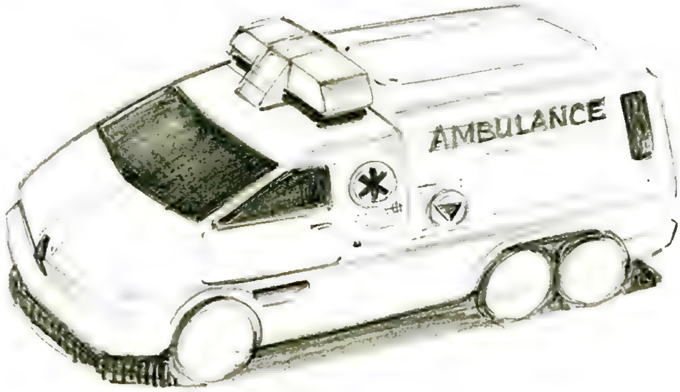




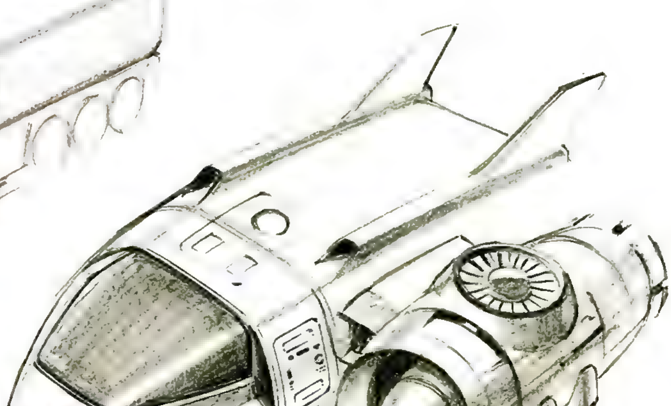












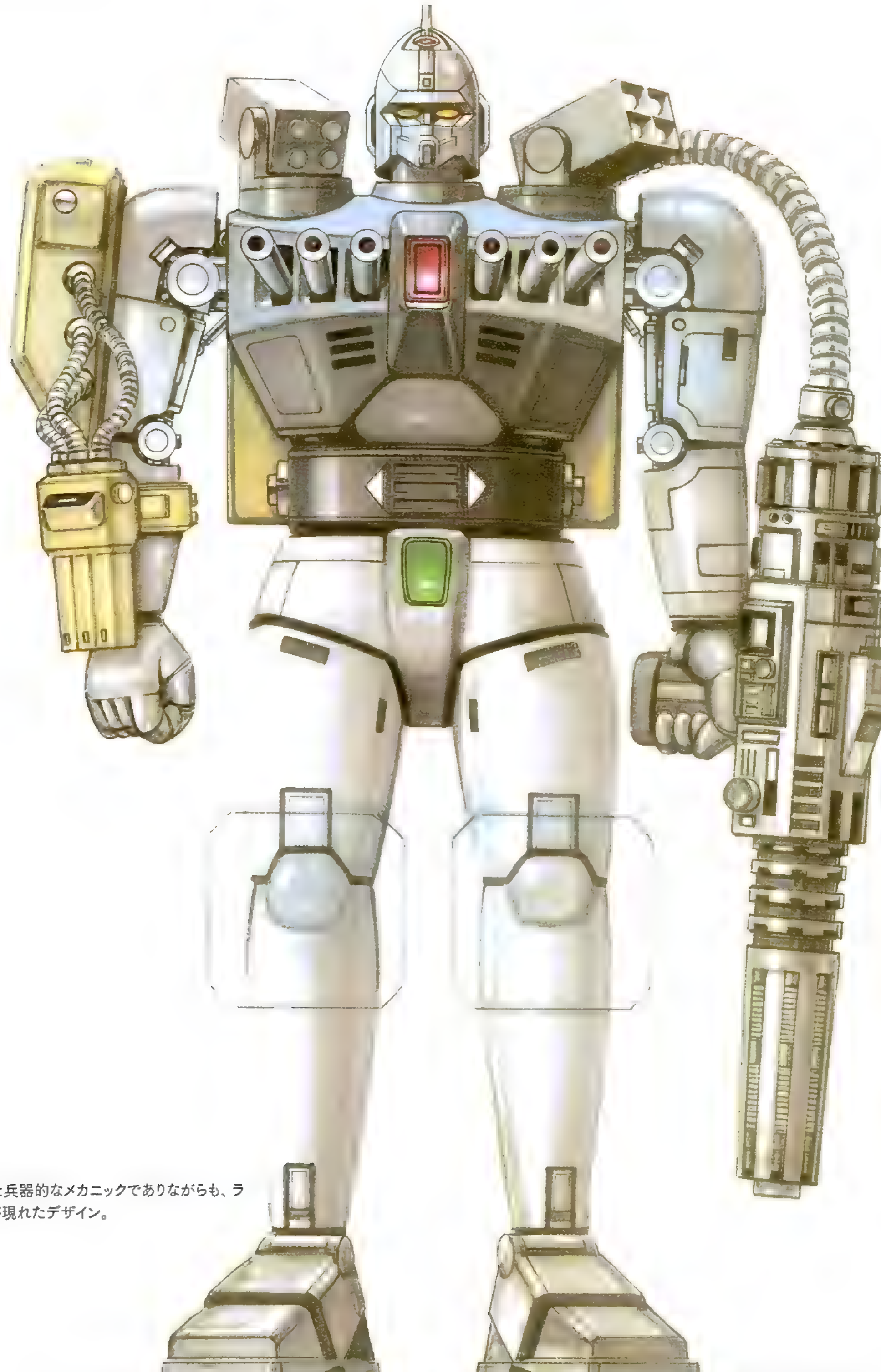
ビクトリーロボに合体する99マシンのアイディアラフ。一番上が古く、下にいくにつれて新しい順番となっている。この時、村上は特撮人形劇『サンダーバード』を意識してフォルムを提案していた。

サンライズ英雄譚

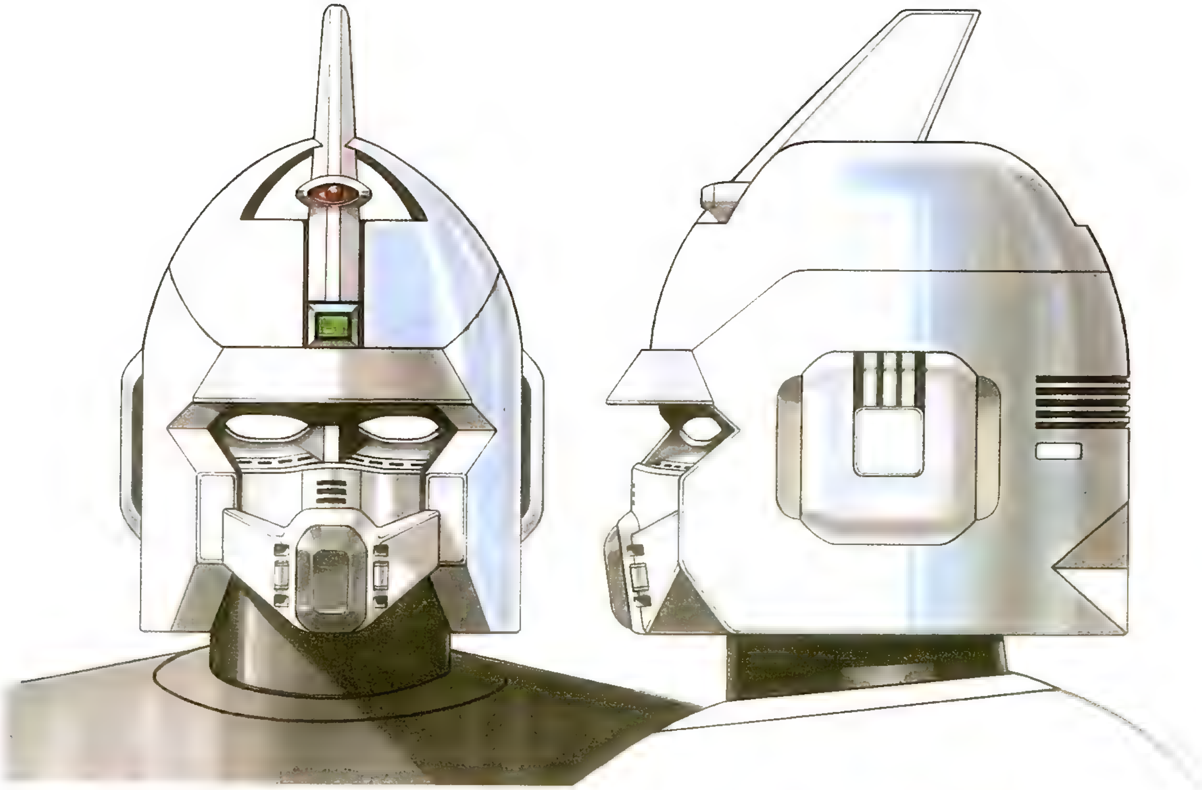
1999

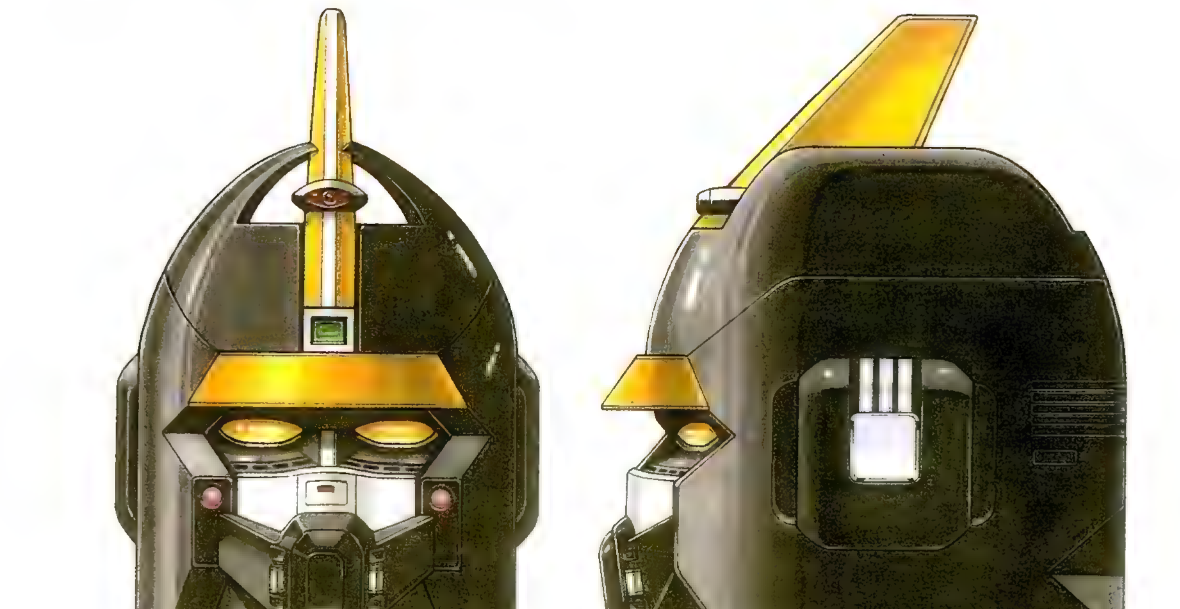
OA 1999.12.2／ドリームキャスト用ソフトとしてサンライズインタラクティブから発売
WORKS ラスボスのメカニックデザイン

村上は本作で初めてゲームソフトへのデザイン提供を行った。村上が発注されたのはゲーム中、ラスボスとなるロボットであった。このデザインは、村上がこれまで描くことのなかった兵器的なメカニックという点においても注目したい。



全身を武装した兵器的なメカニックでありながらも、ラスボスの風格が現れたデザイン。





頭部デザイン。カラーリングは2種類提案されている。頭頂の空間など、村上はゲームデザインといえども常に立体を意識している。

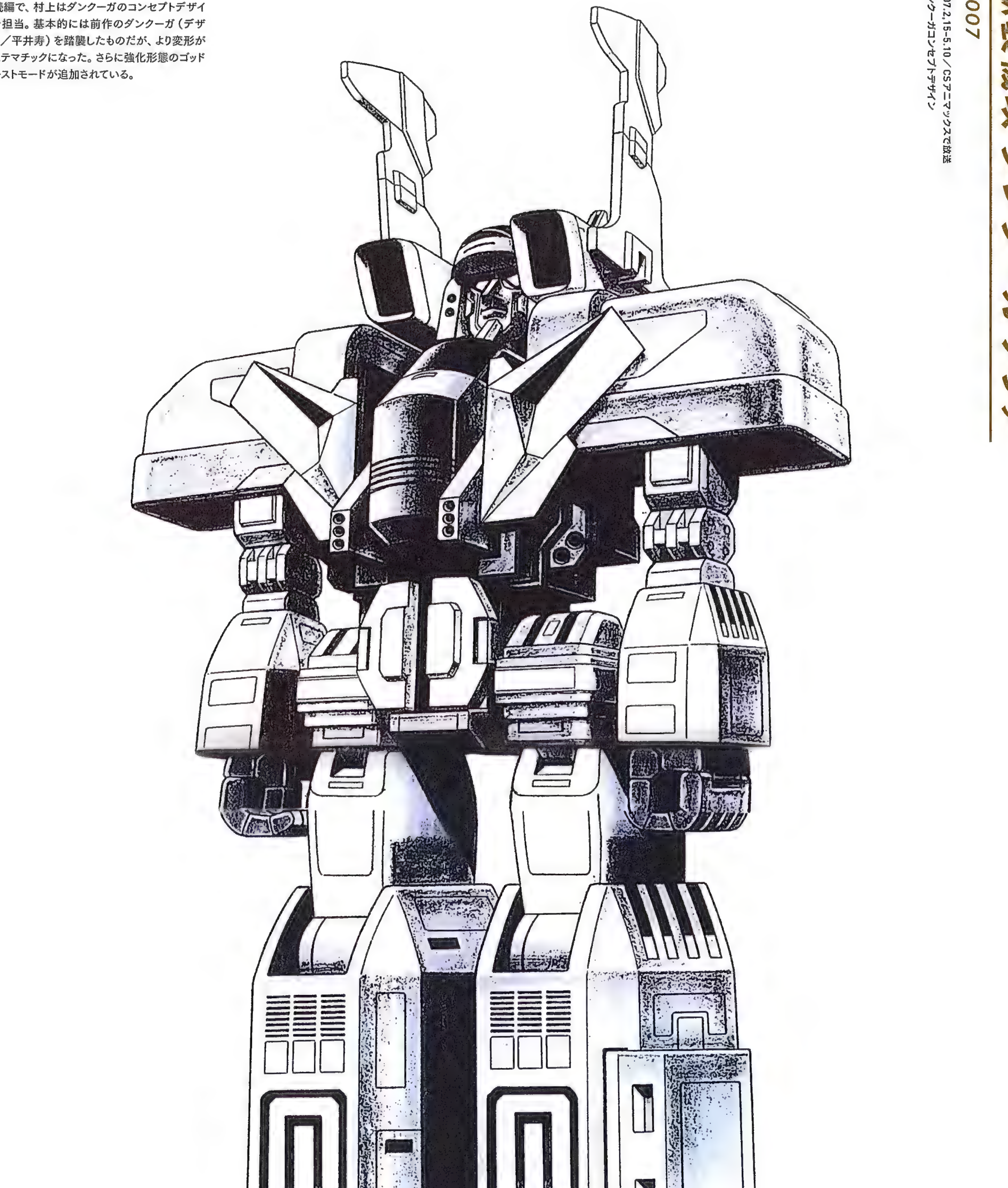
獣装機攻 ダンクーガ ノヴァ

2007

O.A 2007.2.15–5.10／CSアニマックスで放送

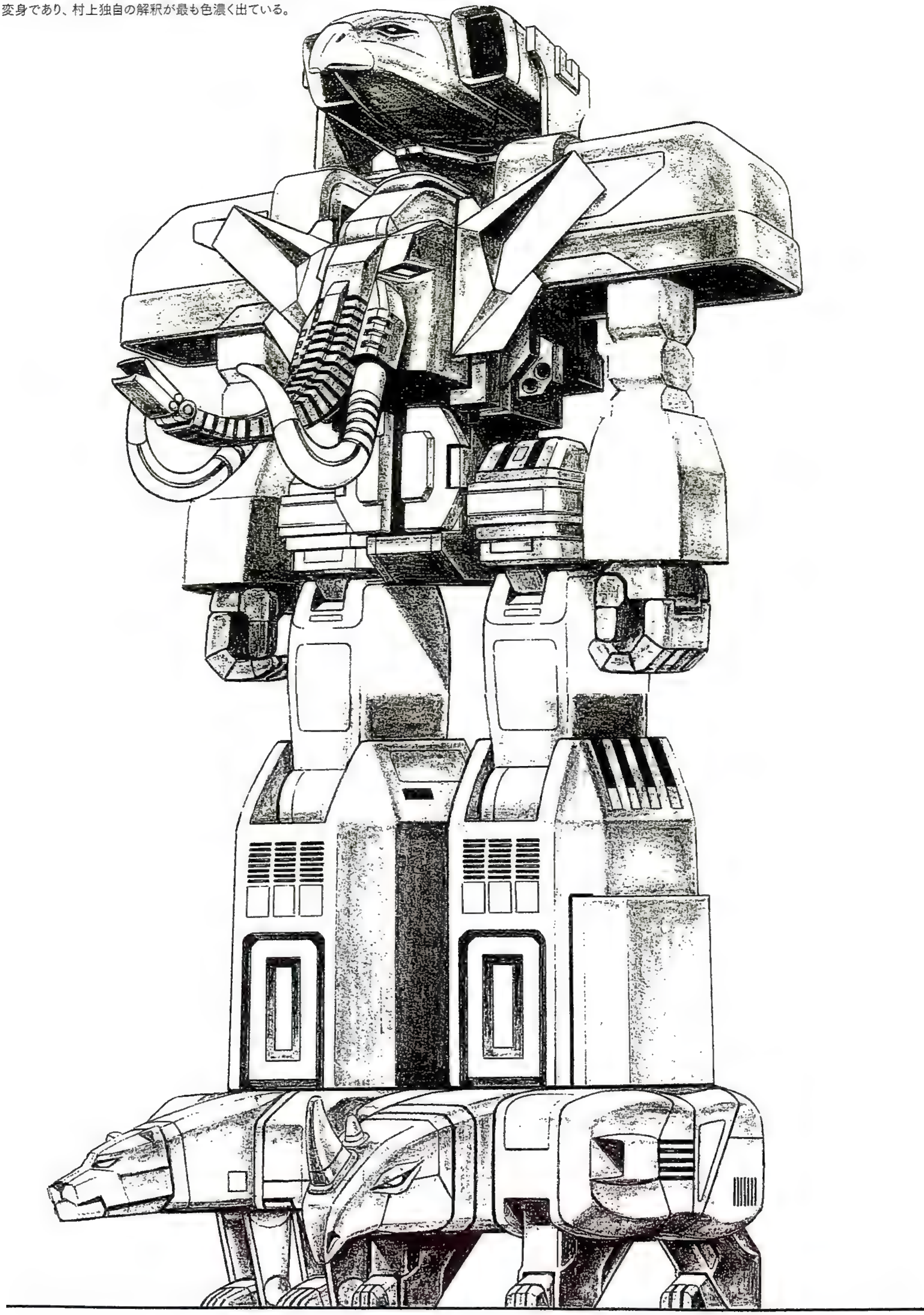
WORKS ダンクーガコンセプトデザイン

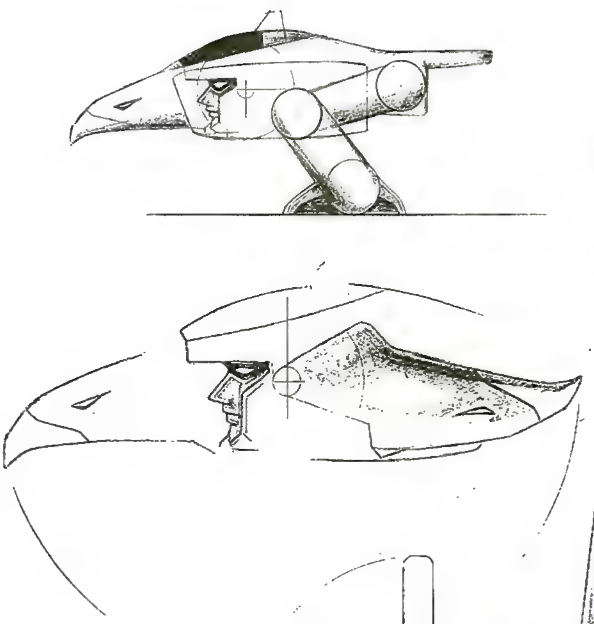
1985年に放送された『超獣機神 ダンクーガ』の続編で、村上はダンクーガのコンセプトデザインを担当。基本的には前作のダンクーガ（デザイン／平井寿）を踏襲したものだが、より変形がシステマチックになった。さらに強化形態のゴッドビーストモードが追加されている。

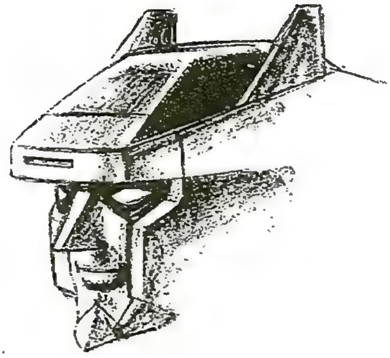


ダンクーガ ノヴァ。4機のヴァリアブル・ビースト・マシンが合体した形態。玩具前提ではないが、そのスタイルは三次元に存在する工業デザインとして描かれている。

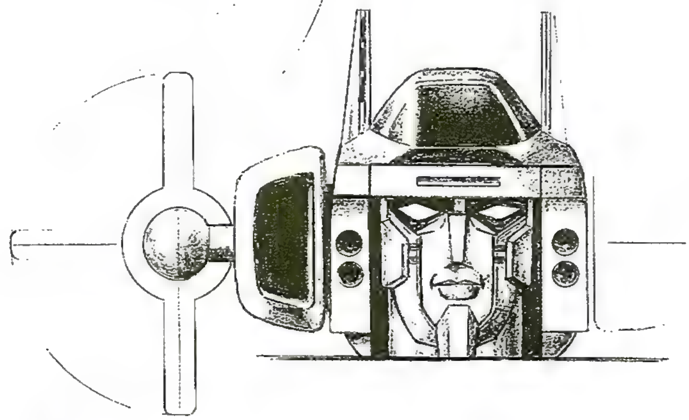
ゴッドビーストモード。各メカのアグレッシブビーストモードの頭部が現れた形態。神像を思わせる姿への変身であり、村上独自の解釈が最も色濃く出ている。

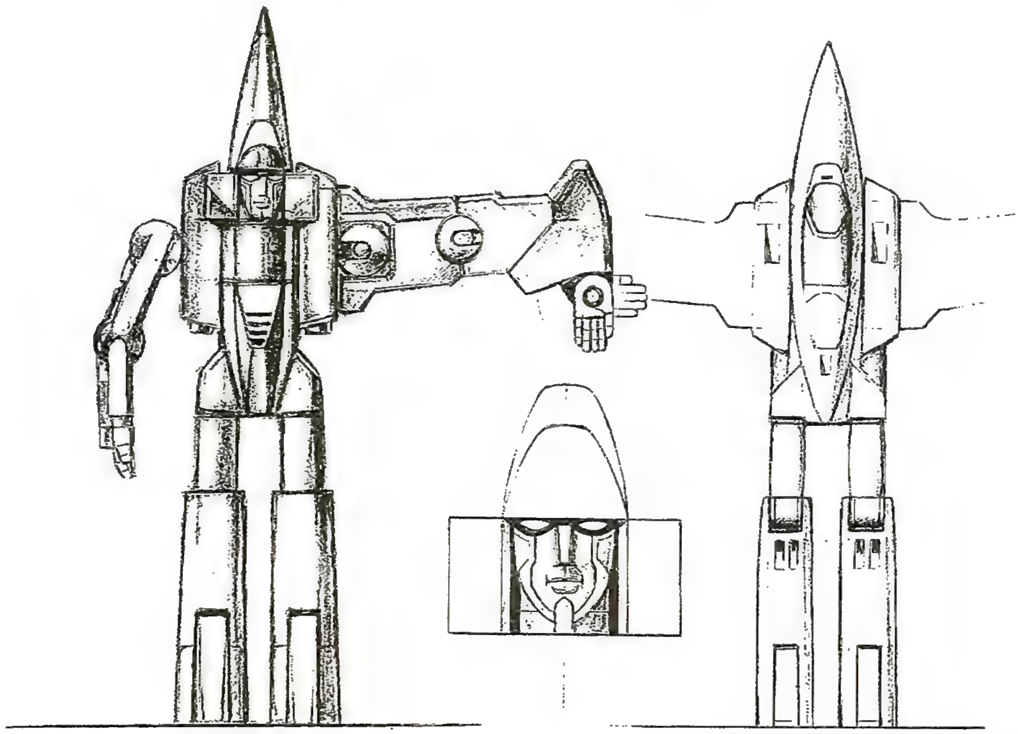




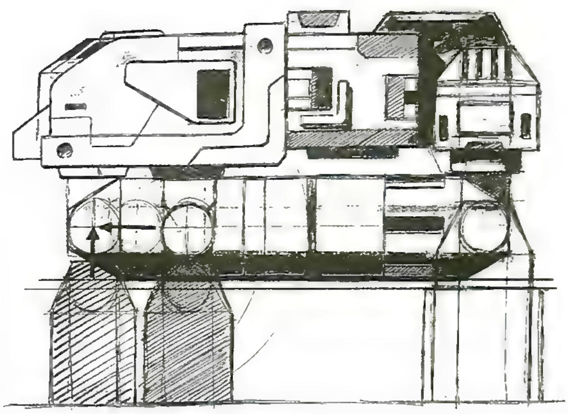


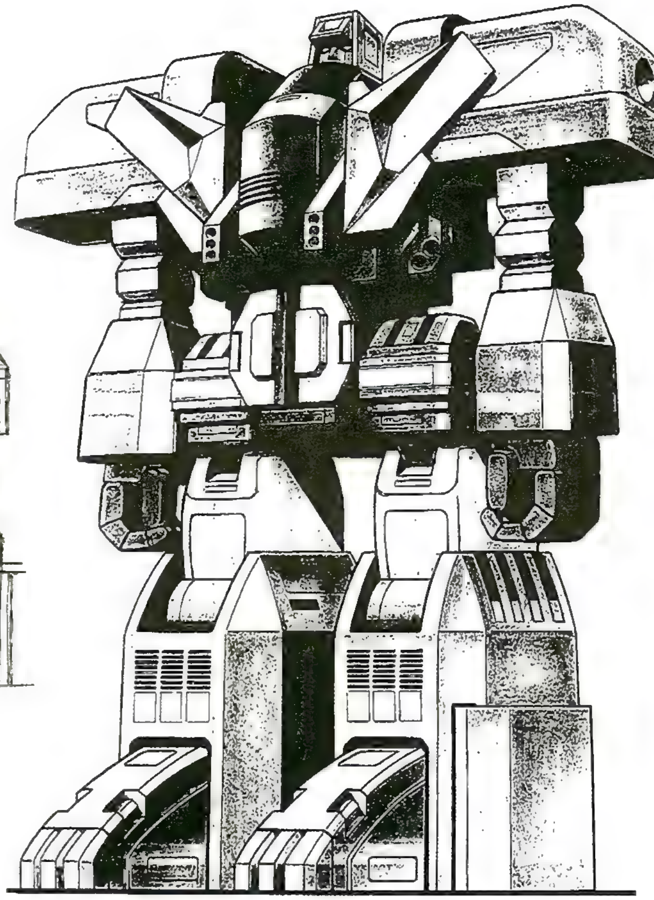
ノヴァイーグルのアイディアラフ。頭部の出現システムをシンプルに構築している。



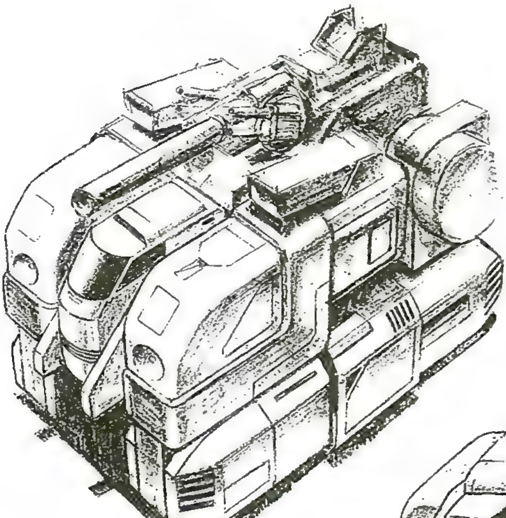


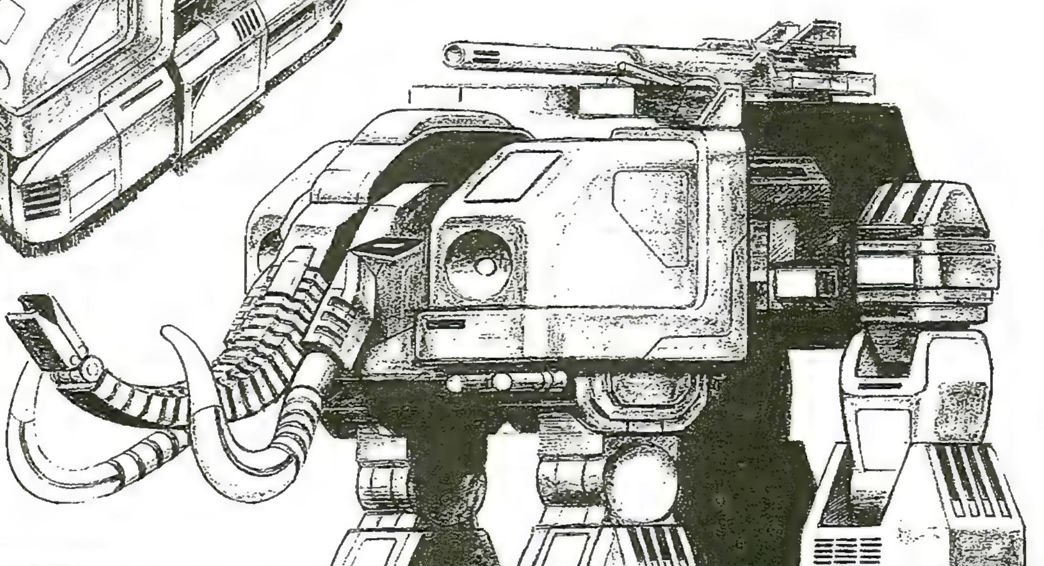
ヒューマロイドモードのアイディアラフ。前作のイーグルファイターから最もスタイルが変わっているのは、より変形をシンプルかつ確実なシステムにするためである。



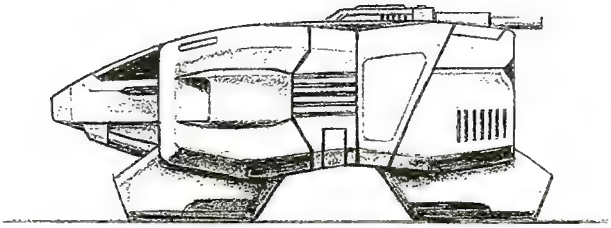


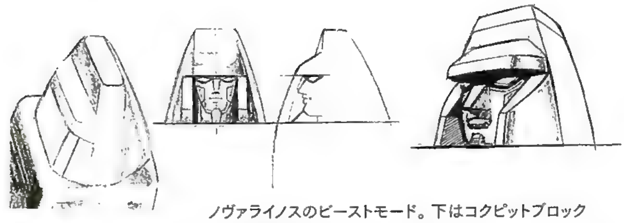
ノヴァエレファントのヒューマロイドモード。象の顔を完全に収納し、アニマルモチーフをあえて見せていないのが特徴である。





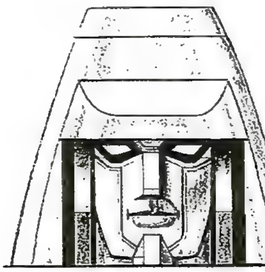
ビーストモード。前脚の前面に配置されたシリンダーは、ヴァリアブルタンク形態で車輪として使用する。

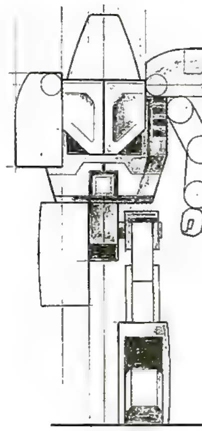


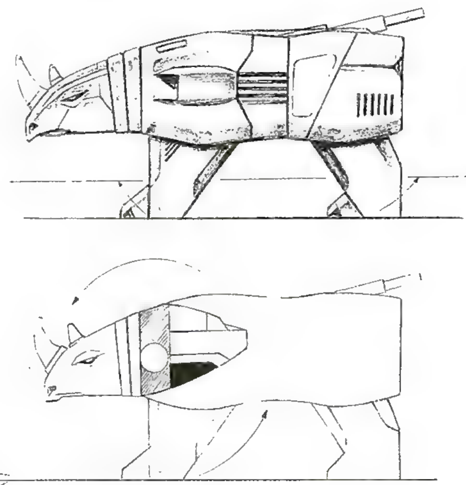


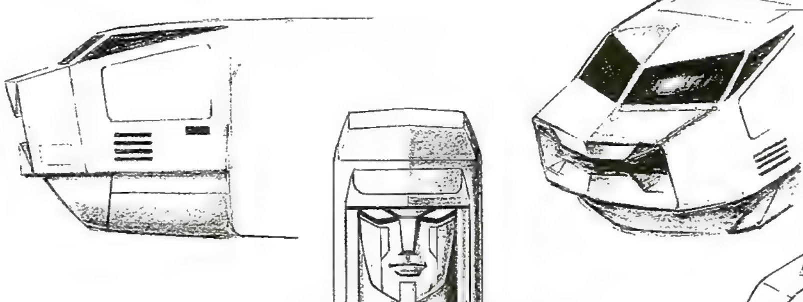
ノヴァライノスのビーストモード。下はコクピットブロックが180度回転して、ビーストモードの頭部と入れ替わるシステムを指示している。

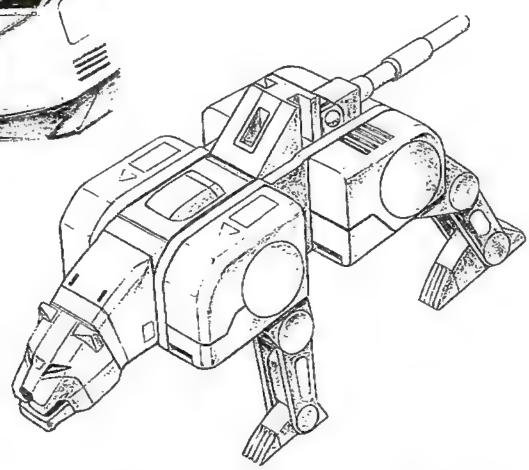
ノヴァライノス。上はタンク形態。下はヒューマロイドモード。ノヴァライガーと比較すると、フェイス部分のデザインが別で描かれていることがわかる。

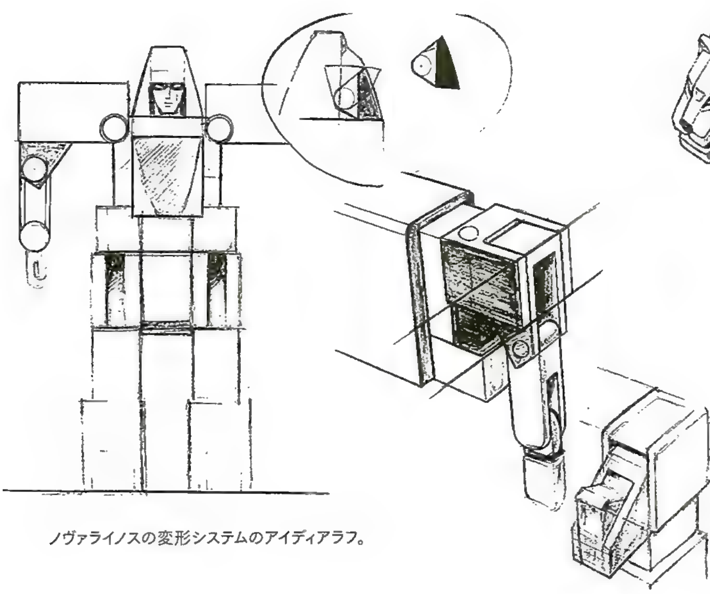




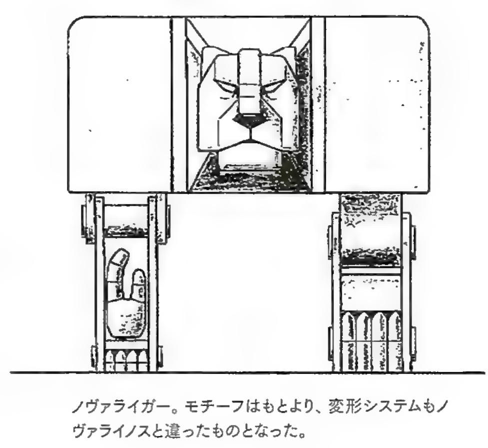








ノヴァライノスの変形システムのアイディアラフ。



ノヴァライガー。モチーフはもとより、変形システムもノヴァライノスと違ったものとなった。

機神大戦 ギガンティック・フォーミュラ

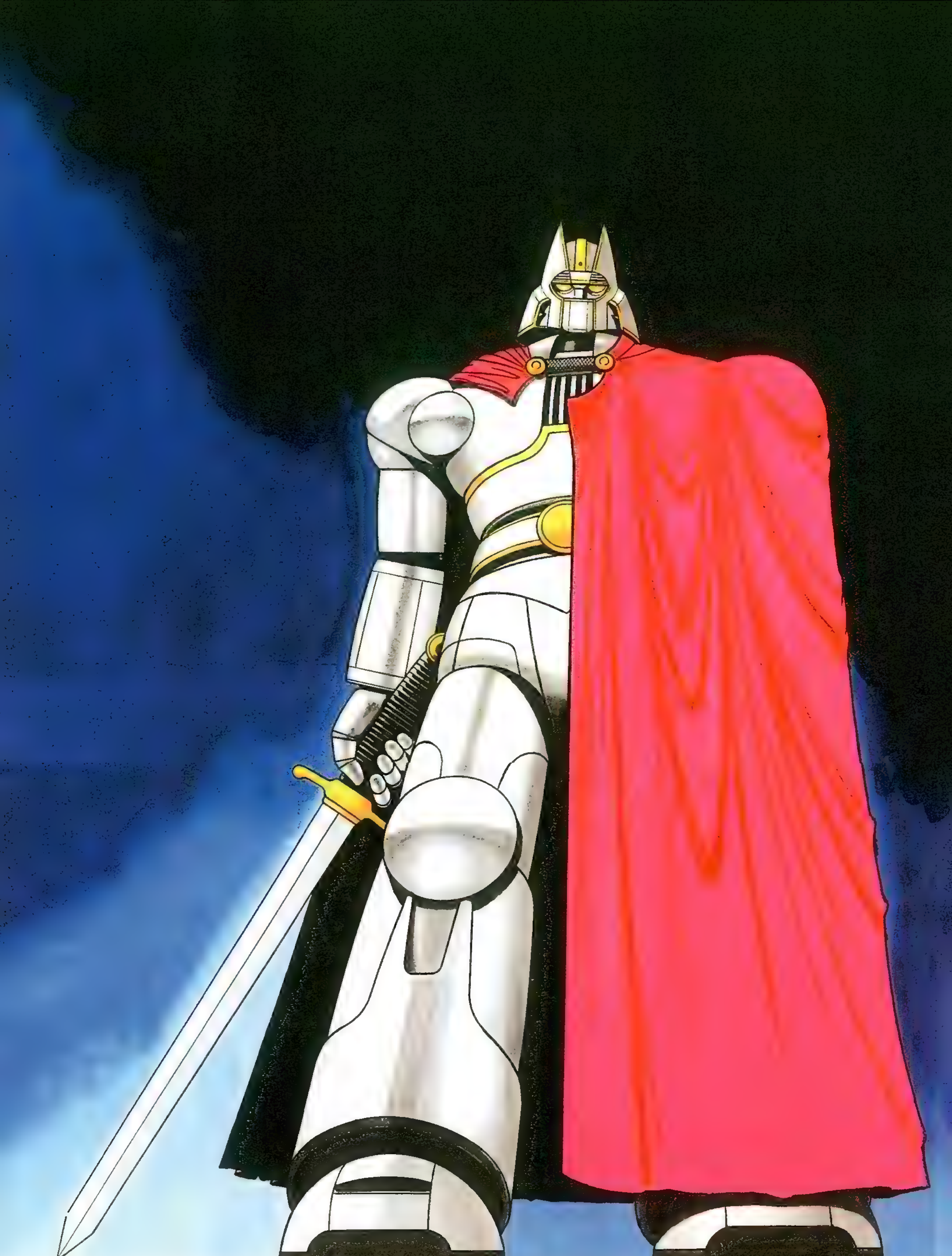
2007

O.A. 2007.4.4-9.26／テレビ東京系放送
WORKS ジュピター2

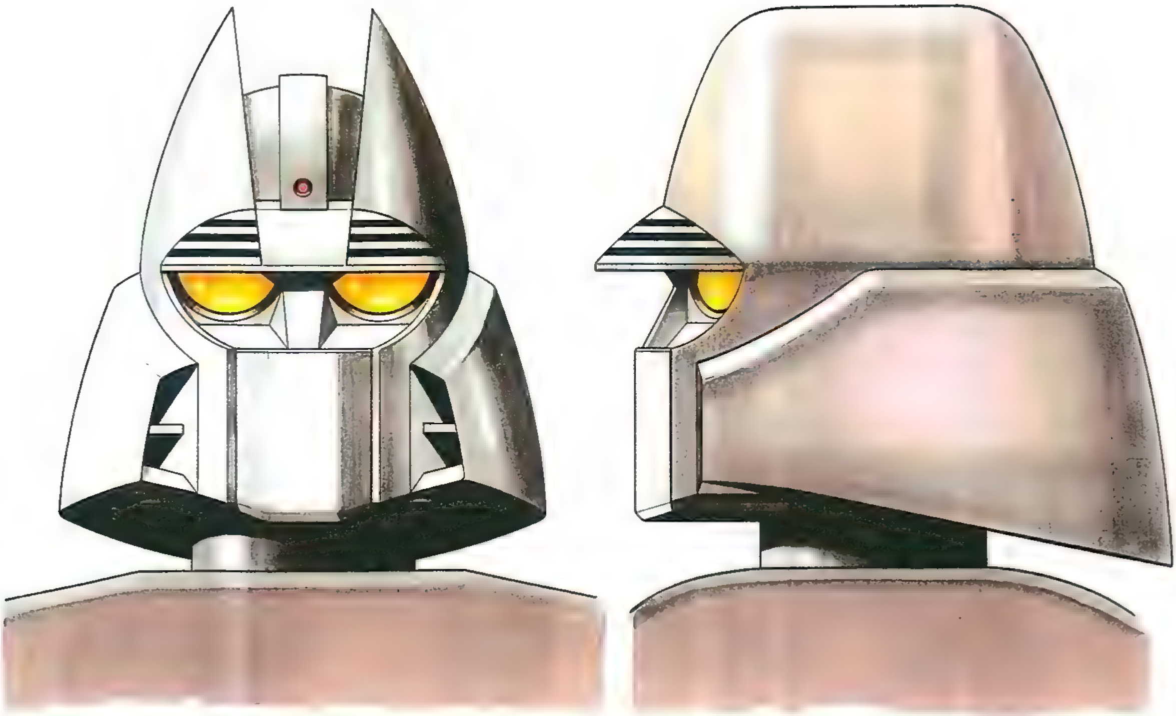
各国のロボットが戦い、最後に勝利した国が世界の覇権を手にするという設定のもと、本作には著名メカニックデザイナーによるロボットが多数登場する。村上は北アメリカ帝国のジュピター2をデザイン。作品中でも最強クラスのギガンティックとして、ストーリー終盤まで登場した。

ジュピター2の検討用デザイン。稲妻を右手に持っているのは、雷から剣を取り出すという設定に基づいたもの。左手にはGRシールドを装備する。

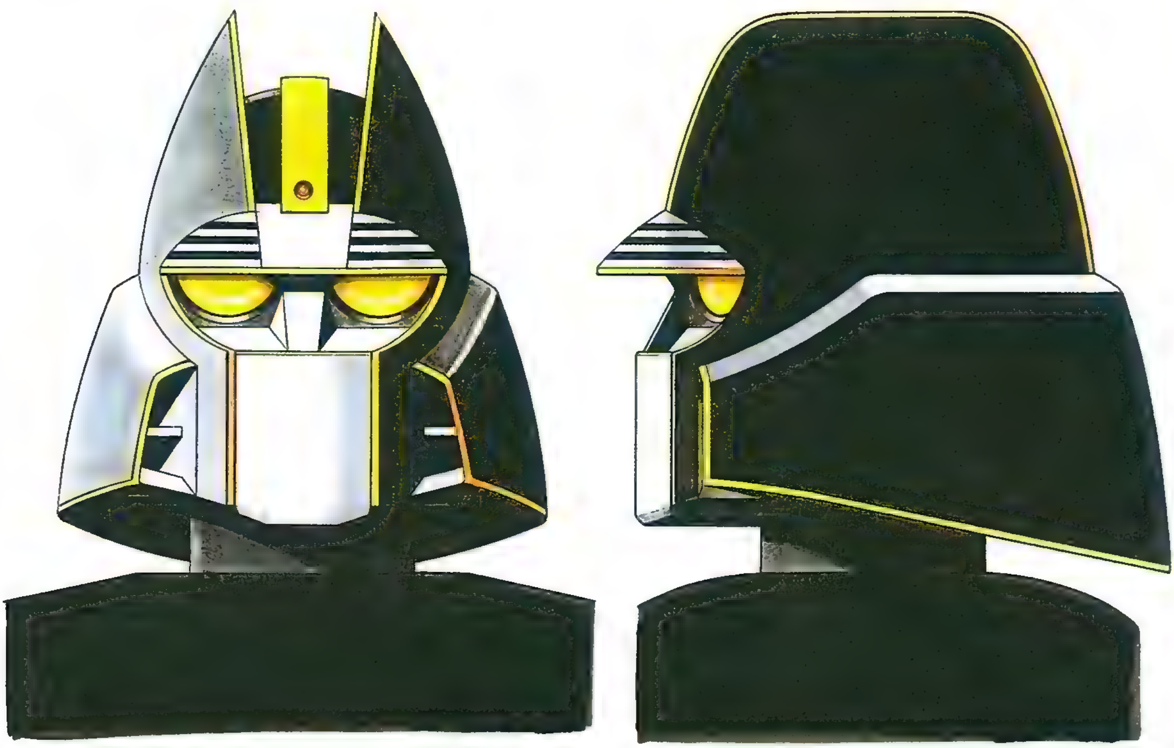




カラーリングも含めたジュピター2の決定デザイン。キャプチュードコートを纏い、ライトニングソードを右手に持つ。



ジュピター２の頭部デザインでこちらが決定バージョン。主人公の対戦相手ではあるが、乗り越えるべき父親的ポジションでもあり、その目はどことなく優しい。



243ページに掲載されたジュピター２用のカラーリング。この２点が同時に提案され、上の灰色のバージョンが採用となる。

	本人歴	作品タイトル	村上克司の活動
1942	9月23日、岐阜県で誕生		
1961	岐阜県立岐山高校卒業、バンダイ入社		
1971	9月、バンダイを退社し、フリーデザイナーとして活動		
1973	1月、ポピー企画開発となる	無敵の王者ジャンボマシンダー【玩具】	XX計画 ひみつ兵器、ZZ計画 無敵城計画 大決戦兵器
		ゼロテスター【アニメ】	指令基地、巨弾基地、深海基地、出撃基地、情報基地
		イナズマン【特撮】	ライジンゴー（マーチャンダイズドデザイン）
1974	2月、村上の企画・発案によるマジンガーZ（のちに超合金マジンガーZに名称変更）発売		
1975		勇者ライディーン【アニメ】	ライディーン、 ブルーガー、ムトロポリス基地（各アイデア提案）
		秘密戦隊ゴレンジャー【特撮】	マーチャンダイズドデザイン
		UFOロボ グレンダイザー【アニメ】	スペイザー、TFO（各アイディア提案）
1976		ザ・カゲスター【特撮】	ヒーローのメインメカニック
		忍者キャプター【特撮】	ヒーローのメインメカニック
		マシンハヤブサ【アニメ】	ビッグギャリー
		超電磁ロボ コン・バトラーV【アニメ】	コン・バトラーV、南原コネクション基地（各アイディア提案）
1977		大鉄人17【特撮】	マーチャンダイズドデザイン
		惑星ロボ ダンガードA【アニメ】	スカイアロー、ガードマシン、サテライザー（アイディア提案）
		ジャッカー電撃隊【特撮】	マーチャンダイズドデザイン
		超電磁マシーン ボルテスV【アニメ】	ボルテスV、ビッグファルコン基地
		ルパン三世【アニメ】	シトロエン
		激走！ルーベンカイザー【アニメ】	メインメカニック
1978		闘将ダイモス【アニメ】	ダイモス、トライバーS75、ダイモビック基地
		スパイダーマン【特撮】	ヒーローのメインメカニック
		宇宙からのメッセージ 銀河大戦【特撮】	マーチャンダイズドデザイン
		科学忍者隊ガッチャマンII【アニメ】	ニューゴッドフェニックス、コンドルアタッカー、ホーンドタンク、バイマー
		銀河鉄道999【アニメ】	111号、222号、333号、444号、555号、666号、777号、888号、その他客車など
		SF西遊記スタージンガー【アニメ】	ヒーローのメインメカニック
1979		バトルフィーバーJ【特撮】	バトルフィーバーロボ、バトルシャーク、ビッグベイザー
		未来ロボ ダルタニアス【アニメ】	ダルタニアス
		闘士ゴーディアン【アニメ】	ゴーディアン
		仮面ライダー（スカイライダー）【特撮】	マーチャンダイズドデザイン
		科学忍者隊ガッチャマンF【アニメ】	ガッチャスパルタン
1980		電子戦隊デンジマン【特撮】	ヒーロー、ヒーローのメインメカニック
		宇宙大帝ゴッドシグマ【アニメ】	ゴッドシグマ
		ウルトラマン80【アニメ】	シルバーガル、スカイハイヤー、スペースマミー、UGM基地
		とんでも戦士ムテキング【アニメ】	ヒーロー、ヒーローのメインメカニック
		鉄人28号（1980版）【アニメ】	ヒーローのメインメカニック
		宇宙戦艦ヤマトIII【アニメ】	前方レーダー開閉システムギミック提案
		仮面ライダースーパー1【特撮】	マーチャンダイズドデザイン
1981	ポピー企画室（現在のプレックス）を設立。	太陽戦隊サンバルカン【特撮】	ヒーロー、ヒーローのメインメカニック
		百獣王ゴライオン【アニメ】	ゴライオン、起動キー
		黄金戦士ゴールドライタン【アニメ】	ゴールドライタン、スコープライタン、アイシーライタン、タイムライタン、デンジライタン、メカニックライタン
		タイガーマスク二世【アニメ】	タイガーハリケーン、タイガーピラミッダー
		六神合体ゴッドマーズ【アニメ】	ゴッドマーズ
		ロボット8ちゃん【特撮】	マーチャンダイズドデザイン
		銀河伝説ユリシーズ31【海外合作アニメ】	NAVETTE（3機合体メカ）、POMPIERE、INGEGNER、ATLETA

	本人歴	作品タイトル	村上克司の活動
1982		大戦隊ゴーグルファイブ【特撮】	ヒーロー、ヒーローのメインメカニック
		宇宙刑事ギャバン【特撮】	ギャバン、ヒーローのメインメカニック
		機甲艦隊ダイラガーXV【アニメ】	ダイラガーXV
		テクノロボ コンボボーイ【玩具】	コンボボーイ
		科学救助隊テクノボイジャー【アニメ】	TB-1号、2号、3号、5号、11号、12号、15号、16号
		ルパン8世【海外合作アニメ】	ルパンカー、銭形カー
		マシンロボ【玩具】	バイクロボ、バトルロボ、ジェットロボ、ジャイロロボ
		バッテンロボ丸【特撮】	マーチャンダイズドデザイン
1983		スペースコブラ【アニメ】	サイコロイド
		科学戦隊ダイナマン【特撮】	ヒーロー、ヒーローのメインメカニック
		宇宙刑事シャリバン【特撮】	シャリバン、ヒーローのメインメカニック
		光速電神アルベガス【アニメ】	アルベガス、スーパーアベガ、ニュースーパーアベガ
		デジロボ トキマ【玩具】	トキマ、アクアボーイ、アラームトキマ
		コンバットロボ ガンマジン【玩具】	ガンマジン
1984	タマゴラスがデザイン・オブ・ザ・イヤーを受賞	地球防衛軍テラホークス【海外特撮人形劇】	ゼロイド
		星雲仮面マシンマン【特撮】	マーチャンダイズドデザイン
		超電子バイオマン【特撮】	ヒーロー、ヒーローのメインメカニック
		宇宙刑事シャイダー【特撮】	シャイダー、ヒーローのメインメカニック
		ビデオ戦士レザリオン【アニメ】	レザリオン
		星銃士ビスマルク【アニメ】	ビスマルク、プロテクトギア、ロードレオン、アローストライカー、ドナテルロ
		タマゴラス【玩具】	マンモス、ライオン
		マイティオーボッツ【海外合作アニメ】	商品アイディア
1985	バンダイグループ合併に伴い、バンダイ・ポピー事業部に移籍。事業部長に就任	マイルドロボ【CMキャラクター】	マイルドボーイ、マイルドガール（ギミック提案）
		兄弟拳バイクロッサー【特撮】	マーチャンダイズドデザイン
		電撃戦隊チェンジマン【特撮】	ヒーロー、チェンジロボ
		巨獣特捜ジャスピオン【特撮】	ジャスピオン、ヒーローのメインメカニック、サタンゴース、マッドギャラン、ジャルドブーマ、巨獣（15体）
		機動戦士Zガンダム【アニメ】	サイコガンダム原案
1986		ウォーキングロボRK	デザイン原案
		超新星フラッシュマン【特撮】	フラッシュタイタン
		時空戦士スピルバン【特撮】	スピルバン、レーザースナイパー、ガイオス
1987		マシンロボ クロノスの大逆襲【アニメ】	バイカンフー、タフトレーラー、プロトラックレーサー
		おもいっきり探偵団 覇悪怒組【特撮】	探偵グッズ提案
		光戦隊マスクマン【特撮】	ヒーロー、ギャラクシーロボ
		機甲戦記ドラグナー【アニメ】	バイク戦艦（アイディア提案）
		超人機メタルダー【特撮】	メタルダー（頭部のみ）、サイドファントム
		学泉特捜ヒカルオン【ビデオアニメ】	ヒカルオン原案
		マシンロボ ぶっちぎりバトルハッカーズ【アニメ】	アールジェタン（頭部のみ）
1988	バンダイ取締役玩具事業部長就任	ウイナーロボ	初期ウイナーロボ、ロボシューターデザイン
		仮面ライダーBLACK【特撮】	マーチャンダイズドデザイン
		世界忍者戦ジライヤ【特撮】	ジライヤ、世界忍者多数、磁雷神
		超獣戦隊ライブマン【特撮】	ライブロボ原案（頭部のみ）
1989		仮面ライダーBLACK RX【特撮】	マーチャンダイズドデザイン
		機動刑事ジバン【特撮】	ジバン、レゾン、スパイラス、バイカン
1990		高速戦隊ターボレンジャー【特撮】	ヒーロー、ターボロボ原案（頭部のみ）
		特警ウインスペクター【特撮】	ファイヤー、バイクル、ウォルター

	本人歴	作品タイトル	村上克司の活動
1991	バンダイ常務取締役開発本部本部長に就任	地球戦隊ファイブマン【特撮】	ヒーロー
		特救指令ソルブレイン【特撮】	ソルブレイバー、ソルドーザー（頭部のみ）、ソリッドステイツ - I
		リトルドラキュラ（海外アニメ）	商品アイティア
1992		鳥人戦隊ジェットマン【特撮】	ヒーロー
		真・仮面ライダー 序章【Vシネマ】	エグゼクティブプロデューサー
		特捜エクシードラフト【特撮】	レッダー、ブルース、キース
		恐竜戦隊ジュウレンジャー【特撮】	ヒーロー、大獣神（頭部のみ）、ドラゴンシーザー原案（頭部のみ）
		超時空要塞マクロスII -LOVERS AGAIN-【ビデオアニメ】	企画
1993	バンダイ専務取締役に就任	大予言 復活の巨神【Vシネマ】	大巨神トリメジスタン
		特捜ロボ ジャンパーソン【特撮】	ジャンパーソン
		五星戦隊ダイレンジャー【特撮】	ヒーロー、大神龍原案
		仮面ライダーZO【特撮映画】	マーチャンダイズドデザイン
		疾風！アイアンリーガー【アニメ】	メインメカ原案
		ウルトラマンパワード【海外合作特撮】	ヒーローデザイン提案
1994		ゴジラVSメカゴジラ【特撮映画】	メカゴジラデザイン提案
		ブルースワット【特撮】	ヒーロー、ゴールドプラチナム、スターフォートレス原案、パルサーポッド原案
		忍者戦隊カクレンジャー【特撮】	ヒーロー、獣将、無敵将軍（頭部のみ）、ニンジャマン原案
		仮面ライダーJ【特撮映画】	マーチャンダイズドデザイン
1995		機動武闘伝Gガンダム【アニメ】	メインメカ提案（頭部のみ）
		重甲ビーファイター【特撮】	ヒーロー、ビートマシン、重甲基地原案、
1996	バンダイを退社。メガハウス代表に就任	超力戦隊オーレンジャー【特撮】	ヒーロー
		激走戦隊カーレンジャー【特撮】	ヒーロー
1997		ビーファイターカブト【特撮】	ヒーロー
		電磁戦隊メガレンジャー【特撮】	ヒーロー
		ビーロボ カブタック【特撮】	カブタック（ノーマルモード、スーパーモード頭部）
1998		ウルトラマンダイナ【特撮】	ガッツイーグル原案ラフ
1999		星獣戦隊ギンガマン【特撮】	ヒーロー、星獣、ギガライノス
		救急戦隊ゴーゴーファイブ【特撮】	ヒーロー、99マシン
2000		サンライズ英雄譚【ゲームソフト】	メカニックデザイン
2001		未来戦隊タイムレンジャー【特撮】	時空剣原案、タイムロボター
2002	バンダイグループを離れ、ライブ・ワークスを設立。代表取締社長に就任	百獣戦隊ガオレンジャー【特撮】	ソウルバード
2003			
2004		F-ZERO ファルコン伝説【アニメ】	F-ZEROカーデザイン
2005			
2006			
2007		獣装機攻ダンクーガノヴァ【アニメ】	ダンクーガコンセプトデザイン
2008		機神大戦 ギガンティック・フォーミュラ【アニメ】	ジュピター2
2009			
2010			
2011			
2012			
2013			
2014			
2015			
2016			

オール・アバウト 村上克司
スーパーヒーロー工業デザインアート集

発行日　2017年2月19日　初版第1刷発行

著者　村上克司

装丁・本文デザイン　宮村ヤスヲ

構成・執筆　五十嵐浩司（TARKUS）
構成　谷崎あきら

写真　梅川良満

編集　大場義行
作品調査協力　本郷武一
大石一雄
森島隆之
野中 剛
新谷 学
井上幸一

資料協力　プレックス
企画者104
東北新社
石森プロ
東映アニメーション
円谷プロ
ドリーム・プラネット・ジャパン
樹想社

杉田篤彦
勝又 淳
越智一裕
小原渉平
仲澤弘矢
新田康弘
中村 学
柳 亨英
浅野 剛（ENTHUSIA）
髙坂雄貴（いと、まほろば）

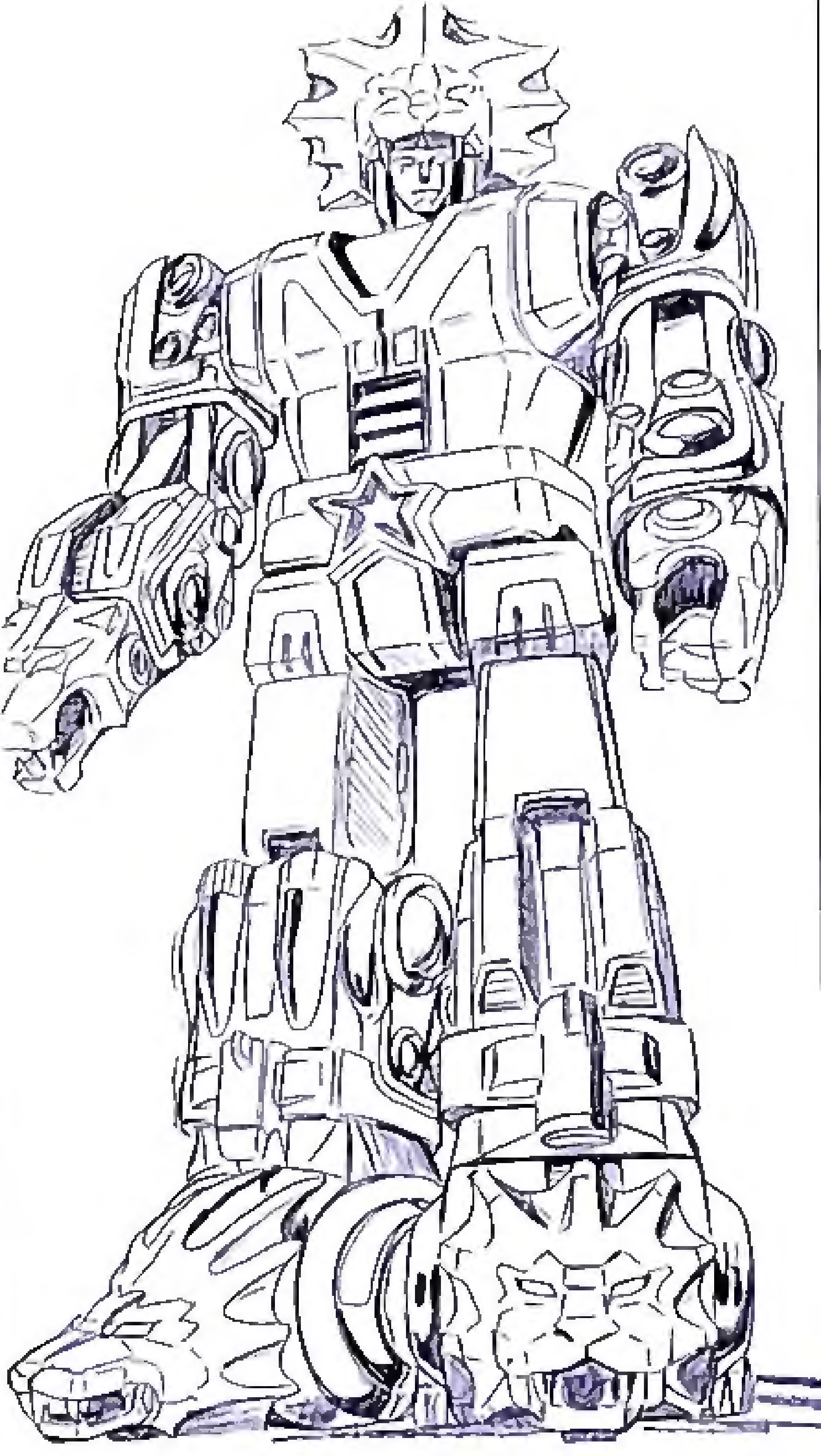
協力　株式会社ライブワークス
高梨 実（株式会社アニメコンソーシアムジャパン）

発行人　三芳寛要
発行元　株式会社パイ インターナショナル
〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-32-4
TEL 03-3944-3981　FAX 03-5395-4830
sales@pie.co.jp

編集・制作　パイ インターナショナル
印刷・製本　株式会社廣済堂

ISBN978-4-7562-4865-7 C0070
Printed in Japan







ISBN978-4-7562-4865-7
C0070 ¥4200E
発売元：パイ インターナショナル
定価（本体4,200円+税）
9784756248657
1920070042009

オール・アバウト 村上克司
スーパーヒーロー工業デザイン アート集

PIE